アニメ版

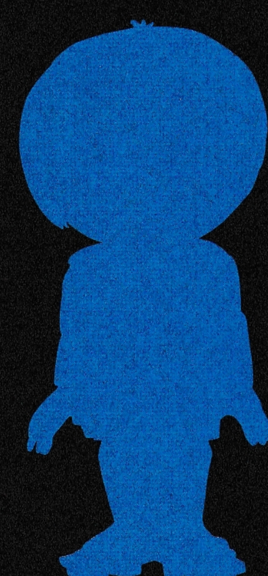
ゲゲゲの鬼太郎 マニアックス



一迅社

アニメ版

ゲゲゲの鬼太郎
マニアックス



一迅社

アニメ版ゲゲゲの鬼太郎マニアックス◉目次

※TVアニメ『ゲゲゲの鬼太郎』は放映時期の関係で、今日では差別的表現ととられかねない場面・セリフ等がありますが、制作者に差別的意図はなく、また創作作品の時代性に鑑み、当時の表記にて掲載しております。ご了承ください。

■協力■境港市観光協会、境港商工会議所、松竹、富士急行、妖怪舎

鬼太郎ファミリーの秘密を大公開

鬼太郎と仲間たち大百科 その1

我らが鬼太郎を中心に、鬼太郎ファミリーの妖怪たちの能力、性格などパーソナルデータを大公開。なかには敵だか味方だかわからん奴らもいますけど。

FILE 1 誇り高き幽霊族最後の生き残り

ゲゲゲの鬼太郎

人間でも妖怪でもないボクは弱い者の味方です。

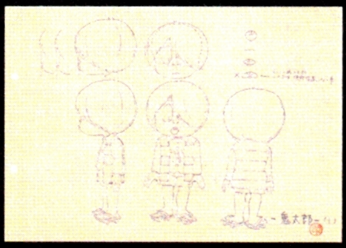
正義感溢れる純粋な心を持つ、幽霊族最後の生き残り。霊界ポストの手紙を受けて、自分勝手に人間を困らせる妖怪たちや霊を軽んじる傲慢な人間たちを懲らしめる。先祖の霊毛で編んだちゃんちゃんこと先祖伝来のゲタ、あまたの特殊能力と悪に屈さぬ勇気を武器に、数々の危機を乗り越えて戦い続ける毎日だ。でも鬼太郎もまだまだ子ども。ねずみ男にからかわれてムキになることもあったりする。

第1部はこんな感じ

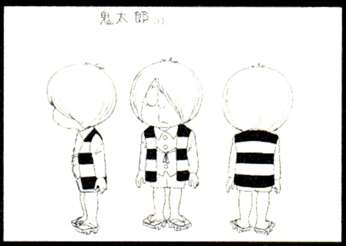
まだ仲間が揃わないので、どんな相手でも一人で立ち向かう。また、ねずみ男とは意外と信頼関係アリ。でも半妖怪のねずみ男を、それをネタにからかうなど意外と子供っぽいイジワルも。







第1部で作られたキャラクター設定。2本の出っ歯が目立つ感じ。放送回が違っても、それほど絵に違いはないようだ。



第2部でカラーになった設定がこちら。放映話の作画監督によって、見た目のイメージが大きく違うのも第2部の特長だったりします。

第2部はこんな感じ

定着してきた「鬼太郎ファミリー」の助けを受けて、より強大な敵にも立ち向かう。砂かけばばあのことは母親のように慕うが、自分の意見はキッチリ主張。



パーソナルDATA

誕生日 ◉ 2月30日（第1部24話）
ねずみ男が生年月日占いをしているところに、鬼太郎がやってきて判明。原作では、墓場に埋められた母親の腹の中から生まれたとされる。

両親 ◉ 幽霊族最後の夫婦
生まれたときには母はすでに死亡。死神があの世から母を連れてきたときにも、別人であることに気づいていた（第2部30話）。父は鬼太郎を心配するあまり、目玉だけが生き延びて鬼太郎と行動を共にする。



家 ◉ 木の上の木造の小屋



森深い木の上に立つ、かやぶき屋根の家。妖怪退治の依頼が来る妖怪ポストは、そばにあったり山の中にあったり。ねずみ男やねこ娘らがしょっちゅう遊びに来る。

趣味 ◉ 父さんを愛して止みません
困った人を助けるのが趣味。あとは“父さん”の世話。「霊界テレビの見過ぎ」と目玉おやじに怒られたことも（1部13話）。妖怪ネタをマンガにした雑誌『妖怪パンチ』を読んでバカうけ（第1部43話）。



※第1部＝第1シリーズ、第2部＝第2シリーズです。





鬼太郎 基本能力はコレだ!

髪の毛針とちゃんちゃんこ、リモコン下駄は頻出。ほかにも周囲のものと同化する術などを駆使して、ピンチを切り抜けることも。

一 妖怪アンテナ



妖気を察知して反応する髪の毛で、アンテナのように立つ。かすかな妖気も見逃さず、相手の妖気が強いと妖怪アンテナも強く反応。目や耳を塞がれた時は、このアンテナを頼りに戦った。

二 ちゃんちゃんこ

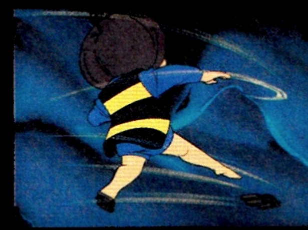


代々の先祖が残した霊毛で編み込まれており、妖怪から力強く守ってくれる。空も飛べるし脳に映像や声を送ることもできる。他にも投げたちゃんちゃんこで相手を包み込み倒すなど、もう万能です。

三 髪の毛針

髪の毛に霊力を送り、針のように硬くして飛ばす。相手に刺さった毛針が、鬼太郎の妖力復活と共に力を取り戻し、新たに攻撃することもある。相手の妖怪が気体や液体などの場合は効果がない。

四 リモコン下駄



動きは脳波でリモートコントロールできるので、鬼太郎自身がその場にいなくとも、相手を襲ったり自由自在。吸血鬼ラ・セーヌもエリートも、下駄にかなりヤられてます。

五 体内電池



ヤマタノオロチに飲まれてしまったときは、その胃の中で電池を放電し、ヤマタノオロチを感電させた（2部12話）。さざえ鬼に食べられるのを一度は防いだのも、この発電能力だ。

六 指鉄砲



指を切り離してミサイルのように飛ばす攻撃。10発が限度。相手の急所に当たれば、驚くほどの効果がある。悪魔ベリアルも指鉄砲で撃退！　ちなみに、指はまた2〜3日で生えてくるらしい。

七 胃液



鬼太郎の胃液は何でも溶かす液体。人食い島に対しては、これをスプレーにして噴射して撃退した。赤舌を騙して飲ませたら体が溶けて水になり、手下と共に流されてしまった。



鬼太郎 七変化コレクション

鬼太郎は、妖怪退治に必要とあらばコスプレも辞さない正義感。そのほかにも情熱の天才画家にも化けた。……実は趣味なんじゃないの？



ピッチャー
記念すべき第1部第1話より。妖怪の野球チームではピッチャー担当でした。まあ帽子をかぶっただけといっては、それまでなのですが。（第1部1話）

のっぺらぼう
もちろん、のっぺらぼうに顔を奪われてこうなりました。一度は敵の策略を見破ったものの、あえなく激沈。（第1部45話）

女装
敵である半魚人の家に、女のお手伝いさんとして潜りこんだ鬼太郎。ストーリーの流れから言えば、女中である必要はなかったと思うんですが。（第2部13話）

ハゲ
髪の毛妖怪「髪さま」の回では、自分で妖力の元である髪の毛を飛ばして敵を偵察。残った鬼太郎はもちろんハゲ。左目も出たレアカットです。（第2部9話）

駅長
幽霊列車が出ている駅の駅長さん。この後で車掌さんになってみたりもして、この回は結構すばやいコスチュームチェンジが要求されていました。（第1部7話）

ウェイター
ウエイターというより、イギリスの近衛兵みたい!?　実はこのときの鬼太郎はのっぺらぼうなんです。ちなみにレストラン名は「レストラン木水」。（第1部45話）

島民
雨乞いの儀式のために生贄になる少女を心配して、民族衣装で儀式の行列の後をつける鬼太郎。テンガロンハットにマントでカウボーイ気分!?（第2部44話）



鬼太郎 大ピンチTop3

飲み込まれたり乗り移られたりすることが意外と多い鬼太郎。目玉おやじはその度に“トホホ……”と涙するが、驚くほどあっさり復活することも。鬼太郎の一番の能力は、この生命力!?



大海獣になる!
大海獣・デオクロノドンの血液を採取した手柄を独り占めしたい科学者から、その血を注射され大海獣に変身。目玉おやじに会いたい一心で、海を泳いで東京まで戻った。（第1部5話）。



かまぼこになる!
巨大イカに変身した鬼太郎を、半漁人が爆破してかまぼこにしてしまう。お店で売っているのを砂かけばばあが発見。みんなで買い集め、恐山の妖怪病院で元の鬼太郎に復活。（第2部13話）



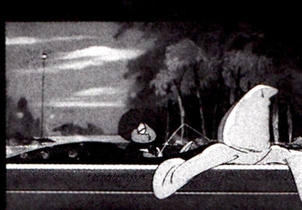
牛鬼になる!
牛鬼と対戦して倒したが、牛鬼の本体が乗り移り鬼太郎が牛鬼になってしまう。目玉おやじが神様・カルラを呼び出し鬼太郎牛鬼を火山口に落とすと、鬼太郎は自力で復活。（第2部15話）

鬼太郎はこんなこともしてました

何でもやっちゃう愛すべき!!キャラクター

女装なんてまだまだ甘い!?　〝食べ物〟にも結構なってたりして。半魚人にかまぼこにされ（第2部13話）、ほうこうに漬物にされ（第1部65話）、天邪鬼に燻製にされ（第1部47話）、さざえ鬼には食べられてしまう（第2部33話）……。

そのほか「妖怪ラリー」でスタート直後にエンストしてたり。これは目玉おやじのせいですが。その目玉おやじに、霊界テレビの見すぎだと怒られたりするほどテレビ好きでもあります（第1部13話）。あとは飛行機のプラモデルで大ハシャギしたり（第1部27話）、さらにいやみの毒にやられて女の子にチューを迫ったり（第2部27話）、意外と遊び人の素質アリ!?





↑お金持ちの護衛を頼まれ、スポーツカーに。絶対嬉しそうだよね。→問題のチューを迫るシーン。だらしない顔〜。

2
ワシの宝は自慢の息子じゃ

目玉おやじ

体は小さくとも存在は大きい妖怪界の生き字引なのだ

目玉に手足が付いたキュートな外見。ぴょんぴょん跳ねる体全体で表す喜怒哀楽は、意外に強烈だ。小さな体に潜んだ高い自尊心は、自慢の息子・鬼太郎の活躍で存分に満たされる。また目玉おやじの膨大な知識があればこそ、鬼太郎も勇敢に戦うことができるのだ。意外に顔が広く、仲間たちの輪が保たれているのも彼の経験と懐の深さが大きいだろう。

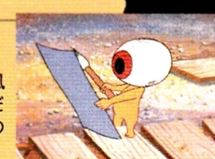


第1部はこんな感じ

白目の部分が大きいこともあり、わりとグロテスクなキャラっぽいけどやっぱり動くとコミカル。怪気象の回ではぐわごぜに食われるが、逆にぐわごぜをのっとり操る。(第1部58話)



パーソナルDATA



趣味◉なんと言っても茶碗風呂

目玉おやじと茶碗風呂はもはやペアみたいなもの。風呂の中で浪曲「森の石松」を歌ったり、俳句を詠んだりなど、意外と渋い趣味を持つ。詠んだ句は「富士の山　高さはさんなななななろく」(第2部1話)。

特技◉古今東西の妖怪・怪現象に詳しい

さすがに肉弾戦で役に立つことはほぼないが、ありとあらゆる妖怪・怪現象に詳しい頼れるブレーン的存在。井戸仙人や閻魔大王のような偉い方々ともなぜか面識があり、仲間からは「おやじどの」と人望も厚い。

その他◉じつはナメクジが苦手

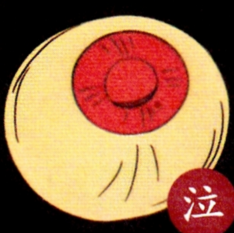
常に鬼太郎の心配をしている優しい父親だが、ねずみ男のおしゃべりを聞くと頭が痛くなる。ヌルヌルしたもの、特になめくじは寒気がするほど嫌い。家のやりくりに悩むのも、じつはおやじです(第1部64話)。



目玉おやじ百面相



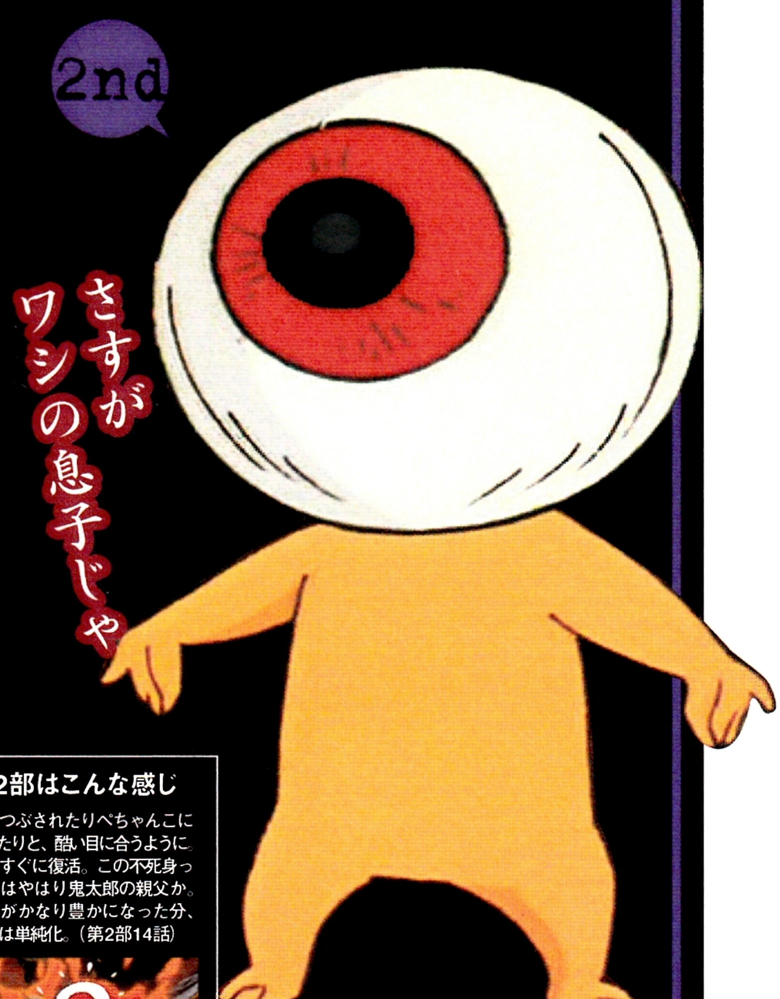
ちゃんちゃんこを狙って現れた傘ばけの催眠術で、目が回ってグルグルになる。目玉おやじの場合、目だけじゃなく全身グルグルに近いから辛いところです。



鬼太郎のピンチや変わり果てた姿(変身させられたり)を見て、結構泣いてます。まず「きたろう〜」と声が震えて、泣き声はほとんど「トホホ……」。



目の真ン中がバッテン印になっているのが「イタい!」の印。「ギャフン」って声が聞こえてきそうです。握りつぶしやすいサイズだしねぇ。(第2部23話)



第2部はこんな感じ

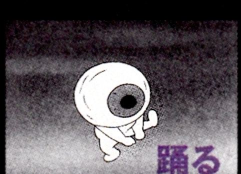
握りつぶされたりぺちゃんこになったりと、酷い目に合うように。でもすぐに復活。この不死身っぷりはやはり鬼太郎の親父か。表情がかなり豊かになった分、手足は単純化。(第2部14話)



目玉おやじの大活躍!

意外と体張ってます

いつもは鬼太郎の髪の中から指示するだけの目玉おやじだが、結構体も張ってます。踏みつけられても潰されてもすぐ復活し、時には踊り、時にはコマの替わりに回り……。小さな体に溢れんばかりの知識と生命力、そして行動力がこもっているのが目玉おやじなんですね。



生贄のおとりになる女の子が泣き出したので、コミカルに踊って不安を吹き飛ばしてあげる目玉おやじ。とっさにバカになれるのは、やっぱり年の功と懐の深さ⁉(第1部3話)

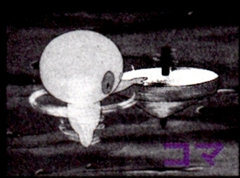
踏み潰されやすいサイズですからねえ。結構あります、こういう平らな目玉おやじ。時には仲間にも踏み潰されたりして、作品のコメディリリーフ的存在にも。(第2部25話)





鬼太郎のちゃんちゃんこをパラシュートのように使い、空からあかなめを説得に行く。「若い頃はレンジャーに憧れていたんじゃ」って、お茶目なんだから〜。(第2部28話)

あまめはぎとの妖怪・コマ合戦に鬼太郎のコマとして参戦する目玉おやじ。傘化けのグルグル催眠術でも目が回るのに、自分がビュンビュン回るのは大丈夫なの⁉(第1部35話)





目を負傷した雨降り天狗の"目"の代わりに入れられそうになる。人間の医者にあっさり捕まり、麻酔まで打たれちゃうって、鬼太郎から離れたらホント危なっかしい……。(第2部4話)

FILE 3

調子の良さも憎めぬ半妖怪

ねずみ男

調子がいいと罵られても頭の中は損得9割、たまに友情チラリ

人間と妖怪の間に生まれた、「半妖怪」のねずみ男の頭の中は、いつも損得勘定がグルグル。俗っぽさも何のその、お金も女性も大好きの最高に分かりやすいキャラなのだ。友情をよく口にするワリには気持ちいいくらいにすぐ裏切るが、仲間からも「ねずみ男じゃ仕方ない」と思われている、ある意味得なキャラ。そのくせ最後は、自分を助けてくれる鬼太郎の元へ戻っていく。付かず離れず、鬼太郎たちとの腐れ縁は不思議と成り立っているのだ。



第1部はこんな感じ

第１部では妖怪研究家とよく名乗る。鬼太郎と一緒に旅行したり、留置所から出された鬼太郎と手を取り合って喜んだりと、鬼太郎の“友人”の感が強い。下着は前掛け。



パーソナルDATA

趣味◉金儲けと保身が第一義!

常にどちらが得かを見極め、手のひら返しは日常茶飯事。儲け話にすぐ飛びつくが、鬼太郎たちに阻まれ実利は薄い。大衆を前にしてのハッタリ演説も名人クラス。パチンコにはまっていた時期あり。

学歴◉自称エリートの成れの果て

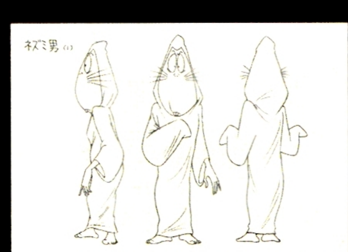
妖怪大学卒業の（自称）エリートだ。「努力しないで金をもうける方法」という本が愛読書。原作によれば、「なまけ大学院に入り、なまけ学科を卒業してなまけ博士号を取得済み」らしいが……。

弱点◉金と力とネコ娘!?

目の前に札束をチラつかされたら一撃です。金と力のために仲間を裏切ることも辞さず。でも裏切りには必ず、ネコ娘の手痛い報復が!?



第1部設定資料。マントで、細身の体と大きめの頭を包む。顔の前面はわりとツルっと卵型。レギュラーの中でトップクラスの長身が目立たないのは、卑屈に腰を曲げているから？





ねずみ男の必殺技!



吸血鬼エリートに捕まったねずみ男は、鬼太郎が小さく開けた穴を、歯で削って脱出できるように大きく広げていた。やってることはほとんどねずみそのものっすね。（第1部16話）



口臭プハァーは、一撃で気を失わせる力あり。口から出る気体には、黄色がかった色が付くほど。口臭を受けた人や妖怪は、それまでの表情と全く違う崩れた顔になる。



鬼太郎のちゃんちゃんこが背中に張り付いたときに限り、ヒゲを針に変えて飛ばす“ヒゲ針”を使うことが出来る。これはむしろ、鬼太郎やちゃんちゃんこの必殺技か!?（第1部53話）



第2部にのみ登場する、珍ワザといえばコレ。それまでキレイだった温泉が、ねずみ男が入ればみるみる泥水に！　一緒に浸かっていた鬼太郎も飛び出した（第2部30話）

第2部はこんな感じ



鬼太郎と敵妖怪を天秤にかける度合いがアップ。2度以上の手の平返しも「ロクなことをしないな〜」と笑って許してもらえるなんて、なんて得なキャラクターなんでしょう。下着はフンドシです。

FILE 4
強気がステキなニューヒロイン

ねこ娘

ねずみ男と絡ませりゃ日本一!? ちょっとおてんばなお姫様

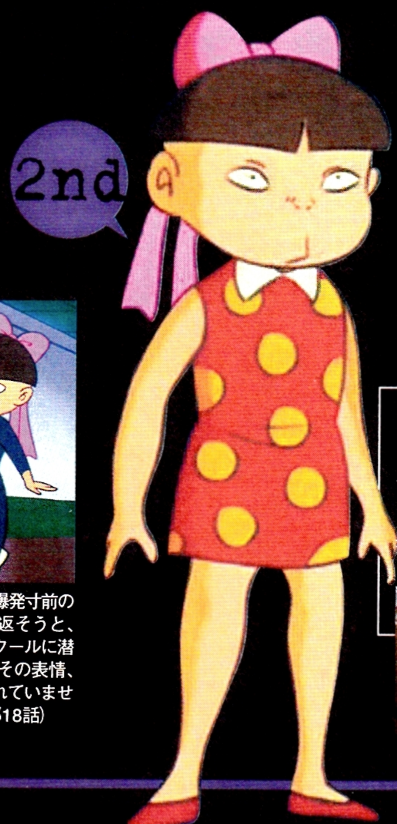
第２部以降は鬼太郎のＧＦとして登場し、ねこちゃん・鬼太郎さんと呼びあう仲に。勇敢にヤマタノオロチへ立ち向かい、爪で引っかく気の強さがある反面、鬼太郎に甲斐甲斐しく包帯を巻き介抱する女の子らしい一面も。妖怪退治の作戦会議には、自分なりのアイデアを出して鬼太郎を奮起させる、鬼太郎ファミリーに華を添えるおてんば娘だ。



第1部はこんな感じ

1話限りの登場。ねずみ男をこらしめるべく、鬼太郎に協力する。じつは最初はねずみ男に"結婚相手"として紹介されています。(第1部20話)







妖怪・土ころびから、エネルギーを吸われて老婆ネコに変貌した姿。老婆と言うより顔色、青すぎ。というかほとんど緑。余命いくばくもない感じ。(第2部11話)



人間の欲望で爆発寸前の地獄玉を取り返そうと、ビューティスクールに潜入。というかその表情、当初の目的忘れていませんか？ (第2部18話)

第2部はこんな感じ

レギュラーとして定着し、鬼太郎ファミリーの一員に。まさかメインキャラまで出世するとは。鬼太郎にねこちゃんと呼ばれ、赤面したりして。(第2部19話)



パーソナルDATA

棲み家◉神社の縁の下に棲んでいる
普段は神社の縁の下に棲んでいるが、鬼太郎の家によく遊びに行くように。

趣味◉ねずみ男を懲らしめる
かいがいしく鬼太郎や目玉おやじの世話をする。ねずみ男を懲らしめる。さらに猫はキレイ好きだから、洗濯も好きだったりします。

好物◉基本的に"猫"なんです
魚とねずみを見ると牙をむく。カツオブシ、ナマズの丸焼きに目がない。

FILE 5
困ったときのババ頼み

砂かけばばあ

鋭い察知力と豊富な経験が妖怪退治の突破口を見抜く

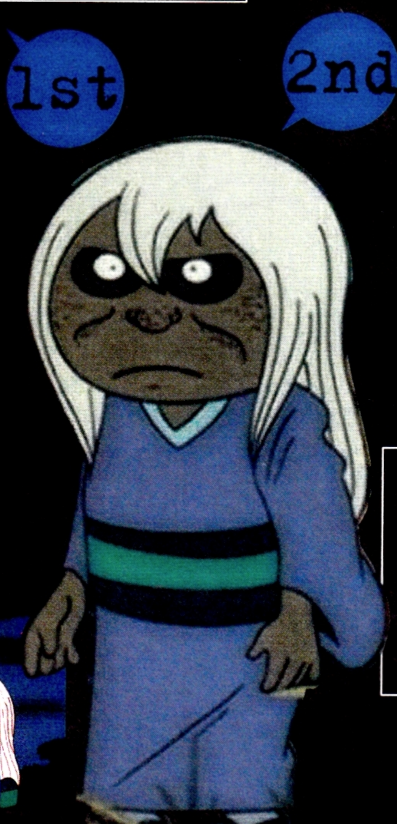
絶妙のタイミングで鬼太郎のピンチを助けてくれる、頼もしい存在。老人とは思えぬ機敏な動きで砂を撒き、相手の動きを封じ込める。また呪文を唱えながら砂を地面に撒き、竜巻となって妖気のあるところへ飛んでいく「砂の竜巻」という大技なども使う。妖具や薬草の扱いにも長けており、目玉おやじからも絶大な信頼がある頼れる仲間なのだ。



第1部はこんな感じ

富士の裾野に建つ5階建ての別荘が悪魔ベリアルに襲われるが、撃退。予備動作なしに大きな砂嵐を起こすなど、結構やりますこの老人。(第1部30話)







占いを生業としているオババ。この収入だけでアパートを建てたとしたら、いったい幾らもらっているのやら。うらやましいですな。(第1部24話)

実は鬼太郎のように妖気を髪で感じる。手に負えなそうな相手のときは、大家の特権を振りかざし(!?)店子に助けを要請して、参戦しています。(第2部19話)



第2部はこんな感じ

デザインも初期登場のころから変わり、だんだんと愛らしいオババに。キャラも立ってきて、妖怪退治の大きな戦力になっています。妖怪アパートの大家に。(第2部19話)



パーソナルDATA

棲み家◉老後のためにアパート建てる
オババが管理人をしている妖怪アパートは、老後の生活を支えるために建てたもの。別に自宅を持っており、表札には「すなかけばばあ」と明記している。

趣味◉占いばばあでもあります
趣味と実益を兼ねて占い師としても活躍。キセルで一服したり、ゆっくりお茶をすするのが好き。

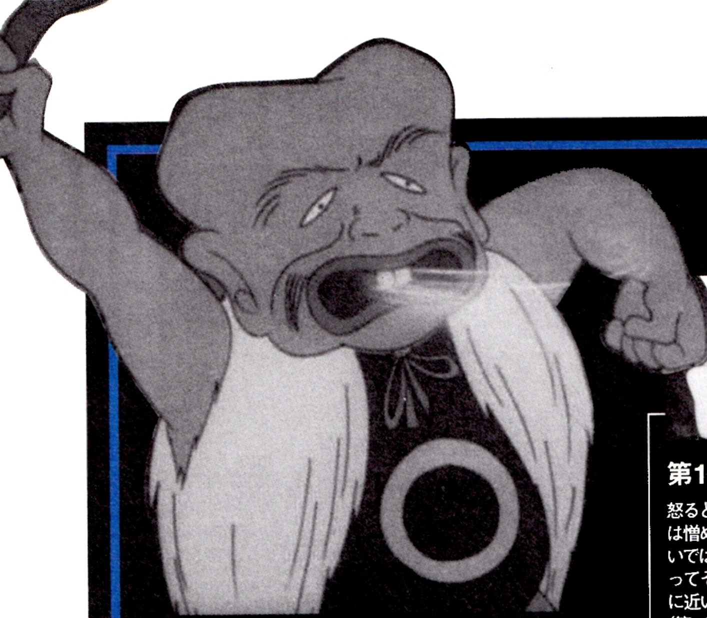
性格◉鬼太郎の亡き母親代わり
第１部などを見ていると結構短気。だが愛情深く、目玉おやじが風邪をひいたときは、汗っかきの葉を持ってお見舞いに行くことも。鬼太郎の母親的存在。

FILE 6 抱きつくだけじゃありません

子泣きじじい

泣いてもわめいても石になったら離れんぞ

得意技である自分が石になる術は、取り付いたら最後1トンの重さで地面に沈めることもある。協調性があるわりに意外と好戦的で、妖怪退治も妖怪アパートの修繕も張り切って参加。砂かけばばあとは、この2シリーズの間はどうも馬が合わないらしいが……？ 幼児体型とかん高い声で、年寄りだが説教じみていないところが愛らしい。



1st



第1部はこんな感じ

怒ると止まらなくなるが、普段は憎めない顔。西洋妖怪との闘いでは、海中に入っての大奮戦、ってそこで石になっちゃ、自滅に近いんじゃないですか……？（第1部10話）

2nd



ベリアル戦では先陣を切って参戦するなど、意外と好戦的。ひっくしゃっくの術を使い、ベリアルにしゃっくりをうつした。ってか、変な技……。（第1部30話）



骨女にしがみ付く。決して技は多彩ではないが、一緒に戦う若い者たちに触発されて、率先して張り付いた。やっぱり好戦的かも。（第2部26話）



第2部はこんな感じ

砂かけばばあとは、些細なことでたまに衝突する。なぜか、お互いを年寄りのくせにと非難して、ビンタの応酬。良き友であり、良きライバル!?（第2部26話）



パーソナルDATA

棲み家◉妖怪アパートに棲んでいる

妖怪アパートの住人。それまではどこに住んでいたかは不明だが、砂かけらとトランプに興じたりもしているので、近くに棲んでいたのは確かなようだ。

趣味◉碁が好きだって知ってました?

砂かけばばあか目玉おやじを相手に、長々と碁を打つ。あとは何より酒が好きで、そのせいで失敗も。

性格◉なんかホントの子供みたい

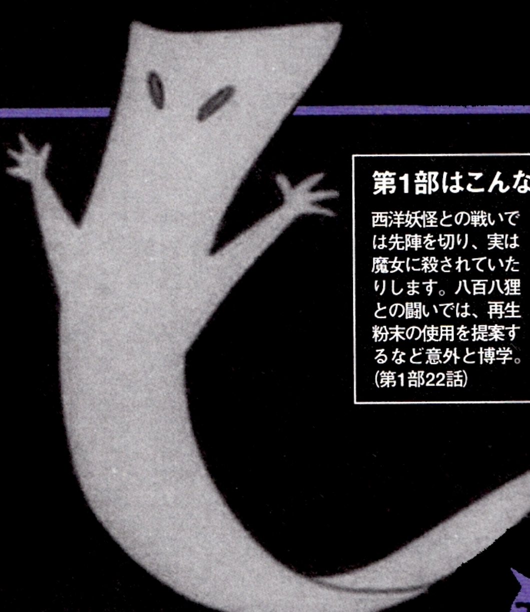
気が弱いが怒ると、人のいう事を聞かず泣きわめく。意外と子供みたいなジジイだったりする。

FILE 7 鬼太郎を乗せて疾風のように現れる

一反もめん

釣り目がトレードマーク鬼太郎乗せて東奔西走！

自由自在に空を飛べるという、得がたい能力を持った鬼太郎ファミリーに欠かせない存在。時には鬼太郎を乗せて敵の攻撃を避け、時には落ちていくねずみ男を拾い上げる。布を使って相手の首を絞めるのも得意技。ボロボロになっても水で塗らしたり、縫い合わせれば直る便利な体。ちなみにこの時期の一反もめんは、意外に博学でクールな一面もある。

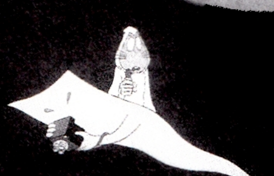


第1部はこんな感じ

西洋妖怪との戦いでは先陣を切り、実は魔女に殺されていたりします。八百八狸との闘いでは、再生粉末の使用を提案するなど意外と博学。（第1部22話）



1st



「世界妖怪ラリー大会」ではねずみ男を乗せ、中継車兼カメラマンを務める。一反もめんの乗り物としての活躍は、このあたりから顕著に。（第1部54話）

2nd



敵妖怪に火をつけたつるべ火の炎が、一反もめんに引火して大騒ぎ。ってか、このイキオイだと今から消しても全焼しちゃいそうじゃない？（第2部19話）



第2部はこんな感じ

第2部2話あたりから、鬼太郎を乗せて活躍するように。それでも時々「ヘリ代わりに使われちゃかなわんよ」などとクールな発言も。（第2部14話）



パーソナルDATA

能力◉空を自在に飛べる

一反もめんの便利さといえば、これに尽きる！　ちなみに鬼太郎を乗せてガンガン飛び始めたのは２部以降で、一部では乗り物としての登場はほんのわずか。

好物◉実はチョコレートが大好き

ねずみ男にチョコをエサに炊きつけられて、妖怪ラリーの実況車兼任カメラマンを務めたことも。

性格◉クールで理知的かも

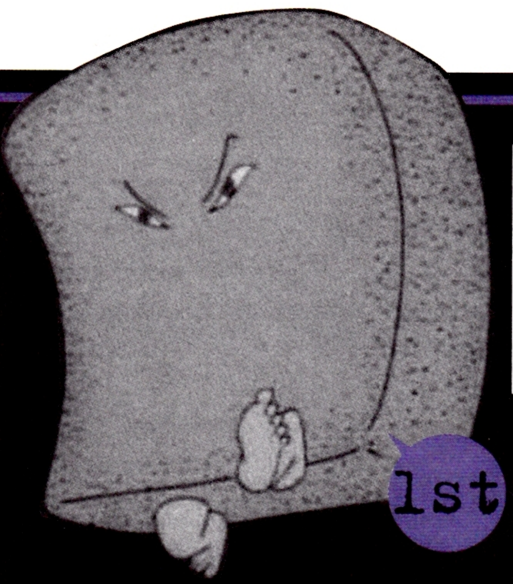
後のシリーズの一反もめんよりも、わりとクールで都会的。ちょっと物知りだったりもする。

FILE 8
気はやさしくて力持ち！

ぬりかべ

仲間の行動を察知して どんな場所にも出現！

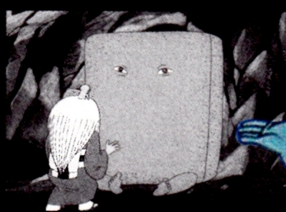
普段はどこで過ごしているのか不明だが、鬼太郎たちのピンチには必ず現れ、カンペキな"助っ人"をこなして口数少なく去っていく、いぶし銀のパワーファイター。体のサイズも自由自在で、壊れても自分で修理（塗り固める）できるのがスゴい。短い手足での取っ組み合いもできるが、巨漢を生かしたパワープレスや防御が彼の本領でしょう。



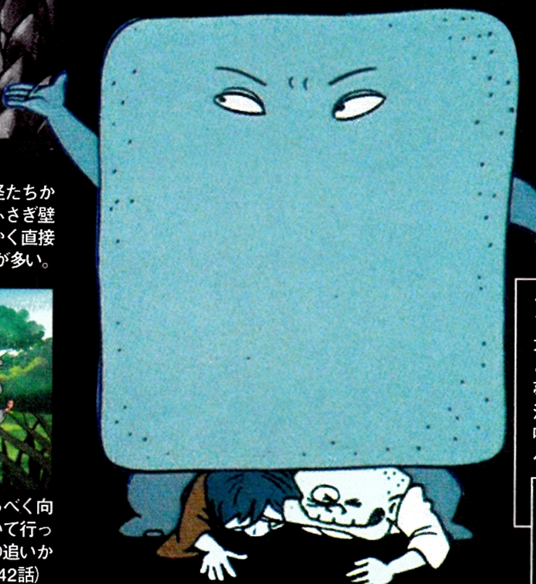
第1部はこんな感じ

両手に左官小手を持ち、沖縄の村人の若さを奪っていたぬっぺらぼう操る石像を体の中へ塗り込んでます。でもその後突き破られて、自分で修復しています。（第1部57話）





恐山の血液銀行を西洋吸血妖怪たちから守るため、自分の体で穴をふさぎ壁になっている。ほかにもとにかく直接にぶつかるような、損な役回りが多い。





閉じ込められた鬼太郎を助けるべく向かうぬりかべ。ねずみ男について行っちゃって大丈夫!? 恋人同士の追いかけっこにも見える……。（第2部42話）

第2部はこんな感じ

大好物の山葡萄を積んでいるところ。この後反物になろうとは夢にも思ってない。反物から復活した直後も「山葡萄は格別の味」なんていいながら山葡萄食べ続けていました。（第2部2話）



パーソナルDATA

棲み家◉妖怪アパートに棲む
ぬりかべも妖怪アパートの住人。家の中にはサイズがでかすぎて入れないものの、壁の一部のように入り口から中の様子を見ていることも。

好物◉山葡萄が大好きだ！
お土産などは体内に塗り込んで、後で出すことが出来る。山葡萄は特に大好きで、そこに付け込まれてチー妖怪に騙され、布にされてしまったうのだが……。

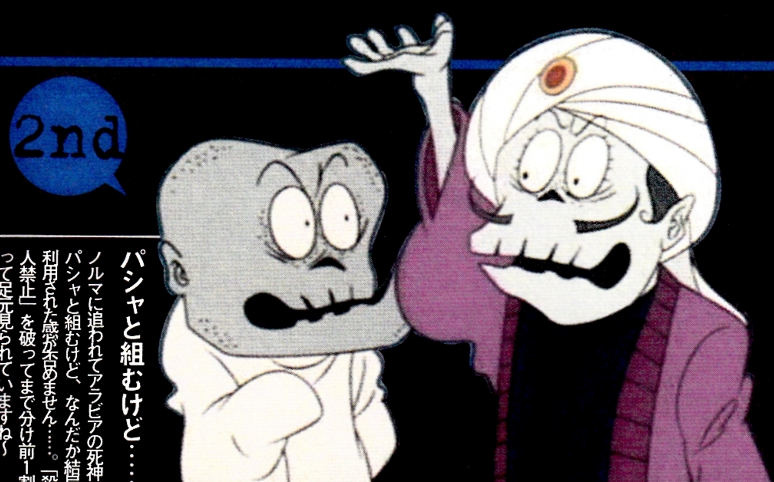
性格◉反物にされても怒りません
おだやか。ちょこちょこしゃべるが、寡黙な妖怪。

FILE 9
愛嬌と哀愁あるけれど……？

死神

地獄の沙汰も"数次第"か!? ノルマに追われあの手この手を

第２部以降登場する鬼太郎のライバル的存在。集める魂の数から言えば死神界の落ちこぼれだ。エンマ大王から早く霊魂を提出せよと怒鳴られたり、魔女と謀って鬼太郎親子を消そうと企み返り討ちに合ったり、何をやってもうまく行かない。アラビアの死神パシャと組んで掟破りの殺人を犯してまで、霊魂集めに走る死神42号に幸多かれ!?

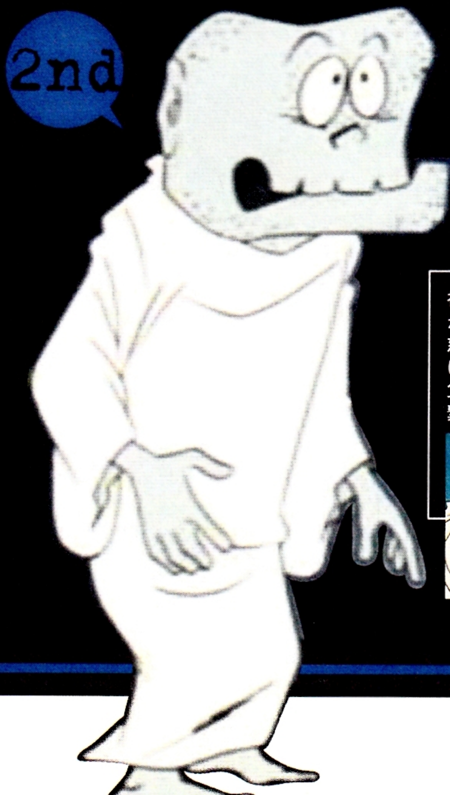


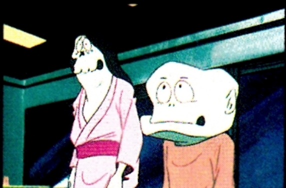
パシャと組むけど……

ノルマに追われてアラビアの死神・パシャと組むけど、なんだか結局利用された感が否めません……。「殺人禁止」を破ってまで分け前1割って足元見られていますね〜



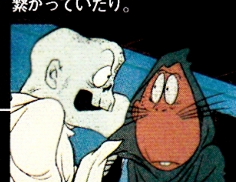
遠い親戚のサトリと居酒屋で再会。未来を読めるサトリから、近々心中する一家を教わり自殺の名所へ行くが、鬼太郎が心中を制止したので退散。





霊魂を取りに行ったまま半年も連絡がない夫を探しに、地獄から来た死神の妻子。息子は、父親が霊魂を持ってこないので地獄でいじめられていた。

初登場のときはそれとなく威厳があるんだけど、エンマ大王に怒鳴られ、ノルマに追われて徐々に馬脚を現してきます。グズな父親の評判が子供のいじめにも繋がっていたり。



パーソナルDATA

性格◉現実逃避と妄想が得意!?
人間が公害で滅亡した後の支配者になりたくて、邪魔になる鬼太郎親子を消そうと企む。今の仕事がイヤになり、何の根拠もない妄想を成就すべく人を殺すとは、ある意味さすが死神……。

掟◉死神憲法は遵守しましょう
死神は霊魂を集めるために殺人を犯してはいけない。約束を破ると、一家全員血の海に投げ込まれるのだ。

好物◉これもさすが死神かも
イモリの黒焼きが大好物。薬作ってそう……。

FILE 10

傘ばけ

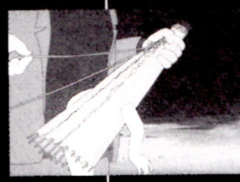
楽して幸せになれんかなあ～

いい傘ばけも可愛いけれど悪い傘ばけもカッコいい！

メジャーな妖怪・傘ばけは、傘やん、唐傘などとも呼ばれる。ときには鬼太郎を足につかまらせて、はるか雲の上まで連れて行く。また2部では、強力な敵妖怪としても登場。分身して目くらまし催眠するわ、目からビームも出しちゃったりして、実は恐ろしく強かったのだ。鬼太郎も一度はちゃんちゃんこを奪われている、侮れないヤツなのです。



第1部はこんな感じ



ねずみ男の仕切る妖怪ショーに出演したり、鬼太郎を雲の上の電気妖怪のところまで連れて行ったりと基本的に仲間で登場。でもあまり目立ちません。(第1部7話)





鬼太郎に「傘や～ん！」と呼ばれ、臨戦態勢で現れて雲の上までひとっとび！ で、目的地に着いたらさようなら。なんて便利なヤツなんでしょう。(第1部25話)



吸血鬼になった村人たちに襲われた鬼太郎を助けようと、ちょっと慌ててる"味方"の唐傘クン。本気を出したらかなり強いはずなんだけど。(第2部25話)

第2部はこんな感じ

敵役で出てきた回が、一番痛快。ねずみ男に騙されたけど、その後ねずみ男を奴隷のようにコキ使ったり、やりたい放題。戦闘は本文参照。(第2部24話)



パーソナルDATA

特徴◉実力も備えたねずみ男!?

怠け者だが恐ろしく強い。楽して幸せになりたいと常に考えているので、ねずみ男の口車に乗って鬼太郎を襲う。で、強いもんだから一度は勝っちゃうんです。

あだ名◉個体が違う?呼び名もイロイロ

傘やん、傘ばけ、からかさ小僧などいろんな呼ばれ方をしています。性格も違うし、個体も違うのかも？

技◉多彩なテクを持ってます

目から光線を出し、分身して催眠をかけたりする上にもちろん空も飛べ、腕力も強い。隠れた最強キャラ!?

FILE 11

呼子

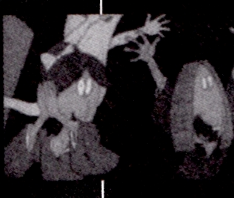
敵・見方2タイプの呼子が登場

その他大勢の妖怪に近いが一度見たら忘れられない姿

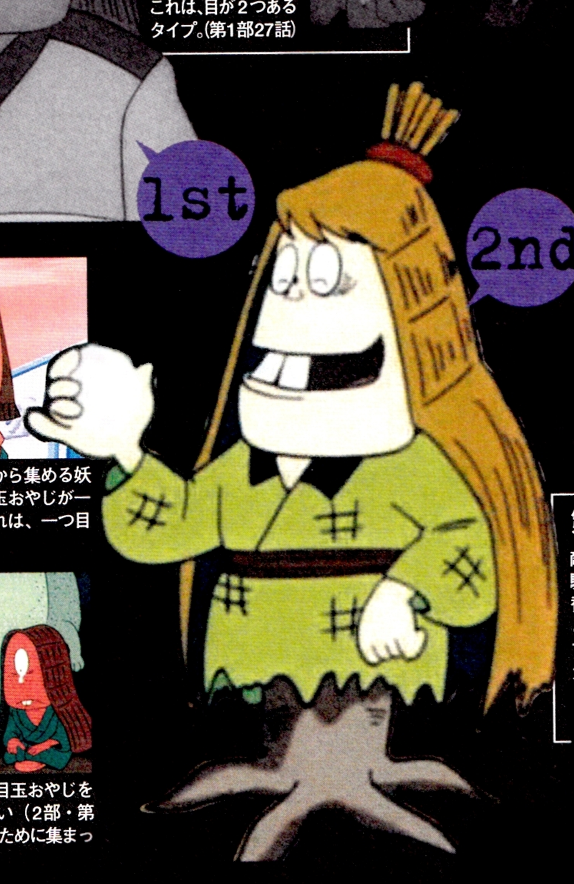
2本の出っ歯と頭に被った笠がトレードマークの呼子は、1部では山小僧と呼ばれることも多かった。基本的にはその他大勢の一人だが、意外と出番は多い。雲外鏡から少女を救い、無人島では「ゲゲゲの鬼太郎」を合唱していた。2部では鬼太郎の仲間としてだけでなく、悪い妖怪としても登場。しかも一本足で、目も2つ。出っ歯と笠は欠かせない。

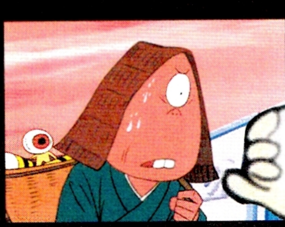


第1部はこんな感じ



おどろおどろが作ったプラモデルの飛行機で、無人島に飛ばされたらしい。砂かけたちと「ゲゲゲの鬼太郎」を合唱する。これは、目が2つあるタイプ。(第1部27話)





鬼太郎カマボコを、町中から集める妖怪の一人として登場。目玉おやじが一緒にいることに注目。これは、一つ目タイプだ。(第2部13話)



釜鳴りに閉じ込められた目玉おやじを救うため、釜ヶ原へ向かい（2部・第19話）、サトリを退治するために集まった。(第2部34話)

第2部はこんな感じ

敵役の呼子が登場。ねずみ男を騙して解放石に触れさせ、入れ替わる。味方の純朴そうな呼子と違い、ずるがしこそうな顔してる。でも200年立ちん坊ってカワイソ……。(第2部31話)



パーソナルDATA

特徴◉数種の呼子が顔を出す

一つ目、二つ目、一本足などさまざまなタイプが存在。しかし、出っ歯と傘はすべてに共通している。1部では、山小僧と呼ばれることも多く、強烈な印象とは裏腹に活躍は少なかった。

特技◉あんまり目立ちません

1部ではこれといった特技はなかったが、2部の悪いタイプは解放石を使ってねずみ男と入れ替わった。

仲間◉仲間と認められている?

一応、鬼太郎ファミリー。2部では砂かけばばあが経営する「妖怪アパート」の住人に。

『ゲゲゲの鬼太郎』

68年第1シリーズ 71年第2シリーズ 全110話

見どころ完全ガイド

1968年の正月にモノクロで放映を開始した記念すべき第1シリーズと、その続編という形でカラーとなって71年にスタートした第2シリーズ、計110話の全エピソードを解説。各話に登場した主要妖怪も一挙紹介しちゃいます!!

68年第1シリーズ

(1968年1月3日～1969年3月30日放映)

全65話

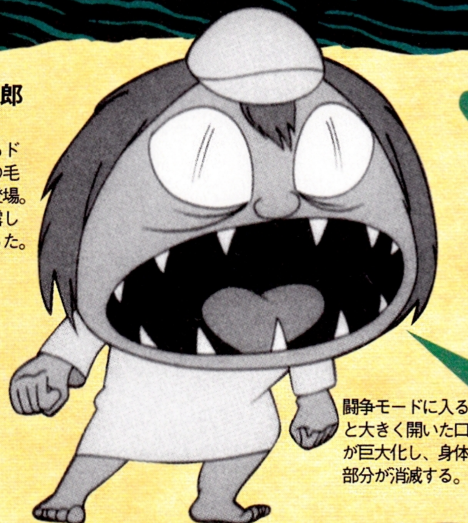
闘争とアングラの時代、68年の幕開けとともにスタートした第1シリーズ。悪い妖怪を鬼太郎が退治する勧善懲悪ストーリーが基本となっており、ほとんどのエピソードが原作の『鬼太郎』シリーズからのアニメ化である。第2シリーズ以降に見られる文明批判的な視点はまだ見られないものの、全65話中、前後編からなる長編を4本も放映するなど子供向けながら唸らせるドラマが多い。昭和の天才作曲家いずみたくによる素晴らしすぎる音楽も魅力。



記念すべき鬼太郎初登場シーン!!
茂みで昼寝中ながらもドン平が打った球を髪の毛でキャッチしながら登場。鬼太郎がテレビで披露した妖力第1弾でもあった。

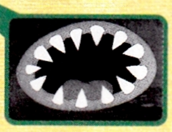


バットに書かれた妖怪文字
自分たちのバットに「妖怪チーム専用」と書いている。妖怪たちは意外と几帳面なのだった。



妖怪図鑑

牙ぐるい
【きばぐるい】
血の気が多い乱暴者のガチンコ野郎。闘争モードでは"口"だけの姿になって相手に喰らいつく。

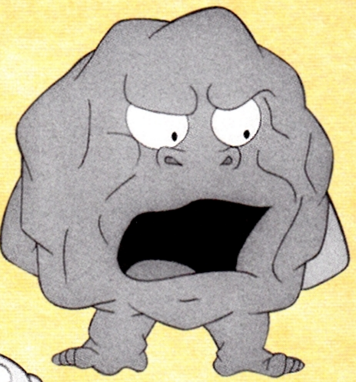


闘争モードに入ると大きく開いた口が巨大化し、身体部分が消滅する。

ドン平たちと対戦した妖怪チームのナイン

投手	鬼太郎
捕手	牙ぐるい
一塁手	野分婆（のわけばばあ）
二塁手	ろくろ兵衛
三塁手	土左衛門
遊撃手	長広舌（ちょうこうぜつ）
左翼手	のたり坊
中堅手	むく邪羅（じゃら）
右翼手	赤ん平（あかんべえ）





地魅【ちみ】
懐が深く、妖怪たちのまとめ役のような存在。野球の試合では審判を務めた。



百目坊や
【ひゃくめぼうや】
身体中に無数の目をもつ子供の妖怪。バットをなくし、今回の騒動の原因をつくる。

60'S時代
妖怪の間でも野球ブームだったというこの時代は読売ジャイアンツの絶頂期。川上監督率いる巨人は王と長島の活躍で65～73年にかけ、9連覇していた。

第1話

おばけナイター

●脚本／辻　真先　●演出／山口康男
●放映日／68年1月3日

STORY

妖怪vs.人間の命懸け野球試合



ホームランやヒットを百発百中で打てる妖怪バットを拾ったドン平のもとへ、大金を抱えた各球団のスカウトマンが現れた。欲に目がくらんだドン平たちは命まで懸けて、バットの本当の持ち主である妖怪たちと野球で勝負することに。圧倒的に強い妖怪チームを前に恐怖に怯えるドン平たちだったが、鬼太郎のおかげでゲームは時間切れドローとなり、命だけは奪われずに済む。ドン平たちも反省しきりで、やがては実力で大会に優勝するほどの強豪に。

妖怪図鑑



夜叉【やしゃ】

人間の魂を食して100万年生き続けるという、中国からやってきた変幻自在の妖怪。本体は毛髪のみ。

第2話 夜叉

●脚本／高久　進　●演出／黒田昌郎
●放映日／68年1月10日

STORY

子供の魂を喰らうギター弾き



心地よいアンビエントなギターの演奏で子供たちをおびき寄せ、その魂を食す妖怪、夜叉が現れた。子供たちを守るために鬼太郎が囮となるが、逆に魂を抜かれてしまう。しかし目玉おやじの活躍で難を逃れ、毛髪のみの姿になった夜叉を焼き払って倒すことに成功する。それにしても夜叉の本体は毛髪のみの、いわばヅラお化け。どなた様もヅラ着用の際は、どうぞお気をつけください。

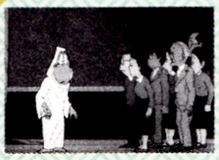


夜叉の仮の姿であるギター弾きの野呂。どう見てもロン・ウッド（68年当時ジェフ・ベック・グループ、現ローリング・ストーンズ）です。



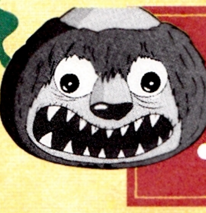
ヅラばれ、いや夜叉の正体判明の決定的瞬間。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



夜叉に魂を盗られた子供を鬼太郎に治療させるからと、親たちに診察料を前払いさせた。

妖怪図鑑



たんたん坊

目から強力な粘着質のヤニを噴き出し、相手の身体中の穴をふさいでしまう。

第3話 妖怪城

●脚本／岩井基成　●演出／白根徳重
●放映日／68年1月17日

STORY

封印を解かれ妖怪たちが暴れだす



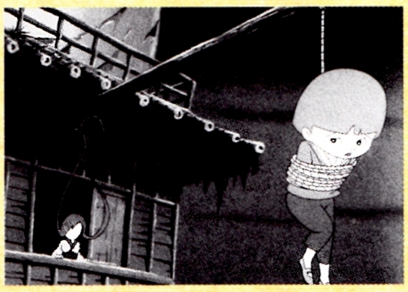
かまいたち

口で空気を吸ったり吐いたりすることで、強力な威力の風を起こすことができる。

大口女【おおぐちおんな】

自在に伸縮できる長い髪を手のように操り、巨大な口で相手を捕食する。





100年の眠りから醒めた妖怪から、毎月一人ずつ子供を差し出せと脅される山中村。従わなければ村は焼き払われ、村人は喰い殺されるという。裏で暗躍するのはねずみ男だった。妖怪城の封印を解き、たんたん坊らと結託して妖怪のメッカを造ろうと企んでいたのだ。しかし鬼太郎にあっさり締め上げられ、妖怪城を注連縄で再び封印。妖怪に捕まっていた長老の孫娘、とみ子も無事戻り、村には平和が訪れる。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

「人間は300年生きないと妖怪のことはわからない」

（鬼太郎談）

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



妖怪城の封印を解いて妖怪のメッカを造ろうとした。

第4話 吸血鬼ラ・セーヌ

●脚本／雪室俊一　●演出／高見義雄
●放映日／68年1月24日

STORY

吸血鬼、日本に渡る

パリで全身の血液が一滴もなくなって死ぬ若い女性が続出。その原因が「血なし病」ではなく、吸血鬼ラ・セーヌの仕業だと知るのは世界でただ一人、鬼太郎だけだった。その鬼太郎を葬るため、ラ・セーヌが来日。しかしマシンガンで鬼太郎殺害を目論むも失敗に終わる。それどころかリモコン下駄に執拗に追い詰められ、潜伏先で焼き殺されてしまうのだった。



妖怪図鑑

ラ・セーヌ

フランスの吸血鬼。犬歯ではなく手指の爪で血を吸い上げる。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



「血なし病」のインチキワクチンを販売して一儲けしようとした。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

「カラスが3度鳴き、オケラが4度鳴くと鬼太郎が現れる」

（ラ・セーヌの用心棒マンモス談）

妖怪図鑑



大海獣

3億年前から生きていると思われる、鯨の祖先にあたる巨大生物。手足があり、二足歩行する。

第5・6話 大海獣 前編 後編

●脚本／辻　真先　●演出／設楽　博
●放映日／68年1月31日（前編）2月7日（後編）

STORY

鬼太郎めがけて原爆投下！



古代の巨大生物がニューギニアに出現。不死の秘密を探し、現地へ向かった鬼太郎は、功績を独占したい科学者、山田の企みで大海獣にされてしまう。海を泳いで何とか帰国した大海獣鬼太郎を待ち受けていたのは戦車や戦闘機による容赦ない攻撃。何と原爆（！）まで投下され、瀕死の重傷を負うことになる。しかし最後に心を入れ替えた山田の尽力で元の姿に戻ることができた。戦後日本の国家アイデンティティ、非核三原則を完全に無視した問題作。

鬼太郎妖力FILE

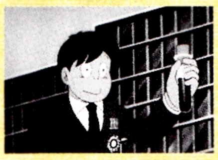


放射能排出

鬼太郎は妖力で体内に蓄積した放射能を汗として排出できる。

鬼太郎を人体実験した“腹黒オトコ”山田秀一

鬼太郎をだまして人体実験し、大海獣にしてしまった張本人。最後に心を入れ替えるとはいえ、そんなコトで許されるのかってほどの大悪人である。



60'S時代

非核三原則は、アメリカからの返還が決まった小笠原諸島への核兵器持ち込みについて質問された当時の佐藤栄作首相が、67年の国会で最初に提示した。ちなみに法的拘束力はない。

第9話 見上げ入道

●脚本／雪室俊一　●演出／白根徳重
●放映日／68年2月28日

STORY

イタズラ者は妖怪養成学校へ

妖怪ポストを破壊した挙句、「入らずの山」にも足を踏み入れた怖いもの知らずの忠助は、見上げ入道にさらわれ、妖怪学校に入れられてしまう。そこはイタズラばかりする人間や動物を教育し、妖怪に改造するための学校だった。救出に向かった鬼太郎は妖術に苦戦しながらも、ちゃんちゃんこを使って入道を死人の国へと追いやることに成功。この妖怪学校、空気の食べ方など、授業内容はちょっと楽しそう。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

霊界は「生きた者には見えんが、空中にポカンと浮いてる」

（死人の国の番人談）

妖怪図鑑



見上げ入道
空気を吸ったり吐いたりすることでカラダの大きさを自在に変えることができる。

第8話 鏡爺

●脚本／安藤豊弘　●演出／明比正行
●放映日／68年2月21日

STORY

妖気漂う鏡の正体は？

麻布に住む金持ち大山が骨董屋で買った300年前の鏡。その中には妖怪、鏡爺が棲んでおり、大山の娘カオリと鬼太郎、ねずみ男が"姿"を鏡の中に閉じ込められてしまう。しかし鏡の外にいる鬼太郎の姿なき本体は、鏡爺の姿を拝借。鏡を粉々に割ることで元の姿を取り戻す。割れた鏡の中から自分を探し出すなんて、まさに当時のアングラバンド、ジャックスの名曲『割れた鏡の中から』を思い出させます。



妖怪図鑑

鏡爺
【ががみじじい】
鏡の中に棲み、人の姿を盗んで鏡の中に封じ込め、奴隷としてこき使う。

第7話 ゆうれい電車

●脚本／鈴樹三千夫　●演出／村山鎭雄
●放映日／68年2月14日

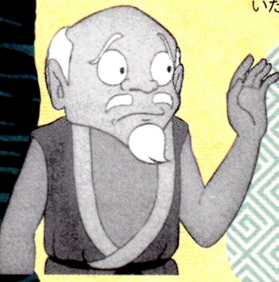
STORY

ゴロツキどもに恐怖を

鬼太郎とねずみ男は本物の妖怪たちを雇って、お化け屋敷ビジネスを始めた。そこに現れたゴロツキ二人組。屋敷に入るや、「こんなマヤカシ、怖いもんか」と調子に乗って、妖怪たちに乱暴狼藉を働き出した。本物とバレぬよう、妖力を使わず無抵抗を貫く妖怪たち。しかし閉店後、鬼太郎がリベンジに立ち上がる。二人をゆうれい電車に乗せて身も凍る思いをさせ、ついにはギャフンと言わせるのだった。

妖怪図鑑

小豆あらい
丹波の山奥に棲む。大好物の小豆が不作のため、街の幽霊屋敷で働いていた。



銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



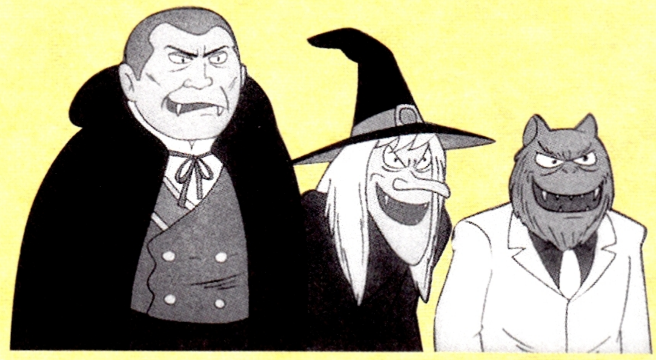
鬼太郎を丸め込んでスリラーショウ（お化け屋敷）を開業し、一儲けたくらんだ。

日本占領を目論む西欧の妖怪たち

ドラキュラ
式神のような小さな吸血鬼たちを使役することができる。

魔女
ホウキで自在に空を飛んで移動できる。

狼男
妖力は不明。血の気が多いが常にスーツ姿でダンディだ。



妖怪図鑑



バックベアード
西欧妖怪軍団のボス。目を合わせるとマインドコントロールや精神錯乱させられる。

第10・11話 妖怪大戦争 前編 後編

●脚本／雪室俊一　●演出／茂野一清
●放映日／68年3月6日（前編）3月13日（後編）

STORY

西欧妖怪たちの日本占領を阻止せよ



自分たちの国を作るため日本占領を目論む西欧の妖怪と、それを阻止するために立ち上がった鬼太郎率いる日本の妖怪が、キカイ島で死闘を繰り広げる。砂かけばばあ、子泣きじじいなど味方を次々と倒され、みずからも敵の妖術にかかりながら辛くも勝利する鬼太郎。しかし多くの尊い命を犠牲にした苦い勝利に、胸を痛めるのだった。まさに妖怪版大東亜戦争。西欧の妖怪が徹底して鬼畜に描かれている点に、ある種のカタルシスを覚えます。

帝国主義に立ち向かう日本の妖怪たち

砂かけばばあ
目潰しの砂かけ攻撃で果敢に戦うも、ドラキュラの手下の吸血鬼たちに襲われ、血を吸われて死ぬ。



一反もめん
魔女を海の中に落として激しい空中戦に勝利したかに見えたが、逆に心臓に針を刺されて死んでしまう。



子泣きじじい
1トンの重さとなって狼男に抱きついて殺した後に、ドラキュラに全身の血をすべて吸われて死亡。



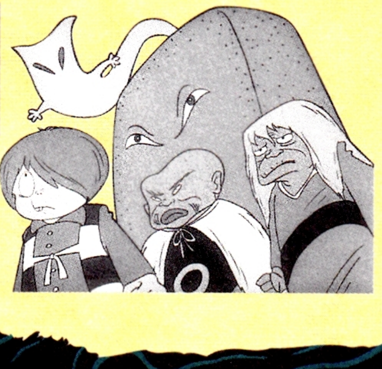
銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



西欧の妖怪と戦う日本の妖怪たちを集めたのは単に金の延べ板目当てだった。

ぬりかべ
ドラキュラを押しつぶしにかかるも、手下の小さな吸血鬼たちに全身の血を吸われ、命を落とす。





第13話
地獄流し
●脚本／鈴樹三千夫　●演出／久岡敬史
●放映日／68年3月27日

STORY
悪いやつは地獄に流せ



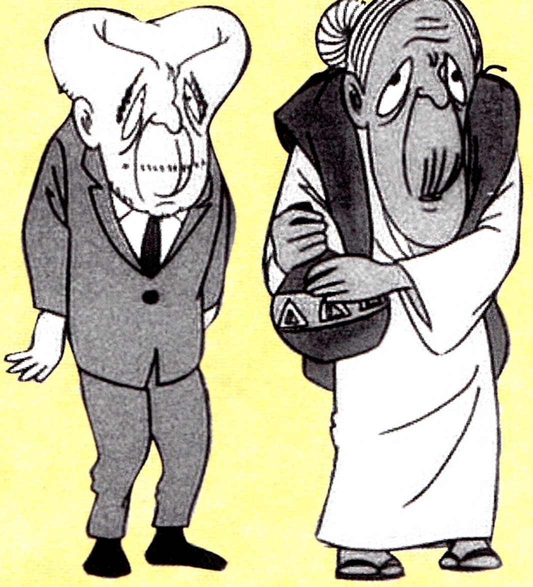
銀行を襲って1億円を奪った二人組の強盗殺人犯がゲゲゲの森へ迷い込んだ。底なし沼にはまっていたところを助けてくれたねずみ男を縛り上げた挙句、鬼太郎たちの大切な仲間であるカラスも射殺するなど、二人のやることはあまりにも非道。ついには鬼太郎の怒りに触れ、恐ろしい妖怪たちがうごめく地獄へと、生きながら流されてしまう。そこで二人はようやく自分たちの行動を悔いるのだった。

60'S時代
戦後最大のミステリー「3億円事件」が起こったのは、本エピソード放送の約9ヶ月後、68年12月10日のことだった。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み

礼金目当てで、底なし沼にはまった強盗殺人犯を助けた。

妖怪図鑑



ぬらりひょん
人間のフリをして悪事ばかり働く。交通事故もたいていはぬらりひょんが引き起こしている。

蛇骨婆
【じゃこつばばあ】
金にがめつい。甘い香りに気を許すと中に吸い込まれてしまう不思議な壷を持っている。

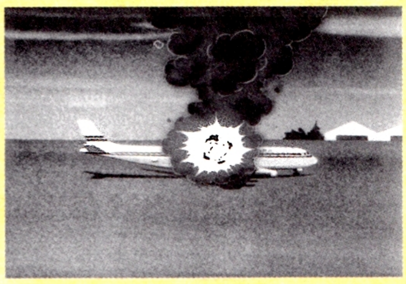
銭ゲバ ねずみ男の悪巧み

ぬらりひょんに1万円で買収されて鬼太郎を罠にかける手伝いをした。

60'S時代
60年代後半は共産主義者同盟（ブント）を中心とした新左翼による武装闘争が激化。その一部は後に東アジア反日武装戦線を組織し、70年代、数々の爆弾テロを起こした。

第12話
妖怪ぬらりひょん
●脚本／安藤豊弘　●演出／西沢信孝
●放映日／68年3月20日

STORY
連続テロはぬらりひょんの仕業!?



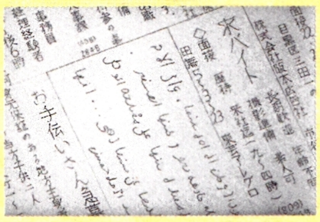
電車や航空機が次々と爆破される無差別テロ事件が発生。セクトでも愉快犯でもなく、妖怪ぬらりひょんによる犯行だった。ぬらりひょんはこれに勘付きはじめた鬼太郎を殺害しようとするも、逆に仲間の蛇骨婆ともども「先祖流し」され、原始時代へと送り込まれてしまう。だとすると現在の人類にはぬらりひょんの血が流れている可能性も……。なるほど世界中から犯罪や凶悪事件がなくならないのもうなづけます。

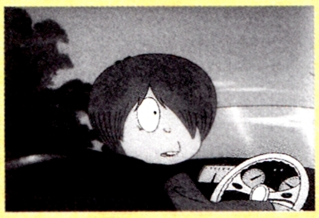
妖怪図鑑



エリート
セレブの血を好む吸血鬼。スパニッシュギターを弾いて催眠術のように人やコウモリを操る。


エリートの本体は吸血コウモリ。

妖怪語の求人広告

妖怪語で「求む秘書。ただし妖怪語のわかる者」と書かれている。新聞社には活字があったのか？

鬼太郎がスポーツカーで登場！

花形満よろしくオープンのスポーツカーで颯爽と登場する鬼太郎。しかもちょっと高飛車。花菱コンツェルンから前金をガッポリいただいたのか？

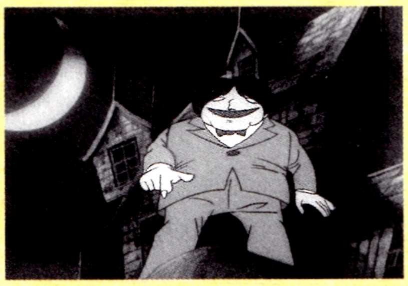
銭ゲバ ねずみ男の悪巧み

月給10万円（当時大卒初任給約3万円）でエリートの秘書として就職。「1000人吸血プラン」実行をサポートする。

妖怪ギョーカイの知られざる常識
恐山には妖怪の病院がある。「日本には妖怪の病院はあそこしかないんじゃ」
（目玉おやじ談）

第15・16話
吸血鬼エリート 前編 後編
●脚本／鈴樹三千夫　●演出／黒田昌郎
●放映日／68年4月14日（前編）4月21日（後編）

STORY
エリートはセレブがお好き



吸血鬼エリートが花菱コンツェルン会長の血を狙っていることが判明。その護衛を依頼された鬼太郎は、エリートの音楽催眠術にかかり身体を液状に溶かされてしまう。しかし脳波でリモコン下駄を操って会長の身を守り、さらには妖怪病院に入院することで肉体を再生。ついにはエリートを葬り去る。ところでエリートはスパニッシュギターの名手でもある。エピソード前後編とも、彼の歯切れよいラスゲヤード演奏をたっぷり堪能できます。

第14話
水虎
●脚本／高久　進　●演出／村山鎭雄
●放映日／68年4月7日

STORY
水の虎が村を襲う

苦しそうな呻き声をあげる不思議な壷のふたを開けてしまう百合子。中から現れたのは恐ろしい妖怪、水虎だった。封印を解かれた水虎は村を襲い、あらゆるものから水を吸い取る。枯れる井戸、干からびる人々。水虎を操る真犯人と誤解されて迫害を受ける百合子と、危機に瀕した村を守るため、鬼太郎が立ち上がった。雪深い山奥で全身水でできた水虎を凍結させ、元の壷に再び封じ込めることに成功する。

妖怪図鑑



水虎【すいこ】
あらゆるものから水分を吸い取って生きる妖怪。500年ほど前に中国から渡ってきた。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み

水虎退治を鬼太郎に頼んでやると口利き料10万円を要求した。

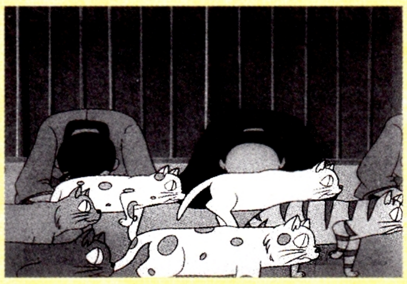
妖怪図鑑



猫仙人【ねこせんにん】
魂と肉体を分離させることで1200年生き続ける。魂は生きた猫の中に、肉体は冷たい洞窟の中に冷凍保存してある。

第17話
猫仙人
●脚本／雪室俊一　●演出／山口康男
●放映日／68年4月28日

STORY
お猫様は人間よりエライ!?



人間と猫があべこべに暮らす村があった。猫が「お猫様」と呼ばれ丁重に扱われ、人間はその残飯を食べる。永遠に死なない方法を会得した猫仙人の仕業だった。だが鬼太郎によって猫仙人の魂は漬物石の中に封じ込められ、二度と外に出られなくなってしまう。愛猫家にとってはある意味で真理を突かれたエピソード。猫のいる家では、かわいいけどワガママなニャンコ様は人間よりヒエラルキーが上なのです。

鬼太郎妖力FILE



74の質問
妖怪が取り憑いた相手に74項目の質問をする。その答えを記した点を結んでいくと妖怪の像が現れ、魂を封じ込めることができる。

妖怪図鑑



魔女
毒を飲ませた相手を思い通りに操る。魔王の命を受けて暗躍するも計画は失敗し、破門される。

第18話
魔女人形
●脚本／安藤豊弘　●演出／村山鎭雄
●放映日／68年5月5日

STORY
日本人少女10人魔女化計画



鬼太郎一行は旅先で、少女が魔女にされてしまうという事件に遭遇。その町では、魔王の命令により魔女が暗躍していた。日本の少女10人を魔女にするという計画が進行していたのだ。旅館の娘、尚子は魔女に魂を抜かれ、手下としてほかの少女の拉致に力を貸す。空飛ぶホウキにまたがったまま連れて行かれる少女たちだったが、鬼太郎一行が魔女の隠れ家を突き止め、目論みを阻止。尚子の魂も取り戻した。

60'S時代
アメリカのドラマ『奥さまは魔女』が日本で最初に放映されたのが66年。以来、『魔法使いサリー』をはじめ、数多くの魔女が日本に誕生した。少女たちが魔女や空飛ぶホウキに憧れるのも無理はない。



第19話
吸血木（きゅうけつき）
●脚本／辻 真先　●演出／白根徳重
●放映日／68年5月12日

STORY
地底に棲む妖怪

長野県奥山村。地底に棲む妖怪、のびあがりは村人を襲い、謎の赤い木を人々の身体に植えて寄生させていた。木の正体は身体中に根を張って人間の血を養分に育つ吸血木で、最後には宿主の肉体を完全にのっとってしまう。調査に訪れた鬼太郎も寄生され、ついには一本の朽ちた樹木と成り果てる。あわやと思われたが、霊力で無事生還。逆にのびあがり自身の身体に吸血木を植えて倒すのだった。

妖怪図鑑



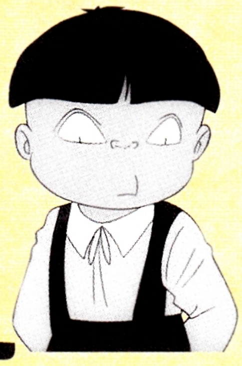
のびあがり
地底に棲み、人間の目には見えない。吸血木を使って地上を妖怪の世界に変えようとする。



吸血木【きゅうけつき】
人間の身体に寄生して血を養分に育ち、1～2日で宿主を完全にのっとり赤い木に変えてしまう。

妖怪図鑑

猫娘
ねずみ男の天敵で神社の縁の下に棲む。ねずみと魚が大好物。第2シリーズのレギュラーだが、第1シリーズでの登場はこのエピソードのみ。ねずみ男とは、これが初対面だった。





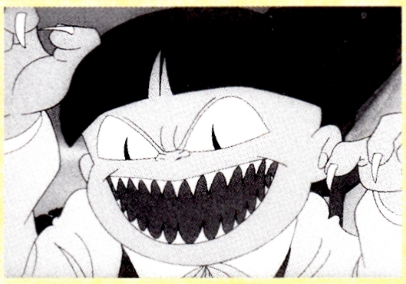
閻魔大王【えんまだいおう】
地獄をつかさどる権力者。妖怪に赤紙を送り、悪いことを行う人間を殺させる。さすがの鬼太郎も逆らうことができない。



三虫【さんちゅう】
閻魔大王が人間界に放つスパイ。人間の肉体の中に棲んでおり、その人間が悪事を働いたとき、閻魔大王に報せる。急病になる人間の半分は三虫の仕業。

第20話
猫娘とねずみ男
●脚本／雪室俊一　●演出／高見義雄
●放映日／68年5月19日

STORY
ねずみ男の天敵 猫娘、シリーズ初登場

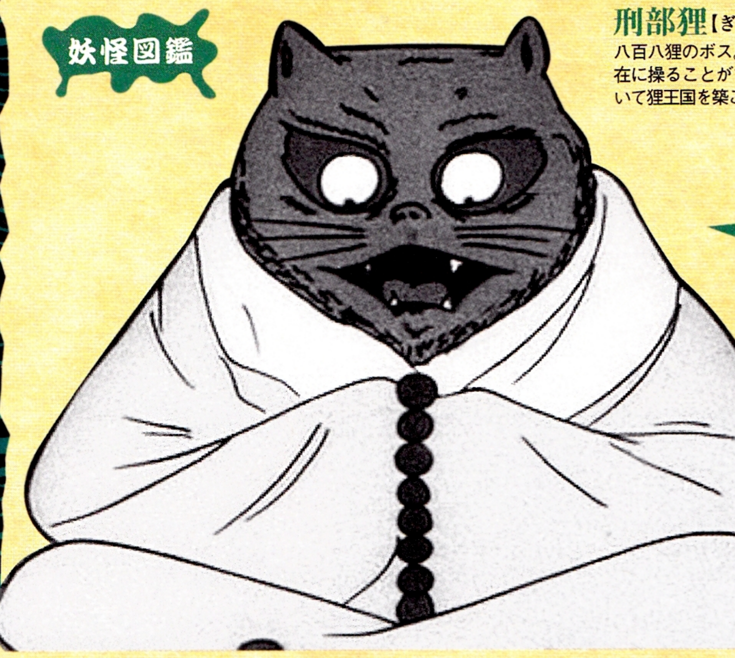


閻魔大王から鬼太郎のもとに赤紙が届く。インチキ宗教でボロ儲けするねずみ男を殺せというのだ。そこで嫁を欲しがるねずみ男に猫娘を紹介。天敵に恐怖するねずみ男は改心するが、それでも閻魔大王の命令は取り下げられないため、断食を決行させることに。9日目にしてようやく閻魔大王のスパイ、三虫が死に絶え、一件落着する。しかし詐欺とはいえ、超短期間で家とクルマを購入の上、さらに500万円貯め込んだねずみ男の商才は天才的。

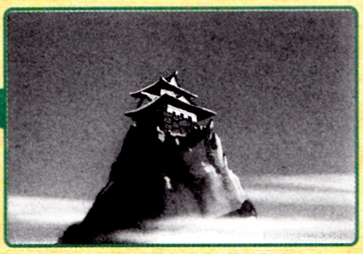
銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み
インチキ宗教「長寿教」をおこして、一財産築く。三虫を退治できるという丸薬を1粒1～10万円で信者に売りつけた。



妖怪図鑑



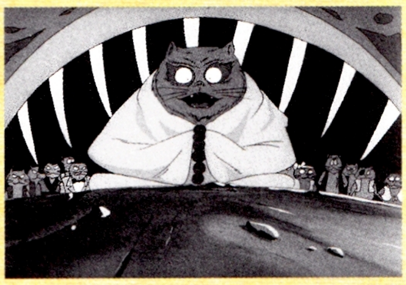
刑部狸【ぎょうぶだぬき】
八百八狸のボス。念力で大ナマズを自在に操ることができる。政権の座について狸王国を築こうとする。超巨体。



50万人の犠牲者を出して築城中の狸城。政権を掌握したら日本中の美女を集めて狸城の召し使いにしようと企む。人間の男はソーセージにして食すらしい。

第21・22話
妖怪獣 前編 後編
●脚本／高久　進　●演出／明比正行
●放映日／68年5月26日（前編）6月2日（後編）

STORY
日本に未曾有のクーデター勃発！

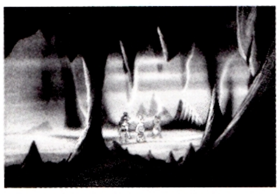


ダム建設工事で狸山の封印が解かれ、狡猾で凶暴な八百八狸たちが現代日本に蘇った。刑部狸率いる八百八狸軍は妖怪獣、大ナマズを武器にクーデターを起こして政権を奪取。警察、軍部も掌握し、地上を美女と狸だけの狸王国にしようと画策する。これに敢然と立ち向かう鬼太郎と同士、一反もめん。壮絶な戦いを経て、二人は死をも厭わぬ決死の行動で日本を未曾有のパニックから救い出した。ハリウッド映画さながらのスケールで描く大作。

八百八狸【はっぴゃくやだぬき】
天海上人のお札により、四国の狸山に250年間封じ込められていた狸の妖怪軍団。気性が荒く暴力的な性格。登場シーンのBGMであるミニマルなトライバルサウンドも要チェック。



天海上人のお札。これを四国の狸山に貼られると、刑部狸も八百八狸もみな石と化してしまう。



日本の地下は無数の地下道で続いていて、八百八狸たちも地下道を通って四国から東京までやってきた。



玄蕃狸【げんばだぬき】
八百八狸のリーダー格。シルクハットに蝶ネクタイ姿でなかなかダンディである。

お富狸【おとみだぬき】
八百八狸のアネゴ格。接尾語として「このおたんこなす！」をよく用い、相手を罵倒する。

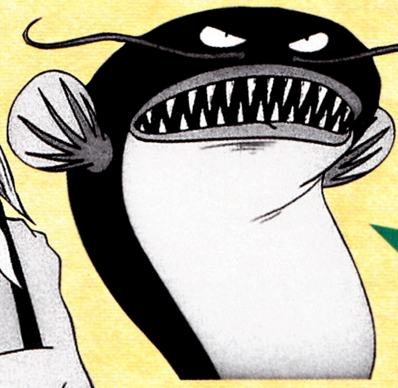
団三郎狸【だんざぶろうだぬき】
八百八狸のアニキ格。ほかの誰よりも血の気が多く、すぐバイオレンスに訴える。



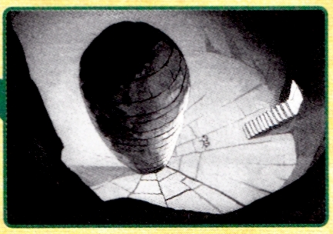
妖怪獣　蛟龍
【ようかいじゅうこうりゅう】
八百八狸たちが崇める巨大妖怪。70年生きた蛇が蜃気楼の中に入って卵を産み、その卵がかえって地下に潜り、さらに数百年をたつと丸くなって天に昇って蛟龍となる。



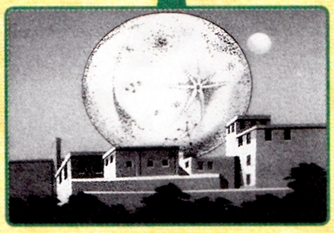
海爺
【うみじじい】
鬼太郎の仲間。釣りをしていた北極圏で氷になっていた鬼太郎と一反木綿を粉々にして日本まで連れ帰る。



大ナマズ
地下湖に棲む。暴れると大災害をもたらすため、要石（かなめいし）により封じ込められている。



要石は富士山の人穴の奥に人知れず設置されている巨大な石。大ナマズを封じ込める力がある。



日本上空に現れた第二の月。数百年かけて蛟龍となった蛇の卵と思われる。妖怪獣はこの中から現れた。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

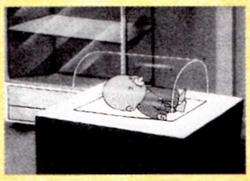
「昭和40年代には妖怪の時代が訪れることぐらい、妖怪として知っておくのは常識」「妖怪事典の始めにも書いてある」

（八百八狸談）

60'S時代

当時の日本は高度経済成長最盛期。65〜70年はとくに「いざなぎ景気」と呼ばれ、国民総生産は世界第2位にまで躍進した。一方、開発の陰で環境破壊が深刻化した時期でもあった。

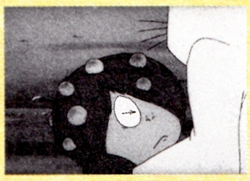
鬼太郎妖力FILE



再生
身体が粉々の氷と化しても、新生児の保育器の中に入れれば、短期間で元の姿にまで成長できる。



溶解
鬼太郎のカラダの中にはどんな生物も溶かしてしまう液体がある。ただし自分も溶けてしまう。



偽装
危機に陥ると仮死状態になり敵から身を守る。頭のコブもすべて偽装である。

第23話 峠の妖怪

●脚本／辻 真先 ●演出／白根徳重
●放映日／68年6月9日

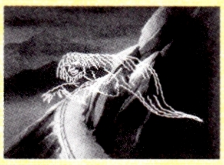
STORY

寒気を覚えたら要注意

九谷村の峠道で1日に5台もの車が崖下に落ちる事故が起きた。源爺さんが蔵で見つけた古い絵をゴミと一緒に焼却した際、妖怪ぶるぶるが封印を解かれ、外に飛び出したためらしい。そこで鬼太郎が解決に向かうことに。ぶるぶるは高圧縮された冷気状の存在。それだけに熱い湯に耐えられない。鬼太郎はその性質を利用して、ねずみ男に取り憑いたぶるぶるを風呂で捕獲。風船の中に閉じ込めて、遠くへ飛ばしてしまった。

妖怪図鑑

ぶるぶる
氷のように冷たい気体状の妖怪。人が暗い場所などで背筋が急に震えるのもぶるぶるの仕業だ。アスピリンが嫌い。



妖怪ギョーカイの知られざる常識

「月の写った氷」で作った妖怪めがねがあれば、妖怪の本体を見通すことができる。

（鬼太郎談）

第24話 白山坊

●脚本／雪室俊一 ●演出／久岡敬史
●放映日／68年6月16日

STORY

妖怪と契約してしまった男



妖怪白山坊は小心者の正吉に、失意の人生を救う代わりに娘の花子を嫁によこすよう約束させた。しかしその真の目的は花子の生き血を吸うこと。花子を守るため、鬼太郎は白山坊と直接ガチンコ対決にのぞむ。岩石に化けた白山坊の攻撃で窮地に陥った鬼太郎を救ったのはオニ蛾だった。森で鬼太郎が命を助けたことへの恩返しだろうか。オニ蛾に卵を産み付けられた白山坊は孵化した幼虫に体内を食い荒らされ、死んでしまう。

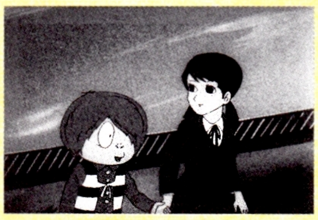
妖怪図鑑



白山坊
【はくさんぼう】
富士の樹海にある深い森の主。狡猾な古狐で、石や宝石など無生物に化けるのが得意。

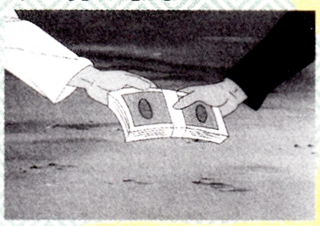


砂かけばばあ
今回は占師として登場。鍋で火にかけた液体の中にイモリを入れて占う。



可愛いギャルと手をつなぐ鬼太郎
「白山坊には指一本触れさせませんよ」などと、いつのまにやら花子と手をつないで歩く鬼太郎。意外とちゃっかりしているのだった。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



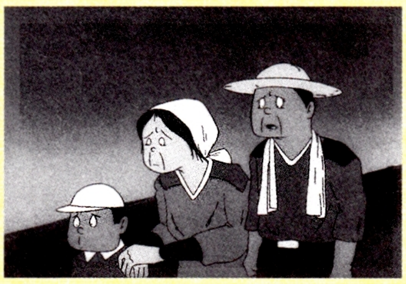
無料おみくじで客の誕生日を調べ、6月8日生まれの女性の住所を正吉に売った。

第25話 電気妖怪

●脚本／安藤豊弘 ●演出／高見義雄
●放映日／68年6月23日

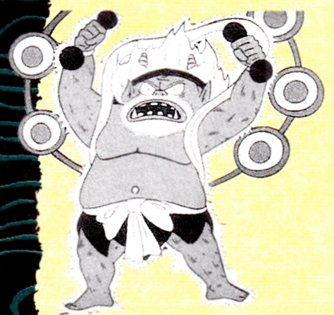
STORY

大干ばつの原因は人間のおごり?



三角山の村にはもう1年も雨が降っていない。人工的に雨を降らせるなど、科学者が行った天候を操る実験が妖怪カミナリの逆鱗に触れたのだ。しかし村人を救うために立ち上がった鬼太郎が、カミナリ自身の放電する電気で逆に焼き殺して事件は一件落着。異常気象は、天気を操ろうという人類のおごりに起因していたのだった。ちなみに干ばつが深刻な問題となっている中国で、人工雨はすでに実用化されている。

妖怪図鑑



電気妖怪カミナリ
乱層雲の中にある岩石を棲み家とする。電荷を放電させたイカヅチを放って攻撃。本来、人間の前には姿を現さない。



傘ばけ
カサ部分がプロペラのように回転して空中を移動できる。この回では2体登場。鬼太郎たちには「傘やん」と親しみを込めて呼ばれていた。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



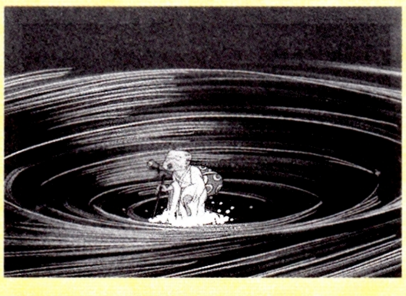
科学者に人工雨を降らせる前提で、自分は祈祷師になりきって村人から10万円せしめようとした。

第26話 海座頭

●脚本／鈴樹三千夫 ●演出／村山鎮雄
●放映日／68年6月30日

STORY

海難事故を起こす盲目の妖怪

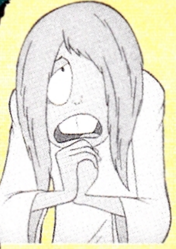


近頃、妖怪退治に疲れてノイローゼ気味の鬼太郎が、ねずみ男の口車に乗せられ、めくら岬沖までやって来た。そこへ現れた舟幽霊たち。海座頭に魂を抜かれ、金品を奪う目的で船を沈める手助けをさせられているという。鬼太郎は彼らを不憫に思い、その魂を救出。さらに体電気で海座頭も感電死させる。いまやノイローゼなどどこ吹く風の鬼太郎なのだった。海座頭が跡継ぎとしてさらった少女、フミ子の前で弾いた琵琶サウンドが激トランシー!!

妖怪図鑑



海座頭【うみざとう】
めくら岬沖の島に棲む盲目の妖怪。人間の頭部に喰らいつき、毛穴から魂を吸い取る。武器は渦潮。



舟幽霊
【ふなゆうれい】
元は沈没させられた船の船員。海座頭に魂を奪われ、船を沈めて財宝を奪う手助けをさせられている。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



お礼目当てでフミ子捜索の依頼を安請け合いし、ノイローゼの鬼太郎を動かした。

妖怪図鑑



まくら返し

夢の世界に棲んでいて、領分を荒らされるとひどく腹を立てる。夢を食べて生きる動物、獏が天敵。

第28話

まくら返し

●脚本／辻 真先 ●演出／村山鎮雄
●放映日／68年7月14日

STORY

今夜も夢で逢いましょう



夜でも昼でも寝惚けてばかりいる夢吉。夢の中で必ず逢う恐ろしい顔の人物は、妖怪まくら返しだった。夢吉は夢の世界へ不法越境した罪人とみなされ、ついにはまくら返しに拉致されてしまう。そんな夢吉を鬼太郎が何とか救出。そして人間界まで執拗に追ってくるまくら返しの妖術にかかりながらも、どうにか動物園まで逃げ切った。オリの中には天敵の獏。まくら返しは万事休すとなる。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

迷いの山の頂上で太陽を背にして待っていると、人間と夢の世界をつなぐ架け橋が現れる。ただし「修行が足りないと虹にしか見えない」（鬼太郎談）

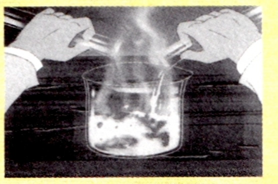
妖怪図鑑



おどろおどろ

子供の生き血を吸って生きる妖怪。元は優秀な科学者で、魔女のホウキの中に含まれているホウキ元素を発見した。

これが問題の毛はえ薬！



毛根に塗るのではなく経口摂取する。人間が妖怪になってしまうとは、一体どんな薬品が使われているのか。おどろおどろの毛髪を見る限り、確かにその効果は絶大だが。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



鬼太郎をテレビに出演させようとして、局からギャラを前払いで受け取った。

第27話

おどろおどろ

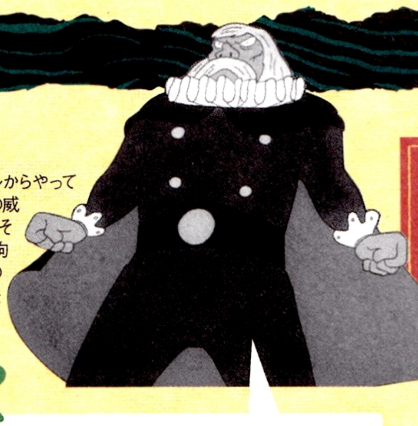
●脚本／鈴樹三千夫 ●演出／白根徳重
●放映日／68年7月7日

STORY

毛はえ薬で妖怪に変身!?



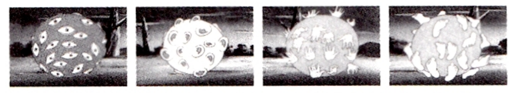
優秀な科学者だった正太郎の父は、みずからを毛はえ薬の実験台とすることで妖怪おどろおどろになってしまった。子供たちを誘拐し、その生き血を吸って生きる残忍さに怒る鬼太郎。「父親にはまだ良心が残っている」と信じる正太郎を尻目に、おどろおどろを殺して子供たちを救出する。しかし変わり果てたとはいえ目の前で父を殺された正太郎を思うと、鬼太郎はやりきれない気持ちになるのだった。



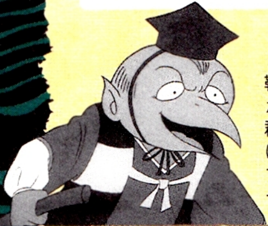
ベリアル

明治元年にポルトガルからやってきた悪魔。水爆なみの威力があるといわれる。その魔力は、カラス天狗の妖力で「やさかりの赤玉」にされ、天道法師塔に葬られていた。

妖怪図鑑



目、耳、手、足が各100個ずつある4体の妖怪に分離したベリアル。



カラス天狗

鞍馬山に棲む鬼太郎たちの仲間。蚊の大群を飼いならし、空に蚊文字を書くことで離れた相手にメッセージを送る。



蚊文字で空に書いた「SOS」のメッセージ。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

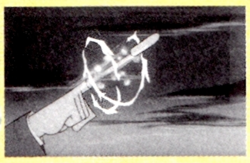
「自由を最も愛し、奴隷になることを最も卑しむのが妖怪なんだぞ」（鬼太郎談）

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



金塊だと騙され、ベリアルの魔力を封じ込めた玉を探し出して奪おうとする。

鬼太郎妖力FILE



指鉄砲

指先を切り離してミサイルのように飛ばす攻撃。指は2～3日で元通りはえる。

第30話

悪魔ベリアル

●脚本／鈴樹三千夫 ●演出／村山鎮雄
●放映日／68年7月28日

STORY

悪魔による日本植民地化を防げ



100年前にポルトガルから日本に流れ着いた悪魔ベリアルが、カラス天狗に封じられていた魔力を再び取り戻し、日本を植民地化しようと動き出した。鬼太郎たちの前に現れたのは自身のカラダを4体に分離したベリアル。目、耳、手、足をそれぞれ100ずつ備えた恐ろしい姿で襲ってくるが、最後は鬼太郎の指鉄砲をまともにくらって死んでしまう。「妖怪大戦争」に引き続き、西欧の妖怪イコール独善的な帝国主義者として描かれている。

第29話

鏡合戦

●脚本／雪室俊一 ●演出／西沢信孝
●放映日／68年7月21日

STORY

鏡が盗まれ妖怪現る

ねずみ男がケーキだと思って盗んだ箱の中身は、銅鏡寺から盗まれた国宝の照魔鏡（しょうまきょう）だった。これにより照魔鏡の力が及ばなくなり、雲外鏡が出現。ねずみ男を使って、鬼太郎を鏡の中に閉じ込めてしまう。しかし砂かけばばあや子泣きじじいらは、ねずみ男が海に捨てたという照魔鏡を探し出し、ようやく鬼太郎を助け出す。雲外鏡は塩水をかけられ、あわれ赤錆と化すのだった。

妖怪図鑑



雲外鏡
【うんがいきょう】

鏡の中から現れた妖怪。銅の鏡は2000年以上経つと自然に物質が変化して、鏡から雲外鏡が現れる。同類の鏡爺が三角ベースだとしたら雲外鏡は大リーグ級の妖怪だそう。



少女の姿を借りて現れ、ねずみ男をコキ使った。

妖怪図鑑



もうりょう

新しい死体から新しい死体へと乗り移って生きる妖怪で、こちらはその本体。乗り移った死体を灰にしないと退治できない。



村はずれに住んでいた五郎のミイラ。もうりょうが乗り移って動かしている。

第31話 もうりょう

●脚本／安藤豊弘　●演出／永樹凡人
●放映日／68年8月4日

STORY

死体が暴れる鬼太郎版ゾンビ譚



村のしきたりどおり、玉吉は亡くなった祖父の遺体を妖怪にとられないよう、墓場で番人をしていた。その夜、玉吉は村はずれに住む五郎の死体にもうりょうが乗り移り、墓を掘る姿を目撃。退治に出向いた鬼太郎だが、もうりょうは依代を次々に変え、最後には五郎の死体から千切れた指先にとり憑いた。これをつるべ火が焼いて灰にすると、もうりょうはようやく本体を晒して消滅していった。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



ゲゲゲ妖怪産業起業の資金づくりのため、鬼太郎にもうりょうを退治させ、退治料として代金2000円は自分がせしめようとした。

妖怪図鑑

妖花【ようか】

「何でも載っている」妖怪事典にも掲載されていない謎の存在。夜になると不思議な光と音を放つ。



鬼太郎の貝型外洋船

普段は海の底に沈めて停泊してある鬼太郎所有と思われる外洋船。デッキに藁葺き屋根の一軒家と畑がある。ハイテクとローテク究極の融合!?



第32話 妖花

●脚本／辻　真先　●演出／白根徳重
●放映日／68年8月11日

STORY

戦争の悲劇が生んだ妖怪花



花子の部屋に乱れ咲く不思議な花。それは鬼太郎や目玉おやじも初めて見る謎の妖花だった。正体をつきとめるべく南方の島へ渡った一行は、そこで花子のもとへ種子を飛ばしたと思われる巨大な妖花を発見。地下の空洞には、花子の両親をはじめ、大東亜戦争で玉砕した人たちの白骨化した遺体が横たわっていた。妖花とは、その骨から生えた植物で、東京で一人暮らす彼女を見守る両親の愛の化身だったのだ。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



花子が美人と聞いて、怪死防止協会専属の妖怪医をかたり妖花退治に現れた。もちろん有料。

妖怪図鑑



さざえ鬼【さざえおに】

さざえが300年以上生き続けてなった妖怪。細胞を変化させてどんな姿にも変身できる。胴体のサイケ柄がオシャレ。



さざえ鬼の本体。通常はさざえ鬼の口の中に収まっている。

人魚



海底深くに棲んでいて人間の前に姿を見せることはほとんどない。日本では1000年以上前に漁師に捕えられたれたことがあるという。

鬼太郎妖力FILE



気化

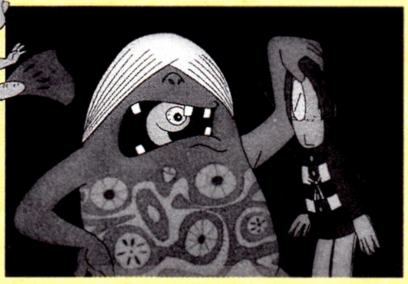
妖怪に食べられても、直射日光を浴びて熱がる妖怪の毛穴から蒸気のように少しずつ脱出して合体し、復活できる。

第33話 さざえ鬼

●脚本／雪室俊一　●演出／古沢日出夫
●放映日／68年8月18日

STORY

さざえのつぼ焼きが人間に復讐



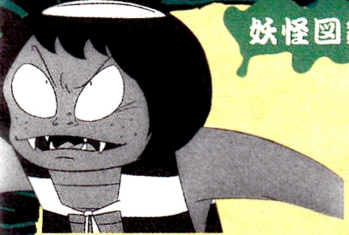
千葉の天狗岩に人魚の子が現れた。海底の棲みかを妖怪さざえ鬼に占拠されてしまったのだ。さざえ鬼は人魚の子を使っておびき出した鬼太郎をスルメイカのようにあぶって丸ごと食べた挙句、鬼太郎本人になりすまして人間界を支配しようと企んだ。自分の仲間をつぼ焼きにして食した人間たちへの復讐である。しかし目玉おやじの機転で鬼太郎は見事、復活。さざえ鬼は殺され、人魚は無事、海へ帰っていった。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



マーメイドショウで一儲けする目的で人魚を生け捕りしようとする。

妖怪図鑑



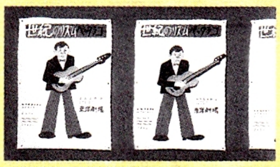
さら小僧

350年生きており、凶暴かつ傲慢で、怒らせると怖い。頭の皿部分から光のようなものを放って攻撃する。



「お水がなくなりゃダメダメさ～♪」って、さら小僧、自分の弱点を自分で歌っちゃってます。しかも楽しそうに。

最新リズムが日本を席巻!!



日本を席巻する『ぺったらぺたらこ』のキャッチコピーは「ついに登場、ぺったらこリズム。昨日ゴーゴー、今日はペッタラコ!!」。耳にこびりついて離れない演歌なレアグルーヴサウンドは必聴です。

60'S時代

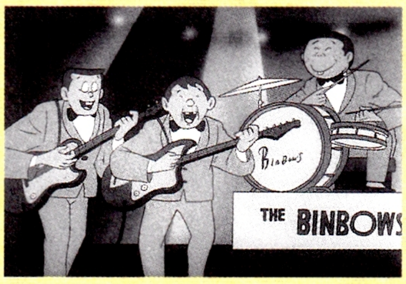
67年にザ・スパイダース、ブルーコメッツが、68年にはザ・タイガース、ザ・テンプターズが登場し、この頃、空前のGSブームが訪れていた。

第34話 さら小僧

●脚本／辻　真先　●演出／久岡敬史
●放映日／68年8月25日

STORY

最新リズムは妖怪ソング!?



ジャリー虎刈とザ・ビンボーズはこともあろうに妖怪さら小僧の歌『ぺったらぺたらこ』を詞曲ともまるパクリすることで、押しも押されぬ人気バンドにのし上がった。怒ったさら小僧はバンドのメンバーを拉致。鬼太郎はジャリーの息子の頼みでさら小僧と平和的に交渉するために出かけるが、決裂。ガチンコ勝負ではとてもかなわない鬼太郎だったが、さら小僧の頭の皿の水を蒸発させて辛くも勝利した。

第35話 こま妖怪

●脚本／鈴樹三千夫　●演出／白根徳重
●放映日／68年9月1日

STORY

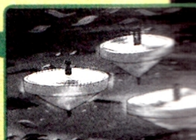
子供の足の皮が好き!?

きのこ山で子供たちが足の皮を食べられた。犯人あまめはぎとのこま対決に勝った鬼太郎は、二度と悪いことをしないよう約束させる。あまめはぎは仕返しを企て鬼太郎を追い詰めるが、最後には自爆。頭に生えたきのこを抜き取ると、善良な妖怪に戻って山に帰っていった。それにしても子供の足の裏の皮が好物とは、何ともマニアックな嗜好の妖怪である。

妖怪図鑑



あまめはぎ
子供の足の皮をはいで食べるのを好むが、頭のきのこがなければ善良な妖怪。明治20年より80年間眠っていた。



こまを回して相手の目を回したり、投げて攻撃したりする。

第36話 ダイヤモンド妖怪

●脚本／安藤豊弘　●演出／明比正行
●放映日／68年9月8日

STORY

うまい話には裏がある

欲に目が眩んだ宝石商の店員二人は、地獄山にあるというダイヤモンドが採れる穴を目指していた。その穴は「地獄への秘密の道」かも知れず、人間の目に触れると生と死のけじめがつかなくなってしまうため、鬼太郎も急ぎ後を追う。地獄への道ではなかったものの、そこには人間をダイヤモンドにして食す輪入道が棲んでいた。鬼太郎は鏡を武器に輪入道を退治。行方不明になっていた純子の父も見つけ出す。

妖怪図鑑



輪入道【わにゅうどう】
地獄山の地蔵岩の地下に棲む。口から炭素の光線を吐き、人間をダイヤモンドに変えて食す。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



地獄山で見つけた大量のダイヤモンドを自分のものにするため、鬼太郎を後ろから殴り倒した。

第37話 手の目

●脚本／安藤豊弘　●演出／村山鎮雄
●放映日／68年9月15日

STORY

手が勝手に万引きするんです……

ある日、信吉の手が自分の意思とは関係なく勝手に動くようになり、暴力、万引き、果ては強盗までしでかすようになってしまった。砂かけばばあの妖術でその犯人、手の目の居場所を突き止めた鬼太郎。妖術をかけられながらも手の目を倒し、強盗の真犯人として警察へ突き出す。現在なら、信吉のケースは解離性同一性障害と診断されることでしょう。

妖怪図鑑



手の目
てのひらにある目から発せられる光線を浴びると手の細胞が変化して、思い通りに手を操られてしまう。顔には眼球がない。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



手の目が強盗して隠した金欲しさに、鬼太郎とヤモリ沼の一本杉へ出かける。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

風邪には「あせっかきの葉」が効く。「そいつを煎じた湯につかるとな、汗が噴き出して風邪なんぞいっぺんに吹き飛んでしまう」（砂かけばばあ談）

第38話 おりたたみ入道

●脚本／雪室俊一　●演出／古沢日出夫
●放映日／68年9月22日

STORY

ねずみ男にソックリの弟がいた!?



ねずみ男の前に、突然〝弟〟が現れた。姿形も性格も瓜二つ。「兄さん」と呼ばれて満更でもないねずみ男は、おりたたみ入道を使って一儲けしたいという弟と結託し、まずはその邪魔となる鬼太郎を退治しようとする。ところがおりたたみ入道は逆に鬼太郎に倒されてしまい、ねずみ男の弟も実はムジナだったことが発覚。弟の出現を心から喜んでいたねずみ男は、がっくり肩を落とすのだった。

妖怪図鑑



おりたたみ入道
木箱の中に折りたたまれて収納されている巨大な妖怪。ムジナが100年かけて育てた。

ムジナ



ねずみ男の弟に化けて登場。おりたたみ入道を使役する。ちなみにムジナの化けたねずみ男弟はヒゲが2本だった。

鬼太郎妖力FILE



毒饅頭
足の裏に出来たおできの毒素を集めて毒饅頭を作れる。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



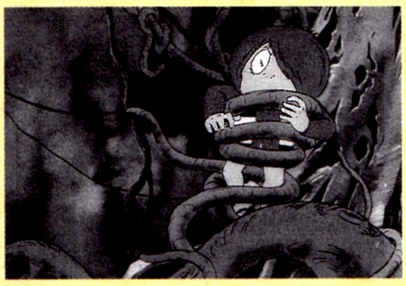
妖怪ポストに金を入れておくと翌日には10倍になると人間を騙し小金を稼いだ。

第39話 妖怪軍団

●脚本／鈴樹三千夫　●演出／設楽　博
●放映日／68年9月29日

STORY

妖怪途上国日本を解放せよ



ねずみ男が残飯をあさる姿を見た妖怪アカマタは、南方では妖怪の食べ残しを人間が食べるのに、日本はその逆であることを嘆き、日本の妖怪を解放しようと鬼太郎に戦いを挑んだ。アカマタはねずみ男の腹の中に寄生して、鬼太郎の精気をまんまと吸い取る。しかし精気の水爆並みのエネルギーはアカマタには巨大すぎ、自爆。仲間のやし落としもつるべ火が焼却してしまう。後方に控えていた南方の妖怪解放軍たちは尻尾を巻いて逃げていくのだった。

妖怪図鑑



アカマタ
南方のジャングルに棲み、他者に寄生して生きることができる。相手の精気を吸い取る吸盤が手のひらにあり、口から吐き出す粘液で敵を強固に固めてしまう。



もっともらしいコリクツを並べて理念を熱く語り、ねずみ男を口説くアカマタ。政治家向きですな。



やし落とし
南方の植物性妖怪。頭に生やしたやしの木からやしの実を落として相手を攻撃できる。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



妖怪連邦の日本代表にするというアカマタたちの口車に乗って、南方の妖怪にあっさり味方した。

第40話 おべべ沼の妖怪

●脚本／鈴樹三千夫　●演出／白根徳重
●放映日／68年10月6日

STORY

正体はダム開発の犠牲者

おべべ沼に棲む妖怪とねずみ男がタッグを組んで、村で悪さをはじめた。村の田んぼに引く水を堰き止め、100万円よこせと要求。村人の相談を受けた鬼太郎は二人の悪さを止めようと立ち上がる。しかしどこか憎めないこの妖怪、正体は鬼太郎とは旧知のかわうそだった。ダム開発で棲みかを追われ、おべべ沼に棲みついたのだ。かわうそは悪さを反省して山へ帰っていった。第1シリーズには数少ない社会派エピソード。

妖怪図鑑



かわうそ
おべべ沼に棲む妖怪で、鬼太郎とは旧知の仲。狡賢でがめついが、根は善良。

60'S時代
50～60年代、大型ダム事業が次々と計画される一方で、水没予定地域の住民による反対運動も増加していった。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



ダム予定地にある鬼太郎と目玉おやじの別荘に勝手に上がりこみ、開発業者から立退き料3万円をせしめた。

第41話 ばけ猫

●脚本／鈴樹三千夫　●演出／茂野一清
●放映日／68年10月13日

STORY

奇病「猫ウチ症」の原因は

甲州街道でムチウチ症ならぬ「猫ウチ症」という奇病が流行り、生態が猫化する人間が続出。捜査に乗り出した鬼太郎は、ばけ猫の仕業と知る。それは猫を轢き殺した人間たちへの仕返しだった。鬼太郎との戦いで、崩落した岩の下敷きになって死んでしまうばけ猫だったが、彼が望むとおり猫たちの慰霊塔をつくって手を合わせると、「猫ウチ症」も消滅した。

妖怪図鑑



ばけ猫
霊界に棲んでいる猫の亡霊。交通事故死する猫が増えるばかりか、人間たちは墓もつくろうとしないことに怒りを覚える。

60'S時代
60年代は交通事故が社会問題化し、「交通戦争」とまで言われた。70年のピークには年間1万6000人以上の犠牲者が出ている。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



「猫ウチ症」の原因である猫退治に最適と、「マタタビ」と「猫いらず」を1万円で売りつけようとした。

第42話 人食い島

●脚本／雪室俊一　●演出／明比正行
●放映日／68年10月20日

STORY

生贄を喰らう恐ろしい島

毎月二人の人間を、海神と畏れられる人食い島の生贄にしてきた笹岡村。次の生贄になる予定の三郎は鬼太郎に助けを求めた。しかし仙人をかたって現れたねずみ男のお陰で人食い島は津波を起こし、村に大損害を与える。鬼太郎は、責任をとってみずから生贄に志願する村長と人食い島へ上陸。謎を解いて島を沈めることに成功する。しかし村長はすでに帰らぬ人となっていた。



人食い島
島全体が巨大な人面の形をしており、海面に突き出た陸部分が頭部にあたる。身体は動かないが呼吸しており、食した人間を胃液で溶かしてしまう。

妖怪図鑑

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



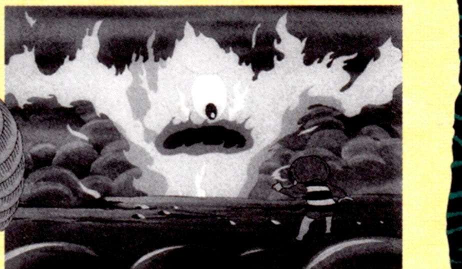
仙人をかたり、人食い島の人々を助けるからと1000万円を要求。救世主を気取ってまずは頭金として100万円をせしめた。

第43話 ひでりがみ

●脚本／安藤豊弘　●演出／山口康男
●放映日／68年10月27日

STORY

『妖怪パンチ』編集長誘拐される



廃刊寸前の雑誌『妖怪パンチ』に、ねずみ男が妖怪漫画の連載企画を持ち込んだ。しかし原稿を取りに行ったまま編集者が戻ってこない。ねずみ男が凶暴な妖怪ひでりがみを利用して編集者を拉致していたのだ。彼らを戻す代わりに身代金を要求してきた。もちろん鬼太郎がその悪行を阻止。何でも吸い込んでしまう妖怪のづちに、ひでりがみの1000年分の精気を吸い取らせ、事件は解決する。

妖怪図鑑



ひでりがみ
鬼太郎でも止められないほどの超乱暴者で、口から火を吹いて攻撃する。



身体を熱すれば熱するほど強くなる。



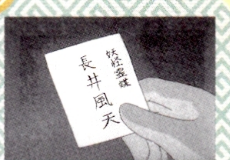
のづち
掃除機のような強力な吸引力で何でも飲み込んでしまう。岩の中で300年間冬眠していた。

雑誌『妖怪パンチ』



妖怪をネタに人間が出版する雑誌。返本の山に囲まれ、出版社は倒産寸前に追い込まれている。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



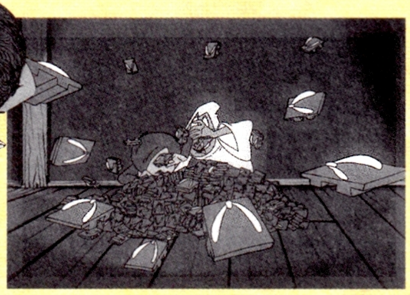
妖怪霊媒長井風天と名乗って『妖怪パンチ』に企画を持ち込み、原稿料を前払いさせる。さらにひでりがみに編集者と編集長を誘拐させ、身代金4万円を要求した。

第44話 げた合戦

●脚本／雪室俊一　●演出／白根徳重
●放映日／68年11月3日

STORY

リモコン下駄を欲しがる下駄



いつのまにかスリ返られたニセモノの下駄に導かれた先で、鬼太郎を待っていたのは逆柱だった。鬼太郎のリモコン下駄を盗んだ逆柱は使い古した大量の下駄を投げつけて攻撃しながら、自分と手を組むよう迫る。一方、ねずみ男は逆柱からこっそり宝石箱を盗もうとしていた。しかし中に入っていたのはホンモノのリモコン下駄。ねずみ男の盗癖が功を奏し、下駄を取り返した鬼太郎は逆柱を倒すことができた。

妖怪図鑑



逆柱【さかばしら】
古い木の妖怪。人の目を眩ますために下駄に化けている。丸毛を手下として使役する。



正体は一本の古い木の柱だった。



丸毛【まるげ】
普段は目立たず、おとなしい。同じ形態の仲間や子供がたくさんいる。



花子
カワイイが高飛車な妖精。妖怪をちょっと馬鹿にしているらしく、ねずみ男いわく「日ごろわれわれを軽蔑して口も聞かない」らしい。

2日間踊りまくりの鬼太郎たち



音楽にあわせ激しくゴーゴーを踊る鬼太郎とねずみ男。実は逆柱の下駄で2日間、無理やり踊らされていた。ちなみに楽曲はビンボーズの『ぺったらこ』。

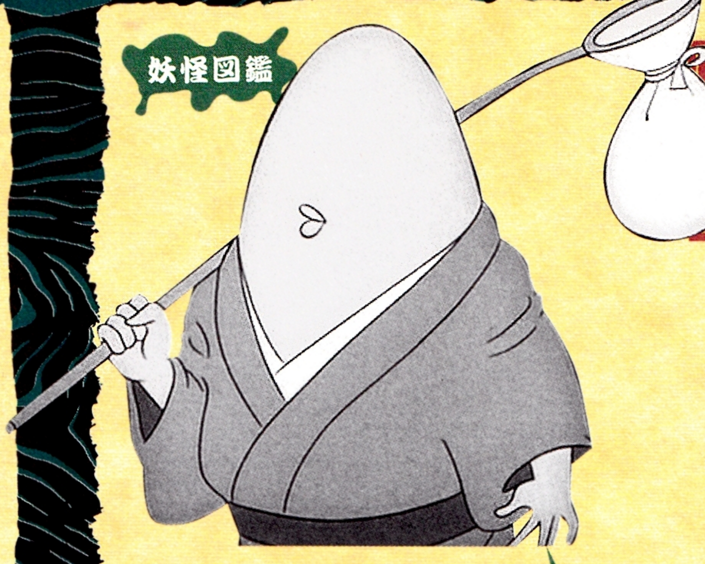
銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



謎を解決するフリをして子供たちの家に忍び込み、妖怪貯金箱を盗んだ。

第45話 のっぺらぼう

●脚本／雪室俊一　●演出／古沢日出夫
●放映日／68年11月10日



妖怪図鑑

のっぺらぼう
天ぷらやスープなど人魂入り料理を食べさせ、相手の顔を盗む。明治生まれで田舎者の妖怪。

STORY

人魂料理にご注意を

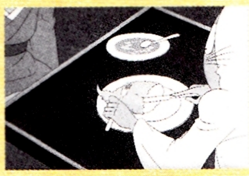


人魂の天ぷらを食べたねずみ男は、のっぺらぼうに顔を盗まれてしまった。その顔を取り返しに向かった鬼太郎もまた、人魂入りおにぎりを食べさせられ、顔を盗まれる。やがて田舎者の顔には飽きたと上京したのっぺらぼうは、ねずみ男を使って36もの顔を収集。いい気になっていたのっぺらぼうに鬼太郎は人魂入りアイスクリームを食べさせて顔を奪還し、とっちめるのだった。



鬼太郎の顔を奪い取ったのっぺらぼう。一方の鬼太郎は顔を盗まれた後も毛は生えたままだった。ゆえにこの毛髪はヅラ。

人魂料理



ねずみ男がのっぺらぼう宅で食したのは、人魂の天ぷら、人魂のスープ、墓地の梅でつくった梅酒。刺激的なメニューです。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



「全日本死体愛護協会」を名乗り、のっぺらぼうから死体を3000円で守るという商売を展開した。

第46話 うぶめ

●脚本／安藤豊弘　●演出／久岡敬史
●放映日／68年11月17日

STORY

赤ん坊をさらう鳥

生まれたての赤ん坊が次々とさらわれる事件が発生。ねずみ男が蘇らせたうぶめの仕業だった。鬼太郎がリモコン下駄を使ってつきとめたうぶめの隠れ家には、赤ん坊の面倒を見させられているねずみ男と、わがままな少年優一も幽閉されていた。鬼太郎は格闘の末、つるべ火を使ってその羽根を燃やすことで、うぶめを石にしてしまい、無事に、赤ん坊誘拐事件は解決。自分本位だった優一も少しは懲りたようだ。



妖怪図鑑

うぶめ
どんな遠くからでもその泣き声を聞き分け、人間の赤ん坊をさらう。凶暴だが、赤ん坊の面倒はよく見る。

第47話 天邪鬼

●脚本／雪室俊一　●演出／勝間田具治
●放映日／68年11月24日

妖怪図鑑



天邪鬼【あまのじゃく】
幸福な人間を見ると胸がムカムカするというひねくれ者。「悟りの妖怪」と言われるほど妖気を敏感に感じることができる。600年前の大地震で四海山に生き埋めになっていた。大の燻製好き。

STORY

幸福そうなヤツを見ると腹が立つ!?



戦争で息子を失った為助は、金持ちや幸福そうな人間に不快な思いをさせるのが生きがいだったが、ついにはひねくれ者で乱暴な天邪鬼の手下となり下がってしまう。四海山の高級別荘地で破壊や暴力行為を繰り返す天邪鬼。しかし天邪鬼退治に命を張って挑む鬼太郎の姿を見るうちに、為助はようやく気づくのだ。息子を含め戦争で散っていった英霊たちのお陰で、いまの幸福な日本があるのだと。

戦争が為助の人生を変える





大東亜戦争で息子を失った戦没者遺族、為助。息子は特攻隊員だったようだ。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



温泉旅館に長期滞在し、宿泊料金を踏み倒して逃亡しようとした。

第48話 雪ん子

●脚本／辻　真先　●演出／明比正行
●放映日／68年12月1日

妖怪図鑑



雪ん子
抜き取った魂を絶対零度に冷やしてアイスキャンディにしてしまう。



雪男
巨大な図体をしており、氷の中に棲んでいる。



雪女
猛烈な勢いで吹き荒れる雪嵐を起こす。



冷凍妖怪
雪女、雪ん子、雪男が合体してひとつになった妖怪。

STORY

雪山界の三大妖怪一挙登場



北海道大雪山に到来した寒波で大勢の村人が死んだ。ゲンの姉、ミツ子もその一人だった。しかし鬼太郎が冷凍保存されたミツ子の遺体を見たところ、どうやら妖怪に魂を抜かれているらしい。やがて犯人は、触った相手の身体を氷らせることのできる雪女と雪ん子、雪男だと判明。彼らの棲み家へと向かった鬼太郎は、体内の妖怪原子炉を稼動させて彼らを退散させ、ミツ子の魂を取り戻した。

鬼太郎妖力FILE

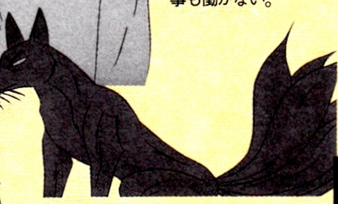


妖怪原子炉
体内に原子炉をもっている。走りづらい雪上も妖怪原子炉を運転すれば、雪を溶かしながら走ることができる。

妖怪図鑑



天狐【てんこ】
ものわかりのよい妖狐の王。めったに姿を現すことがなく、悪事も働かない。



空狐【くうこ】
妖狐の中で上から2階級目。地水火風を自由に操ることができる。



九尾【きゅうび】
空狐の中でも最も手ごわく、あらゆるものに化けることができる。



気狐【きこ】
妖狐の中で上から3階級目。人間に化けるのが得意。この下に化けることもできない最下層階級の野孤（やこ）がいる。



こんな艶っぽい美女に化けられた日には、もう何でも許してしまいそうです。

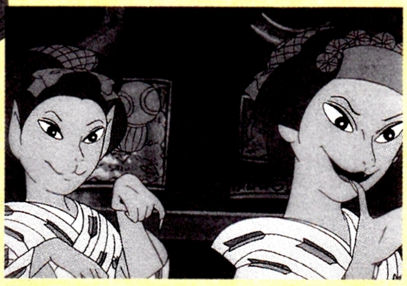
第49話

天狐

●脚本／安藤豊弘　●演出／宮崎一哉
●放映日／68年12月8日

STORY

お稲荷さんには毎日油揚げを



妖狐の王城があるとも知らず、サクラビルは地下10階の駐車場を建設。これが妖狐の怒りを買い、工事現場で大事故が起こった。鬼太郎は妖狐の王城で彼らの最高権力者、天孤との謁見を果たし、実は近頃人間が稲荷に油揚げを供えないために妖孤が怒っていることがわかる。油揚げは妖孤たちの重要なタンパク源だったのだ。そこで人間に、全国の稲荷に油揚げを毎日供えることを約束させ、事件は収まった。

妖怪図鑑



がま仙人
大木のうろの中に棲む仙人。封印石で妖怪をがま蛙姿に封じ込めることができる。また光るキノコと杖を使って異次元空間への行き来が可能。ヘビが苦手。



邪魅【じゃみ】
野蛮で暴力的な妖怪。口から吐かれる毒気を吸い込むと、どんな秀才でもおかしくなる。

不思議なキノコのランプ
妖怪関ケ原へ行くには光るキノコのランプを使用する。光だけで変性意識状態へ移行できるとは、何て強力なサイケデリクス!!



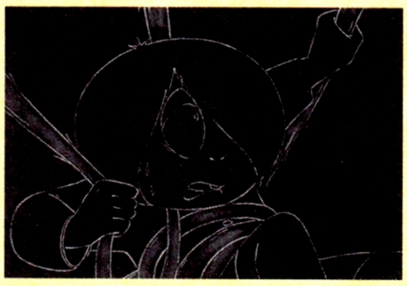
第50話

妖怪関ケ原

●脚本／辻　真先　●演出／新田義方
●放映日／68年12月15日

STORY

鬼太郎、悪の味方に転向？



ねずみ男を利用してがま仙人の封印を解いた邪魅は、鬼太郎に毒気を浴びせ、自分の子分にしてしまった。そして世間に信用がある鬼太郎を使って銀行から金を奪い取ろうと画策。しかしがま仙人が、邪魅の手下に成り下がった鬼太郎を不思議なキノコを使って妖怪関ケ原に連れ出し、下駄とちゃんちゃんこを手に入れる。がま仙人がこれを着用し、子分となった鬼太郎のフリをして、邪魅を再び封印した。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

「妖怪関ケ原」という時間も空間もない異次元世界が存在する。「昔から一流の妖怪になれば決闘の舞台にここを選んだもの」（がま仙人談）

第51話

穴ぐら入道

●脚本／鈴樹三千夫　●演出／山口康男
●放映日／68年12月22日

STORY

カビで暴力団員を善人に

暴力団マンガ一家は妖怪を見世物にひと儲けしようと、穴ぐら入道を捕まえる。これを止めるために立ち上がる鬼太郎とねずみ男。目玉おやじの発案で、廃坑前の祠にあった良心カビを一家に浴びせると、アラ不思議、彼らはすっかり善良な人間になってしまった。

妖怪図鑑



穴ぐら入道
廃坑などに棲んで、迷い込んだ人間を助ける。以前は炭鉱夫が残した弁当や生き埋めになった人の骨を食していたが、現在はクモが主食。口から強力な冷気を吐く。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

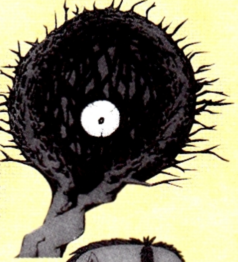
穴ぐら入道の棲む近くには良心カビが必ず生えている。良心カビには「良心菌という細菌が含まれておって、それを人間が吸うと二度と悪いことをしなくなる」（目玉おやじ談）

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



「儲けは山分けに」と丸め込まれ、マンガ一家が穴ぐら入道を捕まえるのに加担した。

妖怪図鑑



妖怪樹
樹齢数千年を誇る老木だが、その繁殖力と破壊力は人類を滅亡に導くほどのポテンシャルを秘めている。



吸血夜叉
鋭い牙を持ち、穴を掘って地底を進むことができる。



ランスブィル
舌が鋭い矢のようになっており、これで相手を攻撃する。



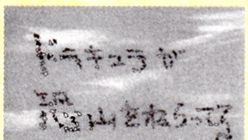
妖怪綿
海に棲む海面状の妖怪。相手を包み込んで血を吸い尽くす。



ペナンガラン
翼はないが鳥のように飛びながら相手を攻撃する。

60'S時代
舞台となる小笠原諸島は本エピソード放映の約半年前、68年6月にアメリカより正式に日本へ返還されたばかりだった。

鬼太郎妖力FILE



SOSメッセージ
ちゃんちゃんこを遠くへ飛ばして、散り散りにした生地で宙に文字を書き、メッセージを送ることができる。

第52話

吸血妖怪団

●脚本／安藤豊弘　●演出／高見義雄
●放映日／68年12月29日

STORY

南洋の妖怪から血液を守れ



小笠原母島のジャングルで数千年生きている妖怪樹は、若さを取り戻したいと妖怪の血を求めていた。依頼を受けたドラキュラは南洋の妖怪たちを引き連れ、恐山に保存されている日本の妖怪の血液を一滴残らず奪取する。しかし妖怪樹に血が注がれると、人類は滅亡の危機に。一時は全身の血を抜かれミイラ化していた鬼太郎だったが、仲間たちの協力で復活。砂かけばばあらと母島へ向かい、妖怪樹をドラキュラもろとも焼き払うのだった。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

恐山の洞窟にある瓶に日本の妖怪たちの血液が保存されている。「恐山にはわれわれの血液銀行があるのじゃが」（砂かけばばあ談）

妖怪図鑑

第53話 妖怪大統領

●脚本／小沢　洋　●演出／山口康男
●放映日／69年1月5日

STORY

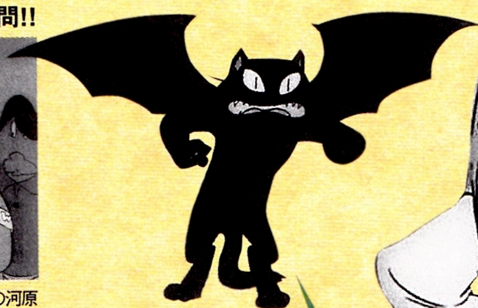
浦島伝説は本当だった!?

浦島太郎の子孫にあたる浦島博士は、人類を老化させミイラ化する恐ろしい煙を発見。鬼太郎はこれを収めた玉手箱を人間の手が届かない場所に隔離するよう頼まれるが、妖怪大統領を名乗るこうもり猫に奪われてしまう。裏で糸を引くのは葬頭河婆だった。石に閉じ込められて海へ投棄された鬼太郎。しかしちゃんちゃんことリモコン下駄で二人を倒し、賽の河原に玉手箱の煙を閉じ込めることで一件落着する。

妖怪がらみの事件をフツーに質問!!



鬼太郎が妖怪に催眠術をかけられたことや賽の河原の印象をフツーに質問する記者団。妖怪や異世界がここまで認知されているとは、何て進歩した社会だ。



こうもり猫（妖怪大統領）
アメリカの妖怪大統領選挙に敗れたため、日本に亡命してきた肉食のこうもり猫。人間の姿をして葬頭河婆に仕えていた。





銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



留置所から出してやった保釈金2万円に1割の利息をプラスした2万2000円を鬼太郎に返させようとした。



吸血象
鼻で血を吸う妖怪象。こうもり猫が口の中から出現させた。

葬頭河婆
【そうずかばばあ】
賽の河原に棲む傲慢な婆。鬼太郎を倒し、陰気な河原を脱出して地上に移り住むことを画策している。



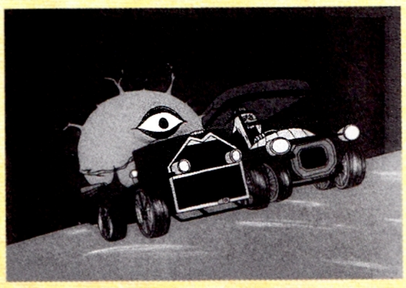
葬頭河婆はかなりの風呂好き。賽の河原では絶えず入浴している。ただし水風呂。

第54話 妖怪ラリー

●脚本／雪室俊一　●演出／勝間田具治
●放映日／69年1月12日

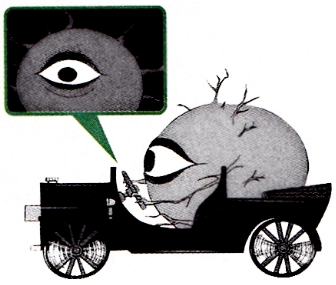
STORY

各国の妖怪がカーレース対決

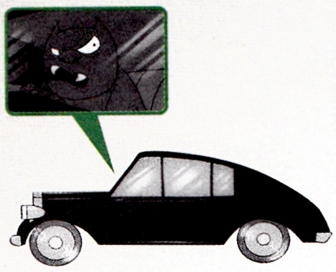


ねずみ男の画策で世界中の妖怪が参戦するラリーが開催されることになった。場所は佐渡が島。優勝者は金が埋蔵されるこの島を賞品としてもらえる。ねずみ男が勝手に仕組んだことだが、平和な島を海外の妖怪の巣窟にさせないために鬼太郎も参戦せざるを得なくなる。レースでは終盤から海外の妖怪たちが共同戦線を張り、鬼太郎のゴールを阻止。しかし最後には妖怪自動車ごと火だるまになりながら、鬼太郎が1位でチェッカーを受ける。

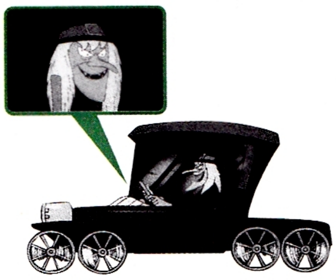
第一回　世界妖怪ラリー　出場者



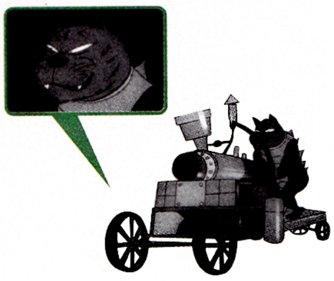
アメリカ代表**バックベアード**
巨大な眼から光線を放って相手の走行を邪魔するも、レース中の追突事故でムチ打ちに。終盤ではパンクしたグレムリンにスペアタイヤを譲り、米ソ友好の瞬間を垣間見せた。



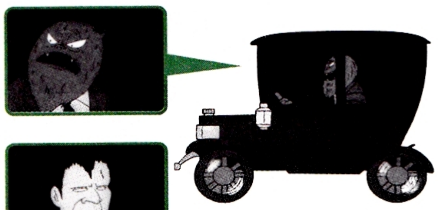
旧ソ連代表**グレムリン**
高級官僚が乗りそうな4ドアカーで参戦。クルマ底面に仕込んだ武器で相手のタイヤをパンクさせる。レース開始直後から平気で飛び道具を使用する無法さは旧ソ連ならでは!?



フランス代表**魔女**
8輪カーで参戦。空飛ぶホウキの力を利用してホバークラフトのごとく走行していたので実際にはタイヤはほとんど意味なし。ベアードの攻撃でレース前半でクルマは大破した。



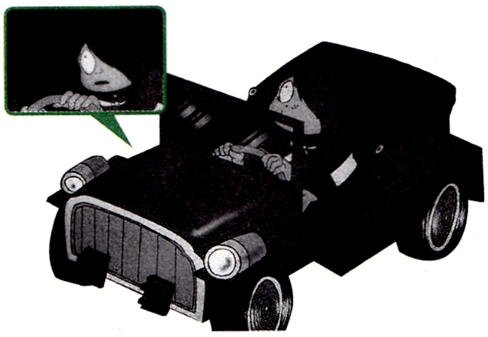
中国代表**水虎**
レース中も『論語』を読みながらクルマを走らせるというマイペースぶり。ねずみ男の実況によると「勝負より『論語』の精神をいかにこのラリーに活かすか悩んでいる」。



イギリス代表**狼男**



ドイツ代表**フランケン**
ともにレース終盤で大クラッシュ。以後はクルマを捨てて本人たちが鬼太郎に直接襲い掛かり、ゴール阻止にまわった。



日本代表**鬼太郎**
おなじみ妖怪自動車で参戦。しかし目玉おやじが勝手にチューニングし、妖怪自動車なのにハイオクガソリンにラジアルタイヤを採用。すっかりフツーのクルマに成り下がる。案の定、レースではトラブル続出でどん尻を走る羽目に。

スタッフ



実況**ねずみ男**
一反もめんの上に乗って、空中から実況を担当。



撮影**一反もめん**
カメラを片手に自在に宙を舞いながら、空撮した。



審判長**赤舌**
舌をレースにあわせてチェッカーフラッグ模様に。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



金が埋蔵されている佐渡が島を勝手に賞品に出してラリーを開催。レースのテレビ放映権で一儲けを企む。

妖怪ギョーカイの知られざる常識
「どこの国の妖怪も人間の造った橋を嫌うのが伝統でございます」
（ねずみ男談）

第55話 妖怪毛羽毛現（ようかいけうけげん）

●脚本／辻　真先　●演出／西沢信孝
●放映日／69年1月19日

STORY

ずぅずぅ弁妖怪は文明嫌い

太古の昔に化石と化した恐竜たちを蘇らせるために、村の子供たちから魂を抜き取っていた毛羽毛現。彼は人類の文明を嫌い、世界を古代の姿に戻そうとしていた。だからといって子供を犠牲にするのはよくないと、鬼太郎たちは毛羽毛現を人間のいない山奥で暮らすよう説得。自分たちも毛羽毛現の居場所を決して口外しないと約束し、恐竜の中に移されていた子供たちの魂を返させた。

鬼太郎妖力FILE



やぶにらみ催眠術
鋭い眼光でにらみつけ、相手をおとなしくさせる。



妖怪図鑑

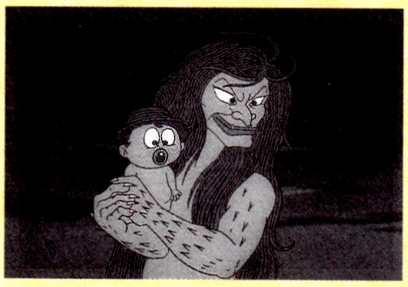
毛羽毛現【けうけげん】
ずぅずぅ弁でしゃべり、巨鳥ふらり火に乗って空を移動する。子供たちの魂を抜き取って、化石の恐竜を蘇らせる。人間の文明が嫌い。

第56話 磯女

●脚本／小沢　洋　●演出／古沢日出夫
●放映日／69年1月26日

STORY

海よりも深い親子の愛



100年に一度、岬に現れる磯女は、その存在を迷信だと疑ったり、悪口を言う者をさらっては海底に閉じ込めていた。さらわれた村人を救うために立ち上がった鬼太郎が磯女を倒すと、今度はその赤ん坊が反撃。猛烈な吸引力で鬼太郎を身体ごと飲み込んでしまった。しかし鬼太郎の妖力で、その腹はどんどん大きく膨れ上がってゆく。磯女は最後の力を振り絞って我が子が破裂しないよう強く強く抱きしめた。そのまま二人は石になるのだった。

妖怪図鑑



磯女【いそおんな】
海底に棲む凶暴な妖怪。プライドが高く、自分を馬鹿にする人間をさらっては蛸壺の缶詰の中に入れてしまう。我が子には深い愛情を傾けている。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



磯女が出て危険だからと、釣り人に場所を提供して2000円せしめようとした。



磯女退治に鬼太郎を出動させるために口利き料として村人から一人800円ずつせしめた。



磯女の赤ん坊
赤ん坊ながら吸盤状の唇はものすごい吸引力を持ち、相手を身体まるごと吸い込むことができる。

第57話 隠形魔法（おんぎょうまほう）

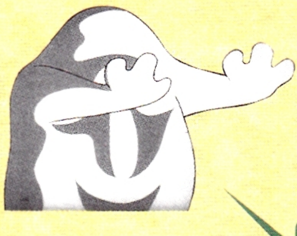
●脚本／雪室俊一　●演出／設楽　博
●放映日／69年2月2日

STORY

鬼太郎、老人と化す

どこからともなく奏でられる穏やかな音楽に心奪われると「ユンタ様」に若さを抜き取られ、少年が年寄りのようになってしまうという事件が沖縄で続発。姿を隠す穏形魔法を使う妖怪の仕業か？　解決に向かった鬼太郎も被害にあい、老人化してしまう。村人からも責められ窮地に立たされる鬼太郎。しかしぬりかべの活躍で、すべてぬっぺらぼうの悪さだったと判明。奪われた若さのエキスも無事取り戻した。

妖怪図鑑



ぬっぺらぼう
沖縄に棲み、人間から若さを抜き取ってそれを飲む。生まれたときから姿が見えないという兄の性質を利用して悪さをしていた。



鬼太郎も若さを抜き取られ老人化してしまう。

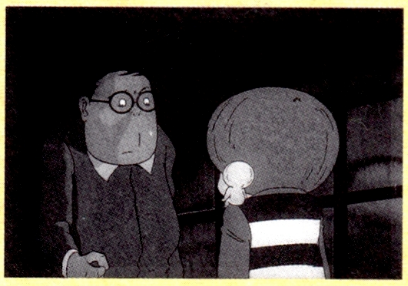
60'S時代
沖縄の返還は72年5月。この頃はまだアメリカの占領下にあった。

第58話 おぼろぐるま

●脚本／辻　真先　●演出／勝間田具治
●放映日／69年2月9日

STORY

水木しげる宅が妖怪国会議事堂に



マンガ家の水木しげるは、喫茶店で自分の作品の登場人物、鬼太郎と目玉おやじ、ねずみ男に会った。同じ頃、東京上空を謎の怪気象が包み、妖怪軍団が街を占拠。水木宅は「お化けの国」の国会議事堂にされ、街は妖怪だらけになっていた。しかし鬼太郎が事件を解決後、水木が再び街へ出てみると、妖怪の姿はもちろん街の人には妖怪騒動の記憶すらない。「オレは異次元の扉を開けてしまったに違いない」。そう自分を納得させる水木だった。

妖怪図鑑



おぼろぐるま
竜巻とともに現れ、目から放つ光線を浴びると石になってしまう。正体は妖気定着装置。怪気象を発生させていた。



ぐわごぜ
怪気象の中で暮らしている「お化けの国」の総理大臣。長く伸ばした舌で敵を捕える。



カロリーヌ
ぐわごぜのわがままな娘。そのバックにはおぼろぐるまがついている。

東京都調布市が妖怪タウンに



訪問販売も「血みどろ化商品」「真夜中タイムス」などキョーフ系。



「幽霊料理」「お岩ようかん」など繁華街は不気味な看板だらけに。



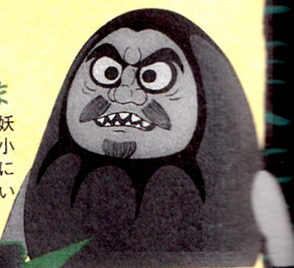
一歩外に出ると、宙には人魂や鬼火がフツーに浮遊している。

第59話
だるま
●脚本／雪室俊一　●演出／宮崎一哉
●放映日／69年2月16日

STORY
厳しい妖怪住宅事情

「死」を連想させることから忌み嫌われていた数字「4」。かつての日本には3階の次が5階になるような建物がよくあった。その存在しないはずの4階には、だるまが棲むという。ところが最近では迷信が退けられ、4階も4号室も日常的に使われている。棲む場所を追われ、人間に迷惑をかけてしまうようになっただるま。しかし鬼太郎に敗れ、「二度とこの世には姿を現さん」と誓う。気の毒に、妖怪界も住宅難なのだ。

妖怪図鑑



だるま
地下に潜っていたアングラ妖怪。ハラワタを変身させた小さなだるまを体内から大量に送り出して、相手の血を吸い肉まで食い尽くす。



だるまだけに投げられてもなかなか倒れないのがミソ。

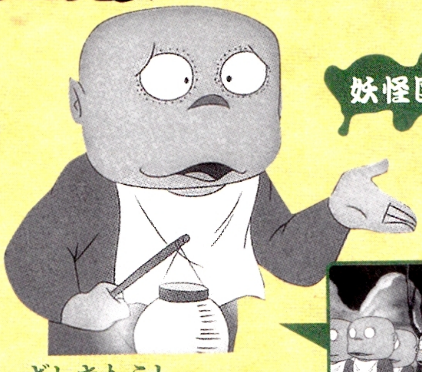
第60話
笠地蔵
●脚本／雪室俊一　●演出／明比正行
●放映日／69年2月23日

STORY
汚れたココロが洗われる定番美談

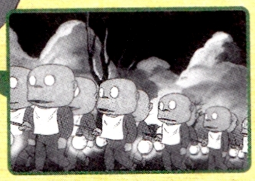


岩手の山奥に棲むざしきわらしたちは、毎年冬になると一軒に一人ずつ村の家々に住み、春までを過ごす。ところがその年、わらしを拒否する老夫婦がいた。貧しくて迎え入れることができないのだ。爺さんは行商の帰り、吹雪にさらされる地蔵を不憫に思い、売れることのなかった傘をかぶせて帰宅。一銭にもならなかったが、婆さんは「よいことをした」と喜ぶ。この話に感動した鬼太郎一行は、二人の家に米や餅、果物などを届けるのだった。

妖怪図鑑



ざしきわらし
家に棲み着くと縁起がよいと、人々に愛されている。礼儀正しく心優しい。岩手には、ざしきわらしと人間が共生する日本で唯一の村がある。

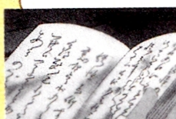


毎年冬になると集落を出て、それぞれ村の家々に散っていく。



六地蔵さんからの贈り物
鬼太郎たちからの贈り物を六地蔵様のお礼だと喜ぶ老夫婦。彼らの行いにはアノ意地汚いねずみ男までが心動かされた。

妖怪ギョーカイの知られざる常識
「88以上の妖怪を倒すとその悪霊が乗り移り、高熱を出し死に至ることがある」（『妖怪辞典』より）



銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



善良な老夫婦の家に忍び込み、饅頭と金だと思い込んで、炭代わりの馬糞と夜なべ内職に使う足袋のコハゼを盗んだ。

第61話
後神（うしろがみ）
●脚本／小沢　洋　●演出／古沢日出夫
●放映日／69年3月2日

STORY
一人ぼっちは妖怪だって寂しい



縁日で不思議なサボテンを買った凡太の家族が次々と蒸発。住まいと食べ物を欲しがっていた後神が、凡太の家を自分のものにするために妖怪サボテンに飲み込ませていたのだ。その家に泊まった鬼太郎も餌食になり、妖怪サボテンの体内に飲み込まれる。しかし指鉄砲でサボテンの皮を破って外へ脱出。追い詰められた後神も柳の木と同化して燃えていく。村人はその木で作った祠の前で手を合わせるのだった。

妖怪図鑑



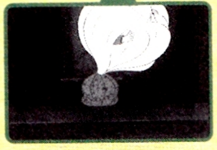
妖怪というより幽霊に近いのだろうか。このとおり脚がない。



後神【うしろがみ】
一人ぼっちで寂しい女の妖怪。自分ひとりでは力が弱いため、妖怪サボテンと組む。妖怪サボテンに霊気を注いで花を咲かせる。



妖怪サボテン
人間を飲み込む人喰い植物。飲み込まれたまま内部の液が固まるとサボテンのコブにされてしまう。



巨大花を触手のように自在に動かして、相手を飲み込む。

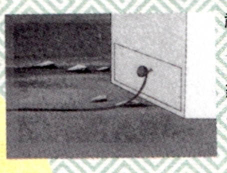
銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



行方不明の少年を探すと言って、まずは新米の特大おにぎりを作らせ、食い逃げしようとした。



妖怪を退治するため鬼太郎を呼んでやるからと、村人から紹介料を一人110円ずつせしめた。



祠の前に貯まった金を抜き取れるよう細工した賽銭箱を置いて、村人が入れる賽銭を盗もうとした。

第62話
海じじい
●脚本／雪室俊一　●演出／高畑　勲
●放映日／69年3月9日

STORY
デタラメ呪文で妖怪退散!?

ねずみ男は海じじいに取り憑かれた与太郎と母親をだまして、一儲けたくらむ。しかしテキトーに教えた妖怪退散のためのデタラメ呪文がマグレにも大当たり。与太郎は元気になるが、海じじいは今度はねずみ男に、さらに次には鬼太郎にとり憑いた。鬼太郎の栄養分を吸い尽くそうとする海じじい。しかし相手が悪かった。鬼太郎の精気まで欲張って吸い取ったため、その妖力でやられてしまう。



三杯酢の池で姿を現した海じじい。人間の背中にとり憑くが、通常は姿を直接見ることはできない。

妖怪図鑑



海じじい
ものぐさな妖怪で、人間や動物にとり憑いてその養分を吸って生きる。吸い尽くすと大クラゲになって次の獲物を探しに行く。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



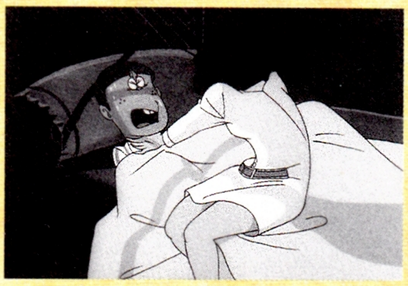
与太郎にとり憑いた海じじいを退散させるとデタラメな呪文を教えて、礼金として200万円をせしめた。

第64話 陰摩羅鬼

●脚本／雪室俊一 ●演出／宮崎一哉
●放映日／69年3月23日

STORY

鬼太郎、ついに資産家になる!?



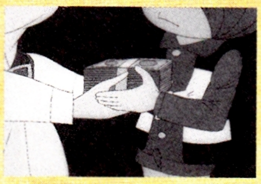
親を亡くし大邸宅で使用人たちと暮らす哲夫が、恋人、啓子に首を絞められる。どうやら妖怪、陰摩羅鬼の仕業らしい。邸宅は陰摩羅鬼の古墳の上に建てられていたのだ。啓子も実はすでに殺されていた。鬼太郎は睡眠薬入りコーヒーを飲んだ自分の魂を抜き取らせるという荒業で、陰摩羅鬼を睡眠状態にして退治。そのお礼として哲夫から何と邸宅を譲り受ける。しかし鬼太郎はそれを小児麻痺の子供たちの施設として提供することを提案した。

妖怪図鑑



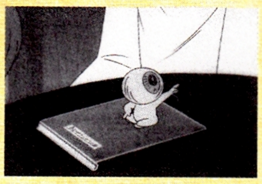
陰摩羅鬼【いんもらき】
太古より存在する妖怪で、人間を殺して死体に乗り移る。くちばしで相手の魂を抜き取ることができる。

鬼太郎、3000万円GET!



啓子から礼金3000万円を渡される鬼太郎。いぶかしがりながらも素直にいただいちゃってます。うらやましい限りですな。

目玉おやじの家計簿？

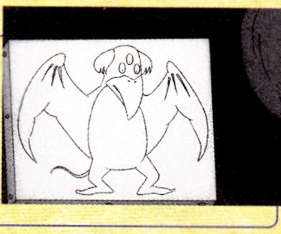


目玉おやじは家計簿をつけているらしく「また今月も赤字じゃぞ」とぼやく。収入なんてないはずなのに意外とマメなんです。

60'S時代
現在日本では根絶宣言されている小児麻痺（ポリオ）。50～60年代に大流行し、社会問題となっていた。

鬼太郎妖力FILE

106の質問



「猫仙人」の回にも使用。ここでは質問の数は106で、霊筆で霊紙に記した。「猫仙人」では74の質問だった。妖怪のタイプによって使い分けるのか？

第63話 なまはげ

●脚本／辻 真先 ●演出／西沢信孝
●放映日／69年3月16日

STORY

妖怪なんてナンセンス!

非科学的なことをナンセンスだと決めつける都会派気取りの学生、東が見つけたなまはげの面。面白半分でかぶってみると、自分の顔が面と同じなまはげ顔になってしまった。そして妖怪として村人に追われ、捕獲されるハメに。ところが村人たちをけしかけていたのは六平爺さんに化けた妖怪なまはげだったことが判明。爺さん本人が現れて疑いは晴れ、なまはげは鬼太郎にこってり搾られる。

妖怪図鑑



なまはげ
面をかぶると、その下に面と同じ顔が現れ、いろいろな人間に化けることができる。またなまはげの作った面をかぶると、誰でもそのとおりの顔になってしまう。

東京の大学生、東 大助



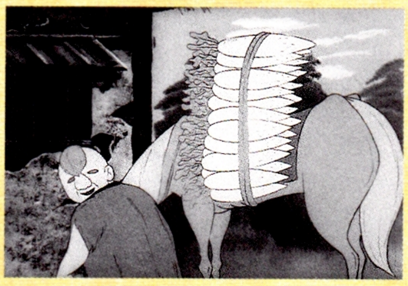
故郷の村に帰省してきた東京の大学に通う自称「都会的な」青年。鬼太郎に助けてもらってもなお妖怪騒動を「ナンセンス」と信じなかった。

第65話 妖怪ほうこう

●脚本／鈴樹三千夫 ●演出／勝間田具治
●放映日／69年3月30日

STORY

ビビビのねずみ男登場



村の畑で大量の大根が盗まれた。漬物好きの妖怪ほうこうの仕業だ。調査を開始した鬼太郎だったが、ひそかに人気者の座を狙う「ビビビの」ねずみ男の裏切りで、ほうこうの漬物樽の中に入れられてしまう。しかし目玉おやじが祖先伝来の霊薬をたずさえて急行。鬼太郎はピンチを脱出した。そして地、水、火、風の4体の妖怪に分身して襲いかかってくるほうこうを、それぞれ相反する性質同士ぶつけ合うことで消滅させるのだった。

妖怪図鑑



ほうこう
漬物好きの妖怪。シビレ薬がたっぷり仕込まれた歯を飛ばして相手を倒す。樹齢2000年以上の木は、妖怪ほうこうとなって木から抜け出し、自由に生活できる。そして生命の本源である地水火風を知り、自在に操ることができるようになる。

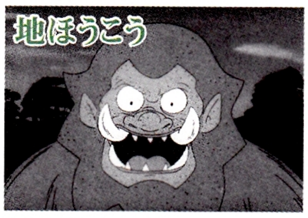


ほうこうの本体は家を2～3軒建てられそうなくらい巨大な縄文杉だった。

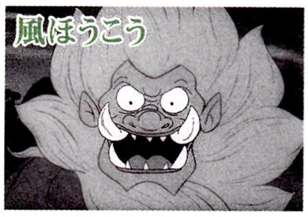
地水火風を操る、ほうこうの4分身



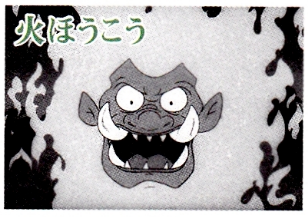
口から水を噴き出して攻撃する。



怪力で相手をねじ伏せる。



突風を起こして相手をきりもみさせる。



口から火を吹いて攻撃する。

鬼太郎妖力FILE

浮き袋



ちゃんちゃんこは浮き袋にもなるので、眠ったまま水に浮いていられる。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



人気を妬んで、鬼太郎の馬を強奪。鬼太郎は棒で殴って川に投げ捨てた。



おだてと儲け話に目がくらみ、大根泥棒を手伝って鬼太郎の漬物づくりにも加担した。



目玉おやじの言いつけを破って、邪魔者である鬼太郎たちを焼き殺そうとした。

71年第2シリーズ

1971年10月7日～1972年9月28日

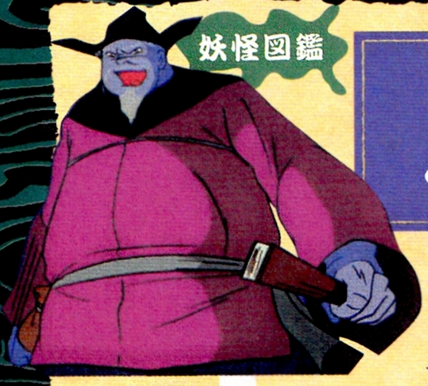
全45話

第1シリーズの続編という形でスタートした第2シリーズ。エピソードのリメイクは基本的に行われておらず、全45話のうち半数近くが『鬼太郎』以外の水木作品を原作としている。このため妖怪退治とは一線を画した怪異譚も多い。また70年代は急激な経済成長の陰で環境破壊や公害問題が深刻化した時代でもあり、痛烈な社会風刺や文明批判の込められた作品が目立っている点も特徴だ。事件を起こす妖怪=悪では必ずしもない点がドラマに厚みをもたせている。

妖怪図鑑

第2話 妖怪反物

●脚本／安藤豊弘　●演出／西沢信孝
●放映日／71年10月14日



チー妖怪

丸薬と妖怪染色剤を使って妖怪を一枚の反物にしてしまう。反物はチーの意のままにコントロールできる。

STORY

九尾の狐が妖怪を反物に





中国妖怪軍団

チーの手下。ケダモノ面をしているが、みな正体は狐。



井戸仙人【いどせんにん】

鬼太郎の仲間。山奥の古井戸の中に溜まったメタンガスを食べて1000年前から生きている。万能ガラス玉でチー妖怪の正体を見破った。

村人たちが突然錯乱して家出する事件が発生。チー妖怪が妖怪で作った反物を村人に買わせ、妖術で操っていたのだ。その正体は九尾。かつて人間に殺された伝説の妖孤の弟で、日本を支配して姉の復讐を遂げようとしていた。しかし鬼太郎は丸薬と妖怪染色剤を奪い取り、逆に九尾を反物にしてしまう。そして二度と悪事を働かないよう、栃木県那須野ヶ原に実在する姉の殺生石の横に、ひっそりと埋めるのだった。

妖怪図鑑

第1話 妖怪復活

●脚本／雪室俊一　●演出／白根徳重
●放映日／71年10月7日



泥田坊【どろたぼう】

田んぼの泥の中に棲む、本来はおとなしい妖怪。開発で田を追われて海のヘドロの中に棲み、凶暴化した。

STORY

隠居の鬼太郎、再始動する

町内に必ず一人いる守銭奴



網元は田んぼをもっていたが、東京の観光開発の企業に高値で売却するため、沼田坊を棲まわせることを拒んだ。





悠々自適の鬼太郎親子

漁師の家に居候しながらアジの干物を作り、晴れた日には俳句を詠んでいた鬼太郎親子。ほとんど楽隠居です。

風光明媚な漁村で晴耕雨読の生活を送っていた鬼太郎親子のスローな生活が、再びせわしくなる事件が起きた。田んぼに棲むおとなしい妖怪、泥田坊が凶暴化し、人々を襲っているのだ。開発の名の下に各地で田畑が埋め立てられ、棲む場所を追われたらしい。鬼太郎は泥田坊を小学校の校庭にかろうじて残された小さな田んぼへと導いていった。開発という巨悪が、妖怪たちの暮らしを脅かす時代がはじまっていた。

70'S時代

71年は高度経済成長の後期。日本経済の飛躍的な成長の陰で環境破壊や公害問題が激しく深刻化していた。この年、環境庁が設置されたほか、日本にもWWF（世界自然保護基金）が設立されている。

妖怪図鑑

第3話 妖怪大裁判

●脚本／三芳加也　●演出／山口康男
●放映日／71年10月21日

妖怪ギョーカイの知られざる常識

妖怪界の大罪に対する量刑。「薬草の妖怪液で溶かされ、500年も水瓶の中に閉じ込められるんじゃ」

（砂かけばばあ談）



大天狗

妖怪界の裁判官。裁判官の下した判決にはどんな妖怪も逆らえないようだ。



からす天狗

妖怪ポリス。容疑者の逮捕から刑の執行まで行う。



これがキョーフの幻覚鼻風船「鼻もんも」。



百々じじい【ももんじじい】

腹黒くがめつい妖怪で、ねずみ男が人間からせしめた50万円を巻き上げた。鼻毛の毛針で攻撃し、幻覚作用のある鼻風船「鼻もんも」で相手を錯乱させる。

STORY

鬼太郎が冤罪で裁かれる

銭ゲバ

ねずみ男の悪巧み



鬼太郎のマネージャーを名乗って落目映画株式会社に映画企画を持ち込み、準備金50万円をせしめた。

鬼太郎妖力FILE



擬態

裸になった鬼太郎は紙のように薄く、地面と同じ色になって相手の目を欺くことができる。



マッシヴに盛り上がる妖怪レイヴ!!

妖怪洞に集まった妖怪たちがみんなでダンス！　洞窟内にレアグルーヴ・サウンドが鳴り響く。曲はもちろんザ・ビンボーズの『ぺったらこ』インスト版。

鬼太郎主催というウソの妖怪パーティが開かれた。ところが主催者本人が現れないばかりか、パーティの模様が人間に隠し撮りされ、ドキュメント映画として大ヒット。鬼太郎は妖怪世界の秘密を人類にさらした大罪により、「500年の妖怪刑」を言い渡されてしまう。刑場から何とか逃げ出した鬼太郎は冤罪を晴らすため、裏で糸を引く百々爺を捕まえる。共犯のねずみ男ともども法廷へ連れ出し、真犯人として裁きを受けさせた。



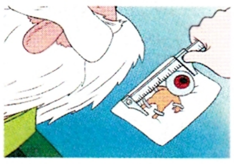
妖怪図鑑

雨ふり天狗

突風を自在に操り、人間を風にすることができる。しかし雨に濡れるとたちどころに石と化してしまう。



強い力をもった妖怪だが、雨に濡れている間は石になってしまい、まったく無力となる。



鬼太郎の髪針で負傷した眼球の代わりに、目玉おやじの頭部を移植しようとした。

第4話 雨ふり天狗

●脚本／辻　真先　●演出／田宮　武
●放映日／71年10月28日

STORY

妖怪も怒らせた排気ガス問題



天狗岳ドライブウェイの風人峠では、クルマが通ると突風が吹き、人間が風になって消えてしまうという。深山に棲む妖怪にとって何よりの栄養であるオゾンを含む霞。これを排気ガスまみれにした人間に対し、怒りをあらわにする雨ふり天狗の仕業だった。「確かに悪いのは人間だがヤリ過ぎだ」という鬼太郎の抗議にも耳を貸さない。しかし鬼太郎の正々堂々とした信念に負けたのか、最後には消えた人々を助ける方法を教えてくれた。

ムダな公共事業の典型？



天狗岳スカイウェイ、利権のニオイがプンプンしますな。利用者も少なさそうだし、天狗騒動と関係なく、やがて道路は荒れ果てたにちがいない。

70'S時代

自動車や工場の排気ガスが原因の光化学スモッグは70年に日本で初めて確認され、以後70年代全般を通して猛威を振るった。



妖怪ギョーカイの知られざる常識

「富士の風穴には日本中の風が集まってくる」（雨ふり天狗談）



銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



妖怪ポストの手紙を捨てて最近はヒマだと偽り鬼太郎に栽培させた人面草を、人間に売って一儲けしようとした。

第6話 死人つき

●脚本／安藤豊弘　●演出／茂野一清
●放映日／71年11月11日

STORY

美女がねずみ男にプロポーズ!?

ねずみ男が町長の娘、霧子に結婚を申し込まれるという珍事があった。ありえない！と驚く一同は町長宅を訪問。霧子は3日前に死んでおり、その遺体にはもうりょうがとり憑いていることが判明する。深夜、出現したもうりょうどもに対し、鬼太郎は時間をわざと稼いで朝日を浴びせた。するともうりょうは白煙を上げ一気にミイラ化してしまった。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

「八角円の中にいる限り、もうりょうに襲われる心配はない」（目玉おやじ談）

妖怪図鑑

もうりょう

死んだ人間の身体にとり憑く。魑魅魍魎と一口に言われるが、形態はさまざま。朝日に弱く、夜明けになると退散していく。これは霧子にとり憑いていたもうりょう。

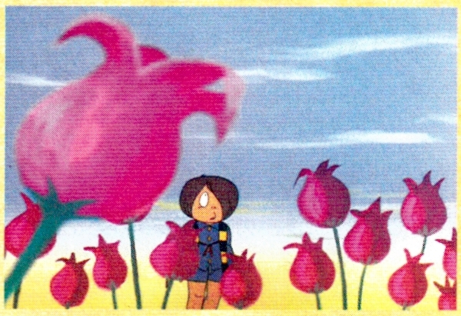


第5話 あしまがり

●脚本／柴田夏余　●演出／高畑　勲
●放映日／71年11月4日

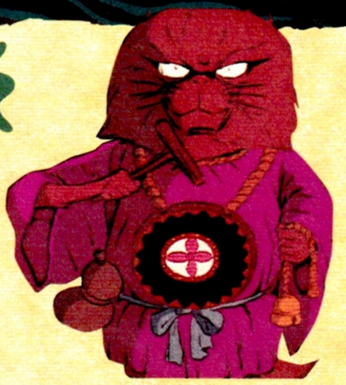
STORY

リゾートホテルは爆破するべし



リゾートホテルの宿泊客が突然狂ったように破壊行為を始めた。操っていたのは妖怪花。観光開発により絶滅寸前まで追い込まれた最後の一輪の悲痛な叫びだった。今回、鬼太郎は人間ではなく妖怪花の側につく。そしてねずみ男が担ぎ出した妖怪あしまがりを雲の中に閉じ込めてしまうと、妖怪花を大地に植え返した。やがて時が経ち、そこはかつてのように妖怪花が一面に咲き乱れる美しい花畑に戻るのだった。

妖怪図鑑



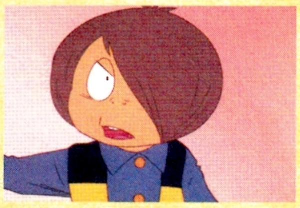


あしまがり

ハンパなく大酒呑みの妖怪。雲のような気体状の生き物を雲の中に隠して長年飼いならしており、鐘と太鼓を使って自在に操ることができる。

妖怪花の精

開発により絶滅寸前となった妖怪花の最後の生き残り。妖怪花が咲き乱れる花畑で眠ると素敵な夢が見られるという。



人間の愚かな行為に鬼太郎の怒り爆発！

本エピソード中、鬼太郎の目はずっと怒っていた。台詞も「強い者だけがたらふく食べて、弱い者が全滅するなんて」「このホテルを爆破するから、協力してくれよ」と、いつになくラディカルだった。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



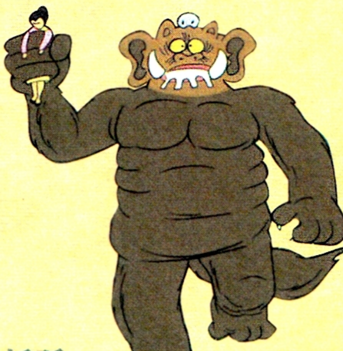
妖怪花を退治するには鬼太郎を呼ぶほかないと持ちかけ、ホテルのオーナーから金をせしめようとした。

第 7 話
猫又
●脚本／雪室俊一　●演出／新田義方
●放映日／71年11月18日

妖怪図鑑



猫又【ねこまた】
50年以上生き、妖力を得た猫。化け猫と恐れられるが、ジータはエリーメを他の妖怪から守護する存在だった。



妖孤
巨大な図体をした化け物で、エリーメに付きまとっていたのはジータでなく、妖孤のほうだった。

エリーメが歌うクロンチョン



インドネシアの大衆音楽クロンチョンの超名曲『ブンガワン・ソロ』を歌うエリーメ。優雅な美メロで映像との相性も抜群。

STORY

飼い猫を殺してください



鬼太郎のもとに50年以上生きる飼い猫ジータを殺してくれとの依頼が。その存在が娘エリーメの結婚の障害となっているというのだ。しかし謎の老僧が言うとおり、実はジータは恐ろしい妖孤から彼女を守っていた。そんな中、エリーメが本当にさらわれてしまう。自分の命を犠牲にして妖孤を倒した老僧だったが、そこに横たわっていたのはジータの遺体だった。ジータが老僧の姿を借りてエリーメを守ったのだ。

第 8 話
マンモスフラワー
●脚本／辻　真先　●演出／蕪木登喜司
●放映日／71年11月25日

あかなめ
トイレや下水管など汚れた場所に棲み付き、垢をペロペロ舐めてキレイにする。不潔なのではなく、実はキレイ好きな妖怪。

妖怪図鑑





人々を懲らしめるためにあかなめが東京中に生やしたマンモスフラワー。鉄のように硬い茎をもつ。

不法投棄する産廃業者



産廃業者が東京湾にゴミを捨てているリアルな描写。現在に至っても産廃を取り巻く状況はさほど変わっていない気が……。

70'S時代

高度経済成長がもたらした大量消費時代はゴミの量も質も大きく変え、処理しきれないほどのゴミを生み出すことに。これが深刻な社会問題となり、71年廃棄物処理法が制定される。



STORY

汚れきった東京に天誅を下せ



工場地帯やゴミ不法投棄現場など東京中の汚れた場所に謎の巨大植物マンモスフラワーが計2458本も現れ、首都をパニックに陥れた。東京がゴミや工業排水、排気ガスで汚染されていくことを嘆いたあかなめが、人々を懲らしめるために生やしたのだ。当局はマンモスフラワー退治に軍まで出動させるが歯が立たない。しかし解決法は至って簡単。汚染を取り除き清潔に保つことで、植物は枯れていくのだった。

第 9 話
髪さま
●脚本／柴田夏余　●演出／山口康男
●放映日／71年12月2日



髪さま
毛髪の妖怪。最初に覗いた者を中に引きずり込むという神通力をもったヤタの鏡を利用して、村を支配する。

妖怪図鑑



毛目玉【けめだま】
髪さまに仕える妖怪。髪さまのメッセージを村人たちに伝える役をする。目玉おやじのようにカラダが小さい。

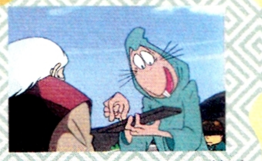
カラス船
おなじみの乗り物だが、第1シリーズの「カラスヘリコプター」から「カラス船」に呼び名が変わっている。





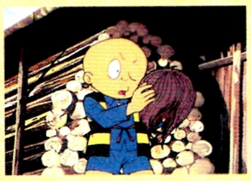
カラス語辞典
鬼太郎家の蔵書。本の厚みから判断するに、カラス語には相当数のボキャブラリーがあると見える。

銭ゲバ
ねずみ男の悪巧み



妖怪騒動を解決して、髪さまに捧げられた少女たちも無事保護したことに対する謝礼金を請求した。

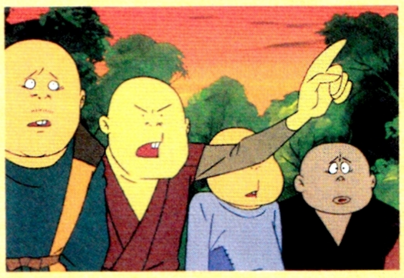
鬼太郎妖力FILE



頭髪
頭髪をヅラのごとく自在に取り外し、敵陣へ飛ばして潜入調査させることができる。

STORY

村人全員がツルツルのゲーハーに



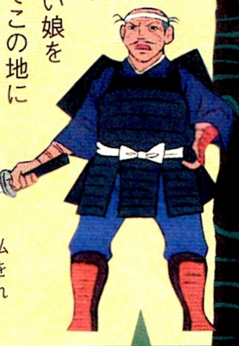
沖の島を支配する妖怪、髪さまに捧げられた生贄の少女の一人が逃げた。怒った髪さまは村人たちに100人の人身供犠を求め、村役場も明け渡すよう迫る。さらに妖力で島民たちの頭髪を抜き取って自在に操り、猛烈な勢いで村を襲わせた。自分の髪に追われ、逃げ惑う島民。しかし鬼太郎が髪さまの妖力を保つヤタの鏡を破壊すると、術が解けて頭髪はそれぞれの持ち主の頭に無事に戻り、髪さまは単なる毛髪に変わり果ててしまう。

第 10 話
アンコールワットの亡霊
●脚本／雪室俊一　●演出／西沢信孝
●放映日／71年12月9日

STORY

娘を探して彷徨う霊

カンボジアのアンコールワットで4年に1度、鎧甲冑姿の亡霊一団が現れ、若い娘をさらっていく。かつてこの地に村を開いた日本の武士、山田オインが、誤って殺してしまった自分の娘を一団を率いていまも探し続けているのだ。しかし鬼太郎の活躍で井戸の中に隠されていた娘とついに再会。ようやく成仏できた亡霊一団は、消えて見えなくなる。



山田オイン
17世紀にシャムに渡った山田長政の息子で、成仏できない亡霊。鎧甲冑の亡霊軍団を率い、4年に一度の2月29日に現れて若い娘をさらう。



トンモ
亡霊の一人。かつてオインが開いた村に棲んでいた。祖先を殺された恨みをオインに抱き、娘の霊を隠していた。



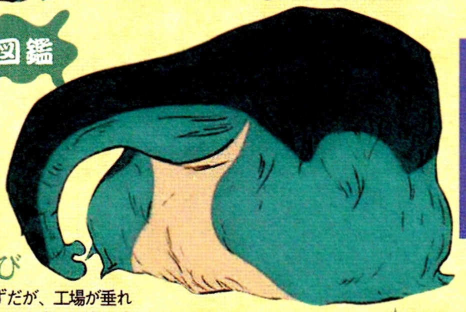
鎧甲冑姿の亡霊たち。やたらリアルに描かれ、ヒジョーに怖い。

妖怪図鑑

第 11 話

土ころび

●脚本／安藤豊弘　●演出／白根徳重
●放映日／71年12月16日



妖怪図鑑

土ころび

絶滅したはずだが、工場が垂れ流す汚染された廃水で川底に残っていた細胞が活性化し、復活。ガソリンや電気、生物の生命力など、エネルギーを食す。



土ころびに全身のエネルギーを吸い取られたねこ娘は、ねこ婆よろしくシワシワの姿になってしまった。

STORY

企業の工業廃水が生んだ妖怪



妙に羽振りのよいねずみ男に温泉旅館へ招待される鬼太郎。案の定、ねずみ男の奸計で、鬼太郎はシビレ薬を飲まされ、エネルギーを主食とする土ころびに食べられてしまう。しかし土ころびの体内に溜まったエネルギーを、鬼太郎は体電気で爆発させて脱出した。とっくに絶滅したはずの土ころび。工場が川に垂れ流す有害廃水による化学変化が復活させたらしい。これもまた文明が生んだ負の遺産の一つだった。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



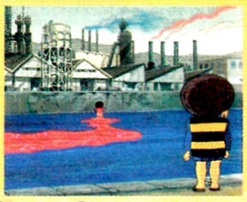
土ころび退治料を温泉旅館経営者に要求する一方で、金塊目当てで土ころびが鬼太郎を食す手助けをした。



礼金目当てで、運転手をだましてガソリン運搬トラックを土ころびのもとへ運んだ。

70'S時代

企業による環境汚染が引き起こした最悪の公害病の一つにイタイイタイ病がある。イタイイタイ病は三井金属鉱業が河川に排水したカドミウムが原因で発生。71年に原告側が全面勝訴し、加害企業の責任が厳しく問われた。



第 12 話

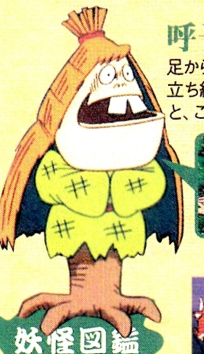
やまたのおろち

●脚本／辻　真先　●演出／茂野一清
●放映日／71年12月23日

STORY

欲深男の足に根が

一儲けをたくらんで出かけた先でダイアモンドに目が眩んだねずみ男は、呼子と身体を入れ替えられ、足に根が生えたまま動けなくなってしまった。元に戻るため、鬼太郎と猫娘をだまして解放石の中へ閉じ込めることに成功するも、二人は石の中に棲むやまたのおろちを退治してあっさり脱出。元の姿に戻れないねずみ男を自業自得だと置いて帰るのだった。



呼子【よぶこ】

足から根を生やしたまま200年間同じ場所に立ち続けている妖怪。森の中で大声で呼ぶと、こだまのように声を返してくる。

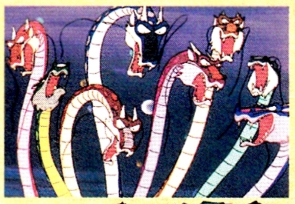


相手を内部に閉じ込め、自分の身体と入れ替えられる解放石をもっている。

妖怪図鑑

やまたのおろち

解放石の中に棲んでいる頭が八つある竜。



第 13 話

かまぼこ

●脚本／柴田夏余　●演出／設楽　博
●放映日／71年12月30日



妖怪図鑑

半魚人

セレブな人間生活に憧れる。かまぼこ職人としての才能があるらしく、作ったかまぼこは全国で飛ぶように売れた。



巨大イカ

半魚人の子分。鬼太郎を食すことで脳を完全に鬼太郎に支配されてしまう。

STORY

人間暮らしに憧れた半魚人

半魚人にだまされ、鬼太郎がかまぼこにされてしまった。しかし妖怪仲間の助けで復活。かまぼこビジネスで財を成した半魚人の元へ家政婦のフリをして現れ、人間になるための手術を勧めた。ついに憧れの「人間」になることのできた半魚人。ところがお陰で税金、公共料金、各種保険など、貯め込んだ金がどんどん出て行くハメに……。人間の生活はすべて金で支えられているというシビアなオチなのでした。

何と鬼太郎が女装して登場

鬼太郎は半魚人の元に女装して現れる。この回ではほかにも子泣きじじいが医者に、砂かけばばあがナース(!)姿で登場。



人間暮らしなんてロクなもんじゃない



憧れの人間になれた半魚人は税金や公共料金に追われるのみならず、妖力を失い、死後の墓の心配までしなくてはならなくなる。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



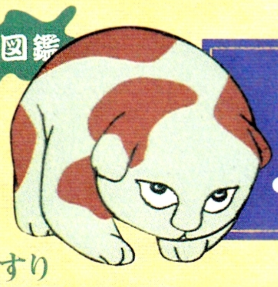
"鬼太郎かまぼこ"を全国の販売先から買い戻す際、かまぼこをかっぱらうことで、目玉おやじが借金して作った買い戻し用資金は自分の懐に入れていた。



第 14 話

怪自動車

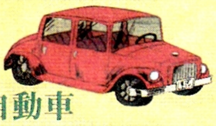
●脚本／三芳加也　●演出／山本寛巳
●放映日／72年1月6日



妖怪図鑑

すねこすり

犬の妖怪。ふだんはおとなしい性格だが、犬がクルマ社会の犠牲になっている現実に憤り、幽霊自動車を操る。



幽霊自動車

正体は人食い藻屑。プラスチックのように硬化してクルマに変身した。



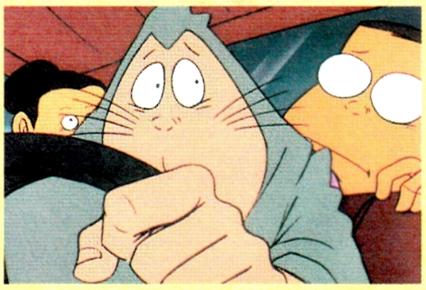
人食い藻屑

【ひとくいもくず】

湖に巣食うプランクトンのような小さな妖怪。人間を食す。

STORY

加速するクルマ社会の犠牲者たち



マイカーに憧れる夫婦は、自分の意思で勝手に動く幽霊自動車を買ってしまう。調査のため鬼太郎がトランクの中に侵入すると、幽霊自動車は湖の底にダイブ。その正体は湖に棲む人食い藻屑だった。さらに人食い藻屑を陰で操っていたのはすねこすりだと判明。彼ら犬族は仲間を毎日、クルマによる轢き逃げで殺されている。すねこすりの行動は、そんな便利さを追い求め利己的にふるまう人間たちへの警告だったのだ。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



他人が主催するイベントで妖怪自動車を自分のクルマだと偽り、2万円で売った。

第15話

牛鬼（ぎゅうき）

●脚本／安藤豊弘　●演出／西沢信孝
●放映日／72年1月13日

STORY

鬼太郎が恐ろしい妖怪に

牛鬼に憑かれた鬼太郎は恐ろしい姿に変身し、村を襲い始めた。目玉おやじは大勢の命には代えられないと、鬼太郎の命をあきらめることを決意。村人たちとともに迦楼羅を呼び出す祈りを捧げる。やがて黄金の光とともに現れた迦楼羅は、牛鬼と化した鬼太郎を不思議な笛の音で火山へと導き、火口へと落としてしまうのだった。万事休す。と思いきや、その超能力で鬼太郎は無事生還した。

妖怪図鑑



牛鬼【ぎゅうき】
人間にとり憑いて恐ろしい姿に変身させてしまう凶暴な妖怪。本体は細胞を変化させる生きた気体。



迦楼羅【かるら】
かつて千手観音を守った二十八部衆の一人で翼を持つ神。笛で牛鬼の動きを操ることができる。

第16話

南からの招き

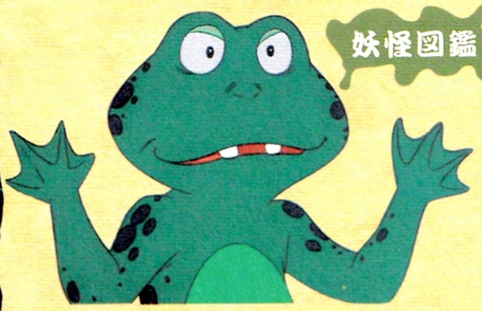
●脚本／辻　真先　●演出／山口康男
●放映日／72年1月20日

STORY

不思議な夢を追う探検

毎晩見る不思議な夢の謎をつきとめるため、疋田はニューギニアへ向かった。そこでカエルの姿をしたガマ人たちに出会う。その一人は戦死したはずの疋田の父だった。戦時中、重傷を負った疋田父は現地でガマ人たちに救われるが、輸血により自分もガマ人になっていた。疋田の夢はそんな父からの招きだったのだ。一行が帰国後も一人現地に残った疋田。彼はそのままガマ人となって父と暮らすことを選んだ。

妖怪図鑑



ガマ人
ニューギニアのボボンギ沼に浮かぶボボンガ島のボボンコ洞窟の奥に棲む。怪我や飢饉で苦しむ人間を何度も救っている。

第17話

縁切り虫

●脚本／雪室俊一　●演出／設楽　博
●放映日／72年1月27日

STORY

平和会議で乱闘騒ぎ!?

ねずみ男は金儲けに利用しようと、縁切り虫を捕まえた。刺されると、どんな仲のよい間柄も壊れてしまう。そんな縁切り虫をねずみ男は箱根で開催される世界平和会議会場に放つことに。各国代表を仲違いさせて戦争を誘発し、軍需産業株で儲けようと企んだのだ。しかし箱根特有の硫黄ガスに解毒作用があることを鬼太郎が発見。一時は乱闘騒ぎとなった平和会議だったが、硫黄効果により平静を取り戻した。



縁切り虫
人と人との縁を切る虫。ひとたび噛まれると身体中に毒が回り、人間嫌いになって捨て鉢な気持ちに。離婚のみならず、国と国の縁が切れれば戦争の原因にもなる。

妖怪図鑑

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



縁切り虫を使って「縁切り問題相談所」を開設。離婚や絶交など誰かと縁を切りたい人の依頼を一件1万円で請け負った。

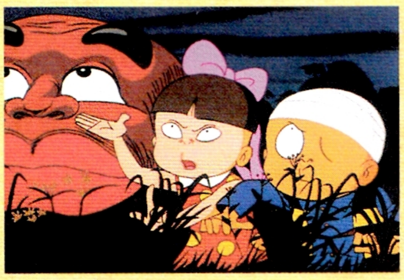
第19話

釜鳴り

●脚本／辻　真先　●演出／山本寛巳
●放映日／72年2月10日

STORY

鬼太郎、髪の毛をスッポリ奪われる!!



ある晩、鬼太郎は森で化け釜に髪の毛を奪われ、妖力を失ってしまう。目玉おやじが化け釜を探しに向かうが、逆に釜の中に捕えられるハメに。そればかりか釜の中には一つ釜村で神隠しにあっていた大勢の子供たちもおり、精気を抜かれていた。目玉おやじのSOSテレパシーをキャッチした砂かけばばあは妖怪アパートの住人を連れて救援に出動。鬼太郎の髪の毛を取り戻し、化け釜の正体、釜鳴りも退治した。

妖怪図鑑



釜鳴り【かまなり】
古い釜の中でよどんだ風が精気を帯びたもの。釜の中に子供たちを引き込んで精気を吸い取っていた。



拉致された子供たちは釜の中で精気を吸い取られ、砂のようにボロボロになっていた。



一つ釜村の妙なコレクション
木々の間には村が収集した巨大な急須や釜が。完全に現代アートの世界です。釜鳴りが抜けたあとの釜もコレクションの一つに加えられた。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



神隠しの子供捜索料、子供一人につき1万2000円×5人分の計6万円をせしめた。

第18話

幸福という名の怪物

●脚本／安藤豊弘　●演出／茂野一清
●放映日／72年2月3日

STORY

欲しいものが何でも手に入る不思議な玉



ねずみ男から不思議な玉を100万円で購入した中村は、欲しいものなら地位も金も手に入るようになる。しかしそれは人間の欲を吸い上げて最後には爆発する恐ろしい地獄玉だった。鬼太郎たちはそれを取り戻そうと躍起になるが、欲望の虜と化した中村夫妻は手放そうとしない。そんな中、玉は一気に膨れ上がり爆発。中村家は再び貧乏なアパート暮らしに戻るのだった。欲深きは罪深きなり。

妖怪図鑑



地獄玉
人間がこの玉を持つと、思ったことが次々と現実化される。人間の欲を吸って巨大化していき、最後には大爆発する。

ビューティスクールの美女軍団



いまでいうフィットネスクラブでせっせと汗を流す女性たち。目玉おやじいわく「美しくなりたいという人間の女の欲望には限度がない」。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

「人間てやつはな、一つの欲を満たすと次の欲が出てきて永遠に満たされることを知らぬ生き物なんじゃ」

（目玉おやじ談）

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



地獄玉を頭金1万円、残額99万円を出世払いの計100万円で売りつけた。

第20話 ふくろさげ

●脚本／柴田夏余　●演出／西沢信孝
●放映日／72年2月17日

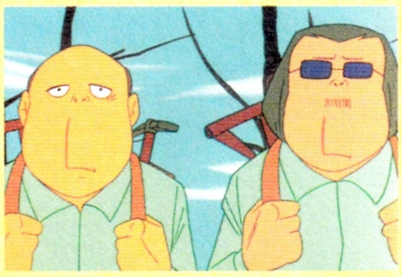
妖怪図鑑



ふくろさげ
人間の言うことは何でも聞き、妖怪エネルギーを主食として生きる。餅のような形態で、細かく千切っても元に戻る再生能力をもっている。

STORY

人間の言うことは何でも聞く便利妖怪



過疎で無人となった温泉地へ宝探しにやってきた二人組みの泥棒。彼らが手に入れた宝とは、何でも言うことを聞く妖怪ふくろさげだった。二人はこれを利用して全国の銀行を襲わせ、大金を手に入れる。一枚噛みたいねずみ男は彼らと結託し、ふくろさげのエサとして鬼太郎の妖力を与えようと画策。ところが逆に鬼太郎がふくろさげから妖力を奪い取って壷の中に封じ込め、泥棒たちを警察に突き出した。

ねずみ男は360歳!?



温泉につかりながら、昔からいつの世もお先真っ暗で「360年も生きてるとイヤになりますよ」とボヤいていた。

70'S時代

過疎が問題化しはじめたのも高度経済成長期だった。都市部の急速な工業化にともなって、その労働力として地方から人々が流出。人口の大きな偏りが見られるようになった。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



ふくろさげに補給させる妖怪エネルギーとして泥棒のもとに鬼太郎を行かせ、礼金1億円をいただこうとした。

第21話 心配屋

●脚本／柴田夏余　●演出／白根徳重
●放映日／72年2月24日

妖怪図鑑



バリバリ
普段は卵の状態だが、人間の身体の中に入ると体温で孵化する。バリバリが身体に入った人間は潜在能力が伸ばされ、どんな平凡な者でもたちまち非凡となる。



ベートーベンや聖徳太子、ヒトラーもバリバリを身体に棲まわせていたらしい。

STORY

製薬会社なんだから病気根絶は絶対しません



凸凹製薬社長の一人息子、凡太は妖怪バリバリの卵を飲むことで、父の望むモーレツ社員に生まれ変わる。そして深夜まで研究室に閉じこもり、一切の病気をなくす新薬の開発を目指していた。しかし「薬の副作用でまた病気が増える」ような状況にこそ製薬会社の産業的発展があるのであり、病気が根絶してしまっては会社はツブれてしまう。父は鬼太郎の手を借りて、凡太を再び元の無気力人間に戻すのだった。

ボロ儲け製薬産業の真実



ねずみ男の「利きもしない高い薬を涼しい顔で売りまくってる」との指摘に対し、凸凹製薬社長は「それが商売というものだ」と開き直った。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



心配事を解決する「心配屋」を名乗り、凡太をバリバリで猛烈人間に矯正。代金をガッポリいただこうとした。

第22話 地獄の水

●脚本／雪室俊一　●演出／山口康男
●放映日／72年3月2日

STORY

東京に無差別テロ

公園の池の水が突然人々を襲いはじめた。水を操っていたのは不気味な水神使い。ヒマラヤ地方の村で崇められる水神が日本の科学者にこっそりもち帰られたことに怒っていたのだ。秘密を知った者は皆殺しにすると、水神使いは東京の水源に液体生物である水神を混入。無差別テロで多くの犠牲者が出る中、鬼太郎は上空からガソリンをまいて水神と水神使いを焼却。ようやく事件は解決する。

妖怪図鑑



水神使い
角笛を吹いて水神を自在に操る。ヒマラヤのチョゴリザでは水神信者を率いるカルトのリーダー的存在で、水神原理主義者。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み

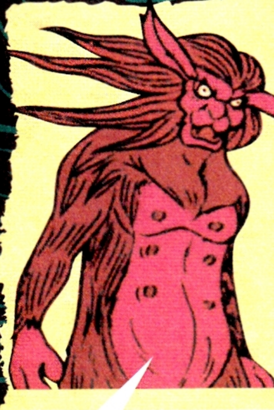


鬼太郎の写真を入れたお守りをヒマラヤ遠征隊の深谷に1000円で売りつけた。

第23話 逆餅殺し

●脚本／安藤豊弘　●演出／白根徳重
●放映日／72年3月9日

妖怪図鑑



火車【かしゃ】
自分の魂を敵の体内に潜り込ませたり、逆に敵の魂を抜き取ることもできる恐ろしい実力の持ち主。抜き取った魂を餅にして食べる「餅殺し」にあうと、鬼太郎といえども二度と生き返ることはできない。



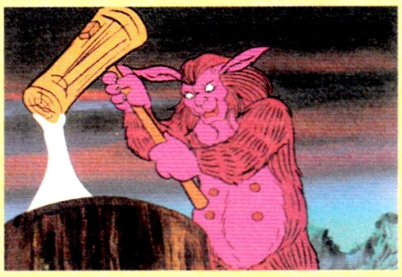
鬼太郎の魂は火車の体内に移動させらているので、倒れているのは実は鬼太郎のほうなのだ。



鬼太郎の体電気と火車の霊電気が相打ちとなった瞬間、火車は自分の魂を鬼太郎の体内に移動。

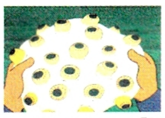
STORY

目玉おやじが妖力で強敵を倒す!



目玉おやじの制止を振り切って、幸吉の母の遺体を盗んだ火車との戦いに挑む鬼太郎。しかし攻撃の瞬間に肉体と魂を入れ替えられ、倒れてしまう。鬼太郎の肉体となった火車が目玉おやじを「餅殺し」にして食べてしまおうとすると、餅の中から無数の目玉が飛び出して逆に火車に襲いかかる。目玉おやじが老体にムチを打ち、妖力「逆餅殺し」を発動したのだ。火車は完敗を認め、幸吉の母の遺体も返ってきた。目玉のおやっさん、グッジョブ!

目玉おやじの「逆餅殺し」



餅と一緒につかれる「餅殺し」で食べられる瞬間、餅を無数の目玉に変化させる。かなり気持ち悪い……。



そのまま目玉を飛ばして襲いかかる。目玉おやじは妖力を使うと5年寿命が縮むのを覚悟で行った。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



火車退治を買って出て、幸吉の叔父から料金1万円をせしめようとした。



正義感に突き動かされるように火車退治に向かったが、結局は金を要求した。

第25話 まぼろしの汽車

●脚本／柴田夏余　●演出／茂野一清
●放映日／72年3月30日



妖怪図鑑

吸血鬼ピー
南方から日本征服に来た吸血妖怪。祖先の血で作った真っ赤なシルクハットをかぶっている。このハットをかぶると誰でも吸血鬼と化してしまう。鐘の音が嫌い。

モンロー
ピーの妻。かつてマリリン・モンローの血を吸ったことで、容姿まで似てきた。



こんなルックスだが、意外と紳士。あっさりと自分の負けを認める潔さをもっている。

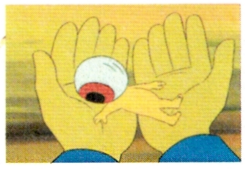


こんなルックスだが、意外と暴力的。ねずみ男は平手打ちや蹴りを喰らっている。

強い念力が呼ぶ、まぼろしの汽車



親が子を想う強い力のみが呼び出せるまぼろしの汽車。過去へさかのぼって走ることで、人間や妖怪を以前の状態に戻すことができる。



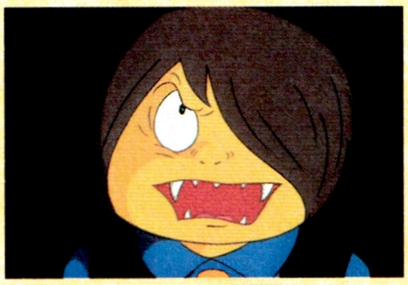
まぼろしの汽車を呼び出した後、ぐったりと倒れてしまった目玉おやじ。1ヶ月程度では回復しないほど消耗していた。



強力な想念が作り出す形而上的存在らしく、念力が弱まると汽車の実体もゆらぎはじめ、やがて消滅していく。

STORY

村が襲われ鬼太郎が吸血鬼に



妖怪アパートの麓の村が吸血鬼に襲われた。血を吸われた者は次々と吸血鬼と化し、村は吸血解放区と成り果てる。村長におさまった吸血鬼ピーは、村人たちを引き連れて妖怪アパートを襲撃。鬼太郎を吸血鬼にしてしまう。そこで目玉おやじは強力な念力で、まぼろしの汽車を呼び出した。過去へと向かって走るこの汽車に乗ることで、鬼太郎も村人も吸血鬼になる以前の状態に戻ることができるのだった。しかし目玉おやじは力尽き、倒れてしまう。

第24話 傘ばけ

●脚本／辻　真先　●演出／笠井由勝
●放映日／72年3月23日

STORY

ねずみ男の大計画

鬼太郎から強引にちゃんちゃんこを借りた傘ばけの前に謎のコンサルタントが現れ、大金持ちの息子、松下幸太郎に化けるよう勧める。まんまと松下家の息子として暮らし始める傘ばけだったが、実はすべてねずみ男が仕組んだ企み。鬼太郎に傘ばけ幸太郎を退治させ、ホンモノ幸太郎を見つけて金をいただく算段だった。しかし最後に計画がバレ、ねずみ男は傘ばけの子分として働かされるハメに。トホホ……。

妖怪図鑑



傘ばけ
愚痴ばかりこぼす怠け者だが、広げた傘を回転させてノコギリのようにしたり催眠術を使うなど、多彩な技で実力は高い。

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



不思議事件解決コンサルタントを名乗って、幸太郎の近頃の行動を心配する松下家を訪れ、調査料として100万円せしめた。

第27話 いやみ

●脚本／安藤豊弘　●演出／山本寛巳
●放映日／72年4月13日

STORY

人間の楽しみが街から消えていく

春子と夏夫の兄弟は森の中の小屋で青白い顔をして横たわる男を発見。妖怪いやみを冬眠から目覚めさせてしまう。人間は楽しみを求めてあくせく働くが、いやみはその楽しみのエキスを食べるのが大好き。しかしお陰で人々から"楽しみ"が消え、街は殺伐とした雰囲気に包まれていった。鬼太郎はいやみの元へ向かい、その本体と決戦。股間の急所を突くと、いやみは小さく萎んで死んでしまう。



本体はコチラ。オカマライクな繊細さとは無縁の鈍臭いルックスである。

妖怪図鑑



いやみ
人間の楽しみのエキスを食べる。普段は女装したオカマのような格好で、トークも棚腰なオネエ言葉。口からイロ気を吐き出し、相手の妖力を奪う。

妖怪図鑑



大首【おおくび】
多くの人間の霊魂を食べて数千年間生き続ける。手足は退化して巨大な頭部のみしかない。竜巻を起こして真空状態を作り、かまいたちで相手を攻撃。

骨女【ほねおんな】
大首の命令で優秀な人間の魂を集め、霊魂室に保管。身体は骨のみ。大首に念力で操られていた。

死んでも散々な扱いのねずみ男



戒名は「伊蚊様院　小悪党居士（いかさまいん　こあくとうこじ）」。「蚊」とか「小」とか、あの世へ行っても徹底して小者キャラ。



ねずみ男の訃報を聞いた目玉おやじの第一声。「信じられん。全然将来を期待されてなかったねずみ男がポックリ病の犠牲になるとは！」



骨女に抜き取られた魂は霊魂室の「C級霊魂」の棚に保管された。ちなみに他の棚には魂の入った壷が無数に並ぶが、C級棚はガラガラ。

鬼太郎妖力FILE

特製風船



強力な唾液と胃液を混ぜて特製風船を作り、その中に入って宙を浮遊できる。

第26話 大首

●脚本／雪室俊一　●演出／西沢信孝
●放映日／72年4月6日

STORY

流行りのポックリ病でねずみ男、ついに逝く



将来を期待された有能な若者ばかりが、その月に入り原因不明のポックリ病で86人も死んでいた。鬼太郎が調査をはじめた途端、今度は何とねずみ男がラーメン屋で突然死。調べていくうちに、ポックリ病の流行は大首の命令で骨女が魂を集めていたためだったとわかる。ねずみ男が抜かれていた魂を取り戻して生き返ったのを機に、鬼太郎一行は大首の隠れ家に侵入。霊食キノコの菌で滅ぼした。

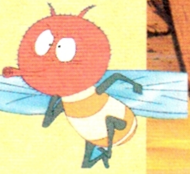
妖怪図鑑

第28話
あかなめ

●脚本／辻 真先 ●演出／設楽 博
●放映日／72年4月20日



あかなめ
夢の島のゴミ処分場で生まれた怪物。人間が出したゴミでできている。燃えにくいゴミも大量に含まれており、重火器による攻撃も歯が立たない。



知恵バエ
人間の言葉を話す知的なハエ。人間が出すゴミが増えたために生活に困らず、頭が進化した。

STORY
大量消費社会に警鐘を鳴らすモンスター



巨大なゴミの怪物あかなめが現れ、東京中の建物や道路、果ては鬼太郎と目玉おやじまでもがゴミと化していく。積もりに積もった廃棄物の力で動くあかなめは、自分でもその暴走を制御できなかった。しかし人間の言葉を話す不思議なハエが、あかなめの身体に生命力の強い古代植物の種を植えつけることを提案。ゴミの栄養分で植物は猛烈な勢いで育ち、東京は一夜にして緑あふれる美しい街に変わるのだった。

人類を啓蒙したあかなめ騒動



これだけの大惨事が起きれば、どんな人間でもゴミや環境問題へ意識が向くはず。あかなめは人間社会の歪みを正す強烈なカンフル剤だった。

70'S時代
大量消費社会が都市部のゴミの大量化、悪質化を呼び、71年には清掃工場がなかった東京都杉並区のゴミ処分を江東区が実力で阻止する事態に発展。当時の美濃部都知事が「東京ゴミ戦争」を宣言した。

妖怪図鑑

第29話
ダイダラボッチ

●脚本／柴田夏余 ●演出／山口康男
●放映日／72年4月27日

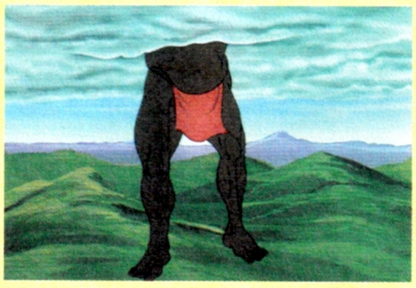


ダイダラボッチ
大昔の日本を支配していたという大巨人。鹿児島の桜島をパイプ代わりに吸うほどデカイ。かつてその強さを妬んだ者に身体をバラバラにされて各地に埋められた。



ダイダラ教徒
ダイダラボッチを崇める黒いのっぺらぼう。巨大な鍵を使ってダイダラボッチの身体の各パーツを蘇らせた。

STORY
日本列島を喰う超巨人現る



日本の各地で巨大な眼、鼻、口、手、脚、胴体が出現。各パーツは一箇所に集まって合体し、雲をはるかに突き抜けるほどの巨人ダイダラボッチとなった。ダイダラボッチは、かつて自分の身体を分解して埋めた者どもへの復讐として、日本列島を食べ始める。そんな中、鬼太郎は山口県の秋芳洞に奉られるダイダラボッチの生きた脳みそを発見。これを殺すと、大暴れしていたダイダラボッチの巨体も崩れ落ちた。

最初の犠牲者は鼻クソ死



最初の犠牲者はダイダラボッチの鼻から飛び出した巨大鼻クソが口の中に入り込んで窒息死した。こんな死に方だけはイヤです……。

鬼太郎妖力FILE



耳電話
頭部から切り落とされた鬼太郎の耳に話しかけることで、遠くにいる本人と会話できる。

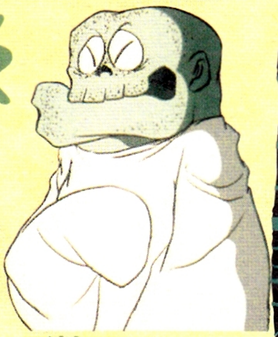
第30話
死神

●脚本／雪室俊一 ●演出／蕪木登喜司
●放映日／72年5月4日

STORY
鬼太郎、母と再会!?

人類滅亡後に妖怪の王として君臨することを企む死神は、邪魔者となる鬼太郎の殺害を計画した。鬼太郎の弱みは母親がいないこと。そこに付け込んで、鬼太郎のもとに母のフリをさせた魔女を送り込んだ。つかの間の喜びにひたる鬼太郎を、魔女は毒入りジュースを飲ませて殺そうと触手を伸ばす。しかしすでに異変に気付いていた鬼太郎に逆に殺され、目玉おやじによって死神も倒されるのだった。

妖怪図鑑



死んだ母と運命の再会!?
実は鬼太郎をだますために魔女が化けていた。しかし鬼太郎の想像していた母親とはちがっていたらしい。



死神
あの世からやってくる地獄列車を使って、死んだ者をこの世に復活させることができるという。

第31話
赤舌

●脚本／安藤豊弘 ●演出／高見義雄
●放映日／72年5月11日

STORY
覆水盆に帰らず

水を自由に使うことができる赤舌が自分の王国を築こうと地上に現れた。そして鬼太郎や砂かけばばあたちを飲み込み、体内の水分をすべて吸い取ってしまう。干からびた石と化した鬼太郎たち。しかし難を逃れた目玉おやじが機転を利かせて鬼太郎の胃液を飲ませると、赤舌の身体はみるみる溶けて、水となって流れていった。文字通り覆水盆に帰らず、万事休す。逆に鬼太郎たちは水を含んで再びもとの姿に再生する。

妖怪図鑑



骨女
今回は赤舌の子分として登場。ちなみにねずみ男はさらにその子分としてコキ使われていた。



赤舌
地下に棲み、水を自由に使える。人間や妖怪の水分が好物。地上に赤舌王国を作ろうとしている。

妖怪ギョーカイの知られざる常識
「妖怪は水分が少ない」
(赤舌談)

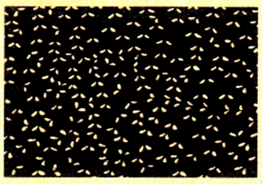
第32話
目目連

●脚本／辻 真先 ●演出／白根徳重
●放映日／72年5月25日

STORY
光の粒が人間を襲う

道路工事で自然が切り開かれていく山村。その村の古い民家には目目連が棲んでおり、工事の現場監督が石のように固められて殺された。さらに目目連を倒そうと向かった鬼太郎も石にされ、身動きが取れなくなってしまう。そこで鬼太郎が考えた作戦を猫娘と目玉おやじが実践。光の粒の集合である目目連をレンズで一点に集め、妖怪カメラで印画紙に焼き付けるのだ。作戦は見事成功。二度と悪さができないよう封じた。

妖怪図鑑



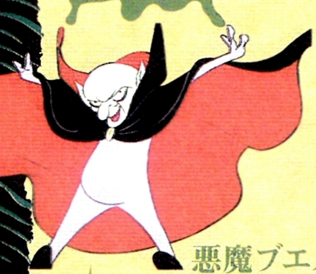
目目連【もくもくれん】
正体は光の粒で、昆虫の擬態のごとく、どんな色、形にでも化けられる。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



妖怪探偵を名乗って目目連を倒すための経費を警察からいただき、飯代にした。

妖怪図鑑



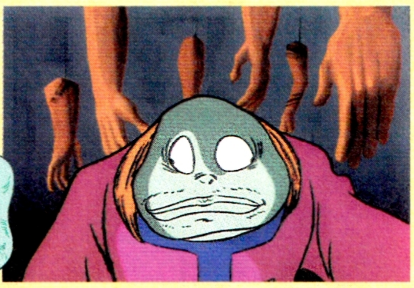
第33話

悪魔ブエル

●脚本／柴田夏余　●演出／新田義方
●放映日／72年6月1日

STORY

勝手に悪さを働く悪魔の腕



銀太とねずみ男は、悪魔ブエルに自分の意思とは関係なく勝手に悪さを働く悪魔の腕をつけられてしまう。それどころか、二人の腕を自由にするよう交渉に現れた鬼太郎に対し、ブエルは数え切れないほど大量の悪魔軍団を呼び出して襲いかかってきた。そこで鬼太郎と目玉おやじは何でも吸い込むやかんづるに悪魔たちをにバキュームさせることに。最後にはブエルも、その無限大の食欲の餌食となる。

悪魔ブエル

日本でのバカンスを楽しみに来ているという悪魔。悪魔50個軍団を指揮する力をもつ。



日本を楽しむために選んだ服は、むしろ中国風だった。

やかんづる



猛烈なバキューム力で何でもを吸引して食す。胃袋が別次元にあるため、その食欲は無限大。



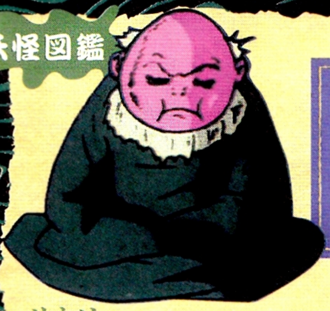
やかんづるを天岩戸から出した責任を取って鬼太郎と目玉おやじもみずから食べられにいった。

悪魔軍団



ブエルの手下の悪魔たち。ボスに呼び出されるそば、からやかんづるに喰われていった。哀れだ。

妖怪図鑑



第34話

死神とサトリ

●脚本／雪室俊一　●演出／西沢信孝
●放映日／72年6月15日

STORY

未来が見える虚しい妖怪



原因不明の激痛にさいなまれるエリート商社マン、永島。周囲からの妬みの視線が痛みという形で現象化したらしい。耐えかねた永島はついに一家心中を決意。その自殺〝予定〟現場には未来が見えるサトリと死神が待ち構えていた。しかし鬼太郎が身体を張って海へ飛び込もうとするクルマを阻止。猫娘たちの妬みの視線攻撃で予知本能が曇ってしまったサトリは、元いた深山へと再びこもりに戻っていった。

サトリ

死神の遠い親戚にあたる。予知能力であらゆることが先回りしてすべてわかってしまうため世の中がつまらなくなり、200年前に山にこもってしまった。

死神



一ヶ月の間、一つも霊魂を地獄へ送り込むことができなかった、死神界の落ちこぼれ。「42号」がこの男の識別番号らしい。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

「穴の開くほど見つめるという言葉があるように、大勢の人々の妬みの視線がある物理的効果によって、あんたの身体の痛みの原因になっておるのだ」

（サトリ談）

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



金儲けの道具にするつもりで、日本一の貿易会社、福々産業の総務部長の書いた鬼太郎宛の手紙をくすねようとした。

妖怪図鑑



第35話

イースター島奇談

●脚本／安藤豊弘　●演出／茂野一清
●放映日／72年6月22日

STORY

鬼太郎がほとんど活躍しない異色譚



売れない占師である福島は、ペルーから来た人気の同業者、アレスを殺して逃亡。命も金も幸福も思いのままに手に入れられるという地獄の使者に会いにイースター島へ向かった。まもなく地獄の使者との対面を果たすが、モアイ像の下敷きになり、そのまま地獄へ連れて行かれてしまう。数日後、日本で自首した福島は、鬼太郎たちの目の前でみるみる白骨化していった。「地獄の処罰」を受けたのだ。

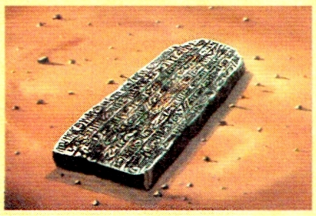
アクアク

イースター島にいる地獄の使者。アクアクに会うと命も金も幸福も思うままに得ることができるという。

鬼太郎家の霊界テレビ



鬼太郎の家にある霊界テレビでは死者の魂を通して、過去に起こった密室での出来事を見ることができる。



モアイ像の地下の石碑

石碑によると、赤い月が中天にかかり、13匹のコウモリが舞い、石像が血の涙を流すとき、地獄の使者アクアクが現れるという。

妖怪図鑑



第36話

妖怪屋敷

●脚本／辻　真先　●演出／設楽　博
●放映日／72年6月29日

STORY

生きながら魂の世界へ閉じ込められる



幽霊や妖怪がいないことを証明するために訪れた幽霊屋敷で、金太は影女を見てしまう。そして霊石を飲まされ、魂の世界に閉じ込められてしまう金太。魂の世界は人間の目には見えないため、両親も学校の先生もすぐそばにいる金太を発見することができなかった。鬼太郎は幽霊屋敷へ潜入し、影女と対決。屋敷に差し込んで影を作り出す月の光をちゃんちゃんこでふさぐと、影女はフリーズするのだった。

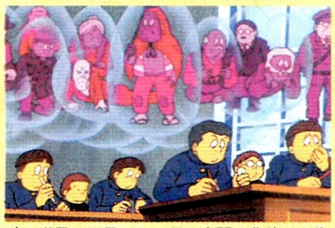
影女

月夜に自分の影を障子に映し、その影を見たものに霊石を飲ませて魂の世界へ閉じ込める。



鬼太郎との勝負に負けた影女。恐ろしい形相が消えている。カ、カワイイじゃないか!!

どんな人間にも必ず背後霊が



魂の世界から見ると、どの人間の背後にも先祖や守護霊がたくさんついているのがわかる。気分はスピリチュアルカウンセラー!?

銭ゲバ　ねずみ男の悪巧み



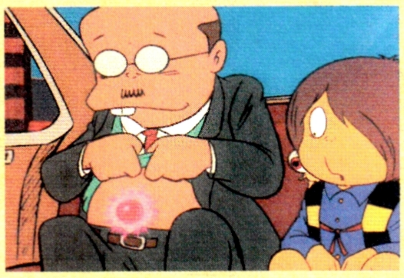
芸を仕込み見世物にして一儲けしようと、人魂を捕まえようとした。

第37話 地相眼

●脚本／柴田夏余 ●演出／笠井由勝
●放映日／72年7月13日

STORY

経済大国化する日本のあり方を問う



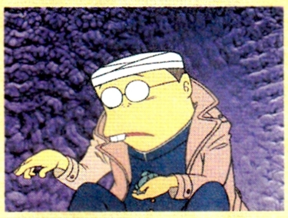
魑魅魍魎の世界から地相眼（ちそうがん）を持ち帰った安井は、日本経済を支える大企業の経営者となっていた。そんな安井のもとへ大ミミズが現れ、代わりに安井自身か息子の安男を新しい地相眼にするために差し出せと迫る。自分を犠牲にする勇気のない金の亡者となっていた父を尻目に、安男はみずから地相眼になることを志願。経済競争に勝つことだけを優先する日本の姿を嘆きながら、安男は父の目の前で地相眼と化していった。

妖怪図鑑



大ミミズ
魑魅魍魎世界の住人。大切な地相眼を盗んだ人間に対しても理知的な態度で接するジェントルマン。

いつからこんな国に？



安男は経済を最優先する日本と日本人の考え方に疑問を投げかけた。「勝つか負けるか二つに一つの経済競争しかない国に、日本はいつからなってしまったんだろう。どうしてみんな、もっと幸せな人間らしい生き方ができる方向へ行かないんだろう」

70'S時代

70年前後は全共闘時代真っ只中。多くの若者が体制に対してアンチの感情を抱いていた。しかし70年によど号ハイジャック事件、71年に連合赤軍リンチ事件、72年に浅間山荘事件と続き、本エピソードが放映された頃には学生運動は終焉を迎えつつあった。



銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



魑魅魍魎の世界にある残りの天相眼、水相眼を盗み出し、合わせて1億円で安井に売った。

第38話 隠れ里の死神

●脚本／雪室俊一 ●演出／山口康男
●放映日／1972年7月20日

STORY

時間の止まった村

死神に子供をさらわせようとした謎の妖怪、隠れ座頭を調べるため、鬼太郎が囮となる。肉眼では見ることのできない時の橋を渡って着いた先は、時間が存在しない隠れ里。そこには誘拐された数多くの子供たちが数百年間歳をとらないまま住んでいた。鬼太郎は隠れ座頭を倒し、子供たちとともに時間の橋を元来た方へと再び渡る。しかし一気に数百年分の歳をとった子供たちは、哀れ白骨と化してしまうのだった。

妖怪図鑑



隠れ座頭
【かくれざとう】
貧しい子供たちを「幸せにするために」、さらっては時間の存在しない隠れ里に住まわせている。盲目の眼を見えるようにするため、17年間座禅を組み続けた結果、時の橋が見えるようになった。



死神
あいかわらず霊魂のノルマに追われる日々を送るが、本人いわく「自分の手で人の命を奪ってまで霊魂を届けるような卑怯な真似はしやせん」そうだ。

第39話 妖怪水車

●脚本／安藤豊弘 ●演出／高見義雄
●放映日／72年7月27日

STORY

海で死んだ人たちは……

両親を海で亡くした友吉は、岩穴の中で猛霊八惨を見てしまい、猛霊の主の激しい怒りを買った。そして海の底へと沈められ、霊界へと足を踏み入れる。ところが友吉はそこで両親と再会。至福のひとときを過ごすのだった。猛霊の主の本体は海難事故の犠牲者たちの毛髪。友吉たちはそれを丁寧に供養し、手を合わせた。

妖怪図鑑



猛霊八惨の主
【もうれいやっさんのぬし】
海で死んだ人たちの毛髪が本体。水死した人間を猛霊八惨にしてしまう。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



猛霊八惨から守ると鬼太郎の名をかたって船に乗り込み、大金をせしめようとした。



猛霊八惨【もうれいやっさん】
元は海難事故などで水死した人たち。海に巨大な渦巻き妖怪水車を発生させ、船を沈める。

第40話 原始さん

●脚本／辻 真先 ●演出／白根徳重
●放映日／72年8月10日

STORY

東京が緑あふれる街に

ゴミ溜めのように汚れた東京に忽然と現れた原始さんは、コンクリートで覆われた街を破壊しつくし、東京を一夜にして緑あふれる美しい街に造りかえた。素直に喜ぶ都民とは対照的に、疎ましさを覚える政府や企業経営陣たち。やがて原始さんは海へと還ることを決意する。人類がいまだ自然のありがたみを理解できずにいることに失望したのだ。原始さんの去った後、東京は再び汚いゴミ溜めに戻った。

妖怪図鑑



原始さん
別名「エコロ爺さん」。死滅しかけた自然が失った緑と汚れた空気を回復するために、その精気を集めて巨人の形にした。自然が本来もつ自浄エネルギーそのもの。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

「古井戸の底にできたじゃないか、例の妖怪図書館」

（ねずみ男談）

第41話 霊形手術

●脚本／柴田夏余 ●演出／新田義方
●放映日／72年8月17日

STORY

妖怪以上の妖怪

人間の価値は美しい顔だとばかりに整形手術を繰り返す月子は、ずんべらを訪ね、自分の顔そのものを取ってしまった。いつでも好きな顔に付け替えて、日替わりでさまざまな美人を楽しむためだ。さらに人魂を養殖して、もっと顔を収集しようとずんべらにもちかける。あまりの欲深さに「妖怪以上の妖怪」と呆れる鬼太郎。欲に凝り固まった月子は心が干からび、そのままコチコチの石となってしまった。

妖怪図鑑



ずんべら
さまざまな顔をコレクションする顔取り妖怪。基本的には死人の顔収集専門だが、人魂入りの食べ物を食べさせることで、生きた人間の顔も取ることができる。



ツラの皮を付け替えるだけでアラン・ドロンにも簡単になれる。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



ずんべらを使った霊形手術ビジネスを考案。三吉と月子に施術して各1万円、計2万円をせしめた。

第43話 足跡の怪

●脚本／安藤豊弘　●演出／茂野一清
●放映日／72年9月7日

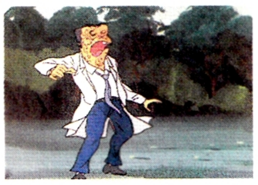
妖怪図鑑



たいたんぼう
いらずの山の神。これはその聖地にある御神体。聖地を侵すと祟りにあう。



たいたんぼうの祟りで山田は指、耳、目、鼻と身体のパーツを少しずつ失い、最後は身体ごと喪失した。



たいたんぼうの祟りで中村はまず人間らしい心を失い、最後にはやはり身体全体ごと溶けて喪失した。

STORY

山の神の祟り 消滅する二人



たいたんぼうの御神体の岩を削って持ち帰った中村と山田。祟りなんて迷信だとバカにする二人だったが、中村の目の前で山田の耳、目、鼻など顔のパーツが消えていった。たいたんぼうの祟りである。それでも中村は山田のことなど気に留めず名声欲に走り、持ち帰った不思議な岩を返そうとしない。しかしスキを見て鬼太郎が奪還。岩を元の場所に返すが、祟られた山田と中村はこの世から消滅してしまった。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



埋蔵金があるという話に目が眩み、たいたんぼうの聖地を傷つけた山田・中村コンビと結託した。

第42話 死神と貧乏神

●脚本／雪室俊一　●演出／西沢信孝
●放映日／72年8月24日

妖怪図鑑



死神
みたび登場の落ちこぼれ死神。あいかわらず霊魂を集められないでいる。



貧乏神
世の中の景気がよいばかりに、貧乏人を増やすことができずに悩んでいる。

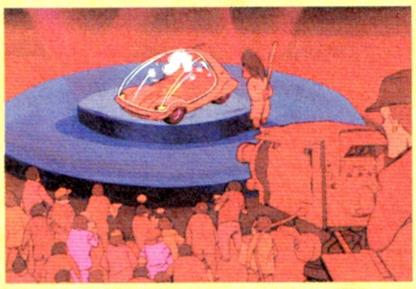
典型的2代目おバカ社長



シンシン工業の2代目社長。温室育ちの道楽者で株暴落で面倒臭いからと会社を潰そうとした。

STORY

妖怪界の最凶タッグ 猛威を振るう？



世の中、景気が上向き続きで、すっかり景気の悪い思いをしている死神と貧乏神がタッグを組んだ。シンシン工業に入り込み、新製品発表時にその商品の中で人が焼死するという前代未聞の不祥事をプロデュース。その影響で会社の株は大暴落し、工場も閉鎖の危機に陥る。貧乏人が増え、自殺者でも出れば故郷に錦を飾れると万々歳の二人だったが、最終段階で鬼太郎に計画を阻まれ、警察の御用に。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



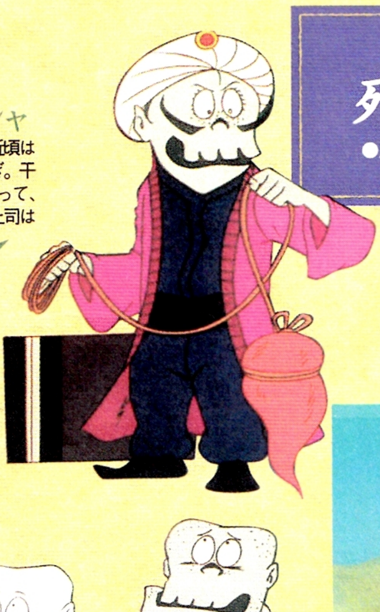
冤罪で逮捕されたシンシン工業専務を助ける代わりに礼金のほか、娘を嫁にと赤面しながら要求した。

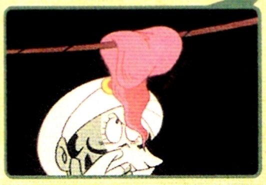
第45話 死神のノルマ

●脚本／雪室俊一　●演出／中村　一
●放映日／72年9月28日

妖怪図鑑

アラビアの死神パシャ
かつてはブイブイ言わせていたが、近頃はさっぱり霊魂が集まらず日本へ出稼ぎ。干物にして保存した霊魂を少しずつ使って、何とかノルマ達成を維持してきた。上司はスフィンクス王。

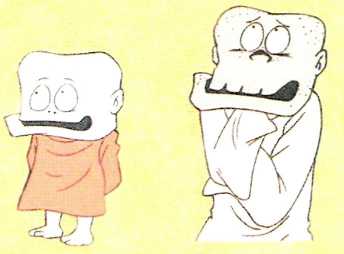




干物にした霊魂。技術が難しいらしい。水にさらすと元の状態に戻る。

妖怪ギョーカイの知られざる常識

「死神は絶対に自分の手で人を殺してはならない」。この掟を破った者は「血の池に投げ込まれてしまうんだ」（骨太談）



骨太
死神の長男。おやじの成績が悪いため、周囲からいじめられている。

死神
霊魂が手に入らず、出稼ぎに出たままもう半年も家に帰っていない。



青子
死神の妻。地獄での貧乏暮らしに耐え切れず、夜逃げ同然でこの世までやってきた。

STORY

死神稼業も ラクじゃない



不況続きで霊魂が手に入らないアラビアの死神パシャ。日本で荒稼ぎしようと、日本の死神を口車に乗せた。そして貧乏人を無料で招待する架空の団体旅行で客を募集し、皆殺しにする計画を実行に移す。しかし死神は人を殺してはならないという厳しい掟が。鬼太郎と猫娘は現場へ急行。パシャを蟻地獄へ落とし、死神が過ちを犯すことを未然に防ぐのだった。死神稼業も営業マンなみにノルマ第一主義。そりゃ不正に走りたくもなるわな。

第44話 雨神ユムチャック

●脚本／辻　真先　●演出／及部保雄
●放映日／72年9月21日

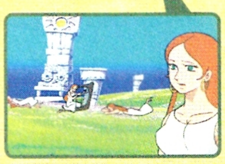
STORY

名声より永遠の愛を

考古学を研究する菅原と内田は鬼太郎を誘い、マヤ文化が残るメキシコのチチェン・イツァへ向かった。菅原はそこでカルメンに一目ぼれ。しかし彼女は雨乞いの儀式でユムチャックに捧げる生贄となってしまう。あとを追う一行が辿り着いたのは泉の奥にある別世界、永遠の国だった。菅原はそこでカルメンと再会し、彼女との愛に生きることを決意。内田は秘宝を見つけるが、欲深さが祟って死んでしまう。

妖怪図鑑

雨神ユムチャック
マヤ文明で雨を司る神。雨乞いの儀式では16歳の女性と宝が捧げられ、人身供犠となった女性はユムチャックの別世界、永遠の国で永遠の生命を与えられる。



ユムチャックの別世界、永遠の国は泉の奥にある。

銭ゲバ ねずみ男の悪巧み



メキシコへの旅はマヤ文化の研究と偽ったが、本当の目的は内田と結託して財宝を手に入れることだった。

あの時、君は強かった!!

鬼太郎 敵 味方 妖怪セレクション

鬼太郎を襲う手ごわい敵や頼れる味方を、パワーゲージ付きの『妖怪カード』風に、一覧表でまとめてみました。

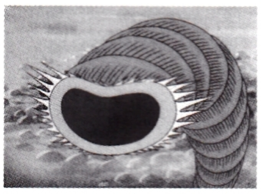
世界からの来襲者は、第1シリーズ「妖怪大戦争」で集合したバックベアードをはじめとする西洋妖怪たちに加え、悪魔に吸血鬼、九尾の狐にペルシャの死神と、レアな能力や特性を持った強敵ぞろい。対して日本の敵は、ダイダラボッチや蛟竜など巨大な体躯で街を襲うパワーファイターを中心に、"謀略巡らせ系"の死神や百々爺まで登場。頼れる仲間を引き連れて、今日も鬼太郎は戦うのでありました……。



鬼太郎の仲間

FRIEND of KITARO

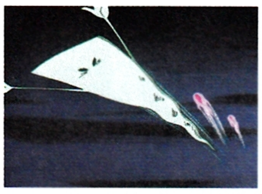
強敵ばかりの鬼太郎は窮地に立たされてしまうこともしばしば。そんな時、助けに来てくれるのがもちろん鬼太郎ファミリー。いつも悪いね～のレギュラー陣から、敵か味方か微妙な位置にいるねずみ男、ちょこちょこ助けるのになぜか目立たない山小僧まで、鬼太郎を助けたことがある妖怪たちが大集合～！



野づち

パワー

能力 暴風を起こし、何でも吸い込んでしまう巨大な妖怪。吸い込まれるとすぐに生気を吸われてしまう。鬼太郎にしか理解できない音で会話する。300年間鬼ヶ原の野づち塚に眠っていたが、起こされ腹を立てる。



一反もめん

パワー

能力 飛行能力が優れているため、自ら攻撃するというよりは鬼太郎を乗せて相手の攻撃をよけるという形で参戦することが多い。咬竜の説明ができたり、再生粉末を知っていたりと、意外と博学でもある。



子泣きじじい

パワー

能力 敵にしがみつき重い石となる攻撃が主。石になると敵の攻撃も防御できる。ほかに自分がしゃっくりすることで敵にもしゃっくりをさせる技"ひっくしゃっく"などの変わった技もある。



砂かけばばあ

パワー

能力 砂をかけ相手の目をつぶすのはもちろん、砂の竜巻のようなものを出し攻撃する。占いができたり、薬草などの知識が深かったたりと実は攻撃力よりも他の能力が高く、劇中で重要な役割を果たすことが多い。



井戸仙人

パワー

能力 万能ガラス玉を持ち敵の正体を見抜いたり、豊富な知識でアドバイスをくれる。千年前から井戸のメタンガスで生きている。



山小僧

パワー

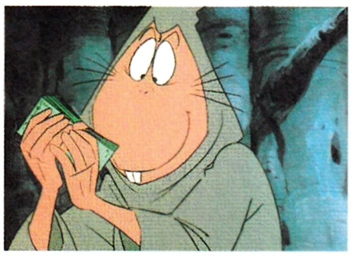
能力 かまぼこになった鬼太郎を集めるのを手伝う、チー妖怪と棒で戦う、など精一杯手助けをしている。攻撃力がほぼない癒し系⁉妖怪。



ねこ娘

パワー

能力 基本的には猫化して引っかくことで攻撃する。押されぎみの鬼太郎を助け、パシャを倒すために、とっさに蟻地獄を作るといったように機転がきくのが特徴。2部は鬼太郎と共に行動することが多い。



ねずみ男

パワー

能力 強烈に臭い体内ガスを口臭やおならとして放出させ、襲ってきたものを撃退する。好戦的ではないため、自ら攻撃を仕掛けることはないのだが、戦うと意外に戦力になるかもしれない。ただ、強い方につくため、信用はできない。



つるべ火

パワー

能力 口から炎を吐き、敵を燃やす力がある。そのまま体当たりをするだけで、敵を燃やすこともできる。炎の明るさを調節することも可能。



カラス天狗

パワー

能力 ベリアルの水爆ほどもあるといわれる魔力を封じる力を持つ。山奥に住むが蚊文字を使い、鬼太郎たちと連絡を取り合う。



まる毛

パワー

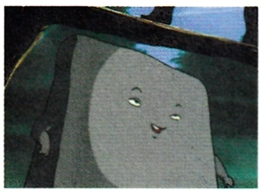
能力 戦力にはならないが、偵察をする、目撃したことを話すなど、何かと鬼太郎に情報提供をする。見た目がかわいらしいマスコット的存在。



カルラ様

パワー

能力 鬼太郎にも止められなかった牛鬼を笛の音で操り、いとも簡単に封じ込める。人々の祈りにより姿を現す、大きな翼を持つインドの神。



ぬりかべ

パワー

能力 大きさを自由に変化させることができる硬い体が武器。身を挺して敵の攻撃からみんなを守り、盾になる役割をする。敵を押しつぶす、体に敵を塗りこめるなどの攻撃もでき、攻防ともに長けているといえる。

日本の敵

JAPANESE ENEMY

赤舌や牛鬼、ダイダラボッチなど、日本の敵は巨大な妖怪が多いのが特徴。とりわけ目立つパワー系妖怪と、死神など何度も登場して記憶に残る妖怪たちを紹介!!



八百八狸

パワー

能力 刑部狸をリーダーとする狸の妖怪集団。刑部狸は念力で大なまずを操るほか、呪いの術で鬼太郎を狸に変身させる力などの力を持つ。団十郎狸、お富狸、玄蕃狸などを含む狸たちは石などに変身し、こん棒を持って攻撃をする。



赤舌

パワー

能力 口が温泉に見えるほど巨大で人間や妖怪を飲み込む。劇中では鬼太郎たちを家ごと飲み込み、水分を全て吸い、胃液で固め石にして出した。水を自在に操れる能力もある。



ダイダラボッチ

パワー

能力 日本の主だったが、あまりに力が強いため封印される。封印を解かれると、日本の国土を食べ始める。放っておくと、65日で日本は食べつくされる。打たれ強くなにをしてもあまり効かない。



半魚人

パワー

能力 戦闘は基本的にしないようだが時と場合により、化けイカを操って襲ってくる。特技はかまぼこ作りで人間に憧れている。



蛟竜

パワー

能力 八百八狸の守護神。目から怪光線を出し、鬼太郎に幻覚を見せ、鋭いキバで鬼太郎を食べようとする。ビルよりも大きくて力が強いため、町中を暴れ周り破壊した。もとは蛇。



百々じじい

パワー

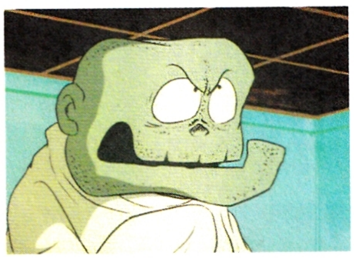
能力 鼻から毛針を出す鼻毛針、幻覚をみせる毒ガスを鼻から放つ鼻もんもなど、スタンダードな技を使う。



牛鬼

パワー

能力 倒すことはそれほど難しくないが、退治されると退治したものに乗り移るため、完全に牛鬼を消す方法はない。カルラが封じ込める以外に牛鬼は止めることができない。



死神

パワー

能力 しびれるガスや若さを奪う毒ガスを吐き出し、すばやい動きで攻撃をかわす。霊魂を取る能力があるが、自らの手で人を殺すことは禁じられている。妻子のため、霊魂を集めようとするが大抵うまくいかない。不死の肉体を持つ。

世界の敵

WORLD ENEMY

世界の強豪、ナゼにそんなに日本を狙う!? 日本征服を企む妖怪はもちろん、人間に迷惑をかける妖怪は海外に遠征しても退治するのが鬼太郎流。西洋妖怪から南国妖怪まで、戦ってきた妖怪たちの一部を紹介。



吸血鬼エリート

パワー

能力 ギターを奏でることによって、相手を自由に動かすことができる能力を持つ。肉体を溶かす注射液を常に持ち歩いているため、鬼太郎も一時溶かされてしまった。正体は巨大なコウモリ。



ドラキュラ

パワー

能力 西洋の吸血妖怪。血を吸うといった通常の攻撃のほかに、大コウモリに変身して鋭いキバと爪で襲うこともある。変身すると飛行もできるため、空中戦も可能だ。



チー妖怪

パワー

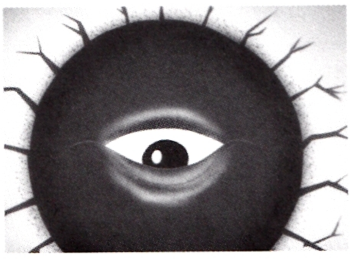
能力 中国妖怪。しびれる白い息を吹きかけたり、くもの糸などに化ける術や紙に描いた妖怪を出現させる妖術を使う。さらに赤い丸薬と妖怪染色剤で日本妖怪を反物にし、それを着た人間を操ることができる。正体は九尾の狐の弟。



妖孤

パワー

能力 毛針もリモコン下駄も効かない強靭な身体の妖怪。長い舌で鬼太郎を飲み込む。インドネシアの奥にある島に生息する。



バックベアード

パワー

能力 アメリカの妖怪で日本を乗っ取ろうと考える。西洋妖怪をまとめるのがうまい。目から怪光線を出し、浴びた人間を錯乱させたり暗示をかけ操ることができる。さらに、衝撃波を出すことも可能。目がポイントの妖怪。弱点も目。



悪魔ブエル

パワー

能力 人の手を悪魔の手にかえ、悪さをさせる。悪魔の軍団を動かす力を持つ西洋悪魔。ブエルが大量の悪魔たちを召還したため、手に負えなくなった鬼太郎はやかんずるの封印を解き、倒す。



アカマタ

パワー

能力 口から強力な粘液を吐き出し動きを封じたり、吸盤がついている手のひらで、相手の生気を吸い取る能力を持つ。



パシャ

パワー

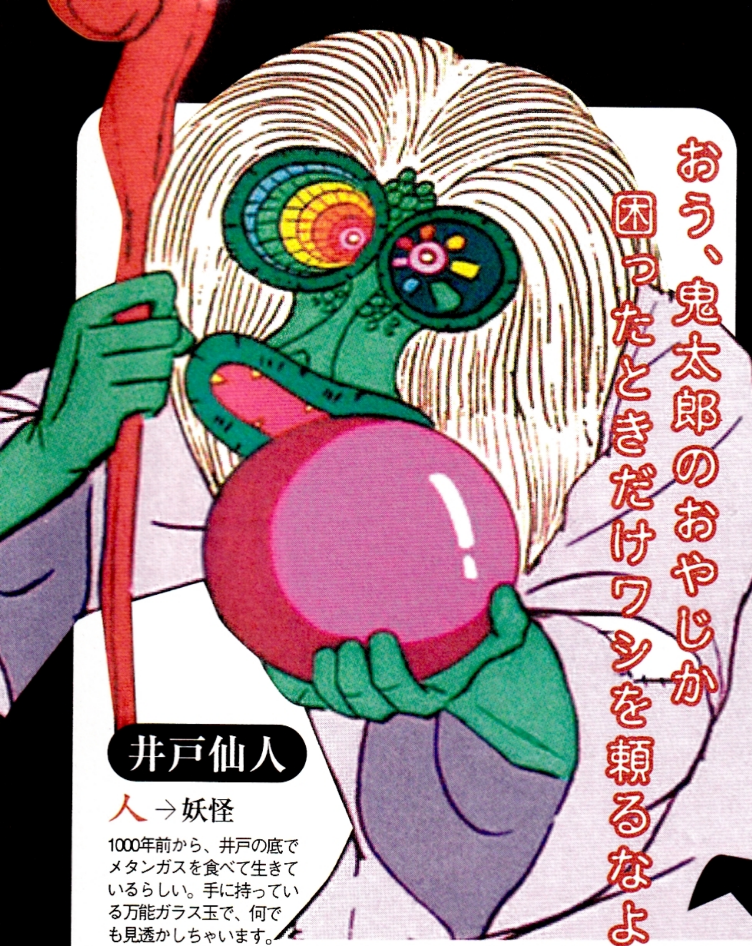
能力 ペルシャから来た死神で日本の死神より数段強い。ターバンを投げたり、炎を口から出すといった攻撃が主体だが、砂嵐を起こすこともできる。霊魂を干物にし、保存する能力もある。

修行を積んでたり、年食っただけだったり。いろんなパターンで妖怪になってます。あなたの隣のアレもコレもアイツも、明日には妖怪になっているかも知れませんよ。

ルーツ別 登場妖怪分類&セレクション

サラブレッドには負けません 妖怪も〝見た目〟で勝負です!?

生まれつき妖怪だった〝サラブレッド〟なヤツらと違い、紆余曲折を得て妖怪になったこいつらは、なんだか濃い〜連中ばかり！ 敵の場合は、鬼太郎がかなり苦戦した相手ばかり。もしくは井戸仙人みたいに、得がたい力を持った頼れる味方が揃ってます。ぱっと見でルーツが丸分かりのヤツから、どこをどう経由してこんなグロいルックスになったのか分からない人まで、とにかくズラッと紹介してみました。じっくりご堪能くださいマセ。



井戸仙人
人→妖怪

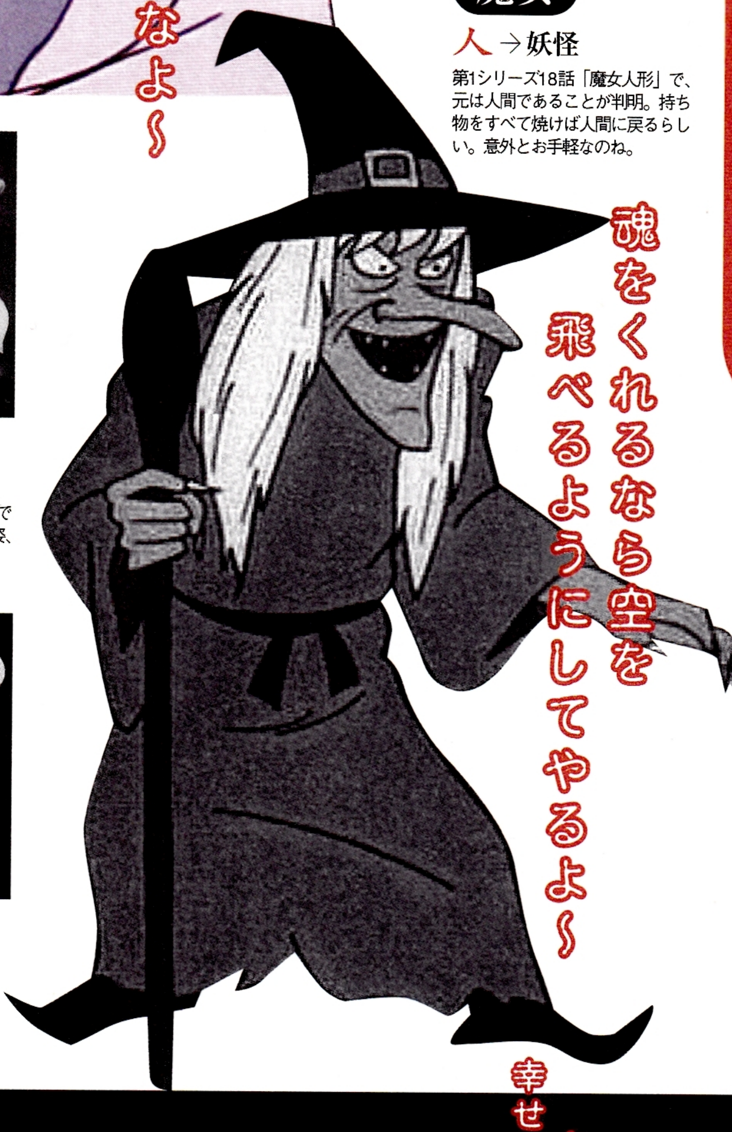
1000年前から、井戸の底でメタンガスを食べて生きているらしい。手に持っている万能ガラス玉で、何でも見透かしちゃいます。

人→妖怪

このほか、科学者が実験失敗して妖怪化した「おどろおどろ」などもこのパターン。自分の意思で修練を積んで〝人ならざるもの〟になっただけに、一筋縄じゃいかない連中ばかり。

魔女
人→妖怪

第1シリーズ18話「魔女人形」で、元は人間であることが判明。持ち物をすべて焼けば人間に戻るらしい。意外とお手軽なのね。





猫仙人
人→妖怪

体は猫塚の中で冷凍して、魂は猫の中に入れることで1200年生きている仙人。ってことは元に戻ったこの姿、普通の人間のはずなのにどこか猫っぽいのはナゼ？

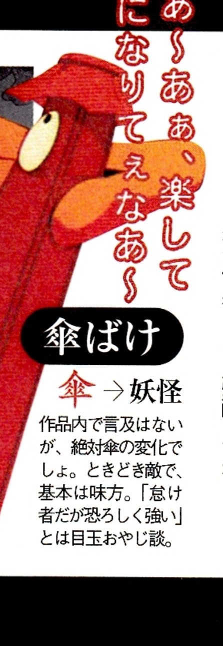


ガマ仙人
人→妖怪

異次元「妖怪関ヶ原」への入り口を自由に作れる。邪魅に操られた鬼太郎なぞモノともしない凄腕の仙人なのだ。妖魔をガマの姿に封じるのは趣味ですか？

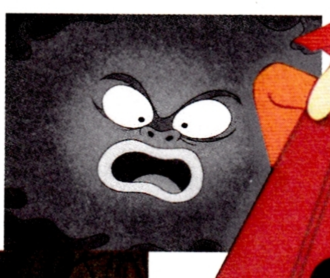
モノ→妖怪

どんなものでも99年超えると妖怪になるらしい。それが付喪神（九十九神）なのです。こう見ると、どいつもこいつも鬼太郎を苦しめた強敵ですねぇ。



傘ばけ
傘→妖怪

作品内で言及はないが、絶対傘の変化でしょ。ときどき敵で、基本は味方。「怠け者だが恐ろしく強い」とは目玉おやじ談。



雲外鏡
鏡→妖怪

銅鏡は、2000年以上経つと変化して雲外鏡になるんだって。照魔鏡に照らされて現した正体は、ほとんど雲です。



逆柱
柱→妖怪

逆さまに立てられた柱が苦しんで妖怪化したものらしい。鬼太郎のゲタを奪い偽のゲタを履かせ、文字通り鬼太郎を〝躍らせた〟侮れないヤツ。



釜鳴り
釜→妖怪

釜に宿った妖怪は、鬼太郎の妖力の源である髪の毛を狙う抜け目ないヤツ。釜の中は異次元で、取り込まれたら最後です。

植物→妖怪

花の妖精から、「どう見ても原始人」のヤツまで出てきちゃうんだから。これも自然のスゴさ……だよね？　ほうこう以外は、メッセージ性高いです。



ほうこう　木→妖怪

第1シリーズ最後の敵。2000年以上経った木が変化した妖怪。地・水・火・風の"ほうこう"に分身できる。なぜか漬物好きなのが笑えます。





妖花　花→妖怪

夜になると点滅する、南方の島からやってきた花の妖怪。2〜3日で芽が出て、みるみる間に物干し台いっぱいに広がる世話要らずの優れモノ。

妖怪花の精　植物→妖怪

黄色い髪の女の子の妖精。妖怪花の危機に現れ、鬼太郎に助けを求める。いかにも花の精っぽいルックスに惚れそう。

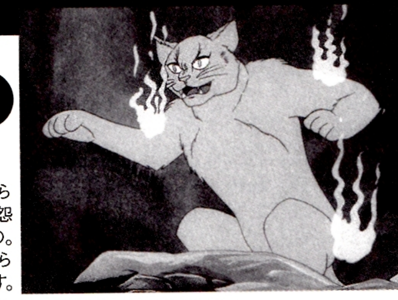


原始さん　自然→妖怪

破壊されかけた自然が生気を集め、人間に壊されたものを取り戻そうとする姿。使命は重いけど、性格は結構あっけらかんとしてます。

動物→妖怪

おなじみの狐や狸から、それともちろん猫からの変化が多いかな。サザエやハエから妖怪、みたいな変わり種も見逃せません。長生きしてるだけあってコイツらも結構強かったなあ。



化け猫　猫→妖怪

交通事故に遭いながら放置された野良猫の怨念が化けて出たもの。コイツと接触したら「猫打ち症」になります。



猫又　猫→妖怪

ボロゴン島の言い伝えでは、50年も生きた猫は、妖力を持つ「猫又」になるとか。エリーメを守った忠義猫です。



白山坊　狐→妖怪

山奥に棲む古狐。強い妖力を持っているくせに、人間の弱みに付け込んで取り引きしてくるせこいヤツ。



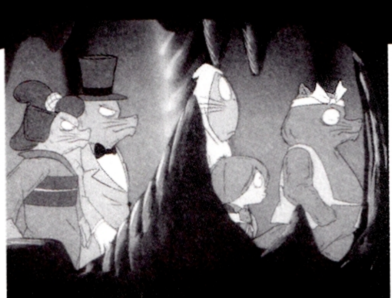
天狐　狐→妖怪

妖狐の中では最高峰のすごいヤツ。普段は姿を見せないし、悪事も絶対働きません。超越していますから。



九尾の狐　狐→妖怪

第2シリーズで鬼太郎たちを苦しめた、チー妖怪の真の姿。スケッチから妖怪を生み出したり、妖怪を反物にしたりと相当な妖力です。

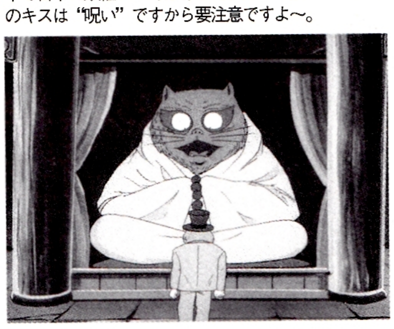


狸三銃士　狸→妖怪

八百八狸の幹部クラスといえば、団三郎狸、お富狸、玄蕃狸の三匹です。そろってかなり好戦的。別に"三銃士"と名乗っているわけではないですが。

刑部狸　狸→妖怪

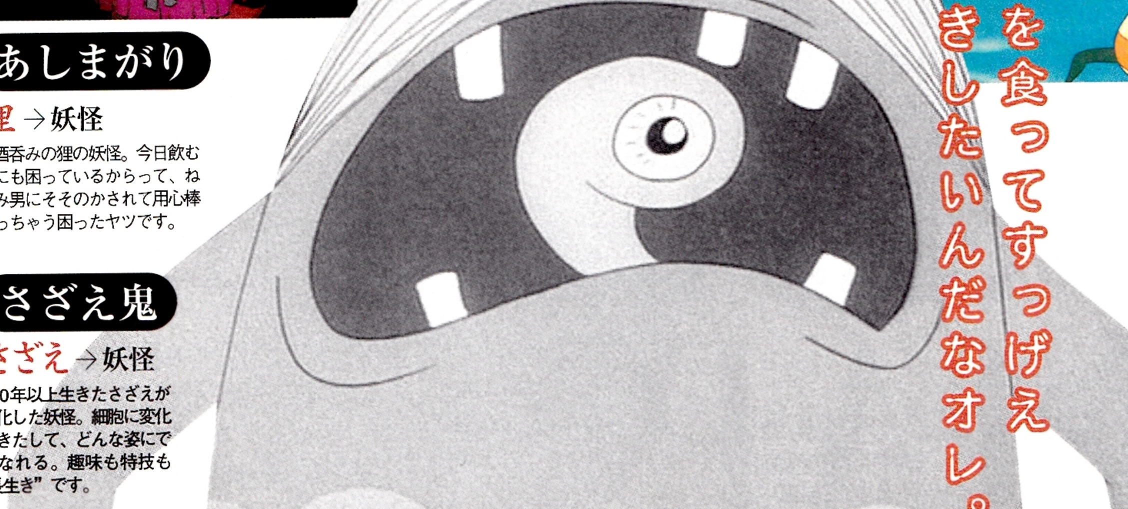
八百八狸のドン。すげえデカイんですコイツ。物語の中で日本の政権を一時は奪った、唯一の妖怪です。彼のキスは"呪い"ですから要注意ですよ〜。





あしまがり　狸→妖怪

大酒呑みの狸の妖怪。今日飲む酒にも困っているからって、ねずみ男にそそのかされて用心棒やっちゃう困ったヤツです。



さざえ鬼　さざえ→妖怪

300年以上生きたさざえが変化した妖怪。細胞に変化をきたして、どんな姿にでもなれる。趣味も特技も"長生き"です。



知恵バエ　ハエ→妖怪

夢の島の栄養たっぷりの大量なゴミで進化して、人語を解するようになったハエ。見た目はハチっぽいけど、ハエなんです、彼。

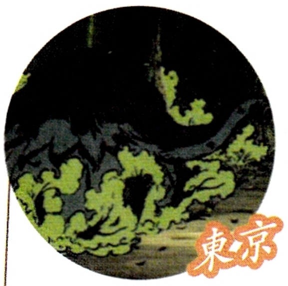


化けガラス　カラス→妖怪

目玉おやじをよくのせる、鬼太郎の頼れる味方です。鬼太郎を嵌めた百々爺との対決に現れて、石の投下＆封じフン攻撃！

妖怪 出身&出没 MAP

全国各地に伝承が残る妖怪たちも多いなか、物語の中での舞台や出身地がそれとなく分かる奴らをピックアップしてみた。ワールドワイドな広がりを見せるゲゲゲの世界が一目で分かる、究極の妖怪出身&出没MAPをごらんあれ〜!



マンモスフラワー
あかなめが都内の汚い場所中心に発生させた巨大植物。銀座、新宿、臨海工業地帯などに生える。(第2部8話)



雪ん子
いい妖怪、悪い妖怪両方の伝承がある。絶対悪いことしなそうな顔だけど、結構クールに魂抜きます。(第1部48話)



雪男
相手を怪力で押さえつけ、凍らせてしまう冷凍妖怪の一人。有名なヒマラヤのUMAとはずいぶん違います。(第1部48話)



鏡じじい
銀座の古道具屋に売られていた鏡に潜む。出身は都心から離れたでこぼこ山の奥地。(第1部8話)



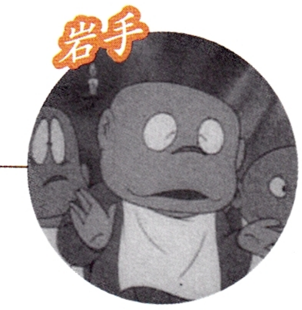
あかなめ
基本的はトイレや風呂に住み着く妖怪で各地にいるのだが、この話では東京湾で暮らしている設定。(第2部8話)



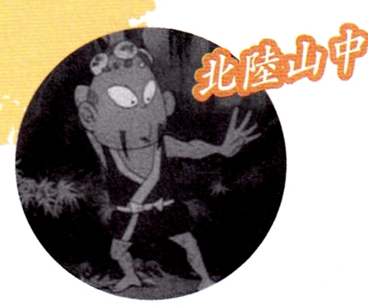
雪女
豪雪地帯に出現する妖怪。雪ん子のピンチに現れて助けるなど、結構"アツい"愛情を持ってたりして。(第1部48話)



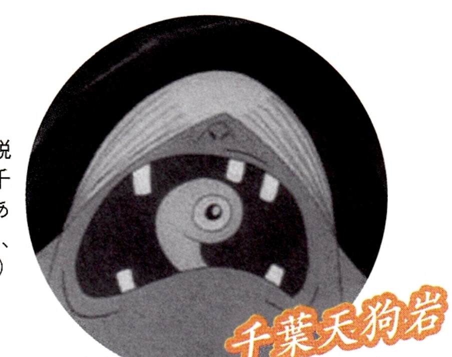
原始さん
破壊されかけた自然が巨人の形に生気を集め、壊された自然を取り戻そうとしたもの。都会に現れる。(第2部40話)



座敷わらし
劇中で岩手県の山奥で砂かけ婆が座敷わらしの歌をきいたと鬼太郎たちに報告する。(第1部60話)



あまめはぎ
本来、東北や北陸といった広範囲に生息している。劇中では北陸山中きのこ山の妖怪として登場。(第1部35話)



さざえ鬼
紀州でさざえ鬼の伝説があるが、劇中では千葉県天狗岩の海底にある人魚の住処を占領し、暮らす。(第1部33話)



人魚の子供
さざえ鬼に天狗岩の海底にある住処を占領されてしまい、さざえ鬼に売られそうになる。(第1部33話)



蛟竜
空中に浮いていた月のようなものから東京湾に落ちたもの。東京湾から上がると、都内を暴れまわる。(第1部21・22話)

※キャプションの第1部=第1シリーズ、第2部=第2シリーズです



ぬっぺらぼう
ゆんたの言い伝えを騙り、沖縄の村の人々の若さを奪っている妖怪として登場する。（第1部57話）

陰形魔法
沖縄に伝わる神ゆんたの名を借りて出没する姿の見えない巨大なぬっぺらぼう。（第１部57話）



小豆あらい
小豆が凶作だったため、東京に来てアルバイトをしている小豆あらい。普段は丹波の山奥に住む。（第1部7・10話）



JAPAN

北は北海道から南は沖縄まで、鬼太郎は日本全国の妖怪と戦っています。
鬼太郎の遠征はもちろん、わざわざ東京に来て暴れたりする妖怪も多数。ご親切さまです!?

土ころび
通常、土ころびは中部地方の峠に出現するといわれている。劇中では長野県の奥山に出現。（第2部11話）

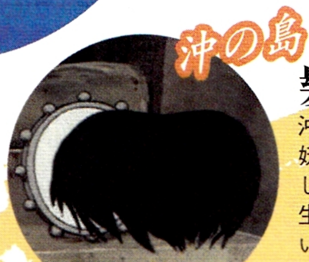




ダイダラボッチ
目が福島・猪苗代湖、鼻が秩父という具合に各地に体の部位が封印されていた。集まり合体したのは岡山。（第2部29話）



牛鬼
日本海の荒波に浮かぶ牛鬼岩に封印されている。牛鬼岩は沖の島にあるといわれる。（第2部15話）



髪さま
沖の島に棲む髪の毛の妖怪。ヤタの鏡を利用して神通力を持つため、生贄を村人に要求していた。（第2部9話）



白山坊
富士山の樹海の岩穴に住む主と自ら名乗る。劇中で自殺しようと森に入った男が出会った。（第1部24話）

人喰島
人食い島の生贄になる子供から鬼太郎に手紙が届く。その住所が和歌山県の笹岡村。（第1部42話）

八百八狸
行部狸を中心とする狸集団。四国の山中に封印されていた。山の工事によって封印が解かれる。（第1部21話）







吸血妖怪樹
小笠原の無人島、母島の奥地で数千年生きている。吸血鬼を呼び寄せ、妖怪の血の手配を頼む。（第1部52話）





ひょうすべ
劇中にて鬼太郎がバックベアードにひょうすべの説明をする際に、九州にいる妖怪と言っている。（第1部11話）

吸血妖怪細
南洋の吸血妖怪。ヒトデのような形をしており、海の中で敵味方関係なく襲う。吸血妖怪団のひとり。（第1部52話）



アササボンサン

これもアジアの吸血妖怪。吸血妖怪樹のため、恐山の妖怪血液銀行を襲う妖怪の一人。木彫り細工みたいな顔が特徴。（第1部52話）



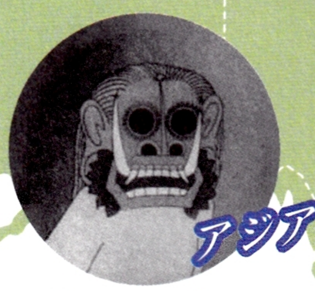
ペナンガラン

吸血妖怪樹を復活させるため、恐山の血液銀行を狙うアジアの吸血妖怪。（第1部52話）



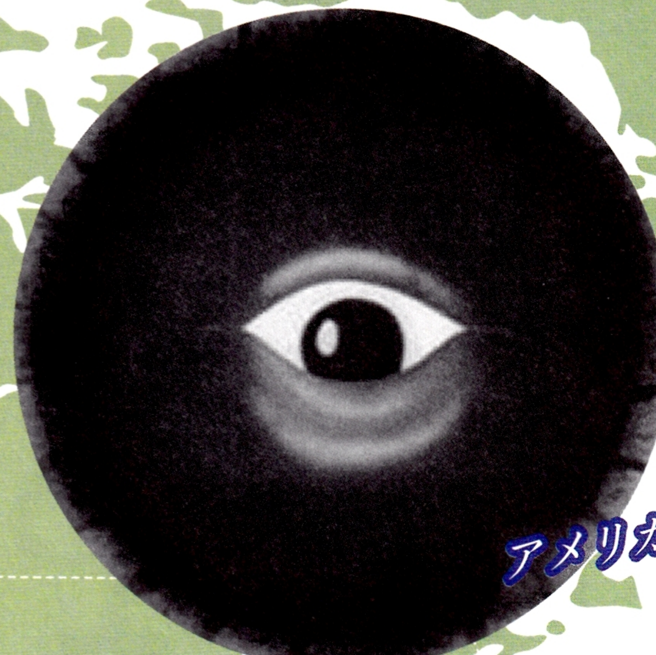
吸血夜叉

これまたアジアの吸血妖怪。外見は中国の夜叉に似ているが、性質はまったく異なる。（第1部52話）



ランスブィル

吸血軍団の主要メンバーの一人である、アジアの吸血妖怪。しかし吸血鬼にもいろいろいるのね。（第1部52話）

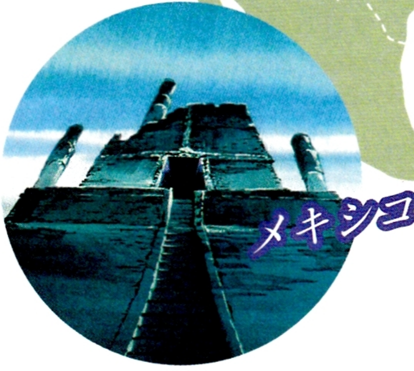


バックベアード

アメリカ代表として妖怪ラリーに参加。西洋妖怪を束ねる力をもち、ロンドンでパーティをしていた。（第1部10話ほか）

雨神 ユムチャック

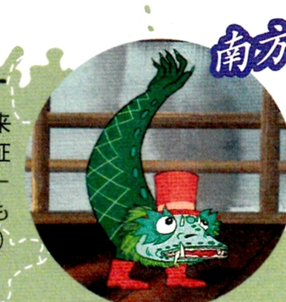
ユカタン半島チェチェン・ヒッツァーの町の中心にある、泉の源に住むといわれる雨の神。（第2部44話）





デオクロドノドン

クジラの祖先で、通称“大海獣”。3億年前の生物だが、ニューギニアの奥地でまだ生きていた。（第1部5話）



吸血鬼ピー

自ら南方からやって来たと名乗る。日本を征服するため、セクシー吸血鬼モンローとともに襲来。（第2部25話）



ガマ人

ニューギニア山林の奥に暮らす半獣半人の妖怪。設定上はボボンギ沼のボボンガ島のボボンコ洞窟。（第2部16話）



ワラ男

元は人間で、ニューギニアのボボンゲ村に住んでいた。ワラ男は仮の姿で、実はガマ人。（第2部16話）



モンロー

吸血鬼ピーの妻で、ピーの手助けをするため一緒に日本にやって来る。どう見てもマリリンモンロー。（第2部25話）

WORLD

意外とワールドワイドな鬼太郎世界の妖怪たち。日本に攻め入ってきた妖怪から自国で悪さする妖怪、さらに味方の妖怪まで、世界を代表する一流妖怪たちが大集合!?



悪魔ベリアル
明治元年に日本を征服しようと、ポルトガルより商人にまぎれ来日。カラス天狗に封じられる。（第1部30話）

グレムリン
妖怪ラリーにロシア代表の妖怪として出場。同名の映画の生き物とは無関係のようだ。（第1部54話）

フランケンシュタイン
ドイツを代表する妖怪として、妖怪ラリーに参加するため、日本の佐渡島にやってくる。（第1部54話）

井戸仙人
作品中では特に触れてないが、原作では中国からやってきた仙人として登場。何でも知っているがすぐ忘れる。（第2部2話）

オオカミ男
60年代に多数登場する、イギリスを代表する妖怪。ちょこちょこ日本を狙っている。（第1部10話、54話、58話）

九尾の狐
チー妖怪の姉。日本で殺生石に封じ込められたところから、おそらく有名な玉藻前と思われる。（第2部2話）

夜叉
目玉おやじが劇中で、夜叉のことを中国の変幻自在の妖怪と説明している。実体は髪の毛。（第1部2話）

ラ・セーヌ
フランスのパリで猛威を振るっていたが、鬼太郎を倒すために飛行機に乗って日本へやってくる。（第1部4話）

チー妖怪
中国から来た妖怪。九尾の狐の弟で、姉を倒されたことで日本人に恨みを持ち渡来してきた。（第2部2話）

アカマタ
ヤシオトシとともに南方の島からやってきた妖怪軍団の一人。自ら"妖怪解放軍"と名乗る。（第1部39話）

パシャ
ペルシャの死神。自国で魂が手に入りにくくなったため、日本で魂を手に入れようと企み日本の死神と組む。（第2部45話）

妖花
南方の島のジャングルに咲く花。日本まで種を飛ばし、花子の部屋で育つ。妖怪事典には載っていない。（第1部32話）

ヤシオトシ
南方から軍艦に乗ってやってきた"妖怪解放軍"の一人。ガマが崎にアカマタとともに現れる。（第1部39話）

南方の妖怪
妖花のある南方のジャングルに生息する小鬼（ゴブリン）。（第1部32話）

迦桜羅
インドの神で、唯一牛鬼を封印できる力を持つ。日本では牛鬼が出る地域の神社に祭られている。（第2部15話）

鬼太郎＆妖怪たちの
乗り物大図鑑

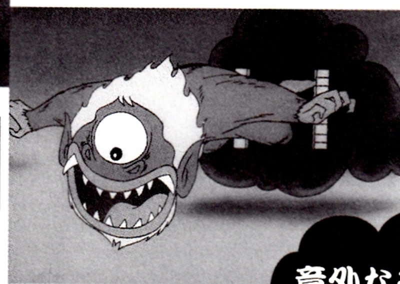
ぜひ体験してみたい物も、絶対乗りたくない奴も含めて全28種類＋アルファ。意外と危ない移動手段を使っていますね、この人（？）たち。

意外なモノにも乗ってます



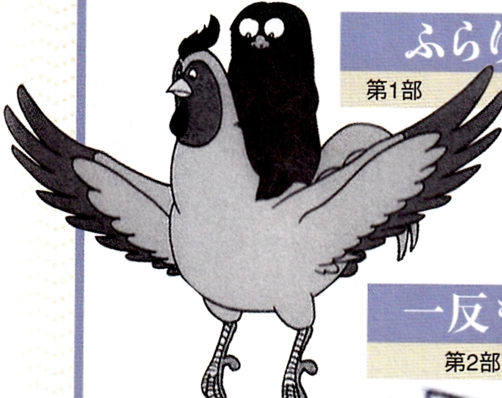
コウモリ　動物
第1部　第16話

吸血鬼エリートは、彼らをギターで呼び出します。でもコイツ、自分でもコウモリになれるんだよね。自分で飛ぶのがよっぽど面倒くさいのでしょう……。



妖怪ホバークラフト　機械
第1部　第43話

外見はどう見ても雲。でも、自動で開く扉が付いているからやっぱり機械なのかな？　ひでり神は、出版社の人間を誘拐するときにも、これを使っていました。



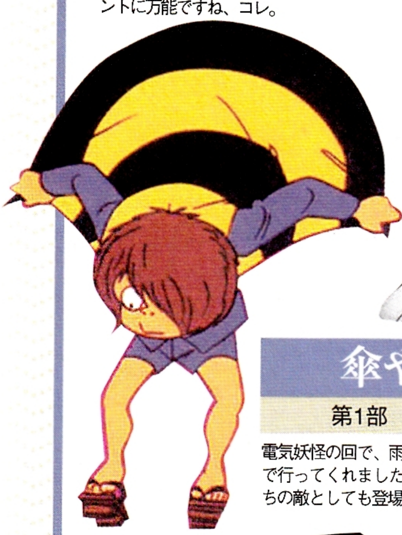
ふらり火　妖怪
第1部　第55話

直立している毛羽毛現がキュートです。ふらり火は石燕の画集にも登場する、由緒正しい空飛ぶ怪火。でもこのデザイン、どう見てもニワトリですよね……。



ヘリの代わりに使われちゃたまらんよ～

一反もめん　妖怪
第2部　第2話



ちゃんちゃんこ　衣装
第2部　第28話

先祖の霊毛で編んだという、鬼太郎の力強い味方。パラシュートのように降下したり、魔法の絨毯みたいに上に載ったり、ホントに万能ですね、コレ。

空

第1部での最もオーソドックスな飛行手段は、おなじみのカラスヘリ。第2部からは一反もめんも大活躍し始めます。そのほか敵妖怪の自家用機（？）も大集合！

自分の力で空を飛べる妖怪って、意外と少ないんですよね。そう考えると一反もめんの存在って偉大。第2部以降はブツブツ文句を言いながら、鬼太郎を乗せて飛び回っています。



傘やん　妖怪
第1部　第25話

電気妖怪の回で、雨雲の中を電気妖怪の住処まで飛んで行ってくれました。別名傘化け。ときどき鬼太郎たちの敵としても登場します。



魔女のホウキ　器具
第1部　第10話

「妖怪大戦争」の初戦は、魔女VS.一反もめんの空中決戦でした。魔女と言えばやっぱりホウキですよね。これが杖とかバットじゃ、なぜか飛ぶ気がしません……。

カラスヘリ　動物
第2部　第4話

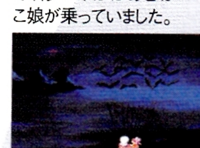
鬼太郎ファミリーの最も メジャーな飛行手段と言えばコレ。第1部第26話では、目玉おやじがカラスの足を結わえて、このヘリを作っていました。



乗り方もイロイロです



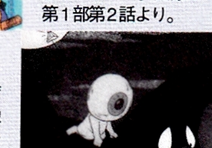
↓カラスゴンドラ。ほとんど気球みたいなイメージです。第2部第33話「悪魔ブエル」の回で、砂かけばばあとねこ娘が乗っていました。



↑気持ち良さそう！　もっともオーソドックスなパターンの、座席付きカラスヘリ。画像は第2部28話「あかなめ」より。



↓カラスの背中に直接乗ることもある。目玉おやじが鬼太郎から離れて空を飛ぶときは、ほとんどコレ。画像は第1部第2話より。



↑座席を作る余裕が無かったのか、足に結わえた紐を直接持つことも。鬼太郎はともかく、後ろの人は人間なんだけど、腕は大丈夫？

番外編1　目玉を乗せた動物たち

鬼太郎から離れたら、移動するだけでひと仕事の目玉おやじ。そのちっちゃいサイズを活かして、小動物や昆虫に乗りまくりです。



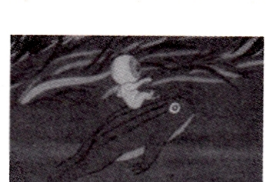
ニワトリ

FFシリーズのチョコボの原型!?と見まがうような乗りっぷり。一番鶏を早く鳴かせて子供たちを妖怪から救った、第1部1話「おばけナイター」のときの"初乗り物"です。

コウモリ

第2部32話「目目連」より。ダークな雰囲気漂うコウモリも、おやじが乗るとポカンと口を開けて、なんか楽しそう。おやじも地上に向かって手を振って、ヒーロー気分です。





カエル

第1部63話「なまはげ」より。コブシを前に突き出して、なんかロデオっぽい？　目玉おやじはお腹が出てるからなあ。なんか、ダイエットにも効果ありそうですよね。

カラス

カラスヘリに乗るほかの鬼太郎ファミリーと異なり、目玉おやじがカラスに乗るときは、ほとんどこの形。第2部9話「髪さま」ほか、しょっちゅう登場しています。



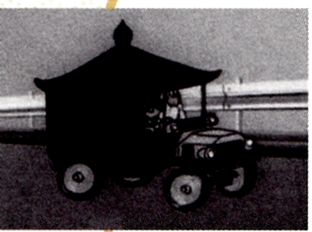


カブトムシ

鬼太郎が吸血鬼エリートに溶かされたときに、目玉おやじの前に登場。この話でおやじを乗せて、相当長い距離を飛んでます。どうやら昔、おやじと鬼太郎に恩があるらしいです。

陸

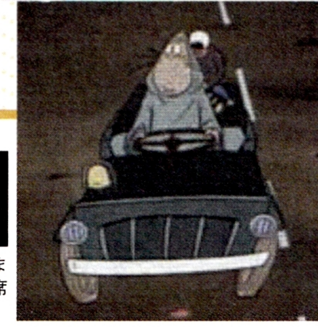
ラリーをやるって言ったら世界中から集まってくるなんて、妖怪って結構車好きが多いみたいですね。なかには絶対乗りたくない車も多数含まれていますが……。



明治時代の霊柩車 機械

第1部　第41話

これもねずみ男の持ち物。「化け猫」の回で妖気自動車（霊界自動車）がぶっ壊れたあと、これで相手を追跡しています。



ねずみ男のジープ 機械

第2部　第4話

初期のころからねずみ男はジープに乗ってよく現れます。ジープの型も良く変わるけど、鬼太郎は後部座席だったり助手席だったり、いいご身分な感じですね。

ロールスロイス 機械

第1部　第15話

吸血鬼エリートの愛車。車種は出てないけど、見るからにロールスロイスでしょ。ガイコツの敷き詰められた道路を走るには、これくらい頑丈な車じゃなきゃ!?



鬼太郎にはちょっと車高が高すぎじゃない？



霊界自動車 機械

第1部　第31話

化け火をヘッドランプに走る鬼太郎の愛車。別名・妖気自動車。ラリーのときは目玉おやじのチューンナップでかえって遅くなっちゃった。

馬 動物

第1部　第65話

第1部の最終回で登場。悪い妖怪をやっつけたお礼にもらったらしい。このあとねずみ男に取られちゃいますが。鬼太郎が馬に乗るなんて、ホントのレアシーンです。



妖怪ラリーの出場車じゃ！

第1部第54話「妖怪ラリー」は必見！世界中の名だたる妖怪たちが、ちんまりと個性豊かなレトロカーに乗っちゃっています。



←優勝候補のバックベアード。どう見ても車幅からガタイがはみ出していますが、ドッグファイトのとき大丈夫だった？

↓まあ、妖怪ラリーだけに開催時間は夜だからね。ライトをつけなきゃ危ないでしょ……。って、やっぱり闇夜は怖いのかな？





←魔女の車はかなり頑丈そうだが、途中で大破して結局ホウキで行くことに。女性に弱い審判長・赤舌のイキな計らいか？



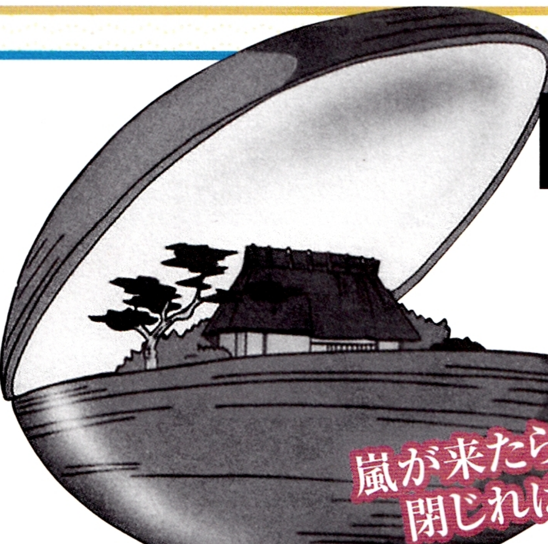
↑フランケンシュタインは、なぜか幌付きのオシャレカー。かなりマジになって飛ばしてます〜。

→手作り感溢れる水虎の車。なんだか小学生の自由研究で作った感じですね。どうも蒸気機関で走っているんじゃないかと思われマス。



海

どれをとっても、ちょっとした時化にでも巻き込まれたらひとたまりも無い気がするのはご愛嬌。このカテゴリーの乗り物は、正直あまり体験したくないかも……。



嵐が来たら口を閉じればカンペキ!?

貝 動物

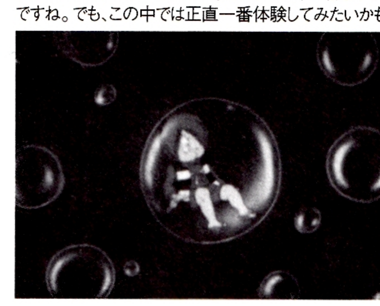
第1部　第32話

「妖花」の咲き乱れる南方の島へ、海底から引っ張り上げてきた巨大な貝でGO！　家とか庭まで入っているし、そうとう長い航海を想定しているんですね。

しゃぼん玉 自然

第1部　第42話

「人喰い島」に向かった鬼太郎が海に落ちたとき、泡に守られて浮かんできました。厳密には乗り物じゃないですね。でも、この中では正直一番体験してみたいかも。



いかだ 器具

第1部　第26話

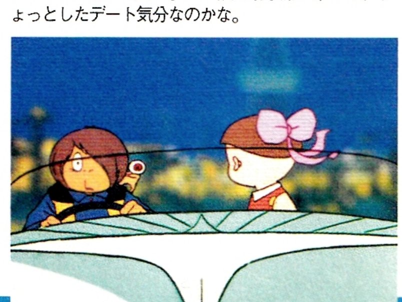
水上を移動する最頻出アイテムがコレ。形が毎回変わっているので、そのたびに作っているんでしょう。どうみても漂流しているようにしか見えないけど、大丈夫？

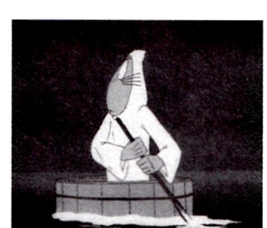


モーターボート 機械

第2部　第8話

「マンモスフラワー」ではモーターボートに乗って、あかなめの待つ現場へ。ねこ娘を助手席に乗せて、ちょっとしたデート気分なのかな。





タライ船 器具

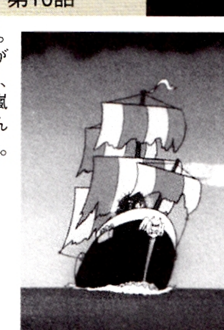
第1部　第10話

妖怪仲間においていかれたねずみ男は、このタライ船で仲間のイカダを追いかけ太平洋を渡ろうとします。もちろん途中で沈没して、助けてもらっていますが。

帆船 機械

第1部　第10話

「妖怪大戦争」にて。世界の一流妖怪が乗っているわりには、なんだかボロい。嵐が来たら一撃で沈んじゃいそうですが……。



番外編II 乗ってはいけないモノ

暴走系「怪自動車」から霊的ハイテク機器の「ゆりかごから墓場まで」まで。万が一乗っちゃったら、すぐに鬼太郎を呼んで助けてもらいましょう。

幽霊列車

第1部第7話「幽霊列車」より。お化けや妖怪を信じない高飛車なアナタは、一度乗ってみるのも良いでしょう。乗客も駅員も幽霊や妖怪ばかり。もちろん行き先は墓場です。





ゆりかごから墓場まで

第2部第42話「死神と貧乏神」より。福祉っぽい名前ですが、火だるまになって殺されちゃう、物騒な乗り物です。ちなみに同じ水木作品『悪魔くん』にも、同名の乗り物が登場。

プラモデルの飛行機

第1部第27話「おどろおどろ」より、これも暴走系。子供たちを30人も、妖怪・おどろおどろの下に誘拐してきたスグレモノです。鬼太郎は邪魔だから無人島に飛ばされました。





怪自動車

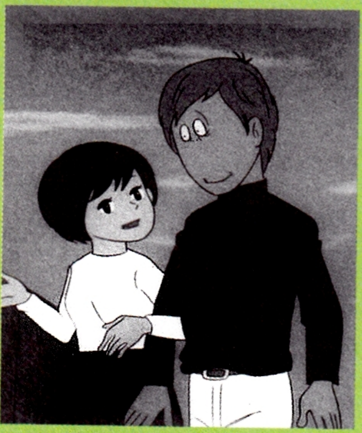
第2部第14話「怪自動車」より。人食い藻が化けたこの車に乗ると、ハンドルもブレーキも効かず、人食い藻が待つ沼まで一直線！車が増えすぎたことを嫌っての犯行でした。

アル

普段使いしやすい、ゆるく着られるモノが中心。

CHECK!

現代では女性のほうが着用していることが多いが、この時代は男性が着用するほうが主流。



ぴったりめのタートルネックをパンツインしているところが60・70年代風。第1部2話

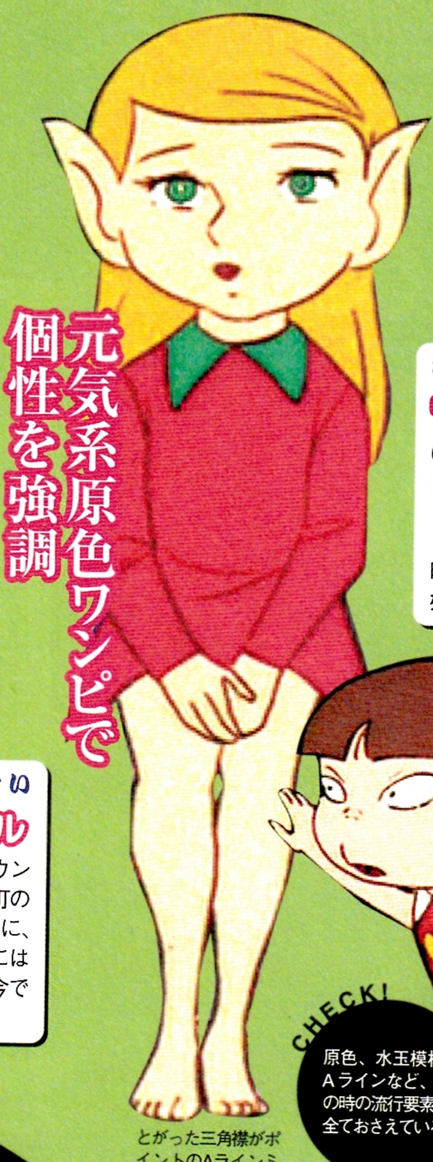


膝丈スカートにタートルネックの清楚系スタイル。第1部32話

流行すたでい

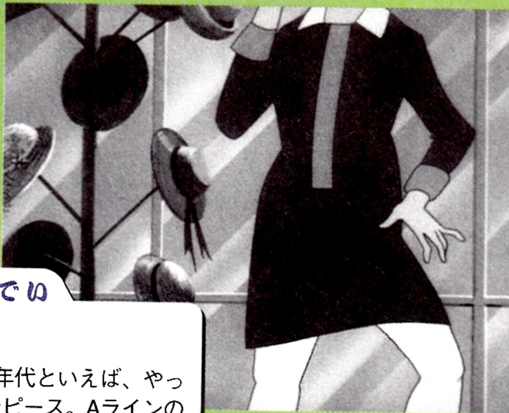
タートル

ビートルズなどのグループサウンズから発信されたロンドン下町のモッズスタイル。女性男性ともに、ぴたっと着るタートルネックにはまる人続出。ブームが過ぎた今でも定番として親しまれている。



元気系原色ワンピで個性を強調

とがった三角襟がポイントのAラインミニワンピース。第2部20話



ツーピースもAラインのミニ。ねずみ男と鬼太郎が“鍋ブラ”最中に発見という演出もにくい。

流行すたでい

ワンピ

60年代・70年代といえば、やっぱりミニワンピース。Aラインのミニスカートやずん胴型シルエットが大ブレイクした。また、この時代は水玉や花柄などの派手柄が好まれる傾向にあった。



大きめのサングラスやスカーフを頭に巻くといった小物使いも60・70年代に大流行。柄も花柄と高テクニック。



CHECK!

原色、水玉模様、Aラインなど、この時の流行要素を全ておさえている。

水玉模様のAライン、ミニワンピースでつくられたずん胴スタイル。第2部21話

ベーシック

ココではベース的なものを想定している。スタンダードで初心者にも扱いやすいモノが中心。

ヤラマトリックス

神的にもさまざまな縛りから開放され、若者がやっとファッション遊び心いっぱいのベタベタ水玉ワンピから昔懐かしいモンゲゲの鬼太郎ワールドの仲間たちです！　時代を感じないサブキャラクターとともに追ってみよう！



着物といったら絶対はずせない!!　第2部31話



普段着系和服スタイル。この時代の“お母さん”ぽい格好。第1部8話



初期のレアな、ぬらりひょんは細めスーツで登場。少しぱつんぱつんすぎ。第1部12話

流行すたでい

スーツスタイル

フォーマルでも、ちょいカジでも、蝶ネクタイがキテました。60年代は特に普段使いで蝶ネクタイをつける人も少なくなかった。オシャレなお金持ち＝蝶ネクタイというイメージもこの時代に定着。

蝶ネクタイにアコギを持って、きっちり流行を押さえたスタイル。第1部15話



CHECK!

妖怪も、人間も関係なく蝶ネクタイが普段使いされているところに年代が出ている。



和服に帽子、ステッキで和洋折衷なところがうまくかみ合っている。第2部19話

流行すたでい

着物スタイル

まだ和服を着用することが珍しくない時代。簡単に着られる洋服よりも、めんどくさくても日本古来のスタイルで過ごす人も少なくなかった。洋服と違い、着物のデイリースタイルは無地単色が基本。



花嫁衣裳にも年代でてます

シンプルな白いドレスにチョーカーやコサージュなどでアクセントをつけている。第2部41話





↑和装の花嫁衣裳もきれいめシンプル。第1部24話

←死装束は今も昔も変化ナシ!?　第2部6話

マル

カチッとしたキメ服、制服など基準のスーツ系が中心。

ゲゲゲのサブキ

ゲゲゲの世界で当時のファッション丸わかり!

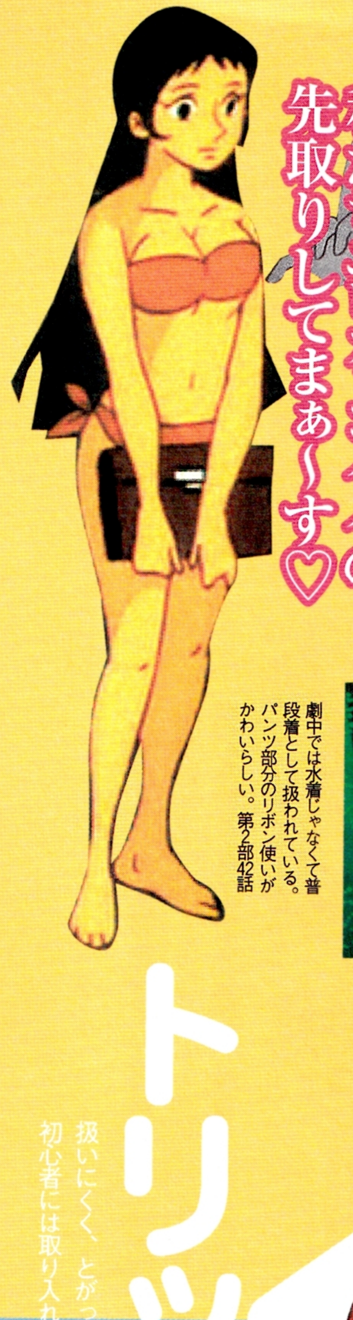
60～70年代のファッションは結構トンでます!?　社会的にも精
に目を向けられるようになったのが、ちょうどこの頃なんです。
ぺまで、マトリックスにして大公開。もちろんモデルはゲ
られるファッションを、普段脚光を浴びることの少

カジュ

トリッキー

扱いにくく、とがった感じのモノや初心者には取り入れにくいモノが中心。

フォー



私たちエロカッコイイの先取りしてまぁ～す♡



丸金印の金太郎前掛け。下着にまでこだわるねずみ男に脱帽。第1部34話

流行すたでぃ　パンツ

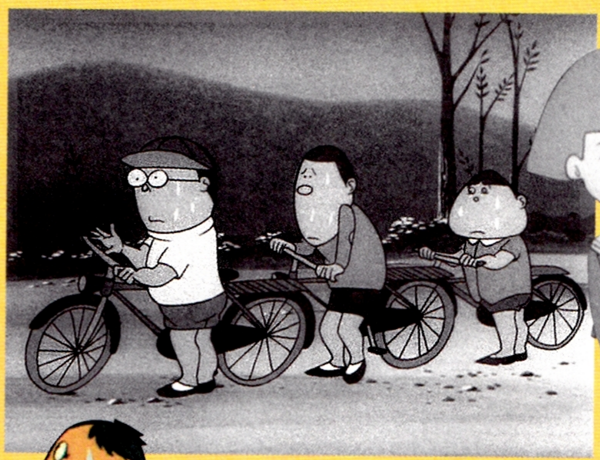
今はほぼみることがなくなったが、60年代の女子児童はもんぺ、男子児童は半ズボンが鉄則だった。70年代になると若い女性中心に男子児童のような半ズボン型超ミニ丈パンツが人気を集めた。



可憐清楚なもんぺ系。第1部14話

流行すたでぃ　露出系

チラリどころか本気露出系勢ぞろいの60・70年代。取り入れようがないほどやりすぎ路線爆走してます!! "肌みせ"なんてとっくに通り越しているのがスゴイ!!　ココまでくるとむしろ斬新。



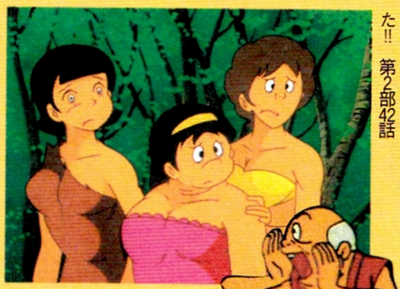
昔の子供代表、半ズボン男子3人衆。第1部9話



ボーダータートルに帽子でカジュアルだけどきちんとオシャレに。第1部12話

セーラーにもんぺ。昔の女学生の定番。第1部3話

劇中では水着じゃなくて普段着として扱われている。パンツ部分のリボン使いがかわいらしい。第2部42話

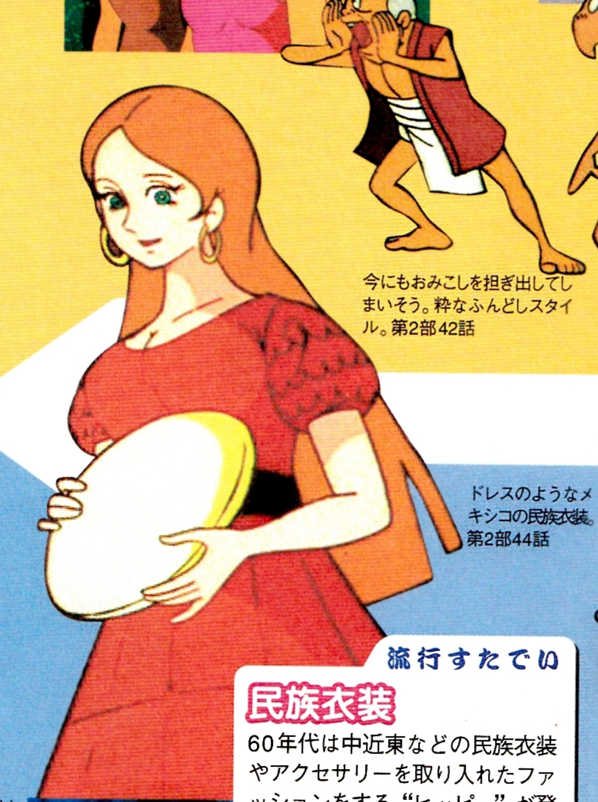


ベアトップの先駆け!?　ワンショルダーもすでにあった!!　第2部42話

今にもおみこしを担ぎ出してしまいそう。粋なふんどしスタイル。第2部42話



黄色系なのに派手すぎないようにうまくまとめている。第2部7話

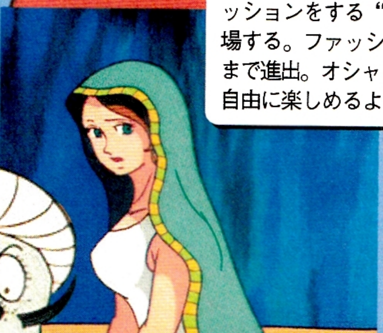


ドレスのようなメキシコの民族衣装。第2部44話

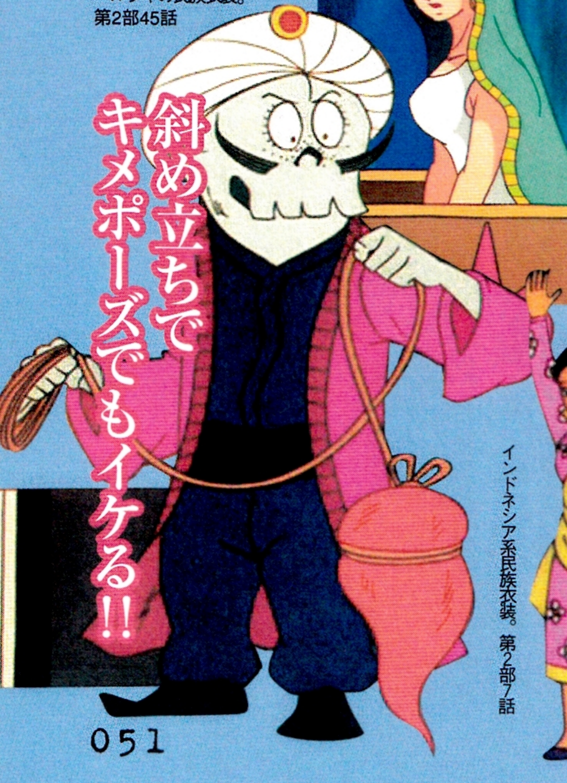
生贄にされるカルメン。薄い緑のベールに真っ白なドレス。第2部44話

流行すたでぃ　民族衣装

60年代は中近東などの民族衣装やアクセサリーを取り入れたファッションをする "ヒッピー" が登場する。ファッションが民族系にまで進出。オシャレの幅が広がり、自由に楽しめるようになった。



ペルシャの民族衣装。第2部45話



斜め立ちでキメポーズでもイケる!!



インドネシア系民族衣装。第2部7話

CHECK!

ハンチング＆ベルト付きトレンチコートと、60年代らしいコーデにも注目。



↑私服警官。流行のタートルと太目のネクタイが特徴。帽子も60・70年代っぽくてOK!!　第1部8話　→スーツにちょこんとした帽子をのせ、あえてはずした感じに。第1部20話



ベーシックな警察官スタイル。第2部28話



シルクハットに蝶ネクタイ、手袋できめたらパーティにも行けちゃいます。第1部4話



襟と同じくらいある大きめ蝶ネクタイが個性的。第1部12話



ロンドンの警官の制服。長めのジャケットがオシャレにみえる。第1部10話



4つボタンが強調されたスーツ。第2部6話

拝啓 鬼太郎様
妖怪退治お願いします!!

タスケテレター一覧

人間たちと鬼太郎をつなぐ妖怪ポスト。妖怪退治の依頼はもちろんのこと、鬼太郎宛のファンレターなども募集中です。ここでは劇中で、妖怪ポストに届いた様々な手紙をご紹介。今日も妖怪ポストはフル稼動!!


差出人

「峠で不可解な交通事故が頻発しています。妖怪の仕業だと思うのですが……」という内容と思われるが、本編では手紙の文面は出てきていない。差出人の源爺が、鬼太郎到着後にいろいろ説明しているので、詳細は書かれていなかったのだろうと思われる。

ある峠で多くのドライバーが急激に寒気を感じ、そのせいで事故が多発。妖怪画から復活して、人にとり憑き、寒さを感じさせる妖怪・ぶるぶるの仕業だった。（第1部23話）


差出人

一枚目はさら小僧の絵。『鬼太郎さん、ぼくはあなたのファンです。お父さんを助けて下さい。お父さんが蒸発した日、ぼくのうちへこんな顔をした妖怪が来ました…中略…誰も信じてくれません。だから、鬼太郎さんに手紙を書きました。（以下略）』


届け人

さら小僧の歌を盗作してしまった売れないバンドマンが、怒ったさら小僧にさらわれる。（第1部34話）


差出人

「がまが崎に外国の妖怪が現れ、子供が悪さをされています。何とかして！」という内容。手紙を届けにきた砂かけばばあがつるべ火に伝える。先に読んでいたようだが、不在の鬼太郎の代わりにもう一度確認している。


届け人

「妖怪軍団」に占領されたがまが崎。砂かけばばあが手紙を届けるがすでに鬼太郎は戦場に出た後だった。（第1部39話）


差出人

「海の上で、神隠しのように霧の中に消えてしまった妹・フミ子を助けてください」という依頼をしに来た兄の賢一。噂で聞いていた妖怪ポストを必死で探し出し、見つけた瞬間に大喜びしていると、そこでねずみ男に出会ったので、直接説明している。


届け人

フミ子は、舟幽霊を使って船を沈め、財宝を蓄える妖怪・海座頭にさらわれ、後継者にされようとしていた。（第1部26話）


差出人

「ダイヤモンド一つを残し、部屋から消えてしまった父を探して欲しい。父は鉱物学者で地獄山で採掘をしていました」という内容の、純子からの手紙だが文面は不明。ちなみにダイヤモンドは専門店に持ち込んだが、店員に「偽者だ」と嘘をつかれている。

炭素光線で、訪れた人間すべてをダイヤモンドに変えてしまう妖怪・輪入道の仕業。欲に駆られた宝石店店員やねずみ男も、漏れなくダイヤにされてしまう。（第1部36話）


差出人

『父が事故に会って以来、猫のマネをする奇病『猫うち症』にかかっています。ゲゲゲの鬼太郎さん、来てください』という手紙を出したと、息子は母親に告げる。ねずみ男も、多介の父親が“猫うち症”だと知っていて、またたびと猫いらずを売りつける。

甲州街道で発生し始めた奇病“猫うち症”にかかった父親のため、多助は鬼太郎に調査を依頼した。しかし手紙を読んで最初に来たのは、ねずみ男でした。（第1部41話）


差出人

「ある日突然、私の部屋のベランダから室内にかけて一面に咲いた、不思議な花の正体を知りたいのです。我が家までご足労いただけますか？」という内容。文面は出てこないが、手紙についている地図を見ながら鬼太郎は現地へ向かった。


よんでます

花子の家に咲いた妖花は、戦争で死んだ花子の祖父がメッセージを伝えるべく咲かせた不思議な花だった。（第1部32話）


差出人

ニセねずみ男（ムジナ）に、妖怪ポストにお金を入れると倍になると騙されて、手紙の代わりにお金を入れてしまった長吉&金平。そのままお金をとられてしまう。これは手紙ではないから番外編かも知れませんが……。


届け人

妖怪ポストに入れた小遣いを取り返すため、三太が鬼太郎をおびき出す。（第1部38話）


差出人

「僕と母ちゃんは来月、海神さまのいけにえになります……」以下は不明だが、三郎と母親が、村を守るための島神様（怒って「人食い島」になる）のいけにえになるから、助けてほしいという内容と思われる。


よんでます

ねずみ男が手紙を奪って鬼太郎に内緒で村に行くが、鬼太郎も封筒を発見し、後を追って笹岡村へ来る。（第1部42話）



ポストの不思議

鬼太郎の家のすぐ傍にあると思われがちな“妖怪ポスト”だけど、実はそうとは限らない。それ自体が生きているかのように場所がちょこちょこ移動したり、色も形も結構変わっていたりと、“妖怪ポスト”の面目躍如っす……。

フシギ その1 妖怪ポストは生きている!?

勝手に手紙を漁るねずみ男の手をはさんだり、エンディングで曲に合わせて動き、手紙を吐き出したり……。まるで生きているような動きをする妖怪ポスト。ポストの場所が一定じゃないのも、ポストが自ら動いているせいなのかも知れません。


ねずみ男が文句を言いながら妖怪ポストに手を入れると、手を挟まれちゃった!?

フシギ その2 妖怪ポストはひとつじゃない!?

初登場では「入らずの山」にあり、子供に壊されていました。ワラぶき屋根の木造ポストが最頻出だけど、雰囲気が微妙に違うものや、色や形も明らかに違うものまであるから注意して見てみよう。


第1部50話
第1部38話
第1部46話
第2部1話
第2部19話
第2部4話
第2部35話



『鬼太郎さん、すばらしい貯金箱をありがとうございます』『……という訳で、僕たちの貯金箱を盗もうとした泥棒は捕まってしまいました。本当にすばらしい貯金箱ですね。（中略）鬼太郎さん、どうぞあの貯金箱のあけ方を教えて下さい。』



流行の妖怪貯金箱をくれたのが鬼太郎だと勘違いした子供たちから、何通も手紙が来る。（第1部44話）



『相談したいことがあるからすぐ来てほしい』という内容で、住所以外、詳細は何も書かれていない様子。事情がわからないので、鬼太郎は小笠原の母島にひとり向かうことを決める。実は妖怪吸血軍団からのワナだった。



小笠原から届いた手紙。吸血樹の復活を企む吸血妖怪たちが、鬼太郎を消そうと罠を仕掛ける。（第1部52話）



第2部スタートのエピソード。妖怪との闘いを忘れ晴耕雨読の生活に入った鬼太郎は、妖怪ポストもほったらかしで平穏に暮らす。そのうち妖怪ポストは溢れんばかりのこの惨状に。ねずみ男が手紙を抱えて鬼太郎を探しけしかけるが、果たして復活するか……?



“腑抜けになった”（?）鬼太郎を無理やり連れ出すねずみ男。そこには「田を返せ〜」と叫ぶ妖怪・泥田坊が。（第2部1話）



「母親の遺体を妖怪に奪われてしまいました。鬼太郎さん、なんとか取り戻してください」という内容の手紙だが、文面は不明。差出人の幸吉は、手紙を出しに行く際、迷子になってしまったため、結局直接鬼太郎たちに話すことになってしまった。

開拓村の幸吉は、母親の遺体を妖怪に盗まれる。それは死者の魂を食べる強敵・火車の仕業だった。鬼太郎も火車の魂を入れ替える術に苦戦するが、目玉おやじが思わぬ活躍を!（第2部23話）



「××町では、生まれて間もない赤ん坊が3日間で10人誘拐された。警察が誘拐犯を捜しているが手がかりさえつかめない状況なので、鬼太郎に犯人を捕まえ、赤ん坊を取り戻してほしい」という内容。差し出し人は不明。



生まれたての幼児を大量にさらって世話をする妖怪・うぶめが幼児誘拐事件を続発させる。（第1部46話）



『拝啓ねずみ男さま、近い内に沖縄からトラジという少年が鬼太郎さんを訪ねると思います。つきましてはねずみ男様のお力で、トラジを鬼太郎さんに逢わせないで下さい。お礼は沢山致します…』



妖怪の報復を恐れた村長が、その退治を依頼に行った少年を止めようと送った手紙。結局鬼太郎に見つかる。（第1部57話）



『風人峠でふしぎな事件がおこりました。天狗村へきて下さい』。神隠し事件が起きた風人峠の近くの村に住む少年・太一が鬼太郎に手紙を出します。人を風で巻き上げて誘拐し、洞穴に閉じ込めるその手口は天狗そのもの。文面は物語に登場した通り。



少年・太一がネコ娘のすすめで、鬼太郎に手紙を書く。神隠し事件は、雨ふり天狗の仕業。（第2部4話）



「突如耐え切れないほどの痛みを感じる発作が、一ヶ月ほど前から続いています。病院にいっても原因不明ですが、鬼太郎さんなら何とかしてもらえるかと」という内容の、エリートの永島からの手紙。結局その発作で投函できず、直接話す。



医学的には原因不明でも鬼太郎なら、と思うが鬼太郎もなすすべなし。永島は遺書を残して……。（第2部34話）



『大雪山にすごい寒波がきました。大勢の村の人が、氷漬けになって死ぬ事件がつづくうち……』ねずみ男が鬼太郎の代わりに途中まで読み上げるが、そのまま北海道にいくことを決めてしまうため、後半部分は不明。



差出人・ゲンの手紙を九官鳥のキューちゃんが北海道から届ける。ゲンの姉ミツも氷漬けになっていた。（第1部48話）



「魔の岬に磯女が現れ、漁師がさらわれてしまったらしい」という内容の手紙。なんと差し出し人はねずみ男だ。手紙を読んだ鬼太郎が目玉おやじに伝える。鬼太郎はねずみ男のホラだと思っているが、目玉おやじはその手紙は本当かもしれないと考えた。



ねずみ男は磯女を退治するといい猟師たちを集め、金を取る。その後鬼太郎宛の手紙をカラスに運んでもらった。（第1部56話）



「子供の遊び場である『釜ヶ原』で神隠し事件がおきている。神隠しをなくし、行方不明の子供たちを助けてほしい」という内容の手紙。差出人の住所は聞いたこともない“一釜村”。差出人の老人は、訪れた鬼太郎に事件の詳細を伝える。



手紙を読んで動いたのはねずみ男。鬼太郎はすでに、妖力の源である髪の毛を奪われてしまっていた。（第2部19話）

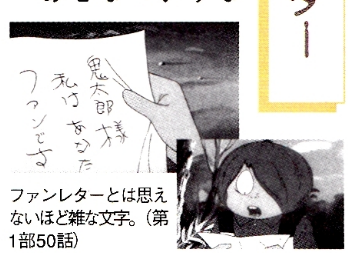


その他の手紙

ファンレターをもらったときの鬼太郎の反応は⁉ 遺書を発見したときの反応は⁉ 妖怪退治の依頼以外の、劇中に出てくる面白い手紙をチェックしてみました。

ファンレター

「鬼太郎さん、私はあなたのファンです。どうかサインを送って下さい」という文面で、送り主は不明。鬼太郎は何の興味もないらしく、特に反応もせずにねずみ男と二人であてもなく歩き出した。



ファンレターとは思えないほど雑な文字。（第1部50話）

遺書

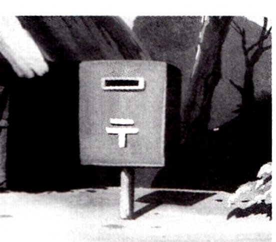
エリートの永島は、鬼太郎に医学では解明できない痛みの発作の相談しに言ったが、鬼太郎にはどうすることもできない。鬼太郎が家を訪ねると、鬼太郎宛に相談のお礼を述べた遺書が置いてあった。



並んだ遺書の中に、鬼太郎宛のものが。（第2部34話）

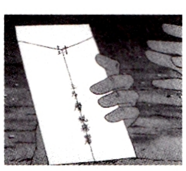
拝啓ねずみ男様

劇中で妖怪ポストを荒らしているねずみ男。ポストが羨ましいのかと思いきや、実は“ねずみ男用”のポストも存在するんです。ろくな手紙は来てないですけどね。





鬼太郎に助けを求めに来る少年を止めてくれという依頼が届く。第1部57話



ねずみ男はカワイコちゃんからと期待を持つが税務署からだった。第1部42話

妖怪と人間が混在する『ゲゲゲの鬼太郎』ワールドは、われわれが考えているよりも、はるかに奥深く、人間の常識だけでは計り知れないものがある。鬼太郎ワールドならではのおもしろ&不思議ネタを一挙に紹介するぞ!!

小ネタ 鬼太郎ワールドの重箱の隅をつつく

百鬼夜行

構成・文=山崎征則

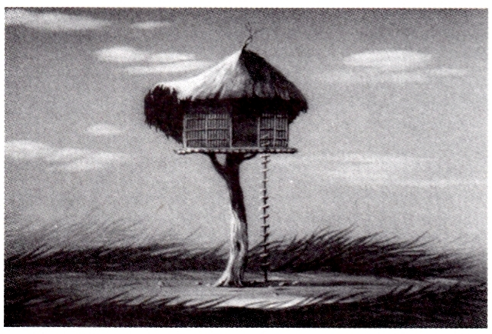
木が生長しているのか？ それとも引っ越しているのか？ 高さが変化する鬼太郎の家

鬼太郎の住んでいる家はいわゆるツリーハウスというヤツで、草原に1本立っている巨木の上に小屋がしつらえてある。しかしこの巨木、見るたびに高さがちがうのである。はじめは木がどんどん生長していることを暗示した演出なのかとも思ったが、高くなった回のあとでまた低くなったりもするので、それはないようだ。もっとも、住んでいるのが妖怪なのであるから、木だってふつうに生長するわけではないのかもしれない。もしかしたら妖木で、住人である鬼太郎親子の意識したとおりに高さを変化させることができるのかもしれないが、説としては強引か。

あとはリアリティがあるのは、頻繁に居を移しているという可能性だろう。よく見ると、高さだけでなく、家そのものの形状も回ごとに微妙にちがっている。また、第2シリーズでは木が池のほとりに生えていて、これは第1シリーズでは見られなかった風景だ。やはり転居説が有力か。



木の高さがかなり低い状態の鬼太郎家。建物の大きさから考えると、床のあたりはだいたい大人の背丈くらいの位置にあると考えられる



右の木に比べると、かなり高くなっている。大人の身長の倍はあるのではないだろうか。形状的には、右の木によく似ているが……



第2シリーズでは、木が水辺に生えていたり、大きくカーブを描くような形状だったりと、場所そのものがちがっているのがよくわかる

わりとバリエーションがある！ 鬼太郎家の扉の開き方

鬼太郎家の扉は、見るたびに微妙に細部が異なっている。そして扉の開き方には複数パターンがあった。基本はのれん型で、吊るしてある布をめくって入る。のれん型には真ん中に切れ目の入っているタイプもあった。開き戸も多く、左右、外開き、内開きなど、ひととおりのバリエーションが見られた。



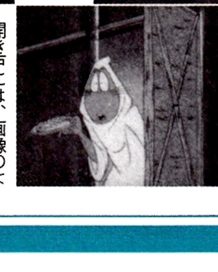
鬼太郎家の扉で一番多く見ることができたのが、この「のれん型」である。基本形としたい



開き戸のバリエーションのひとつ。左つきで外開きのタイプだ



のれん型のバリエーションで、真ん中に切れ目が入っているものも



これも開き戸のバリエーション。右つきで内開きになっている



開き戸には、画像のようにちょうつがいがついているものもある

昇り降りしやすさの追究か？ はしごにもバリエーションが

鬼太郎家は樹上にあるため、鬼太郎自身も含めて、はしごを使って昇り降りしている。このはしごにも、複数バリエーションがあったのだ。基本は、一本の柱に足場となる横木がたくさん打ち付けられているもの。ほかに、柱の左右に互い違いに差し込んであるタイプと、柱そのものが2本ある。いわゆる普通のはしごのタイプなどが確認できた。



2本の柱の間に横木を並べた形状は、第2シリーズでよく見かけた



柱は1本だが左右の足を交互にかけられ、昇りやすそうな形状だ

サブタイトルは登場妖怪にあわせ字体そのものが工夫されている！

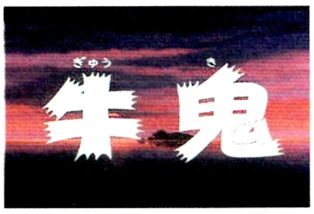
サブタイトルの字体が毎回同じアニメ番組は多い。というよりそれが普通である。べつにそれが悪いとは思っていないが、『ゲゲゲの鬼太郎』のようにサブタイトルが毎回手描きでバラエティあふれるものを見ると「おおっ！」と感心してしまうのもまた事実。しかも字体そのものだけでなく、ロゴ表示の演出もいろいろ凝っていた。おもしろいサブタイトルはまだまだあるのだ。ここで紹介しきれなかったものを127ページでも紹介しているので、見てほしい。



まず基本となるのが、この筆文字タイプ。毎回、手書きで書き起こされているため、同じ筆文字でも字の形状は一定していない



昔の映画によくあったような、左右の文字が手前に見える遠近感のあるロゴだ。



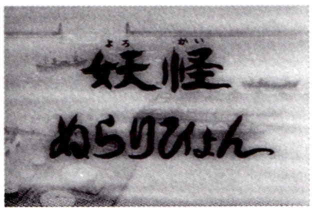
がっしりした太いゴシック系の文字を、先端だけギザギザにした存在感のあるロゴ。



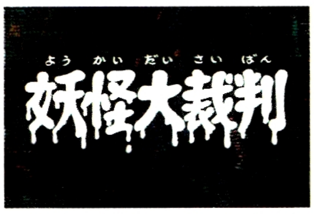
妖怪の名前に合わせるかのように、クネクネっと曲がったロゴが独特である。



この形状のロゴを見ると原始時代を思い浮かべてしまうのは、某アニメのせいか？



字面を見ただけで、なんだか「ぬらり」として「ひょん」なイメージを与えてくれるロゴ。



いまにも文字が溶け出してしまいそうなロゴ。灼熱の地獄を表現しているのか。



タイトルのとおり、雨や水をあしらったロゴ。青系の配色もなんだか寒々しい感じ。

スタッフの遊び心？随所に貼られた張り紙や看板のバリエーション！

特に第1シリーズで多かったのだが、背景のいたるところに張り紙がしてあり、生活感をかもし出していた。なかには、含蓄のある言葉が書かれていたりするものもあって、読んでいるだけでもけっこうおもしろい。鬼太郎家の壁にも貼ってあるが、目玉おやじが書いたにしては大きすぎるのが謎。鬼太郎が代筆したのか？

味わい深いのは張り紙だけではない。店の看板などにも注目してもらいたい。なかには、なぜこんなことに？と思ってしまうような妙ちくりんなものもあるので、意外にあなどれないのだ。また、看板には時代性を感じさせるものが多く、現代の目で見ると感慨深いものがある。

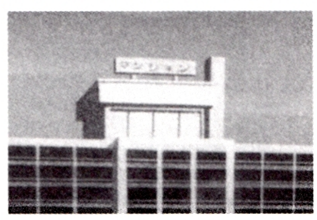

鬼太郎家の壁に「整理整頓」の張り紙が。散らかすほどの物は置いてないのにな。


その後の鬼太郎家の壁。「整理整頓」の下に「おやじ」と追記されている。なぜ？


「妖怪さんのための貸間あり」の張り紙が。妖怪に部屋を貸すとは命知らずな！


ねずみ男の部屋らしいのだが、カレンダーにねずみ男の写真が入っている。

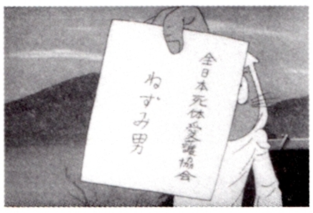

「中華」の文字が店内から読むように貼られており、外からは裏文字になってしまう



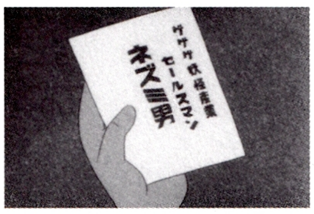
屋上に堂々と「マンション」と書かれた看板が。「マンション」という名前なのか？

金儲けはビジネスだしビジネスといえば欠かせないものは……ねずみ男の名刺いろいろ

いつも金儲けをたくらんでいるねずみ男が、いかにもビジネスマンらしく見せるために使う小道具のひとつとして、名刺がある。ねずみ男はこういう細かいところには気を配っているらしく、毎回状況にぴったり合う肩書きの名刺を出しているのだが、あらかじめ何種類かそれらしいものを用意しておくのだろうか？



その場で殴り書きしたような感じの名刺。死体を愛護する協会ってなんかイヤだ



上のものに比べ、ロゴも凝っている名刺。これはあらかじめ作ってあったのか？



ねずみ男が偽名を使って人間に接触したときの名刺。ほかにもいくつかありそうだ。

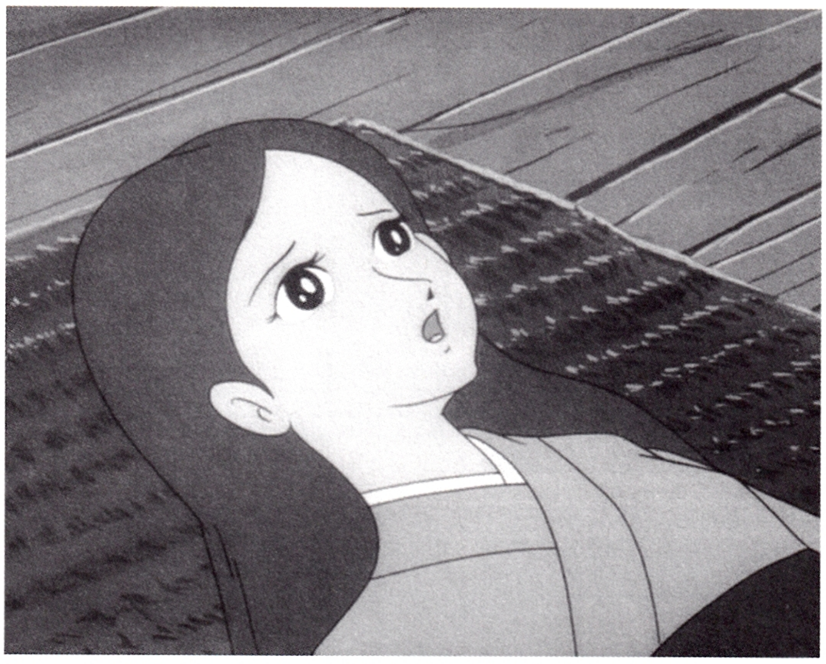
金に汚いねずみ男は自分よりあつかましい役人が嫌いらしい？

金にはうるさいと自負しているねずみ男だが、それ以上にケチだったり強欲だったりする人間には嫌味のひとつも言いたくなるらしい。特に一般国民に対してあつかましい役人に対しての嫌悪感は強いようだ。


無報酬で鬼太郎を召集する役人に、妖怪よりタチが悪いと皮肉る。第1シリーズ『大海獣』より。

登場するのは妖怪だけじゃない！殺伐しがちな画面をいろどる美女&美少女を一挙に大公開!!

正義の妖怪少年・鬼太郎が、人間に危害を与えようとする妖怪と戦う『ゲゲゲの鬼太郎』。基本的には殺伐としがちな物語だから、ヒロインらしき存在もいない。第2シリーズにはねこ娘がほぼレギュラーで出演しているけれど、さすがに人間の基準でみると、美少女といっていいかどうか微妙だ。だからというわけではないだろうが、ゲスト出演する人間たちの中に、ときどき美女や美少女がいたりするのだ。おそらく制作スタッフたちも妖怪ばかり描いているのがツラくなるのでは、と勝手に想像してみたりして。毎回、かなり作風の異なる美女&美少女が登場するのだが、それなりに鬼太郎ワールドになじんでいるのが不思議である。というわけで、ここでは編集部が独断と偏見でピックアップした美女たちを一挙公開！　なかには人間じゃないのも混じっているが、そこはご愛嬌だ。どの娘がお好みかな？


第1シリーズ『雪ん子』より、ミツさん。ミス大雪山になるほどの美女だが、寒さにより氷漬けに。


第2シリーズ『雨神ユムチャック』より、カルメンさん。生贄としてユムチャックの国へ旅立っていった。


第1シリーズ『吸血鬼ラ・セーヌ』より、カトリーヌさん。この直後ラ・セーヌに血を吸われ、シワシワに……。


第1シリーズ『吸血鬼ラ・セーヌ』より、花沢京子さん。日本のテレビスターということは、モデルは……？


第1シリーズ『妖花』より花田花子さん。幼少期に両親を亡くし、健気に生きている。


第1シリーズ『陰摩羅鬼』より、啓子さん。この時点ですでに陰摩羅鬼に乗り移られてしまっていた。

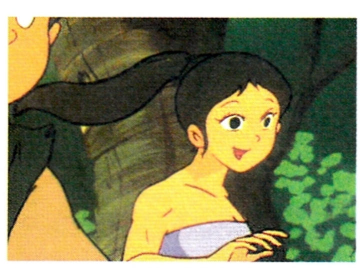

第2シリーズ『原始さん』より、湯水産業の社長秘書。知的美人の水着姿っていいよね。


第2シリーズ『霊形手術』より、月子さん。貪欲に美を追い求めるあまり、最後に石化してしまう。


第2シリーズ『死神と貧乏神』より、アナウンス嬢のお姉さん。流し目とマイクを持つ手が色っぽい。

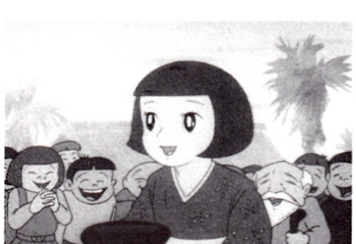

第1シリーズ『ゆうれい電車』より、ろくろ首さん。白山と黒川の向かいに座り、首をにゅ～っと！

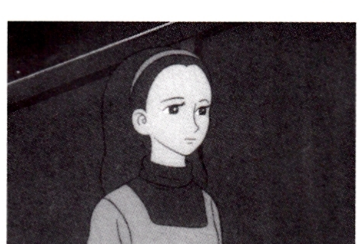

第1シリーズ『隠形魔法』より、村人A。老人の姿だったのが、かめの中の若さのエキスで元通り。


第2シリーズ『原始さん』より、ポニーテールの美女。原始さんの密林では、水着のみの着用。


第1シリーズ『うぶめ』より、看護婦さん。病院内で新生児がさらわれているのを発見して絶叫。


第2シリーズ『死神』より、ねずみ男の妄想の中の娘さん。ねずみ男はふくよか美人が好みか？


第1シリーズ『隠形魔法』より、村人B。村人A同様、若さのエキスを取られ老人になっていた。


第1シリーズ『だるま』より、通りすがりの女性。だるまが運転している車に轢かれてしまう。

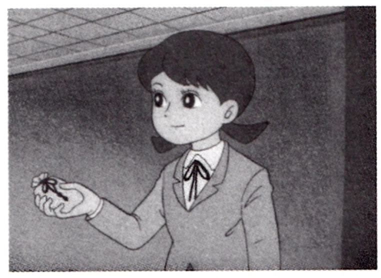

第2シリーズ『死神と貧乏神』より、友子さん。無実の罪で逮捕されたシンシン電気専務の娘。



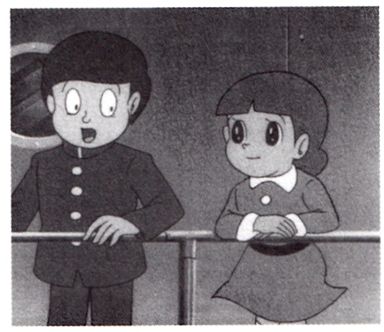
第1シリーズ『鏡爺』より、カオリちゃん。父親が買ってきた鏡に吸い込まれ、囚われの身になってしまう。



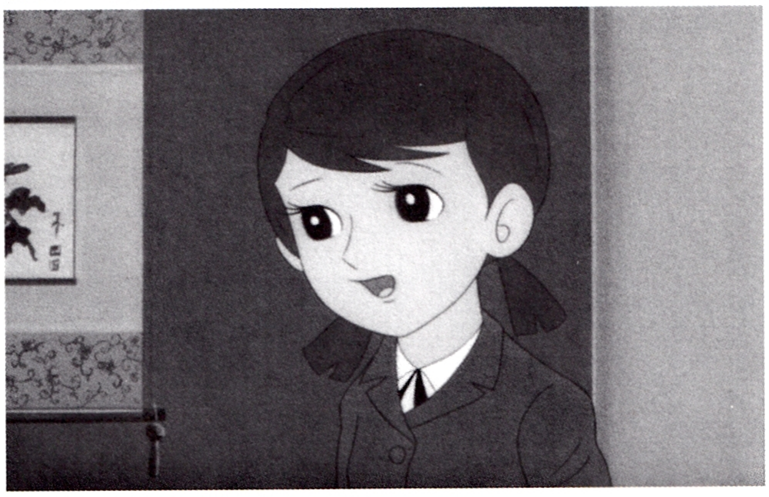
第2シリーズ『死人つき』より、霧子ちゃん。病死したところを、もうりょうにとり憑かれてしまう。



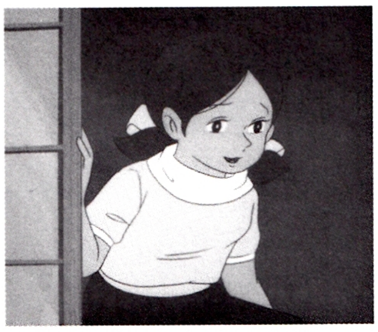
第1シリーズ『大海獣』より、山田啓子ちゃん。科学者山田秀一の妹で、お守りを渡そうとするが……。



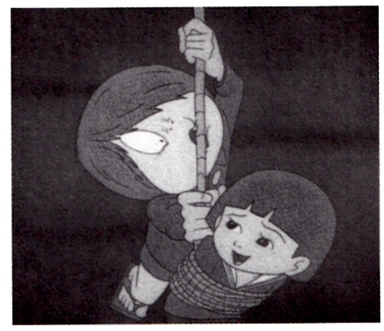
第1シリーズ『海座頭』より、フミ子ちゃん。兄と船旅の途中、霧に囲まれて海座頭に囚われの身に。



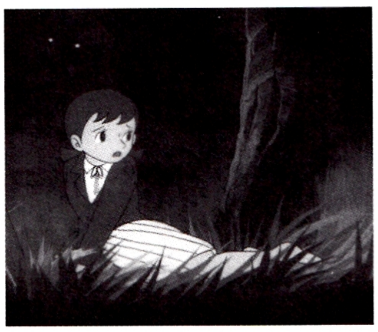
第1シリーズ『白山坊』より、花子ちゃん。父親が交わした古い約束により、白山坊のもとへ嫁ぐ運命に。



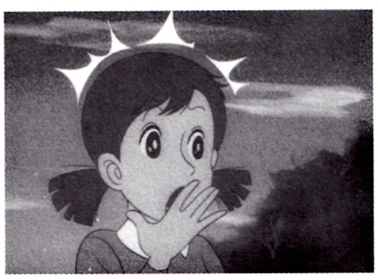
第1シリーズ『ダイヤモンド妖怪』より、純子ちゃん。行方不明になった鉱物学者の父親を捜している。



第1シリーズ『妖怪城』より、とみ子ちゃん。妖怪の生贄として差し出されるが、鬼太郎により救出。



第1シリーズ『鏡合戦』より、雲外鏡ちゃん。こんなにかわいいのに、正体は人間の姿を借りた妖怪だった。



第1シリーズ『なまはげ』より、花子ちゃん。神社にお参りの最中、突然出てきたなまはげの顔に驚き逃げる。

こちらは美女というにはやや年齢が足りない、という美少女たち。もちろん若くても幼くても、かわいいものはかわいいので、愛でるぶんには問題ナシ、である。しかしこんなかわいい子たちが、妖怪の魔の手にかかり、ひどいときには死んでしまったりもするのである。ちょっとブルーな感じの筆者であった。

少女ということで、学校の制服を着ている子や、髪を後ろでふたつにまとめた髪形の子が多い気がする。当時のマンガやアニメでよく見かけた髪形だが、流行ったのだろうか。

そして美女、美少女ともに多かった名前が「花子」。日本人の基本だ。

エンディングの歌詞どおりだった？ ゲゲゲの鬼太郎を讃える虫たち



山道を歩く鬼太郎のあとをついてきた小動物たち。こういったシーンは意外に多い。



さまざまな種類の生き物が一堂に会し、鬼太郎を讃えるかのように歌っているのだ。

鬼太郎は虫やカエルなどの小動物たちと語らうことのできる少年である。劇中でも、道を歩く鬼太郎の後ろにつき従うようについてくる虫たちの姿や、エンディングの歌詞のとおり、鬼太郎の業績を讃えるかのように歌いだすシーンがあったりもした。鬼太郎の目となり耳となって、世の中の動向を探ってくれる虫たちは、鬼太郎の頼もしい仲間なのだ。

妙にかわいい小動物 そういえば製作は東映アニメーションだ

第1シリーズのエンディング映像を眺めていると、「ゲッゲッゲ～の鬼太郎を～讃え～る虫たち～」というフレーズのところに出てくる小動物たちが、作品の雰囲気とは不釣合いなほどにかわいらしい。どちらかというとほのぼの系の顔つきだ。それでよく考えてみると、アニメ版の製作会社は東映アニメーションだった。かわいい小動物を描くほうが普通で、怖い妖怪のほうが特別だったというわけだ。



鬼太郎やねずみ男の顔つきと、小動物の愛くるしい表情は明らかにちがう。

風見鶏と同じ!? 首を向けたほうに飛んでいく巨大鶏

第1シリーズ『毛羽毛現』に登場した巨大鶏。森でフクロウに襲われ墜落して地面に埋まっていたところを、ねずみ男が掘り出して自分の乗り物にしていた。鬼太郎がそれを利用して目的地へ行こうと、方向を変える際、鶏の首をぐいっとねじって方向転換していた。これを見て思い出したのが風見鶏。なるほど、鶏というのは首の向きが重要ということか。



風見鶏はそうだけど、鶏は首を向けた方向へ飛ぶ習性でもあるのだろうか？

世界各地の風景が垣間見える！意外に国際的な鬼太郎の世界



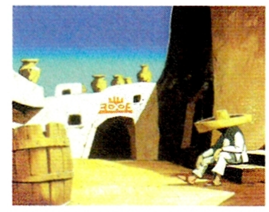
モアイ像が立ち並ぶイースター島。鬼太郎はこんな所にも来ていた。

鬼太郎自身が海外へ行ったり、海外から妖怪（というか悪魔とかモンスター）が日本にやってきたりと、意外なことに『ゲゲゲの鬼太郎』はインターナショナルなアニメだったのだ。当然、背景にもそれっぽい国の景色が描かれている。ここではそんな背景をいくつか紹介しよう。

ひと目見ただけでわかるモアイ像やエッフェル塔、ビッグベン。人物の服装が中南米っぽいメキシコ。ニューギニアはちょっと難易度が高いか。



一瞬東京かと思ってしまうが、これはエッフェル塔。つまりパリだ。



街角にたたずむ人物の服装で、ここがメキシコだということがわかる。



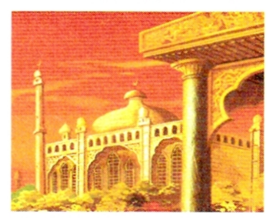
ただの廃墟ではない。これはカンボジアのアンコールワット遺跡だ。



ロンドンといえばビッグベン。次のカットでは名物の霧も出ていた。

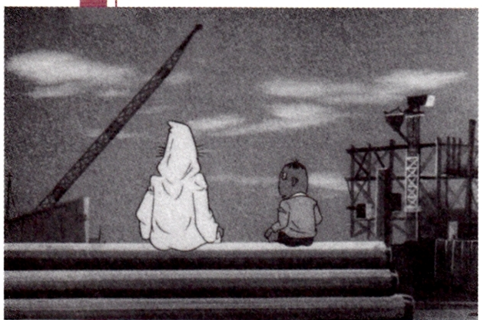


密林を流れる曲がりくねった大河。これはニューギニアの風景である。



金ぴかの豪華な宮殿が描かれているのはアラビア。死神バシャの故郷だ。

高度成長時代を象徴しているのかあちこちに見られる工事現場風景

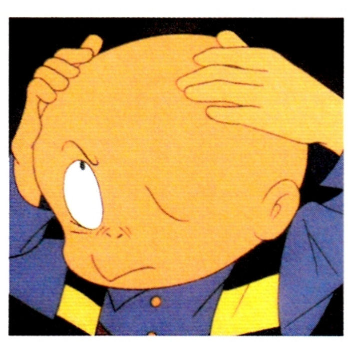


アニメ版製作スタッフの目には、当時の日本が工事現場だらけの国に見えたのだろう。

本作品を観ていると気づくのだが、あちこちに工事現場の風景が登場するのだ。工事現場そのものが舞台になることもあれば、上のカットのようにただ空き地で会話しているだけの場面でも、背景に工事現場が描かれていたりもする。本作品が放映されていた当時の日本は、ちょうどこんな感じで、急速に開発が進んでいた時代だったのだろう。

いつも前髪に隠れて見ることのできない鬼太郎の左目が!?

鬼太郎の左目がどうなっているのか、疑問に思っている人は少なくないはず。じつは何度か、ほんの少し鬼太郎の左目が現れるシーンがあったのだ。そのときの鬼太郎は、ずっとまぶたを閉じたままだった。今度はそのまぶたの下が気になる……。



まぶたをずっと閉じたままの鬼太郎の左目。このまぶたが開くシーンはさすがに存在しない。

劇中で「山手線の内側」と言っていたけど、銀座は……

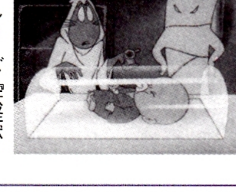


銀座は山手線で行くとしたら有楽町駅が最寄りとなる。ギリギリ山手線の外側なのだ。

第2シリーズ『原始さん』の回で、東京のいたるところが密林と化してしまうシーンがあったのだが、ストーリーの流れでは、山手線の内側だけが密林化したような感じだったのだが、なぜか銀座も密林になってしまっている。ギリギリだけど、銀座は山手線の外側にあるのに。原始さんが海から上がるとき、巻き添えで密林にされてしまったのか？

昔の映像じゃない！リアルタイムで鬼太郎が赤ん坊に……

妖怪獣、巨大なまずとの立て続けの戦闘で、氷漬けになってしまった鬼太郎。それを海じいが粉々に砕いて鬼太郎家に持ち帰ったのだ。なんと液体に戻して保育器にかけることで、生き返るのだという。このときの鬼太郎は、人間のような赤ん坊となって生まれ変わっていた。



第1シリーズ『妖怪獣～後編～』より。赤ん坊となって生き返った鬼太郎。

鬼太郎ってば妖怪のクセに注射の経験あるの!?

第1シリーズ『大海獣』で、科学者・山田秀一の罠にハマり、大海獣の血液入り注射を打たれるシーン。そこで鬼太郎が一言。「こんなに痛い注射は初めてだ！」……って鬼太郎、まるで痛くない注射なら経験があるかのような口ぶりなんだけど。妖怪って注射を打つ機会があるのかなあ？



注射そのものが初めてなら話はわかるんだけど、「痛いのは」だからなぁ。

いつもはキツイ目のねこ娘なのにこの乙女な瞳は何!?

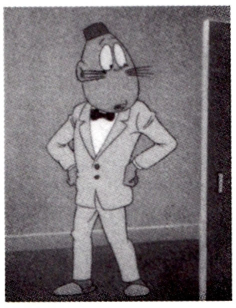
大きな白目に点のような黒目と、ヒロインらしくない顔つきのねこ娘。それがこのシーンでは、恋する乙女といった雰囲気に浸り、目つきまで変わってしまっている。こんな顔もできるとは、女はやはり魔物である。



第2シリーズ『地獄の水』より、非常に珍しい乙女ちっくになっているねこ娘の瞳と仕草。

いつもボロボロのねずみ男がスーツでドレスアップ!?

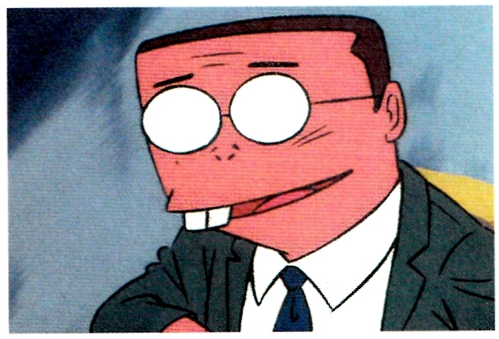
いつも全身をすっぽり覆ったボロ布を1枚まとっているだけのねずみ男が、なんと銀座の一流店にオーダーしたスーツを着ているカットがあるのだ。新興宗教を立ち上げて儲けた金で買ったらしいのだが……?



第1シリーズ『猫娘とねずみ男』より、スーツでめかしこんだねずみ男。あまり似合っていない。

同一人物? いえいえちがいます 典型的日本人の顔つきなのです

レギュラーキャラでもなんでもないのに、毎回「あれっ? また出てる」と思う顔がある。丸メガネに出っ歯、猫背で短足。ほとんどはモブシーンの中にひとりいるだけの存在だが、ときには名前のある、その回のメイン的登場人物であったりもする。おそらくこれが、原作者である水木しげる氏の考えた、典型的な日本人の顔つきなのだろう。だから彼らはどこにでもいるし、いつでも見かけることができるのだろう。



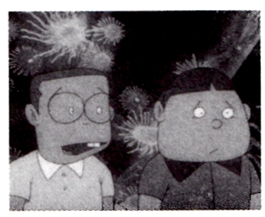
第2シリーズ『死神と貧乏神』に登場した刑事。目立たないほうがなんかでは有利かも。



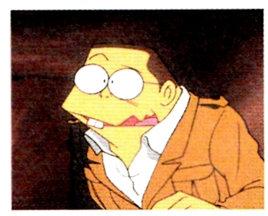
第2シリーズ『地相眼』に登場した安井氏。息子もよく似た顔。



第2シリーズ『足跡の怪』に登場した中村氏。名前も典型的日本人。

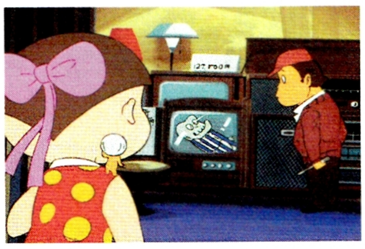


典型的日本人顔には、少年バージョンも。子供のころからこの顔だ。



第2シリーズ『雨神ユムチャック』の菅原氏。美女カルメンと結ばれる。

カラーテレビはまだまだ高級品!



テレビが手の届く値段になるまでは、こうして店頭でテレビを観ている人もけっこう多かった。

ねこ娘が電気店の店頭でテレビを観ているシーン。カラーテレビの上に値札がついているが、そこに書かれた数字は127000円とある。当時の貨幣価値を考えると、サラリーマンの初任給よりはるかに高い。まだまだ出たてだから仕方ないか。

妖怪なら妖怪らしくうつむいて歩こう?



歩き方は怖いけれど、よく見ると口元のとんがり具合がギャグ漫画っぽく、愛嬌もあるようだ。

第1シリーズのころは、鬼太郎が妖怪らしい仕草を見せることが多かった。特にその歩き方は、うつむきながら両手をだら〜んと下げ、のそっ、のそっと歩くのだ。うっかり夜道で見たら怖くて逃げ出すかも。そういう目で見ると、この髪型も怖い。

ついていけなくて当然性能がちがいすぎる!

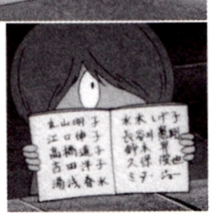
第1シリーズ『見上げ入道』の回で、子分を引き連れてサイクリングするガキ大将の忠助。しかし子分たちがついてこられず、怒鳴り散らしている。だが自転車のデザインをよく見ると、忠助だけロードスポーツタイプの高性能な自転車ではないか。



劇中でも6段変速を自慢していた。子分たちのは変速なしの業務用自転車。そりゃかわいそうだ。

作品中に作者登場!? しかしこの人は……





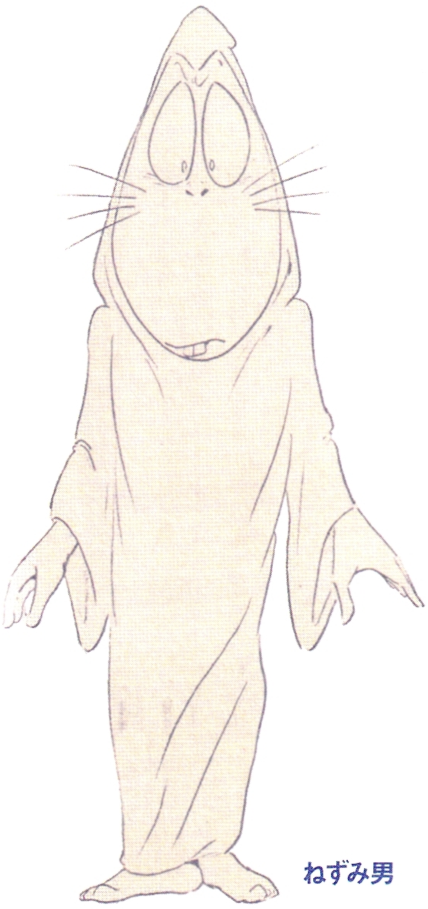
原作者自身が出た回は一度きりだが、右のノートの「水木しげ子」のように、いろいろな形で登場しているので、興味があるなら探してみては?

第1シリーズ『おぼろぐるま』の回で、漫画家「水木しげる」が登場する。いうまでもなく『ゲゲゲの鬼太郎』の原作者だ。劇中の彼も『ゲゲゲの鬼太郎』の作者で、現実に鬼太郎と遭遇して大混乱。本人も鬼太郎に会ったらやはり驚くのだろうか?

第1,2シリーズ『ゲゲゲの鬼太郎』設定資料集

第1シリーズ放映の68年といえば40年近く前。残されている資料は数少ない。第2シリーズも同様。その、ペンの「かすれ」も味わい深い貴重な設定資料を公開！

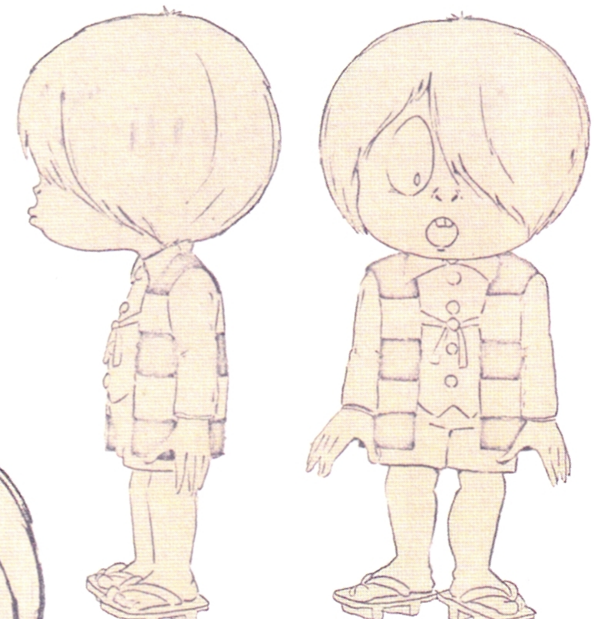
第1シリーズ



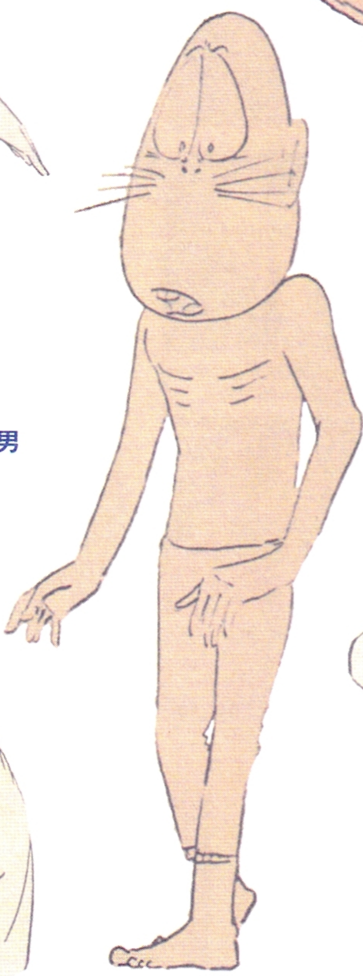
ねずみ男

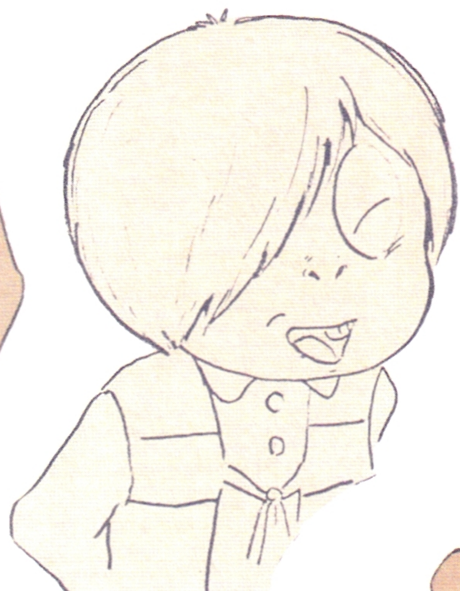


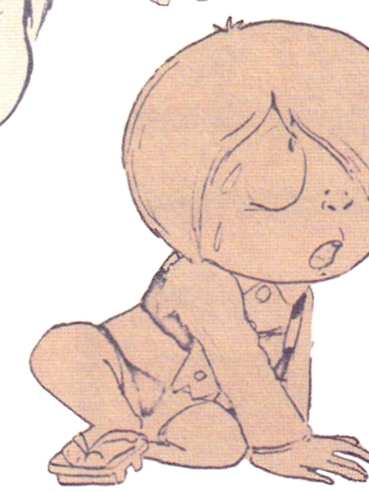
目玉おやじ

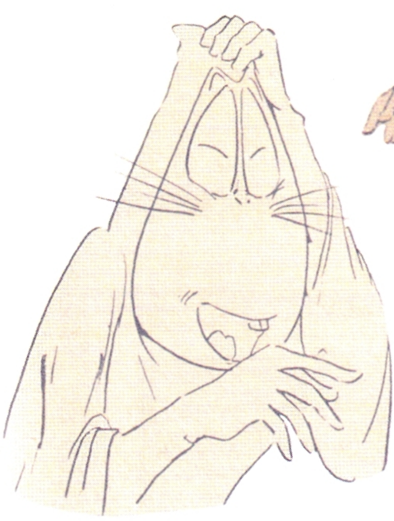


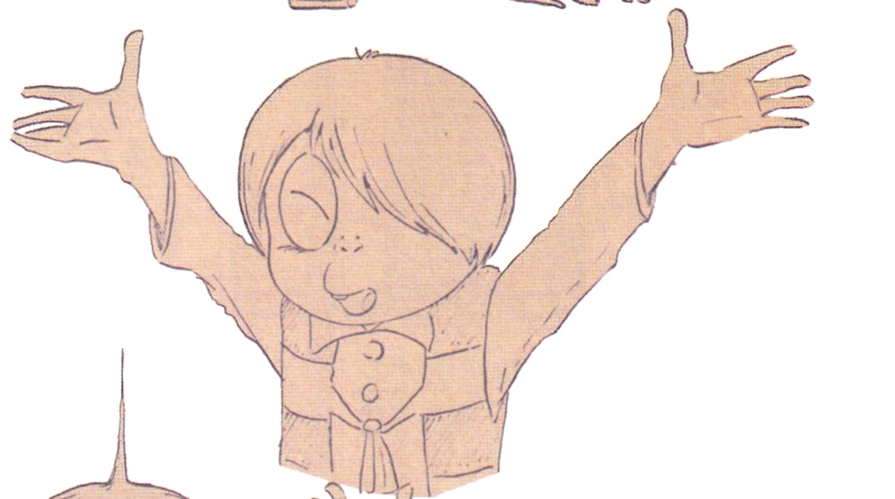
ゲゲゲの鬼太郎





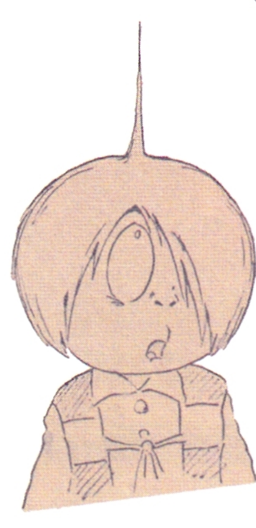


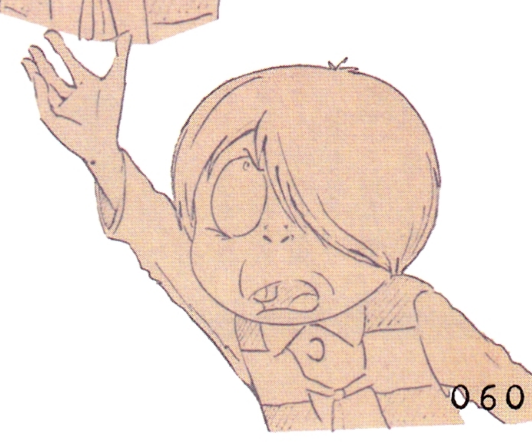




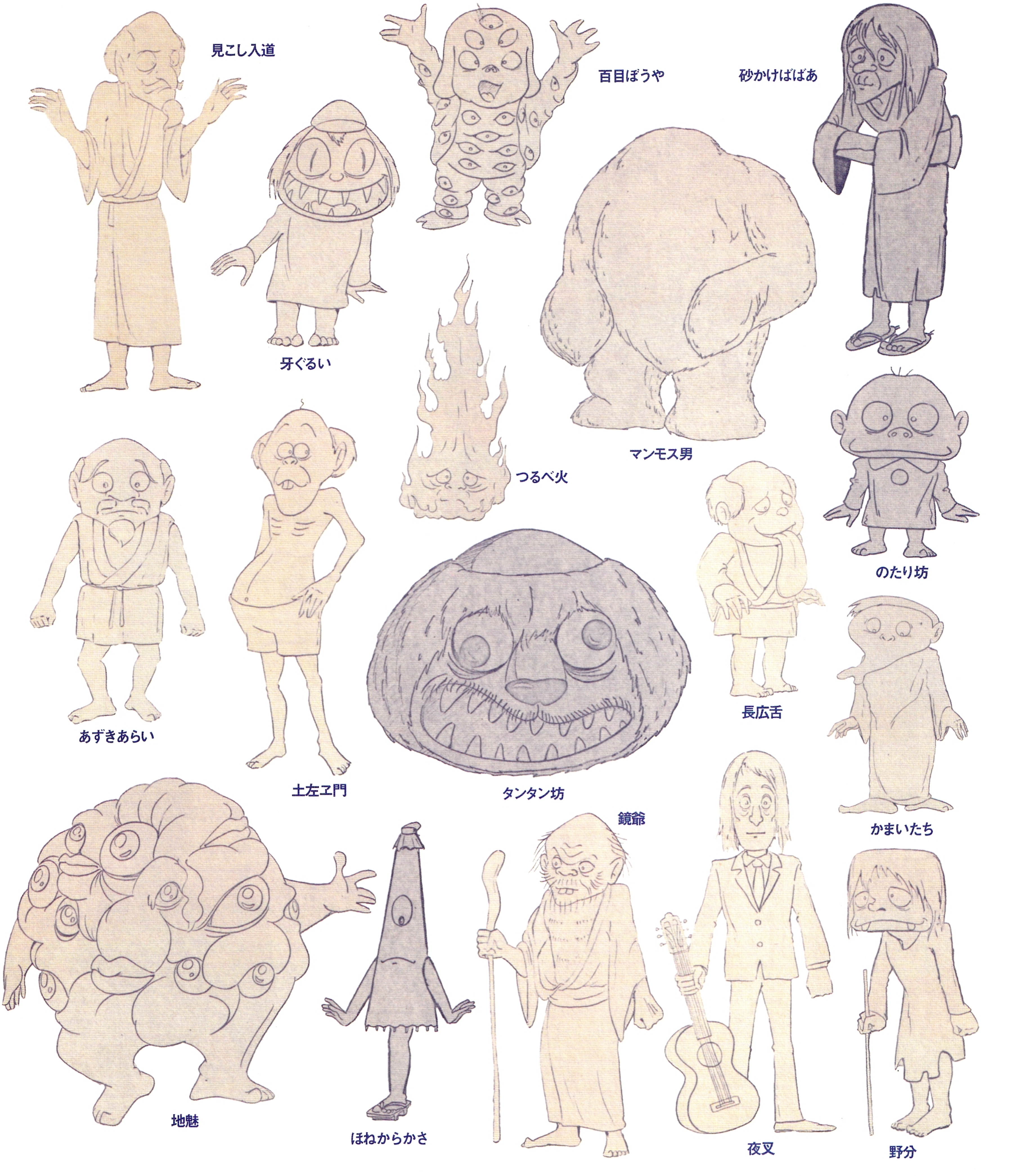


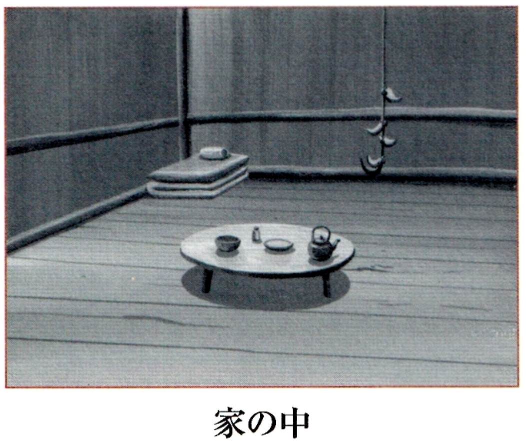
キャラクター比較図





※当時「青ヤキ」と呼ばれた湿式コピーを使用しているので
このような色になっています。

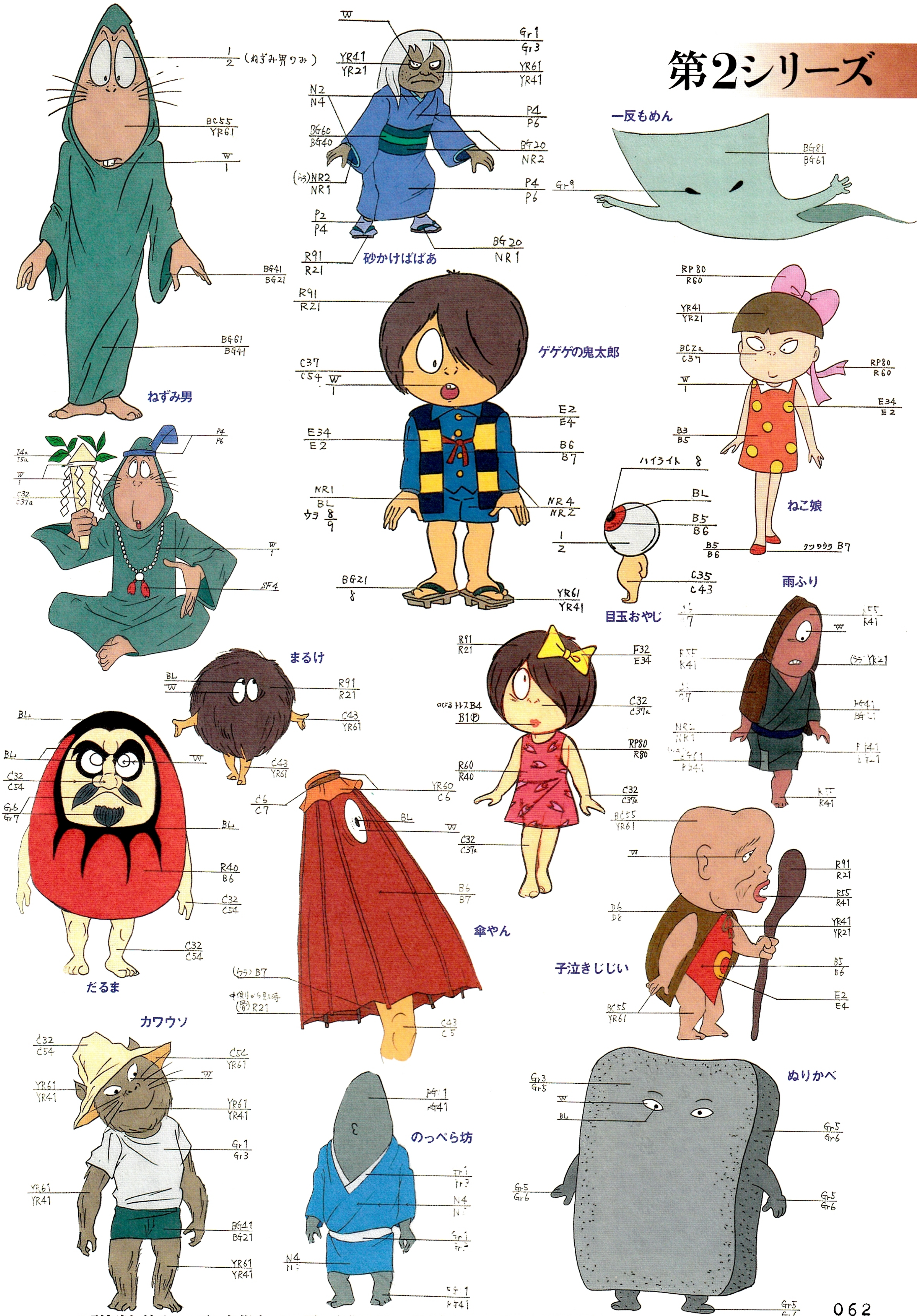



家の中

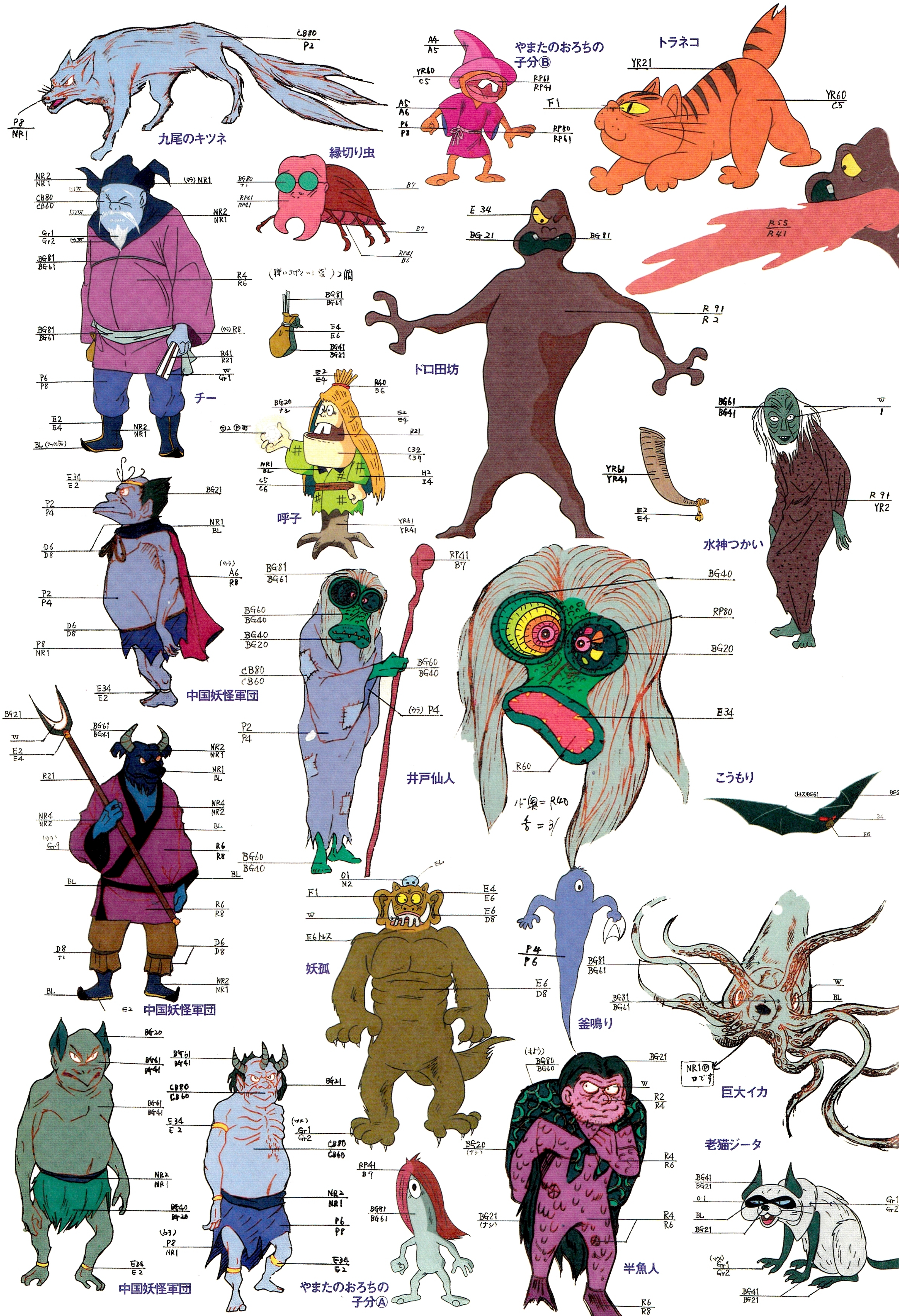

鬼太郎ハウス


妖怪ポスト

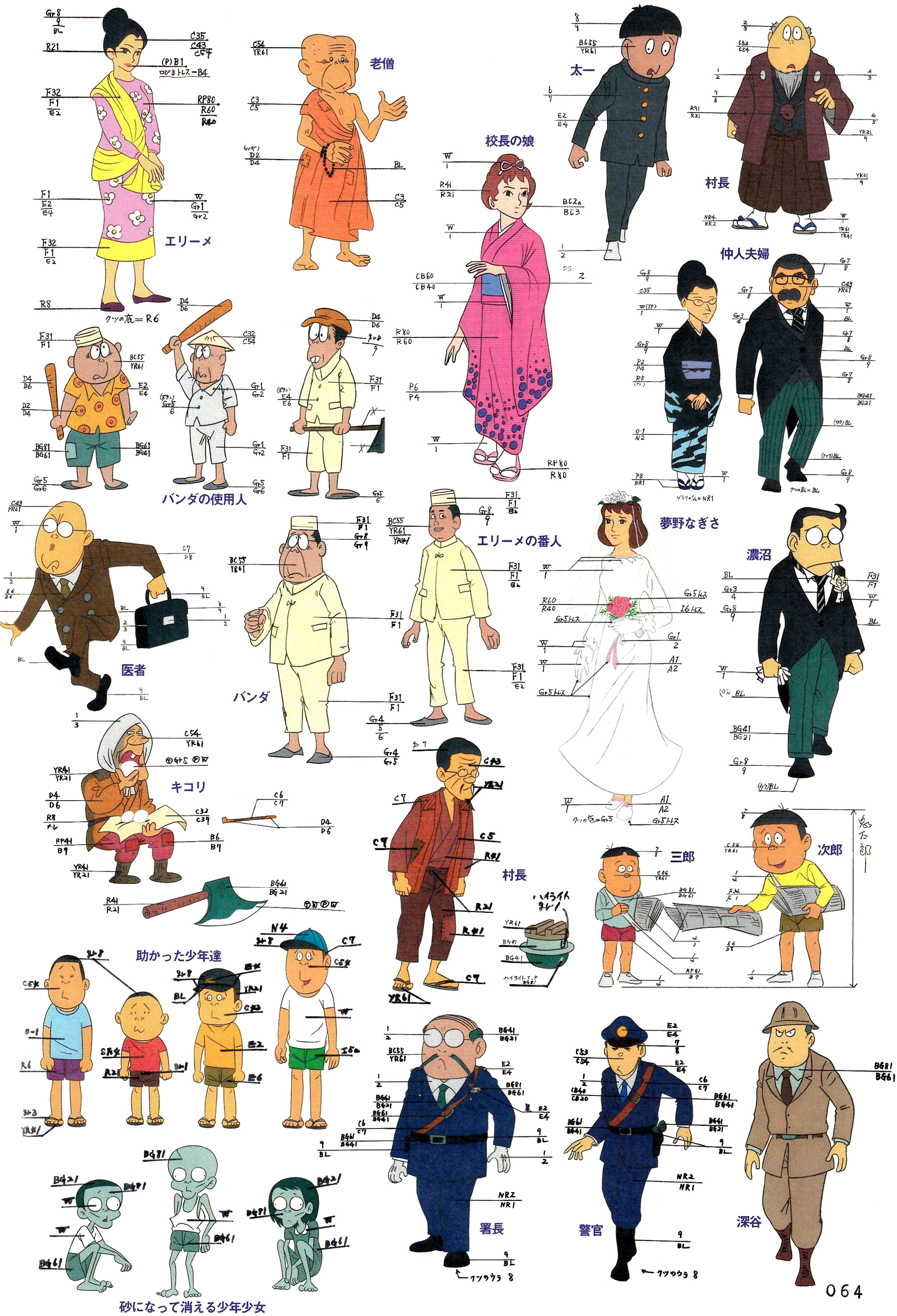
第2シリーズ



※引き出し線はセル画の色指定。セル画の劣化により一部変色しているところがあります。



九尾のキツネ
やまたのおろちの子分Ⓑ
トラネコ
縁切り虫
チー
ドロ田坊
呼子
水神つかい
中国妖怪軍団
井戸仙人
こうもり
中国妖怪軍団
妖孤
釜鳴り
巨大イカ
老猫ジータ
中国妖怪軍団
やまたのおろちの子分Ⓐ
半魚人


エリーメ
老僧
太一
村長
校長の娘
仲人夫婦
バンダの使用人
夢野なぎさ
エリーメの番人
濃沼
医者
バンダ
キコリ
村長
三郎
次郎
助かった少年達
署長
警官
深谷
砂になって消える少年少女

「ゲゲゲの鬼太郎」カウントアップセレクション

鬼太郎VS妖怪の闘いを数であぶり出す!!

アニメ作品を観ていると、強く印象に残るお約束シーンがあるものだが、それらが実際にどのくらい劇中で展開されたのだろう？ TVアニメ第1・2シリーズの、そんなお約束シーンの数々を実際にカウントすることにより、浮き彫りにしてみたいと思う。

PART 1 鬼太郎の超能力

妖怪でありながら人間を愛し、人間を苦しめる悪い妖怪たちと戦う鬼太郎。そんな鬼太郎の武器となるのが、数々の超能力だ。姿かたちは人間に近い鬼太郎だが、彼がまぎれもない妖怪であることを示すものでもある。

鬼太郎がよく使う能力は、髪の毛を変化させる技と、身につけているアイテムを思念操作して使う技の2種類に大きく分かれているようだ。

鬼太郎のそれぞれの能力が劇中でどのくらい使われていたのかを数えてみたところ、もっとも多く使われた髪の毛飛ばしの92回が最高で、ほかの技は多くても2話に1回程度の割合でしか使われていない。妖怪と戦わない回ももちろんあるのだが、これは鬼太郎があまり自分の超能力を過信せず、話し合いによる解決や、知恵を使った頭脳戦など、別の方法も併用しているためだ。意外にクレバーな鬼太郎である。



鬼太郎が下駄を飛ばした回数 50回

第1シリーズで26回、第2シリーズで24回と、ほぼ平均的に2回に1回の割合で鬼太郎は下駄を飛ばしている。おもに妖怪と戦うとき、飛び道具として使うのだが、実は純粋な打撃力というよりは、思念によって遠隔操作し、細かな技を繰り出すことのほうが多い。また、妖怪に直接飛ばすだけではなく、偵察任務に使ってみたり、鬼太郎自身のピンチのときにそれを知らせる目的で飛ばしたこともある。飛行機のように自在に飛ぶだけでなく、まるで鬼太郎が履いて歩いているかのように、左右交互に地面を跳ねることもある。



鬼太郎が髪の毛を飛ばした回数 92回

第1シリーズで50回、第2シリーズで42回と、ほぼ毎回のように使っており、鬼太郎のメイン技といえる。しかし、この技だけで敵を倒すことは難しいようで、時間稼ぎ程度で終わるシーンも多かった。おそらくはフィニッシュ技としてでなく、プロレスでいうところの痛め技的な扱いだと思われる。ということは、あまり体力を消耗せずに使える技なのだろう。バリエーションとして、髪の毛を飛ばさずに長く伸ばして敵を絡め取る技も見かけた。



鬼太郎がちゃんちゃんこを脱いだ回数 64回

第1シリーズで33回、第2シリーズで31回、鬼太郎はちゃんちゃんこを脱いでいる。敵の策略によって脱がされたこともあるのだが、これは敵も鬼太郎のちゃんちゃんこを警戒していることを示している。ちゃんちゃんこの使い方は多種多様で、敵を窒息させる武器になったり、鬼太郎を守る防具になったり、さらには単独で飛行して鬼太郎のアンテナとしての役割を果たしたりと、まさに万能のスーパーアイテムだ。ひょっとして鬼太郎より強いかも？



鬼太郎の妖怪アンテナが立った回数 50回

第1・2シリーズともに25回ずつ。放映話数からの割合としては第2シリーズのほうが使用頻度が高かったということか。アンテナは自分の意思で立てるのが基本だが、まれに勝手に立っていた。ただ、鬼太郎は毎回妖怪と会うのに、この数字はちょっと少ない気もする。妖怪同士は、基本的にはアンテナなしで会えるものなのだろう。



鬼太郎が自分の体を小さくした回数 3回

第1シリーズは2回、第2シリーズは1回と少ないが、鬼太郎の体は自由に大きさを変えられるらしく、自分の意思で体を小さくしたシーンがあった。あまり多用しないのは、下駄や髪の毛、ちゃんちゃんこなどほかの技が使えなくなるためだろう。考えてみれば鬼太郎のおやじはあんなに小さいのだから、遺伝的に小さくなれて当然かも。



鬼太郎が霊界テレビを見ていた回数 3回

第1シリーズで1回、第2シリーズで2回。鬼太郎だけの特殊能力ではないが、妖怪ならではのアイテムといえるのが、この霊界テレビ。見ている相手からもこちらが見えるらしいので、テレビというよりテレビ電話か。妖怪テレビと呼称した回もあったが、それも含めてこの回数。形状も一定せず、かなり謎の多いアイテムである。

構成・文＝山崎征則　カウント担当＝西川諒平

PART 2

鬼太郎と妖怪たちの死闘

この項では、鬼太郎が妖怪たちと戦うなかで、数々の困難に直面してきたシーンを取り上げてみた。

妖怪たちのなかには、鬼太郎でさえも苦戦するほどの強敵が多く登場し、鬼太郎を苦しめている。しかし鬼太郎はそんな強敵相手にもひるまず真っ向から戦いを挑んでいくのだ。そのため、並みの妖怪なら絶対に復活できそうにないほどのピンチに陥ることもしばしばだった。姿を変えられてしまったり、だまし討ちに遭って捕らえられたり、姿を消されてしまったり。食べられて消化されてしまうことだってあった。

しかしそのたびに鬼太郎は不死鳥のようによみがえり、最後には妖怪を倒すのである。どんな相手でも怖じ気づくことなく向かっていき、どんな劣勢でもあきらめたりせず、そして一度敗れても復活し再び戦いを挑んでいく。この決して折れない心こそが、鬼太郎の最大の武器なのかもしれない。

鬼太郎が妖怪と戦った回数 125回

第1シリーズに72回、第2シリーズに53回と、どちらも放映回数を上回る結果となった。もちろん実際には戦いのなかった回もあるので、戦いがあるときは複数回戦うのがパターンとなっているようだ。その場合、一度目は妖怪に負け、復活してからのリベンジというかたちで勝利するパターンが多く見受けられる。そして鬼太郎が戦う理由はほぼひとつ、妖怪が人間を苦しめるような行いをしてきたときである。なかには、人間のほうが悪いのではないかと思われるような事件もあるのだが、それでも鬼太郎は人間の味方をするのである。

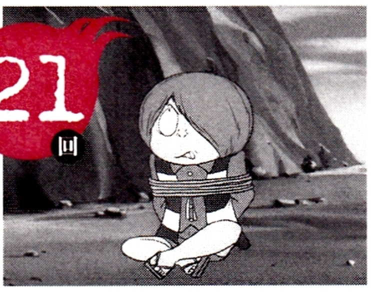


海外の妖怪が日本にやってきた回数 15回



第1シリーズで11回、第2シリーズで4回。海外では、妖怪という単語はあまり使わないのだが、悪魔や吸血鬼などのモンスターの類も妖怪としてカウントしている。軍団やコンビでやってきたこともあり、それらはまとめて1回としてカウントしての数字。特に来日回数の多かったのが吸血鬼で、典型的なドラキュラスタイルが多かったが、第2シリーズの25話に登場したピーのような、異形の吸血鬼も。ねずみ男が世界中の妖怪を招待した回もある。

鬼太郎が捕らえられた回数 21回



第1シリーズで11回、第2シリーズでは10回。数字としてはほぼ同じだが、割合で考えると第2シリーズのほうが増えている。対峙した妖怪そのものに捕らえられるよりも、ねずみ男の裏切りや、妖怪に操られた人間たちに捕らえられることが多い。基本的に鬼太郎は他人を疑わないので、それを利用した妖怪の策にハマってしまうのだ。

鬼太郎が襲われて姿を消した回数 9回



第2シリーズでは2回、第1シリーズでは7回、鬼太郎は姿を消している。妖怪の術で消される以外にも、みずから地中に潜ることもある。この地中潜りは鬼太郎の得意技らしく、何度かこの方法で妖怪の攻撃をかわしていた。また、第1シリーズの4話では、ラ・セーヌたちの銃撃を受けて姿を消し、あとに残った下駄だけでラ・セーヌたちを追い詰め、倒している。しかもラストは何くわぬ顔で家に帰っているのだ。鬼太郎は姿を消しても強い。

鬼太郎が「この妖怪め」と言った回数 7回

第1シリーズに5回、第2シリーズに2回と、あまり回数は多くないのだが、初期の鬼太郎は、人間に悪さをする妖怪と対峙するさい、このセリフを言うことがあった。当然、観ている側としては「おまえも妖怪じゃん！」とツッコミを入れたくなる。あまりにも人間と親しくしすぎて、自分が妖怪であることを忘れてしまうのか。第2シリーズで回数が減っているのは、その矛盾に鬼太郎自身も気づき、あまり言わないように心がけているからか？

鬼太郎が食べられた回数 12回

鬼太郎を食べようとした妖怪は意外に多く、第1シリーズでは5回、第2シリーズではなんと7回も鬼太郎は食べられている。鬼太郎の成分のなかには妖力をアップさせるものがあるらしいので、それが目当てのものが多かったようだ。ただし鬼太郎は、食べられることによってその対象を乗っ取り、操ることもできてしまうので、食べるときは用心しなければならない。消化されても生き返る鬼太郎の生命力は、妖怪の中でも群を抜いているのだ。

鬼太郎がぺしゃんこになった回数 6回



昔のアメリカのカートゥーンに、キャラクターが車にひかれたりタンスの下敷きになったりして、ぺしゃんこになってしまうシーンがある。鬼太郎も第1シリーズで4回、第2シリーズで2回、そんな目に遭っているのだ。しかもそのあと丸めて食われてしまったりと、マンガチックだけど怖いシーンである。

鬼太郎が別の生き物になった回数 5回



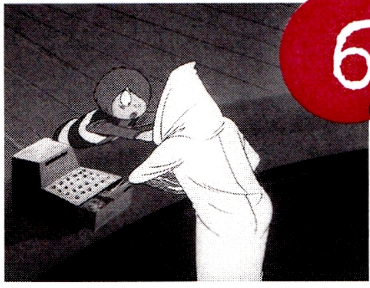
鬼太郎がべつの生き物に姿を変えられてしまったのは第1シリーズで2回、第2シリーズで3回あった。第1シリーズの5話では、人間の科学者の陰謀によって大海獣の血液を注射され、大海獣になってしまった。このときは相手が妖怪ではなかったためか相当苦戦しており、もとの姿に戻る過程が前後編の2話にわたって展開されていた。

鬼太郎が留置場に入った回数 3回

悪い妖怪を退治する正義の妖怪として、世間的評価を得た第2シリーズでは一度もなかったが、第1シリーズでは誤解されて拘留されたことが3回あった。まだ鬼太郎が妖怪退治の専門家として、その名を知られるようになる以前のことである。ただし鬼太郎のほうは人間に捕らえられても、どういうこともなく留置場から出ることに成功している。ねずみ男が身元引受人になって出たこともあったが、それがなくても簡単に脱出していただろう。

鬼太郎がねずみ男に儲けた金を返せと詰め寄った回数

6回

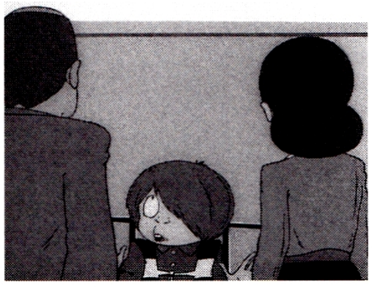


鬼太郎が「お金はいらない」と言うのは別項のとおりだが、彼の潔癖症は自分自身にとどまらない。ねずみ男が金儲けを考え、実行するやいなや、「返せ」と詰め寄るのだ。その数は第1シリーズで2回、第2シリーズでは4回。力ではかなわないねずみ男のほうは、しぶしぶ金を返すしかない。もっともかなり汚い手口で稼いだ金なので、それも仕方ないか。

鬼太郎が「お金はいらない」と言った回数

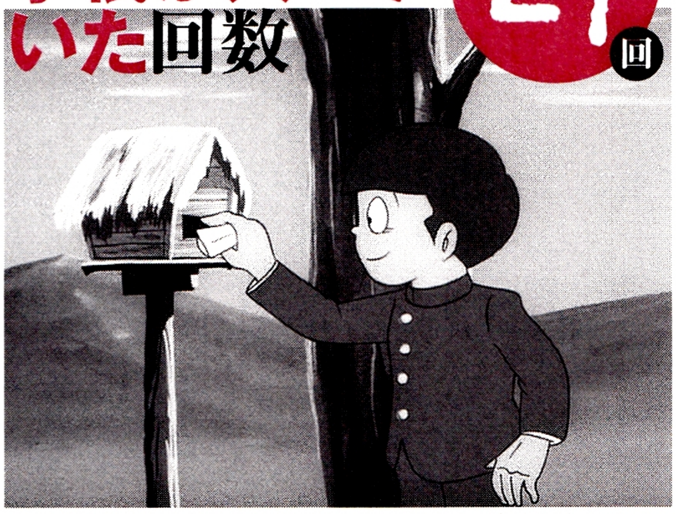
12回

鬼太郎に限らず、ほとんどの妖怪は人間社会の経済問題とは無縁だ。まれにねずみ男のように金に汚い者がいるが、彼の場合は人間との二世ということでまた事情がちがうのだろう。ともかく清貧を売りにしている鬼太郎は、相手がお金を払おうとしても、絶対に受け取らないのだ。第1シリーズでは5回、第2シリーズでは7回、受け取りを拒否していた。



妖怪ポストに手紙が入っていた回数

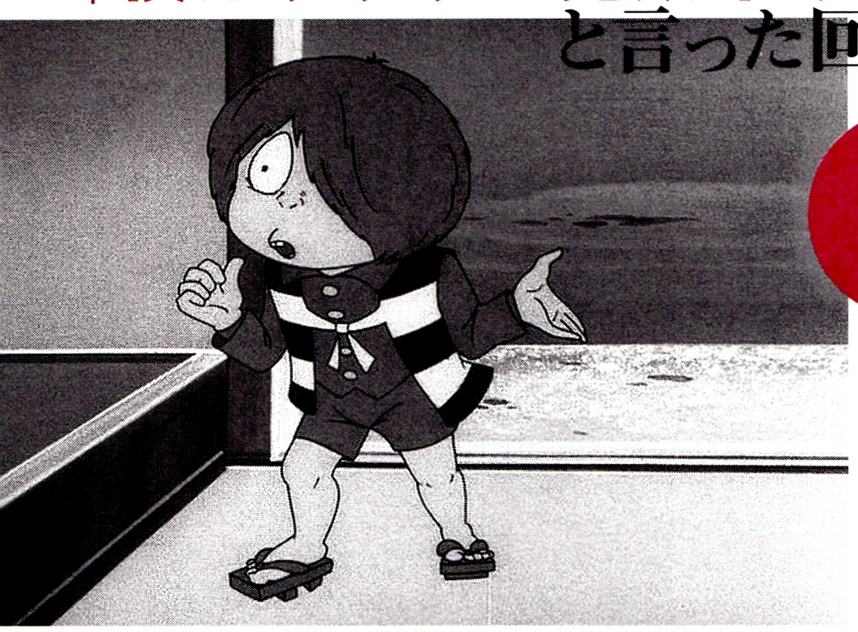
27回



エンディングにも歌われている「おばけのポスト」こと妖怪ポスト。どこかの山の中にひっそりと立っているそれは、探すのがとても難しいらしく、実際に使われたのは4話に1回という割合。これは鬼太郎の妖怪退治の回数と比較すると少なく感じられる。しかも第1シリーズでは20回あったのが、第2シリーズでは7回と激減しているのだ。逆に言えば、妖怪ポストを使わなくても鬼太郎が来てくれるということでもあり、よりフレンドリー（?）になったといえるだろう。

鬼太郎が「僕はゲゲゲの鬼太郎です」と言った回数

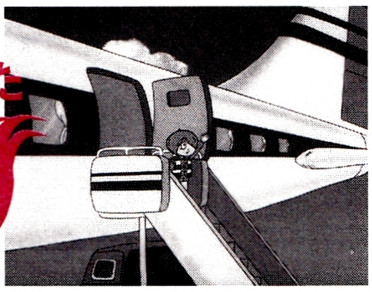
9回



鬼太郎は、名を問われたときに「鬼太郎です」と名乗ることが多いのだが、ときに「ゲゲゲの」をつけることがある。第1シリーズの第1話では目玉おやじが注釈するかたちで名乗っていたが、数えると第1シリーズで4回、第2シリーズで5回、「ゲゲゲの鬼太郎です」と名乗っているシーンがあった。「ゲゲゲの」をつけることで、どんな意味のちがいがあるのかわからないが、目玉おやじにとっては重要な問題らしいので、おそらく名門の出であることを示す重要な称号なのだろう。人間の側からみると、「ゲゲゲの」がついていたほうがより妖怪っぽい響きがある気もする。

鬼太郎が海外に行った回数

8回



妖怪退治の依頼があればどこへでも行く鬼太郎。その行動範囲は日本国内にとどまらず、海外にまで及ぶのだ。第1シリーズでは3回、第2シリーズでは5回も海外へ出向いている。移動手段はさまざまで、人間が結成した調査団に参加して、いっしょに飛行機に乗り込んだ回もあれば、いかだに乗った回、妖怪らしく巨大な二枚貝を船代わりにした回もあった。

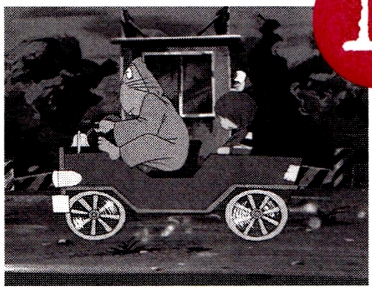
鬼太郎がねずみ男に「ばっかだなあ」と言った回数

10回

いつでも人間の味方をする正義の妖怪である鬼太郎だが、じつは案外口が悪い。特にねずみ男を相手にしたときの毒舌は顕著なものがあり、「ばっかだなあ」と言った回数は第1シリーズに4回、第2シリーズでは6回を数え、「ばっかだなあ」以外にも数々の悪口雑言を浴びせていた。もちろんねずみ男のほうも言われっ放しではない。鬼太郎に負けず劣らずの毒舌で応戦していた。シリーズ全編を通して繰り広げられる二人の舌戦は、聞いているだけでおもしろい。

鬼太郎が車に乗った回数

14回



妖怪は文明の利器とは無縁かと思いきや、意外にも車に乗った回数が多い。第1シリーズでは8回、第2シリーズでは6回と、8話に1回くらいの割合で車に乗っている。もっともその中には、妖怪専用の妖気自動車も含まれている。妖気自動車は子供でも運転でき、鬼太郎みずからがハンドルを握るシーンもしばしば。そもそも第1シリーズでは、オープニングで鬼太郎が妖気自動車を運転している。

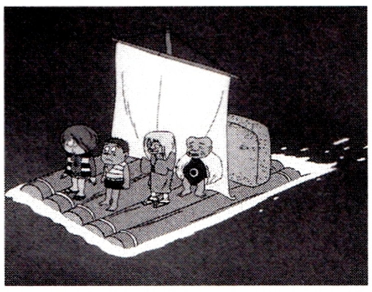
鬼太郎が先生呼ばわりされた回数

16回

妖怪退治のスペシャリストとして鬼太郎の名が知れるようになってくると、ねずみ男がそれを利用して金儲けをたくらむようになる。そんなとき、鬼太郎のことを「先生」呼ばわりするのだ。第1シリーズではなんと11回で、6話に1回の頻度で使われている。第2シリーズでも5回呼ばれている。ねずみ男だけでなく、妖怪に困った人間が「鬼太郎先生」と呼ぶのだが、そう呼ばれた鬼太郎のほうはいい気はしないらしい。そこが鬼太郎の潔癖さをあらわしているのだ。

鬼太郎がいかだに乗った回数

4回

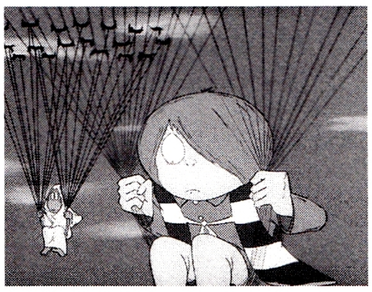


鬼太郎が海を渡るときに使う乗り物の代表が、いかだである。ただし、それは第1シリーズに限定され、第2シリーズでは一度もいかだに乗るシーンが出てこなかった。いかだは使いまわすのではなく、そのつど新しく組んでいるようで、毎回少しずつ仕様がちがっている。ぬりかべを帆にしたいかだや、2連結で後部のいかだに畑を作り、長期行動が可能ないかだも登場した。

鬼太郎がカラス船で空を飛んだ回数

16回

鬼太郎は小動物を使役することができ、特によく使っているのがカラスである。偵察要員やメッセンジャーとして飛ばすこともあるが、やはり有名なのは多数のカラスにロープをつなぎ、ブランコ状にして空を飛ぶ「カラス船」であろう。第1シリーズでは11回、第2シリーズでは5回。ちなみに第2シリーズでは、「カラスヘリコプター」と呼称される回もあった。



鬼太郎が画面に映らない状態で下駄の音だけした回数

9回

わりと愛嬌のある姿を見ていると忘れそうになるのだが、鬼太郎は妖怪である。ときには妖怪らしく、怖さを感じさせるシチュエーションもあるわけで、それがこの「画面に映らない状態で下駄の音だけした」シーンだ。どこからともなく「カラーン、コローン」と鳴り響く下駄の音、それにおびえる人間。ホラー映画を思わせる演出だ。第1シリーズでは3回だが、第2シリーズでは6回あった。単なる下駄の音ではあるが、状況によっては案外薄気味悪いものである。

妖怪ポストが壊された回数

5回

妖怪退治の依頼を引き受けてもまったく報酬を受け取らない鬼太郎。そんな彼が善意から設置した妖怪ポストを、おそれ多くも壊してしまった輩がいる。第1シリーズでは4回、第2シリーズでは1回。妖怪が、鬼太郎に退治を依頼されては困るからと壊したこともあるが、それより問題なのは、妖怪を信じない人間たちが、単なるいたずら心で妖怪ポストを壊すことである。それでも鬼太郎は人間を恨まず、人間のために妖怪を退治するのだ。ちょっと泣けてしまう。

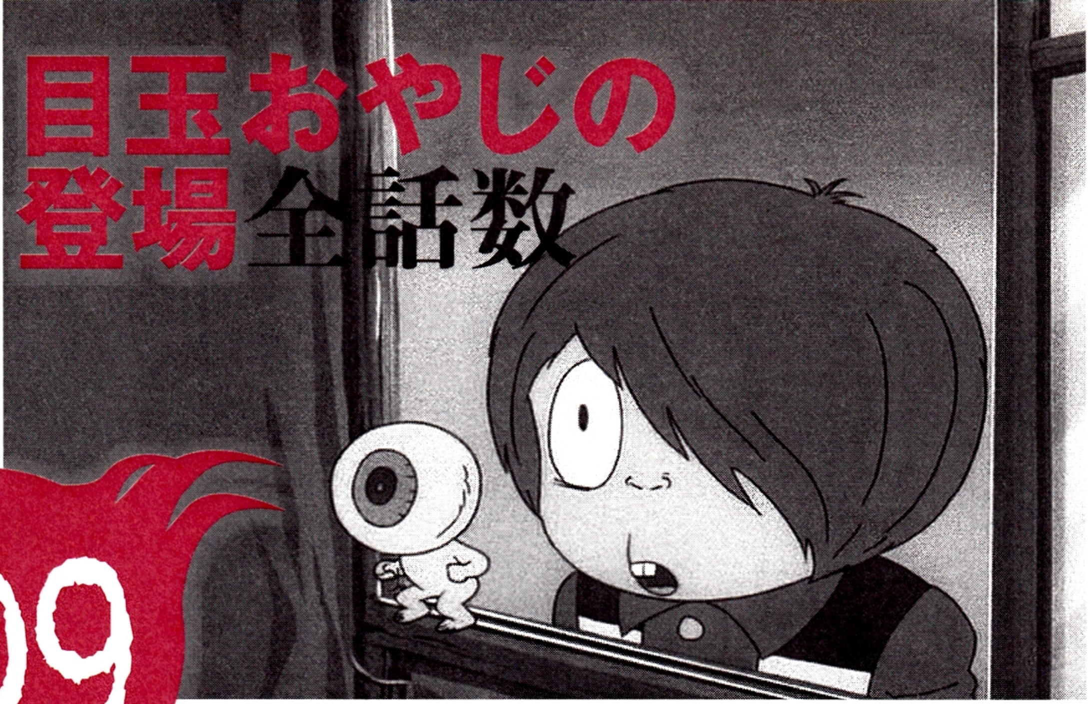
PART 3

鬼太郎のブレーン・目玉おやじ

鬼太郎の左目はいつも髪の毛に隠れているが、まるでその代理であるかのように、鬼太郎の肩や頭の上にちょこんと乗っているのが、目玉おやじこと、鬼太郎の父親である。容姿はまるで似ていないが、目玉おやじ本人が正真正銘の親子であると断言しているので、きっとそうなのであろう。妖怪の世界ではかなりの名門の出らしく、いつもそのことを誇りにしている。ひとり息子の鬼太郎を溺愛しており、時には役に立つアドバイスやうんちくを述べたり、一人で出かけた鬼太郎の身を案じたりと、いつでも気にかけている。

この項では、目玉おやじの主な行動をカウントしてみた。これによって、目玉おやじがどれだけ鬼太郎のことを気にかけているかがよくわかる。妖怪の世界でも、親子の情愛というものが存在するのだ。いや、むしろ人間以上に情が深いのが妖怪なのかもしれない。この親子を見ているとそう思う。

目玉おやじの登場全話数

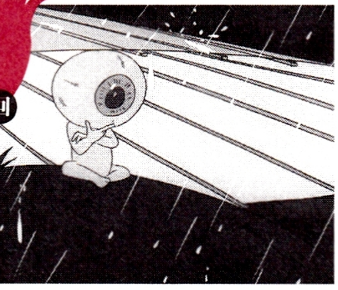


109回

鬼太郎と目玉おやじの縁は切っても切れないものだけに、全話欠かさず登場しているのかと思いきや、なんと一度だけまったく目玉おやじが登場しない回があったのだ。それは第1シリーズの第7話「ゆうれい電車」の回である。ストーリー内容は別ページの全話解説を参考にしてもらえばわかるが、特に目玉おやじが出られない理由があるとも思えない。もしかしたら声優さんになんらかの事情があって出演できなかったのだろうか、などと大人の事情まで勘ぐってしまうが、真相は闇の中である。それは冗談としても、皆勤賞を逃したのはやはり惜しい気がする。

目玉おやじでもわからなかった現象の数

5回



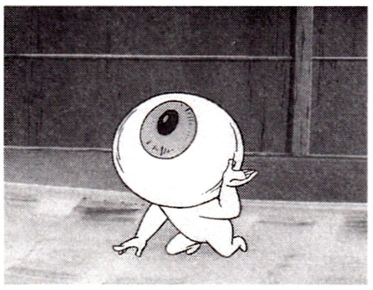
どんな疑問にでも答えてくれる、生きた妖怪事典とさえいえる目玉おやじ。そんな彼にも、5回ほどわからない現象があったようだ。第1シリーズでは2回、第2シリーズになると3回に増えている。鬼太郎がさまざまな妖怪と戦っていくうちに、だんだん未知の強敵が目の前に現れ、目玉おやじの知識の範囲を超えるようになってしまったということだろうか。

目玉おやじが風呂に入った回数

目玉おやじの風呂好きは有名である。お椀の中にたっぷりと湯を注ぎ、じつに気持ちよさそうに入浴しているシーンは、誰もが覚えている定番シーンだろう。由美かおる、しずかちゃんと並ぶ日本三大入浴キャラに加えてもいいほどに。だがそんな印象とは裏腹に、入浴回数は43回と全話数の半分にも届いていないのだ。ちなみに第1シリーズに25回、第2シリーズに18回。鬼太郎と行動を共にしていると、激闘に次ぐ激闘で、じつは入浴どころではないのかもしれない。

43回

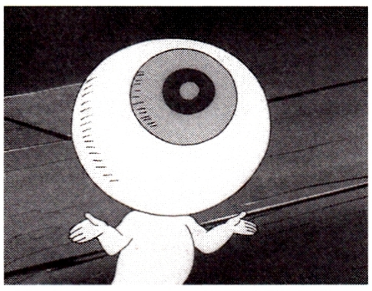




目玉おやじがアドバイスした回数

52回

体も小さく、強力な超能力も特に使ったことのない目玉おやじの最大の武器は、その頭脳である。長年の経験に裏づけされた知識と、その思考力によって、鬼太郎の考えも及ばないようなところで的確なアドバイスを送ってくれるのだ。全話数の半分近くは目玉おやじの助言に助けられたといっていい。ちなみに第1シリーズに28回、第2シリーズに24回となっている。



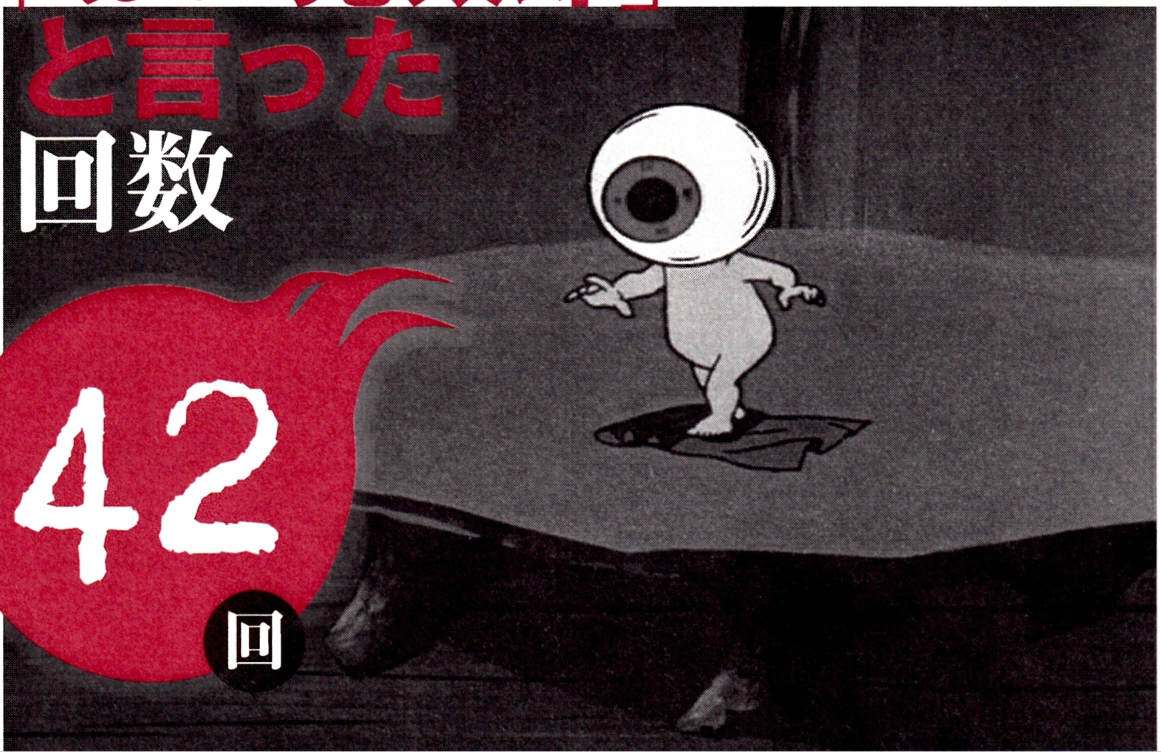
目玉おやじがうんちくを述べた回数

20回

顔全体が目玉になっている目玉おやじは、文字通りいろいろなものを見てきたのだろう。小さな頭のどこにそれだけのニューロンが詰まっているのかと思うほど、彼の知識量は果てしない。回数こそ多くはないが、ひとたび語らせればそのうんちくは広く深い。第1シリーズでは12回、第2シリーズでは8回と、ほぼ5話に一度の割合でその知識を披露してくれた。

目玉おやじが「おい鬼太郎」と言った回数

誰でも簡単にできるため好まれるモノマネで有名なのが、目玉おやじの「おい鬼太郎」というセリフである。筆者も何度か経験がある。テレビでも、モノマネをまったくやったことのない芸能人がこれだけはやっているのを見た覚えがある。それくらいポピュラーなセリフなのだ。ところが実際にカウントしてみると、全110話中で42回と、あまり多くない。ちなみに第1シリーズで24回、第2シリーズで18回。もっとも「おい」をつけずに鬼太郎を呼ぶシーンは、それこそ数え切れないほどあったのだが。



42回

PART 4

時には味方 時には敵の ねずみ男

潔癖、清貧、そして正直者の鬼太郎とは正反対の存在として、作品世界になくてはならないのが、ねずみ男である。金に汚く、欲望丸出し、不誠実、しかも不潔。まるでいいところのない彼だが、もしかしたら少しは見るべきところもあるかも……と思い、彼の主な行動をピックアップしてカウントしてみた。この結果はどうみるべきだろうか。思ったより裏切っていない？ 思ったほど金に汚くない？ その判断は読者諸氏に委ねることとしたい。

しかしひとついえるのは、ねずみ男がどんなに鬼太郎を裏切ろうが、鬼太郎のほうは彼を敵とは思っていないこと。そして同様に、観ている我々にとっても、ねずみ男はなんだか憎めない愛嬌のあるヤツなのである。

ねずみ男の登場全話数 109回



シリーズ全編を通じて、ねずみ男が登場しなかったのはたったの1回。それが第1シリーズの第1話『おばけナイター』の回である。それ以降は皆勤なだけに、ちょっともったいない気もするが、妖怪対人間の野球試合というシチュエーションでは、登場のしようがないということだろうか。逆に言えばねずみ男は、その1回を除く全話に登場するほど、この作品に定着し、なくてはならない存在になったということだろう。

ねずみ男が鬼太郎に儲け話を持ってきた回数 14回

ねずみ男は、ほぼ毎回、何かしらの金儲けをたくらんでいるといっていい。そしてそのうちの14回で、鬼太郎に儲け話を持ち込んでいるということになる。内訳は第1シリーズに11回、第2シリーズに3回と、極端に差がある。はじめのうちは鬼太郎を共謀者に引き込もうと必死だったが、鬼太郎があまりにもそっけないので引き込むのをあきらめ、別の妖怪や人間と組んでひと儲けする方針に切り替えた、とみるべきだろう。

ねずみ男が自分のことを「ビビビのねずみ男」と名乗った回数 12回

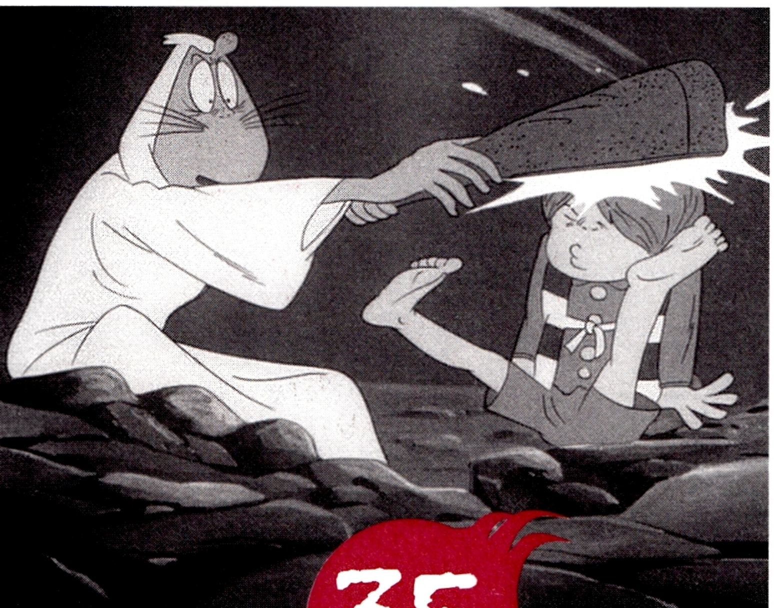


「ビビビ」というのがどういう意味なのかは不明だが、最初に言い出したのが第1シリーズの最終回で、『ゲゲゲの鬼太郎』は今回で終わり、次回からは『ビビビのねずみ男』と言っていることからも、「ゲゲゲの鬼太郎」に対抗する意味で言い始めたのはまちがいない。第2シリーズでは11回も言っている。いつの間にかすっかり恒例化してしまったようだ。

ねずみ男が肉体労働をした回数 14回

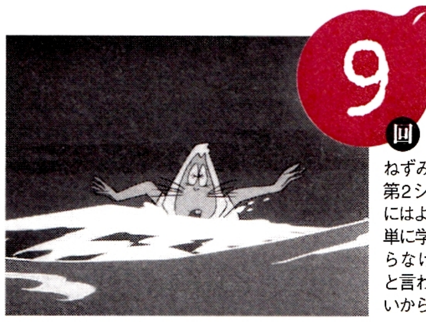
いつでも悪知恵を働かせ、ぼろ儲けをたくらんでいるねずみ男が、ひたいに汗して働く姿はあまり想像できない。しかし10話に一度以上の割合で、ねずみ男は地道に肉体労働をして日銭を稼いでいたのだ。ただし厳密にいうと、第1シリーズでは12回あったのが、第2シリーズではたったの2回に減ってしまっている。はじめのころのほうが勤勉だったということだろうか。それとも徐々に悪知恵のレベルが上がり、肉体労働するよりも効率のいい稼ぎ方ができるようになったのか？

ねずみ男が鬼太郎を裏切った回数 35回



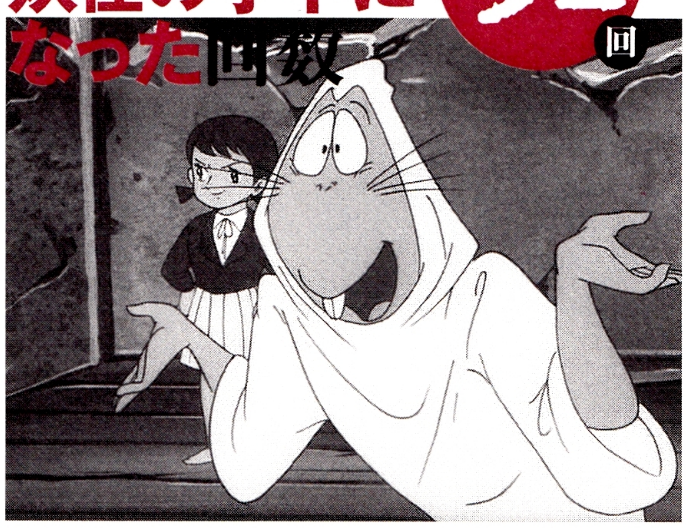
本作中、もっとも信用のできない存在はねずみ男だ。それこそ世界中のどの妖怪よりも信じられないほど。そんなねずみ男とずっとつき合っている鬼太郎には頭が下がる。第1シリーズで20回、第2シリーズでは15回も裏切られながら、それでも毎回ねずみ男を許してしまうのだから。それにしても、妖怪の中でも別格の強さを誇る鬼太郎を、これだけ裏切れるねずみ男の胆力もたいしたものだ。

ねずみ男がおぼれた回数 9回



ねずみ男はカナヅチらしい。第1シリーズでは7回、第2シリーズでも2回ほどおぼれていた。そのわりにはよく水辺に行くので、恐れを知らない男だと思う。単に学習能力がないだけかもしれないが、水につからなければいいのだろうか。よく「臭い」「汚い」と言われてしまうのは、水が怖くて風呂につかれないからか？

ねずみ男が妖怪の手下になった回数 31回



本作品中で、ねずみ男ほどしがらみを気にせず自由に生きているヤツはいない。鬼太郎の家に行ったその帰り道、鬼太郎と敵対する妖怪に寝返る変わり身の早さ。もちろん妖怪に操られて使役されることも多いのだが、それも本人の意志の弱さにつけこまれているのではないだろうか。第1シリーズでは18回、第2シリーズでは13回という数字になった。あっさり妖怪の手下になってしまうのもすごいが、そのあと何食わぬ顔で鬼太郎の仲間としてふるまえるのもすごい。

ねずみ男が鬼太郎のことを親友と言った回数 24回



ねずみ男はとにかく不誠実な男である。その口から出てくる言葉にはまったくといっていいほど真実味がなく、嘘でない言葉を探すほうが大変なくらい。そんなねずみ男がよく使う言葉のひとつに、「鬼太郎の親友」というのがある。第1シリーズに17回、第2シリーズでも7回あった。言われた鬼太郎自身も、その言葉には半信半疑だったのではないだろうか。

ねずみ男が「臭い」などの暴言を吐かれた回数 25回

ねずみ男というくらいだから、きっとねずみの妖怪なのだろう。そしてねずみといえば、不潔な生き物と決まっている。彼自身も作中で、もう3年も風呂に入っていないなどと言っていた。これはもう、いっぱしのホームレスだ。そんなねずみ男に対し、遠慮なく臭い、汚いと言っていたのが鬼太郎や目玉おやじ、ねこ娘などである。ときには人間たちにまで言われていた。第1シリーズでは15回、第2シリーズでは10回という内訳になっている。

PART 5

鬼太郎の仲間たち

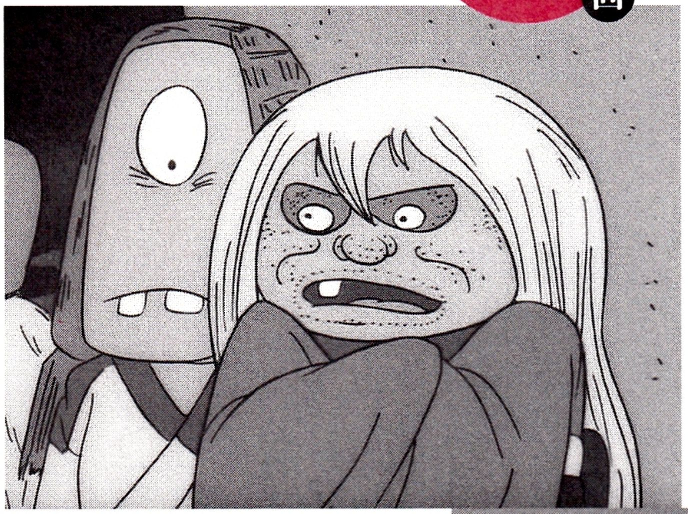
ひとくちに妖怪といっても、そのすべてが鬼太郎や人間たちに敵対するものばかりではない。妖怪たちの中には、少なからず人間に好意的な存在もあり、作中では少なくとも13体の妖怪が人間の味方として登場している。

準レギュラーとして定着したのは、子泣きじじいに砂かけばばあ、一反もめんにぬりかべといったあたりで、全編をとおして鬼太郎の頼もしい仲間として描かれている。特に第1シリーズの第10話『妖怪大戦争』に参加したあたりから、彼らの結束は強まったようだ。

また第2シリーズからはねこ娘がマスコットキャラとしてレギュラー化。第1シリーズであまり女っ気がなかった本作品に彩りを添える存在となった。もっとも、彼女も妖怪なので、その容姿には好みの差が出るかもしれない。

仲間というのとは少しちがうが、ねずみ男の兄ということで、準レギュラー化した死神もこの項で扱った。

砂かけばばあの登場全話数 27回



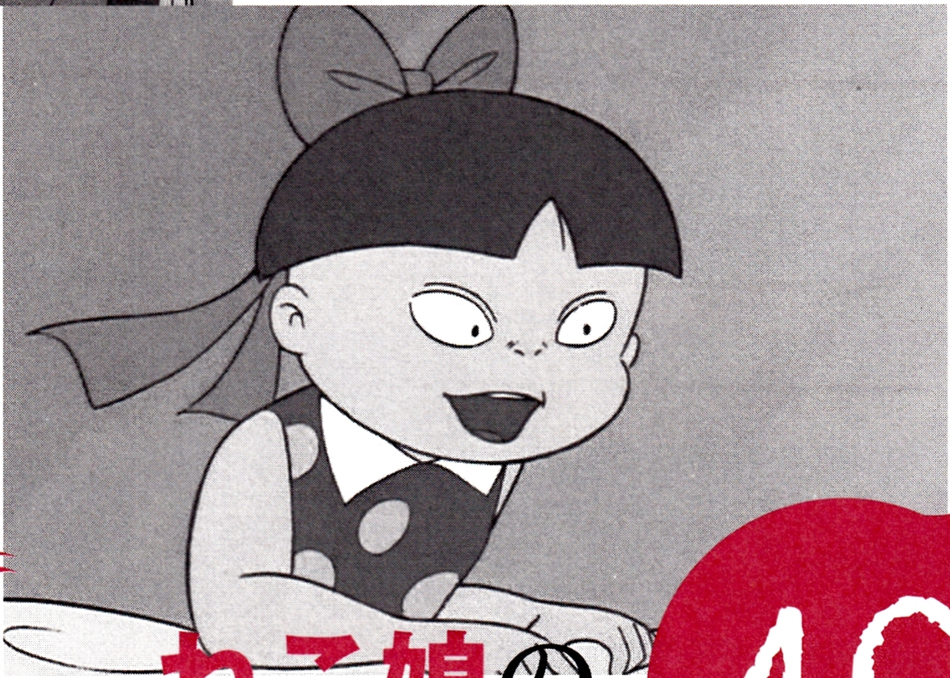
第1シリーズに13回、第2シリーズに14回登場している。劇中では「おばば」と呼ばれることも多いのだが、「おばば」には別の妖怪もいるので少しまぎらわしい。子泣きじじい同様、『妖怪大戦争』に参戦。名前のとおり敵に砂をかけて目潰しをすることが多く、戦闘補助的役割をもった妖怪といえるだろう。第2シリーズではその容姿は一定していたが、第1シリーズでは顔に砂模様のない姿で登場した回もあった。妖怪だから自在に姿を変えられても不思議はないのだが。

子泣きじじいの登場全話数 23回



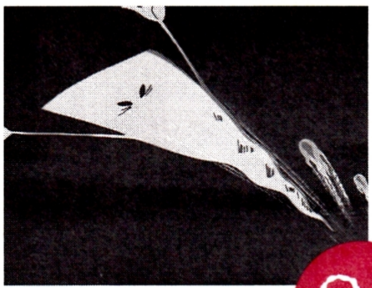
第1シリーズに10回、第2シリーズに13回登場している。その愛嬌ある姿とは裏腹に、みずからの体を石に変えて敵にのしかかる攻撃法で、多くの戦闘に参加した。ただし、それ以外の攻撃方法はもたないため、あっさり敵に振り払われるのだが。あまり戦闘に向いているとは思えないが、『妖怪大戦争』の回では積極的に名乗り出ていたし、自信はあったのだろう。ただ、名前に「じじい」とつくだけあり、長年の経験によって得た知識で鬼太郎を助けることもあった。

ねこ娘の登場全話数 40回



第1シリーズでは単なるゲスト妖怪扱いで一度しか登場しなかったが、第2シリーズでは39回も登場、しかも第1話からごく当たり前のように出てきていたので、最初からレギュラー化することが決まっていたと思われる。猫の妖怪ということで、ねずみ男に対して圧倒的な優勢を誇り、いつもねずみ男の尻を蹴っ飛ばしていた。あくまでも妖怪であるため、人間としての美的基準とはまた異なるが、行動は意外に女の子らしく、かわいげのある存在となっている。ただし第1シリーズで登場したときは、もっと妖怪らしく、あまりかわいいとはいえなかったのだが。

一反もめんの登場全話数 24回

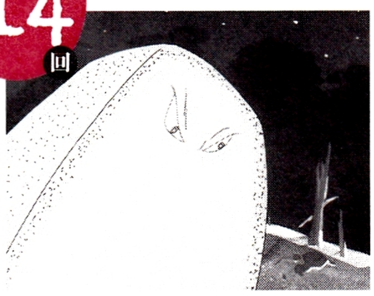


第1シリーズに7回、第2シリーズには17回登場。鬼太郎の仲間ではほぼ唯一、飛行能力をもつ妖怪だったため、鬼太郎や目玉おやじを乗せて飛ぶことが多かった。そのため登場回数も増えたのだろう。初登場は第1シリーズの第10話『妖怪大戦争』の前編で、戦闘能力があるということで参加していた。そのときは敵陣に着く前に倒されてしまったが……。

一反もめんがしゃべった回数 4回

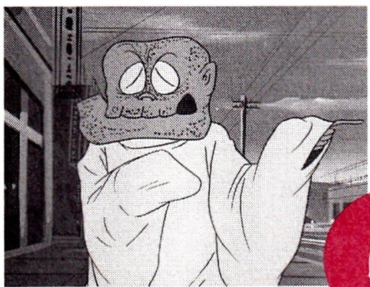
単なる布切れにしか見えない一反もめん。顔もごく単純なもので、ふだんは目がふたつついているだけである。そんな一反もめんがしゃべった回数は、第1シリーズに2回、第2シリーズに2回だけ。しかし、いざしゃべりだすと意外と饒舌で、ふだんの寡黙な印象とはまるでちがうのだ。いつもは黙って仕事をこなすが、言うべきときには言うタイプだろうか。だがそんな彼でも、しょっちゅうヘリコプター代わりに使われるのに閉口したのか、不満の言葉を述べたのが印象的だった。

ぬりかべの登場全話数 14回



第1シリーズに6回、第2シリーズに8回登場。初登場は第1シリーズの第10話『妖怪大戦争・前編』で、戦闘能力のある妖怪として鬼太郎の仲間になった。鬼太郎の仲間のなかではもっとも大きく、登場話数の少なさのわりには存在感がある。攻守ともに頼りになりそうだが、意外にあっさり倒されることも多く、単なるやられキャラっぽいのが残念。

死神の登場全話数 6回



第1シリーズでは1回、第2シリーズで5回登場している。初登場のときに、ねずみ男の兄であることを明かしていたが、正直いまでも彼らが兄弟とは信じられない。似ているのは服装だけで、顔の輪郭も肌の質感もまったくちがう。ただ、毎回ほかの妖怪と組んで魂を手に入れようとするが結局は失敗、という行動パターンは、ねずみ男と共通するものがある。

ぬりかべがしゃべった回数 4回

口がついていない顔といい、ゴツイ体型といい、朴訥な雰囲気があって、まったくしゃべりそうにない印象のぬりかべだが、第1シリーズでは3回、第2シリーズでも1回だけしゃべっているシーンがある。ただし、そのうち3回は本当に短い雄たけびのような声を出しただけで、実際にしゃべったといえるのは1回だけだったので、まあ印象のとおりといっていいだろう。やはり体力自慢は口ベタというのは、人間でも妖怪でも共通するパターンなのだろうか。

PART 6

妖怪よりもタチが悪い? 愚かなり人間どもよ

この世界は、妖怪だけで成り立っているわけではない。『ゲゲゲの鬼太郎』の世界にも、当たり前のように人間が存在している。そして、作品が放映されていた60年代後期から70年代初期の世相を反映したかたちで、文明社会を築き上げているのだ。

現実の世界同様に、この世界の人間たちもまた、欲望のおもむくままに生活し、自然を破壊し、スモッグなどの公害をまき散らしながら人生を謳歌している。その姿は、ある意味で妖怪以上に醜悪な存在であるかのように描かれてさえもいるのだ。そんな人間どもに、まるで罰を与えるかのように襲いかかる妖怪たち。

この項では、そんな愚かしい人間たちと妖怪との関係性をよくあらわしている項目をピックアップし、カウントしてみることにした。これによって人間たちが、どのように妖怪と接しているのか、よくわかるはずだ。



人間が妖怪の存在を信じなかった回数 29回

人間は、目に見えないものや理解の範囲を超える現象を信じない傾向がある。妖怪もそのひとつで、人間たちにとっては昔話やマンガの世界だけのことだと考える人間がほとんど。鬼太郎の世界でもそれは同様らしく、当の妖怪である鬼太郎自身が妖怪の実在を主張しても、笑い飛ばす人間がたくさんいるのである。第1シリーズでは19回。鬼太郎の存在がポピュラーになった第2シリーズにおいても、10回も信じなかった回があるのだ。

子供たちが妖怪に狙われた回数 23回

『ゲゲゲの鬼太郎』は、意外にシビアな作品である。みずからの欲望によって妖怪を招き寄せた大人たちが狙われるのはかまわないが、純真な子供たちまでもが妖怪の餌食となる残酷なシーンが、淡々と描かれるのだ。それは第1シリーズでは17回にものぼっている。もちろんその中には、狙われただけでなく殺されてしまった子供も含まれる。ただ第2シリーズでは、作品内容をソフトな方向へ転換したのか、6回と激減した。

軍隊（自衛隊）が登場した回数 11回



人間の征服欲を象徴する軍隊。自衛隊は日本における軍隊のようなものだが、特撮やアニメを観て育ってきた世代にとっては、格好の「やられ役」といった印象ではないだろうか。もちろん、この『ゲゲゲの鬼太郎』においても、第1シリーズに7回、第2シリーズに4回登場しているが、そのほとんどすべての回で、彼らはまったく妖怪に歯が立たず、返り討ちに遭うことも珍しくはなかった。それでも人間は、自分たちが地球上で最強の生き物であると信じて疑ってはいないし、科学の万能性を妄信し続けているため、同じ過ちを何度も繰り返すことになるのだ。

科学者や博士が登場した回数 15回



超自然現象の象徴である妖怪に対して、人間の文明や科学力の象徴として、科学者や博士が登場することもあった。第1シリーズには10回、第2シリーズには5回登場したが、そのほとんどが、妖怪たちになすすべもなく敗退している。また、第1シリーズの第5話『大海獣』に登場した山田秀一のように、名誉欲にとりつかれた科学者が、鬼太郎に敵対する場面もあった。

人間が科学の無力さを思い知らされた回数 7回

人間は生き物としては脆弱で、おそらくそのへんの野良犬と戦っても負けてしまうだろう。そんな人間たちを地上の王者として君臨させたのが科学の力だ。そのため人間は科学に頼りきり、科学さえあればなんでも克服できると信じてしまっている。だがそんな人間の常識を超えた存在である妖怪たちには、そんな科学などなんの足しにもならなかったのだ。第1シリーズでは4回、第2シリーズでも3回、人間たちは科学の無力さを思い知らされることになった。

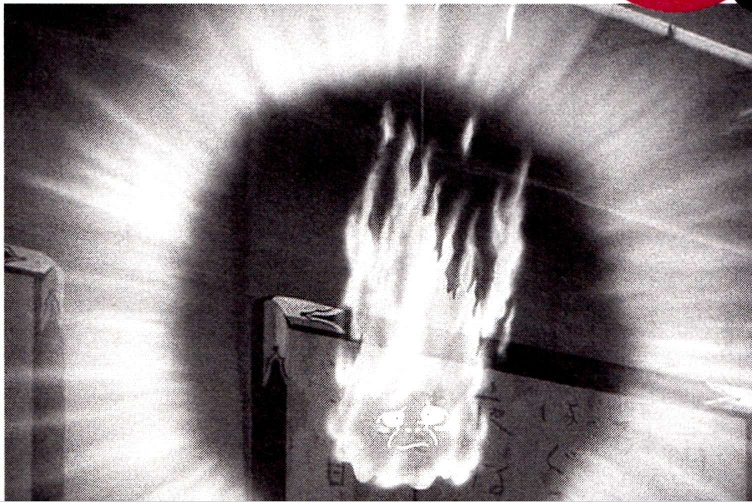


警官や刑事が登場した回数 30回

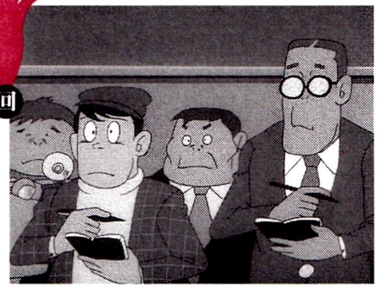
人間社会の安寧と秩序を守っているのは、いうまでもなく警察組織である。もちろん現実的な考え方をする彼らは、妖怪の存在など信じてはいないため、妖怪たちが怪事件を引き起こすたびに、警官や刑事が登場しては、ああでもない、こうでもないと右往左往している姿が目についた。第1シリーズでは17回、第2シリーズでは13回、警官や刑事は登場した。

人魂の数 90個

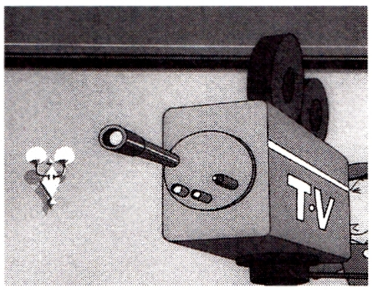
ヒトのタマシイと書いて人魂。つまり、死後、体から抜け出た人々の魂が浮遊している存在であり、妖怪というよりはむしろ人間に近いのではと考え、この項でとりあげた。第1シリーズでは69回、第2シリーズでは21回、画面に人魂が登場している。その多くはおとなしく従順で決して悪いことはしない。人間の欲望は肉体の快楽によるものが多いため、体のない人魂はある意味もっとも清廉潔白で心の清らかな人間の姿なのかもしれない。



記者会見が行われた回数 5回



現代社会は情報の社会である。特に60年代以降はテレビの普及によって急速に情報量が増え、最新ニュースがどんどんお茶の間に届けられることとなった。そんな世相を反映するかのように、鬼太郎の世界でも情報化社会を象徴するシーンとして、記者会見の模様が描かれている。第1シリーズで3回、70年代に入った第2シリーズでも2回、記者会見は行われた。



テレビ中継された回数 12回

60年代は、テレビが急速に普及した時代である。はじめは街頭テレビだったのが、60年代後期になると多くの家庭にテレビが行き渡るようになった。そんなテレビ時代を象徴するように、妖怪たちが起こす怪事件の数々も、テレビによって中継されるシーンが目立っていた。第1シリーズに7回、第2シリーズでは5回、テレビ中継されるシーンが描かれている。

PART 7

背景や小道具でわかる『鬼太郎』の世界観

ここまでの項で、鬼太郎をはじめとする、おもな妖怪たちや人間たちのおこないをカウントしてきた。しかし、鬼太郎ワールドを形成しているのはキャラクターだけではない。背景や小道具なども、その世界観をかたちづくるエッセンスとして、どれも必要なものばかりである。

この項では、そんな背景設定や小道具の中から、よく目に入るもの、メッセージ性の高いものをとりあげ、カウントしてみることにした。妖怪たちのホームグラウンドといえる墓場や、その活動時間帯を象徴する月、大都市東京を象徴する東京タワー。人間の果てしない欲望をあらわすものとしてのお金、さらに貪欲さをかもし出すそろばん。人間にも妖怪にも共通して生活感を感じさせる食事シーンなど。

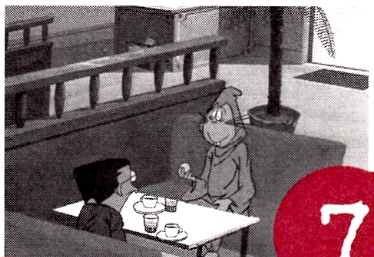
そしてエンディング曲の最後のフレーズをカウントアップのシメとして、この項を終わりにしたいと思う。

そろばんが出てきた回数 7回

最近はそうでもないが、人前で金勘定をするのは、下品なこととされていた。だがそろばんが登場するということは、それだけ金に汚い印象を与えている。第1シリーズでは1回だが、第2シリーズになると6回もそんなシーンが見受けられ、人間の金に対する妄執を揶揄するかのように、そろばんが使われていた。断っておくが、そろばんそのものが金に汚いのではなく、人目をはばからず金勘定をするのが下品なのである。

喫茶店で話をした回数 7回

ファミレスという夜中も営業している便利な店が登場するまでは、アニメ関係者がよく打ち合わせに使ったと思われるのが喫茶店。そのためか、ねずみ男をはじめとする『ゲゲゲの鬼太郎』の登場人物たちも、よく喫茶店を利用していた。第1シリーズでは5回、第2シリーズでは2回、喫茶店が利用されている。





墓場が舞台になった回数 12回

オープニング曲の冒頭で登場する墓場。もっと舞台となる回数が多いのかと思いきや、第1シリーズで8回、第2シリーズで4回と、ほぼ10話に一度くらいしか舞台になっておらず、意外に少ない印象だ。ただし第1シリーズの第1話では、最初のカットからいきなり墓地だったりするので、数字以上の印象を見る側に与えている。墓地は妖怪たちのホームグラウンドといえるので、人間を積極的に襲う妖怪たちが、人間のいる場所へみずから出向くのが数字の少ない原因か。



背景に東京タワーが出てきた回数 5回

世界有数の大都市でもある日本の首都・東京。そのランドマーク的存在なのが東京タワーだ。鬼太郎の世界でも、東京が舞台になった回では背景に描かれることがあり、第1シリーズでは1回、第2シリーズでも4回ほど背景に東京タワーが登場している。特撮映画よろしく破壊された回も1度あった。

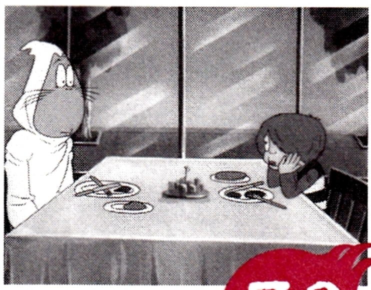
銃が出てきた回数 13回

人間が妖怪に対抗する手段は少ない。また、まれに対抗できたとしても時間稼ぎがせいぜいで、結局は妖怪の前になすすべもなく蹂躙されてしまうのが人間の運命なのだ。人間が携行できる武器としては最強といえるのが銃で、第1シリーズに8回、第2シリーズに5回登場した。しかし第1シリーズの第4話『吸血鬼ラ・セーヌ』では、ラ・セーヌの手下で銃の名手だったザ・マンモスが、鬼太郎に対して激しい銃撃を浴びせたにもかかわらず、結局倒すことができなかった。つまり銃は、妖怪に対しては効果がないということ。



お金が出てきた回数 36回

人間のありとあらゆる欲望を象徴的にあらわしたものがお金である。少なくとも本作品では、そのように位置づけて演出されているのがわかる。人間のお金に対する執着心はすさまじく、ときにはねずみ男でさえ恐れ入るほど強欲な人間も。第1シリーズでは22回、第2シリーズでは14回。100円札が出てくるシーンもあり、時代を感じさせる。





背景に月が出てきた回数 40回

オープニング曲でも歌われているとおり、妖怪たちのおもな行動時間帯は夜間である。そして夜空には月がよく似合う。第1シリーズでは21回、第2シリーズでは19回、月が背景に描かれていた。三日月が圧倒的に多く、満月だったことは少ない。半月や新月は皆無だった。満月はどちらかというと狼男に代表されるように、西洋的な印象があるからだろうか。やはり日本の妖怪には三日月が合っている気がする。

食事シーンの回数 30回

人間だけでなく、妖怪も食事はするらしい。第1シリーズで19回、第2シリーズでは11回。鬼太郎、ねずみ男をはじめ、食事をしている妖怪は多かった。また、妖怪のくせに飲食店で食事をする者も多く、画像の鬼太郎とねずみ男はぜいたくにも銀座のレストランで優雅に食事しているほか、第1シリーズでねこ娘がラーメン店でラーメンをすする姿も。

ラストシーンで鬼太郎がだんだん遠くに消えていく回数 20回

「どこかへ鬼太郎は、消えていく」という、なんとも哀愁を誘うエンディング曲の最後のフレーズのとおり、鬼太郎が劇中のラストシーンで画面奥のほうへと歩き去っていくシーンがある。第1シリーズでは14回、第2シリーズでは6回で、割合としては5話に1度くらいになる。鬼太郎の家がどこにあるのかは、多くの人間には知られておらず、妖怪退治の依頼も妖怪ポストを経由するため、鬼太郎がどこへ帰るのかわからない、という意味合いなのだろう。どこからともなく現れ、妖怪を退治したのちはどこへともなく去っていく。人間たちにとって、鬼太郎はそんなミステリアスな存在なのだ。



80年代版・90年代版
『ゲゲゲの鬼太郎』第3・4シリーズ
見どころダイジェスト

鬼太郎ファミリーが確立した第3シリーズ、第1シリーズの雰囲気を再現した第4シリーズの魅力を徹底解剖。その劇的な変化が切り開いた、新たな地平を追う！

第3シリーズ 鬼太郎の目指した地平

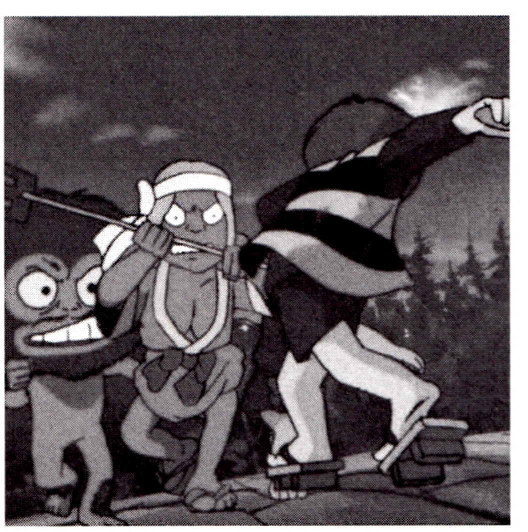
第3シリーズ 低年齢層向けに改定し空前の大ヒット

わかりやすさと安心感で大ヒットへの王道を進む！

1985年（昭和60年）に放映開始された第3シリーズは、本編108話＋地獄編7話、全115話にも上る最長のテレビシリーズだ。

鬼太郎が、邪悪な妖怪や自分勝手な人間たちを相手に戦う。第1・2シリーズと共通して描かれているこのテーマに加え、第3部独自の大きな特徴がいくつか存在する。

1つ目は明確に低年齢層をターゲットにして再構成されたプロットである。まず2部から少しずつ形作られていた、砂かけばばあやねこ娘ら「鬼太郎を取り巻く仲間たち」がレギュラー化した。それに伴い鬼太郎が毎回のようにピンチに陥り、仲間の助けを借りて勝利するという展開も「お約束」となり、友情と勝利というお題目も加わって、親子で安心して楽しめる物語に変質していったのだ。



ダイナミックなアクションシーンは、第3シリーズの見どころの1つ。

そしてその方向性から、第1・2シリーズでは描かれていた敵妖怪を殺すシーンや、人間が妖怪の犠牲になるシーンがほぼ完全に排除される。逆に敵妖怪に反省や和解をさせるなど、平和的な事件解決が増えていった。

続いてテーマとして強調されたのが「人間と妖怪の共存」だ。その象徴がシリーズを通して唯一の人間のヒロインである「天童ユメコ」の存在である。人間でありながら妖怪に理解と関心を寄せ、また鬼太郎には全幅の信頼と言葉にならない想いを抱く。それにより鬼太郎の性格にも変化が生じ、より少年的になり、女の子にも弱くなる。女の子にデレッと頬を緩めた鬼太郎を見られるとは、旧シリーズからのファンは考えもしなかったことだろう。さらにそれに伴い、鬼太郎のガールフレンドを自認するねこ娘とユメコの三角関係や、〝老いらくの恋〟の標本のような子泣きじじいと砂かけばばあの恋バナなど、突っ込みやすいネタがちりばめられ、これが少年少女の人気をさらに深めていく。

さらに、戦闘シーンのダイナミックさが大幅にアップしたことが上げられる。

360度の視点を意識して描かれたダイナミックな戦闘シーンでは、新たに武器として登場したオカリナも相乗効果となり、子供に〝ヒーローとしての鬼太郎像〟を定着させた。

そして第3シリーズの最後に放映された『地獄編』の存在も忘れてはならない。そこで登場するのが、鬼太郎のライバル・地獄童子だ。シリーズの唯一の美少年ライバルの登場に、熱狂する少女ファンも多かった。さらにこの地獄編の中で、鬼太郎の誕生秘話も初映像化。これらはシリーズ中の人気に押されて生まれた企画であった。そして本来は1年間という予定だった放映期間が、結果約2年半という長期シリーズとなる。それでもその人気は衰えることなく、平均視聴率23・3％、最高視聴率29・6％を記録する、80年代を代表する大ヒットアニメとなったのである。



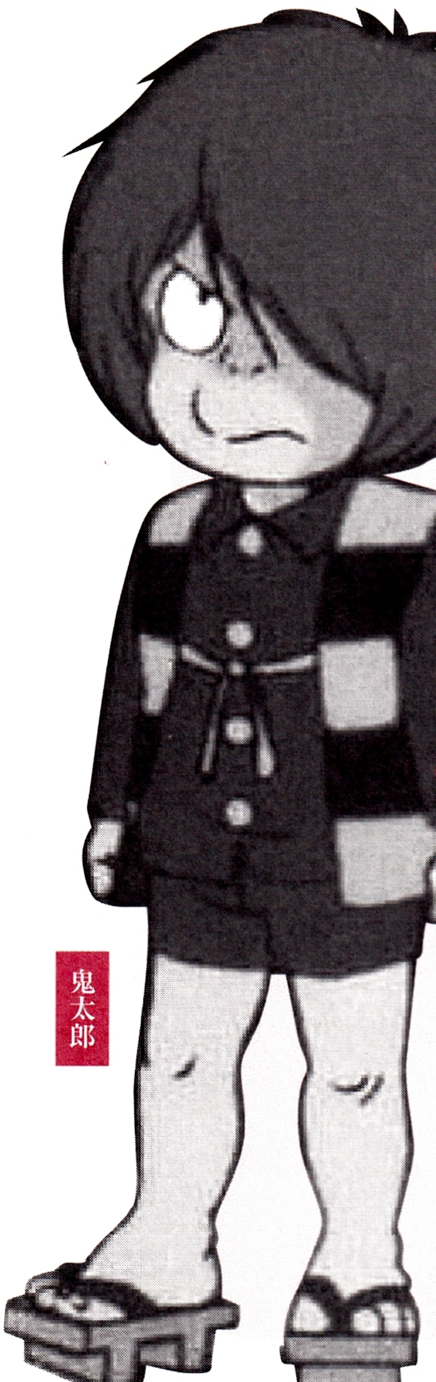
人間の奥さんが欲しい半漁人は無理にもお見合いにチャレンジ。

見どころ1
メイン3人はこう変わった

なんだか3人とも1・2シリーズとは別人です

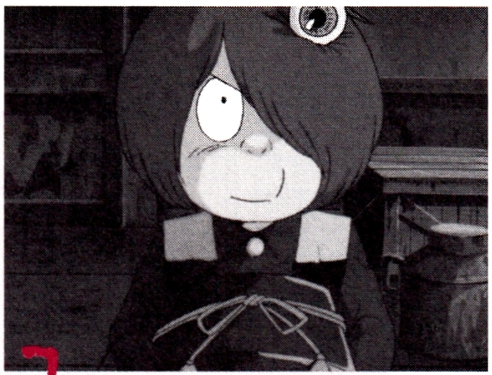
鬼太郎はより少年的に「信じた道を突き進む熱血漢」になった。と同時に、きれいな女の人に弱いという第3シリーズ独特の設定も登場。そしてねずみ男はマント姿に加え、さまざまなコスチュームに身を包み始める。さらに一本気な鬼太郎とのバランスを取るかのように、これまで以上の調子の良さを発揮。さらにカワイさUPの目玉おやじは、作品のコメディリリーフ的な役割を果たすようになった。

ユメコちゃんを守らなきゃ



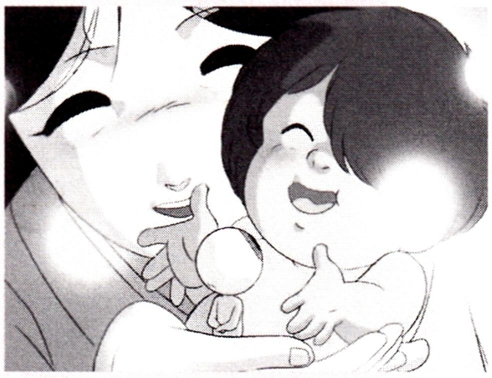
鬼太郎

声・戸田恵子



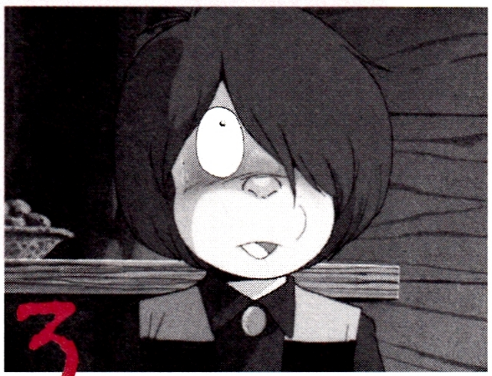
1 熱血漢になった!

少年らしく、感情の起伏が激しくなる。曲がったことは許さないだけでなく、その気持ちを直接的に相手にぶつけるようになった。



2 妖怪と人間の二世になった

「地獄編」の中で、目玉おやじがハーフであることを明かした。この設定が、第3シリーズのテーマに深く関わっていたのだろう。



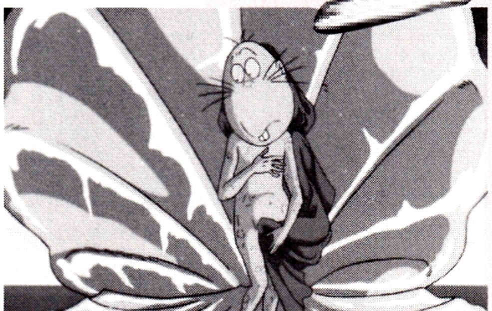
3 美女に弱くなった

ユメコを筆頭に、女性に頼られるとこの表情……。自ら"美人に弱い"と発言。一方、ねこ娘に対してはなんだか冷たかったりして。



ねずみ男

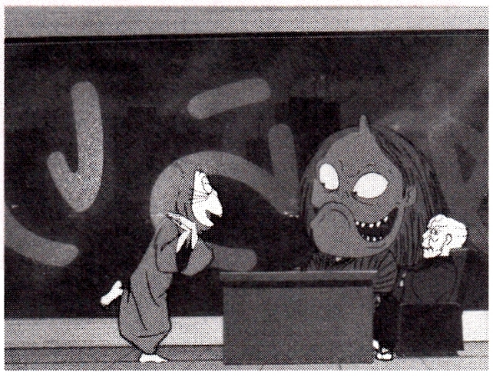
声・富山敬



1 コスプレして大活躍!

多いのは人間相手に商売するときの、ハッタリの効いたタキシード姿。女装することもあったが、すべては金のための行動なのだ。

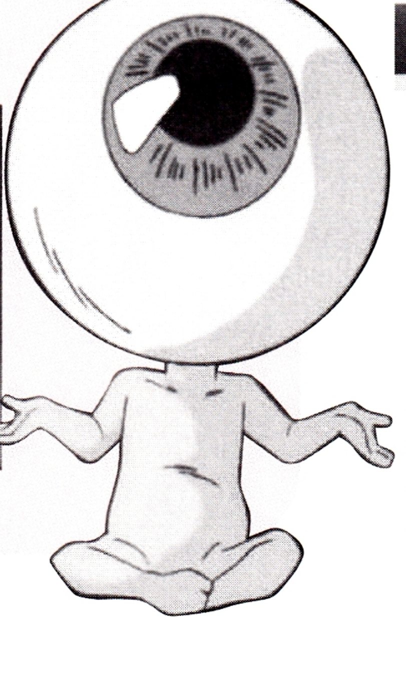
第1～2シリーズは鬼太郎と行動を共にし、たまに裏切る程度。第3シリーズは気持ちよいくらい簡単に裏切り、またサクッと戻ってきたりする。

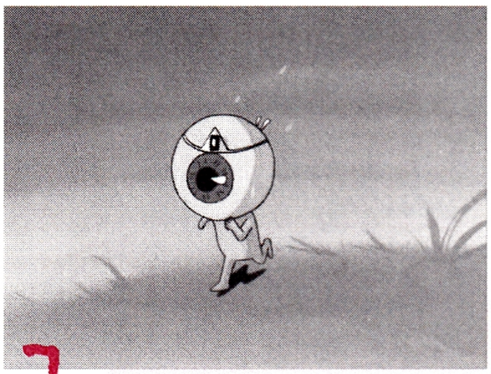


2 フットワークがさらに軽くなった!

目玉おやじ

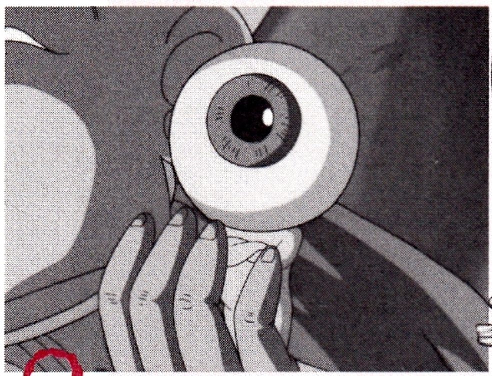
声・田の中勇





1 コミカルになった!

視聴者に「カワイイ～!」と思わせるようなシーンが増えた。ねずみ男とのやりとりは、深刻な話でも漫才のようなテンポがある。



2 説教臭くなった

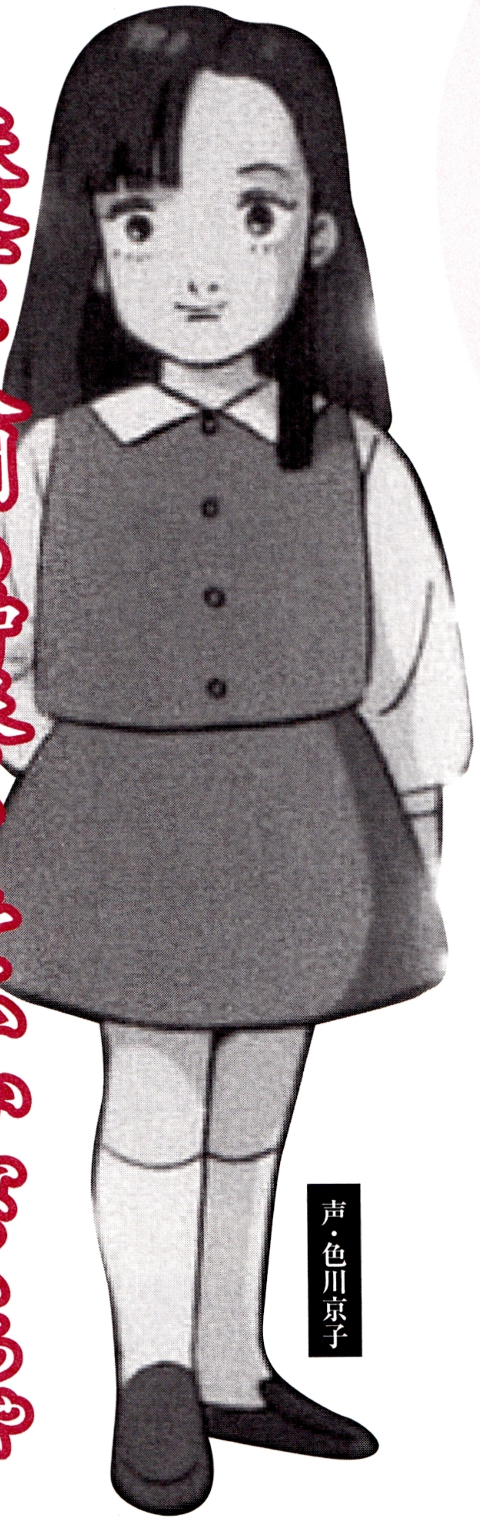
わりと顔が広い設定なので、妖怪たちにも慕われている。人間に対しても、お説教臭いメッセージを頻繁に口にするように。

見どころ2 ユメコちゃん
Yumeko Tendo

美少女ユメコに妖怪たちも夢中です！

人間と妖怪の橋渡し役として登場したユメコは、鬼太郎、ねずみ男に加え、なんと朱の盤までをも虜にしてしまう。愛らしくて魅力的だが、実は計算高さも潜ませている末恐ろしい（？）小学4年生だ。か弱いように見えて大胆で、鬼太郎を救うために妖怪の棲む山を分け入り仙人を探すような勇気ある行動もある反面、好意を利用して自分の罪をねずみ男にかぶせるなど、ちゃっかり屋な一面も。優しい心を持ち、邪悪な妖怪の心を改めさせることも多い。

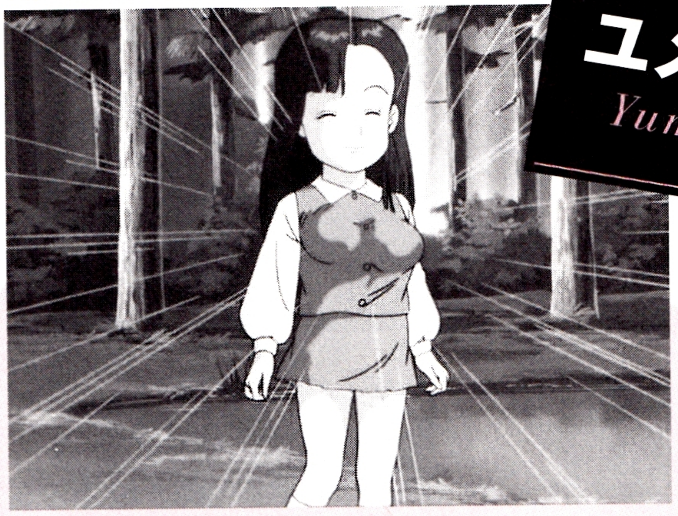
妖怪と人間も仲良くしていかなくちゃ



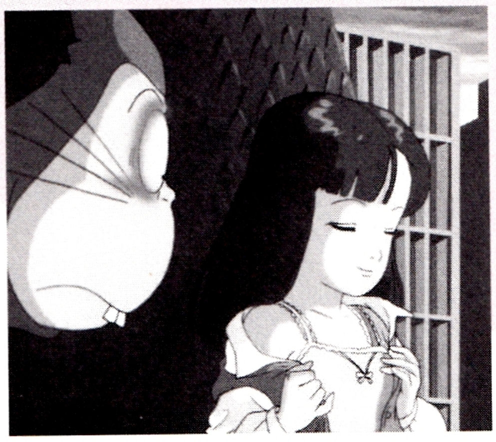
声・色川京子

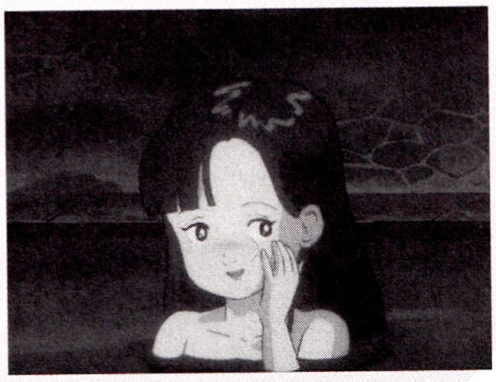
ユメコちゃん お色気シーン BEST3

93話。能力を進化させる「知恵の実」を処分する鬼太郎。そこへ胸がふくらんだユメコが登場。実を隠して持ち帰り東大合格を狙っていた。



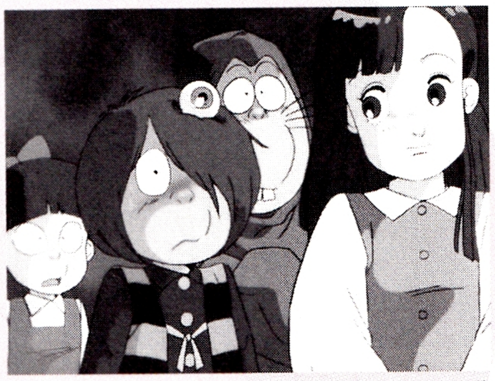
78話。マンモスフラワーの胞子を吸い込んだユメコは、文明を捨て原始の生活へ戻ろうと、人目も気にせずおもむろに洋服を脱ぎ始めた。



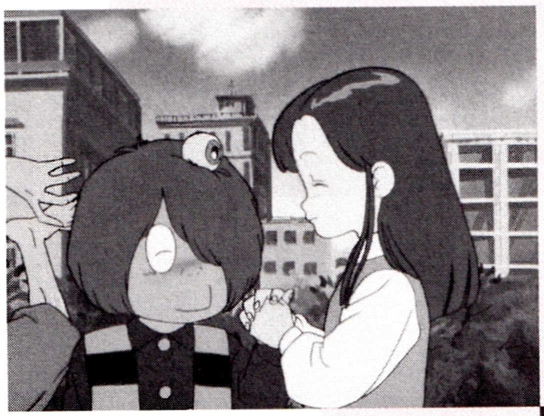


25話。妖怪ぶるぶるを食べてしまい、体が徐々に凍り付いてしまう。ぶるぶるを体内から追い出すため、鬼太郎たちが連れ添い入浴。

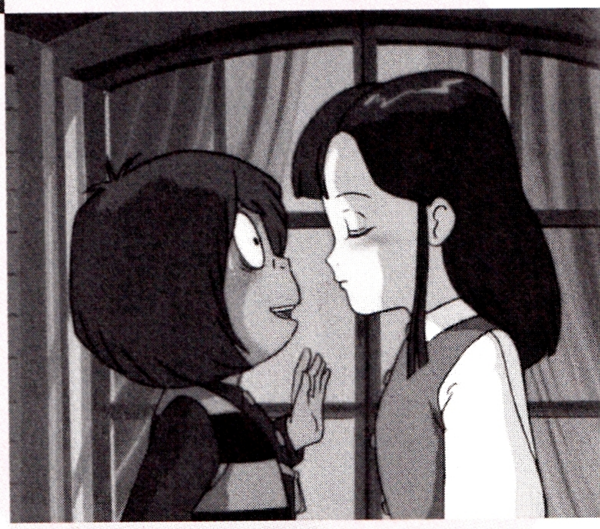
ユメコ♥鬼太郎 名シーンセレクション



110話。鬼太郎たちとの地獄の旅で二人の信頼関係も大きく成長。鬼太郎が絶対に助けてくれると信じ、最後まで道中を共にした。



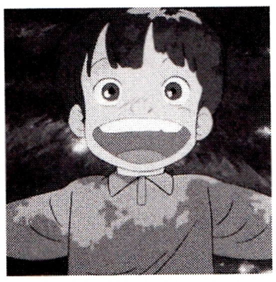
2話の出会いのシーン。ユメコが鏡じじいにさらわれたことがきっかけだ。これ以降、ユメコは鬼太郎の家に出入りするようになる。



49話。ユメコの叔父・伊集院の別荘に来たユメコと鬼太郎は、バルコニーでいいムード。鬼太郎のキスを待って目をつぶるが……。

天童家の人々

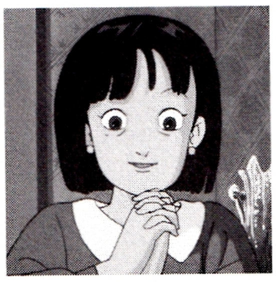
ユメコをはじめ天童家が初登場したのは2話。行方不明になったユメコの身を心配して弟・星郎が鬼太郎に相談したのがきっかけだった。



天童星郎
ユメコの弟。妖怪たちによる小学生を狙った事件によく巻き込まれる。



天童正夫
ユメコの父。妖精ニクスにストレスを抜かれ、働く気力を失ったことも。



天童優子
ユメコの母。妖怪とは直接関わらなかったが、常にユメコを心配していた。

見どころ3
ぬらりひょん&朱の盤



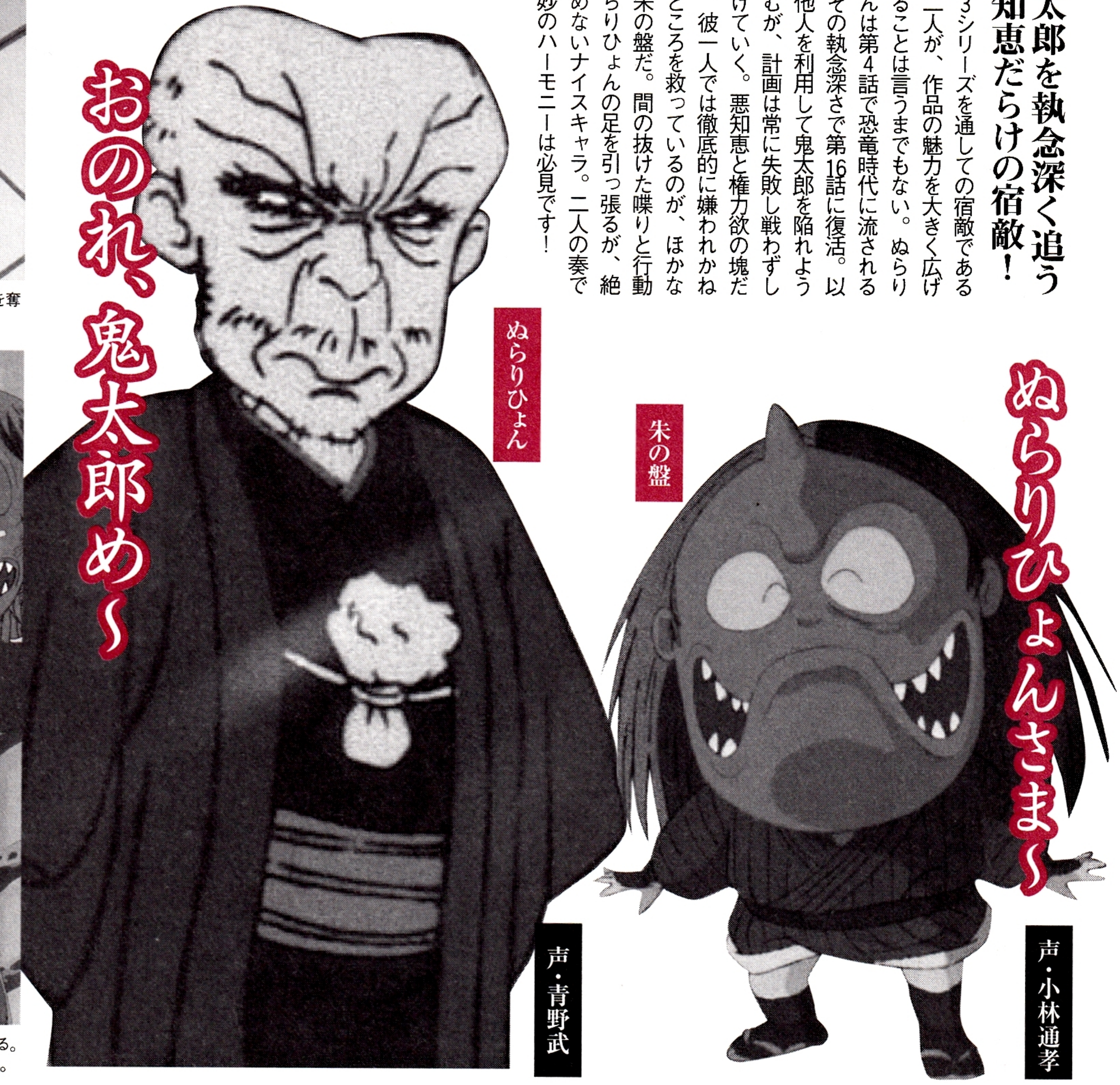
16話。のっぺらぼうに盗ませた顔を指名手配犯に高額で売りつけ金儲け。鬼太郎が登場するとそそくさと逃げ去る。

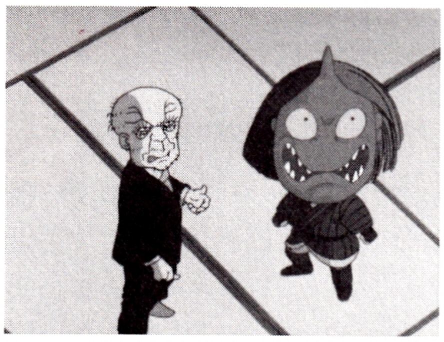


4話。ビルを倒壊させ、自分の経営する建築会社に利益を得る。鬼太郎の抹殺計画は失敗、恐竜時代へ流される。

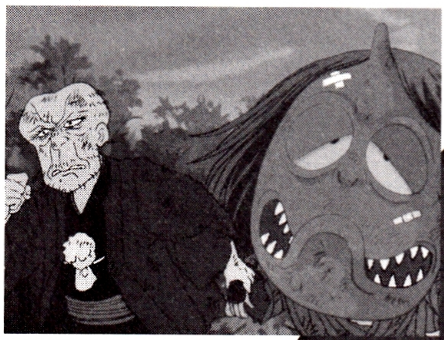
鬼太郎を執念深く追う悪知恵だらけの宿敵！

第3シリーズを通しての宿敵であるこの二人が、作品の魅力を大きく広げていることは言うまでもない。ぬらりひょんは第4話で恐竜時代に流されるが、その執念深さで第16話に復活。以後、他人を利用して鬼太郎を陥れようと企むが、計画は常に失敗し戦わずして逃げていく。悪知恵と権力欲の塊だけに、彼一人では徹底的に嫌われかねないところを救っているのが、ほかならぬ朱の盤だ。間の抜けた喋りと行動でぬらりひょんの足を引っ張るが、絶対憎めないナイスキャラ。二人の奏でる絶妙のハーモニーは必見です！





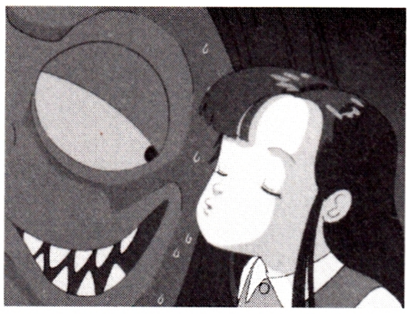
第45話。ねずみ男のアドバイスで復活しかけたホテルを奪い取る。妖怪花の咲いている土地もつぶそうとした。



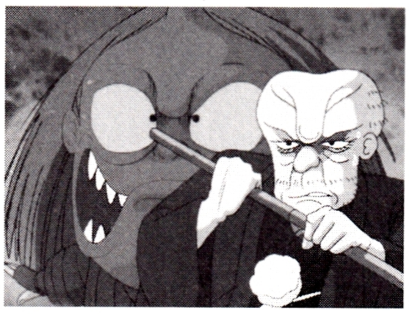
58話。朱の盤にユメコをさらわせ、鬼太郎を妖怪城へと誘い出す。鬼太郎に敗れると、最後は二人で走って逃げていった。



60話。ダイダラボッチを復活させて操り、町で暴れさせる。自分の手は汚さず、他人を犠牲にして世の中の支配を企む。



86話。盗んだ鬼太郎のゲタで夢の世界へ行き、妖怪香炉を奪う。ユメコを人質にしたが、隙をつかれて逃げられた。

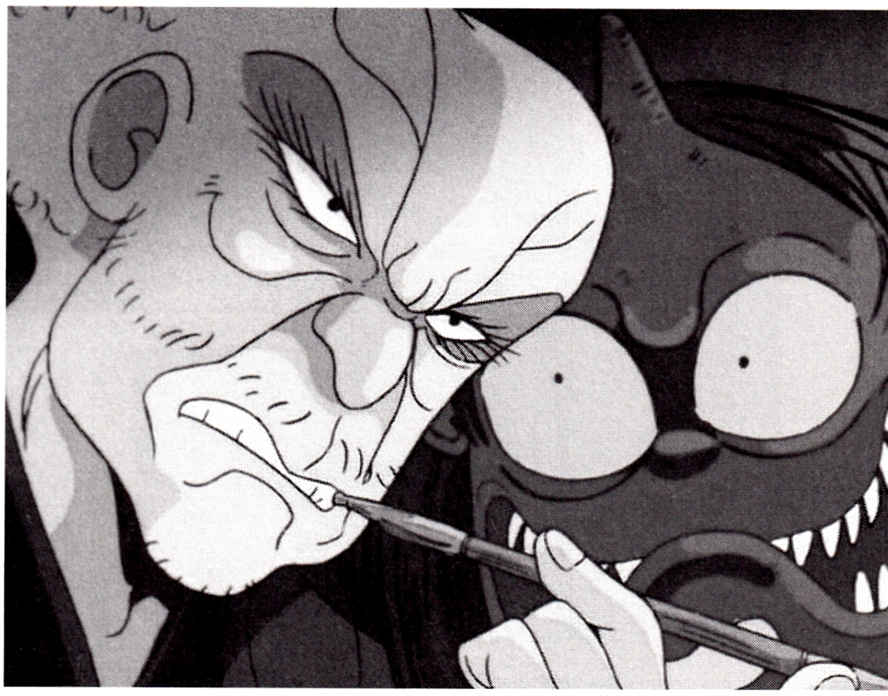


91話。ヒ一族にぬいぐるみにされたぬらりひょん。朱の盤は鬼太郎に助けを求め、悪党妖怪たちと力を合わせて戦った。

そして「地獄編」へ…



104話。鬼太郎たちが復興した旅館を"妖怪狩りツアー"ができるとして宣伝。しかし鬼太郎にバレて、逃げ帰って行った。

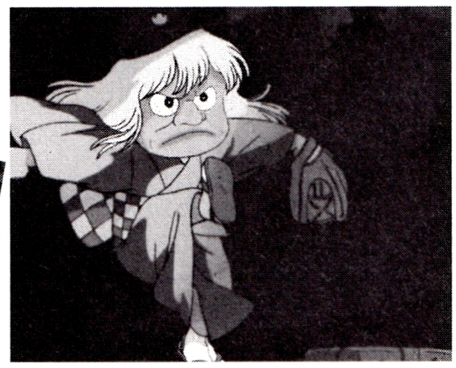


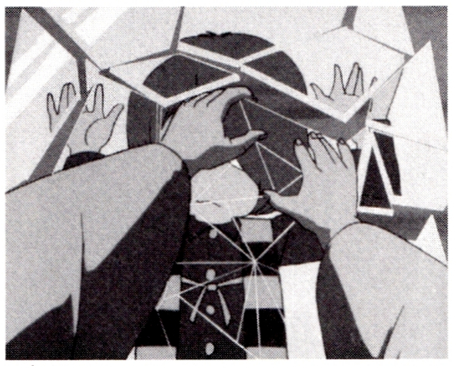
108話。人間を滅ぼし妖怪王国を作ろうと自分の手下の妖怪を集め、鬼太郎抹殺計画"本所七不思議の刑"を実行。しかし力をあわせた鬼太郎ファミリーに破れる。顔に刻まれた皺は見るからにして悪人顔だ。

見どころ4 鬼太郎ファミリーの活躍

砂かけばばあ





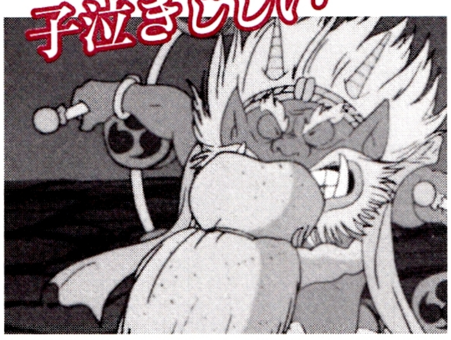


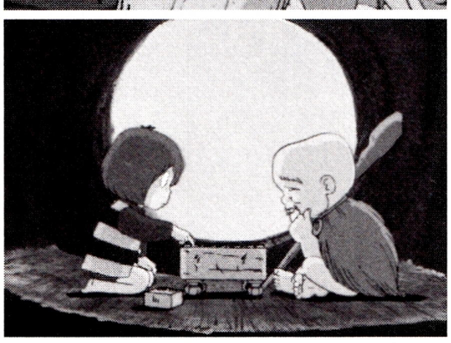
鬼太郎の母親のような存在。普段は妖怪アパートを経営している。戦闘時には砂を撒いて相手の目を潰す。鏡爺との戦いでは、外界とのつながりである鏡を妖術で修復するなど妖具や薬草の扱いにも長けており、鬼太郎の絶体絶命のピンチ幾度となく救った、最も頼もしい仲間のひとり。

鬼太郎の窮地を救う 力強い仲間たち

第2シリーズから徐々に形作られていた「鬼太郎を取り巻く仲間たち」が、鬼太郎ファミリーとしてレギュラー化。まずは鬼太郎が敵の妖怪に捕らえられ、それを砂かけばばあを筆頭にチームの連携プレーで助け出し、勝利を収めるパターンが「王道」に。自分の身を犠牲にしてまで鬼太郎を救おうとするなど強い絆が描かれるほか、子泣きじじいが砂かけばばあと恋仲になるなどの小ネタもあったりする。

子泣きじじい



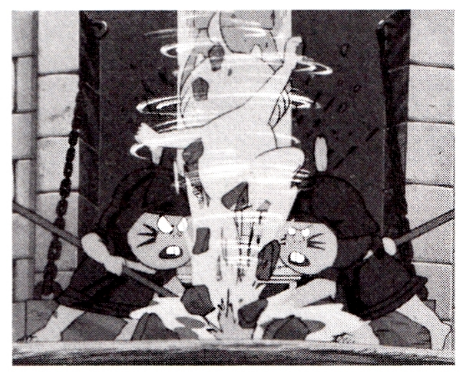


体を石に変化させ、敵を重量で押しつぶす。大の酒好きで、そのせいで敵の罠にはまることも。趣味の将棋は名人戦に出るほどの腕前で、目玉おやじと数日間続けて対局することもあった。

シーサー



意外とツカえる新顔が鬼太郎たちを盛り立てる!

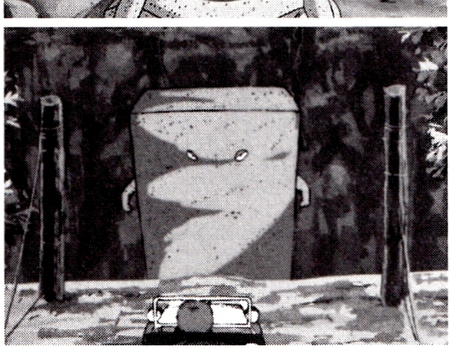




シリーズ後半から登場。沖縄で鬼太郎に助けられたことで尊敬し、上京して弟子入り志願した。父を超える強い妖怪になりたいと、日々訓練を重ねる。鬼太郎の窮地を、頭の角をドリルにして地中を掘って動き回る能力で救うなどかなり活躍するが、本人はまだまだ未熟と思い込み悩んでいる。

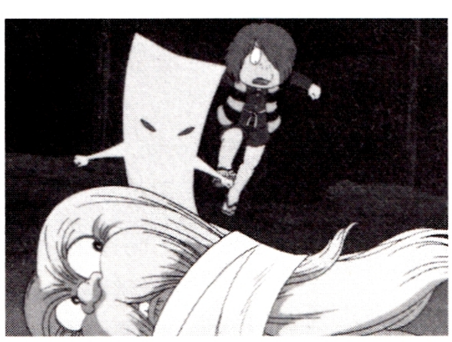
ぬりかべ





神出鬼没の巨大な壁の姿をした妖怪。倒れて敵をつぶしたり、敵を体内に塗りこめる能力を持つ。口数は少なくおとなしい。女の子に恋をして鬼太郎と戦いを繰り広げたこともある。

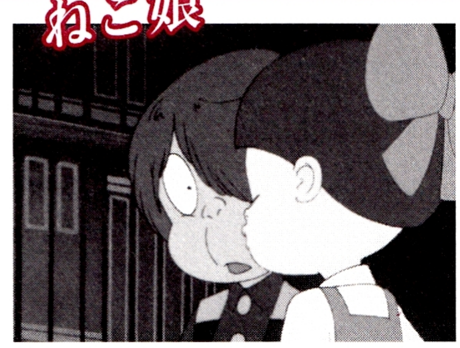
一反もめん

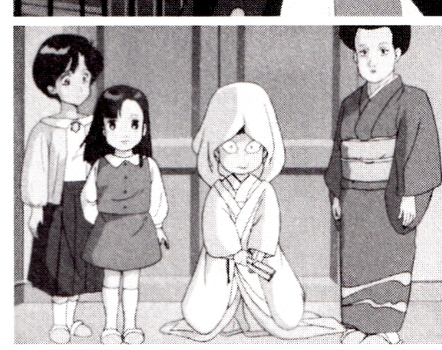




九州弁を話す反物の妖怪。空を飛べるため鬼太郎たちを乗せて移動したり戦いを援護する。体は布でできているため火に弱く、すぐに破られてしまうが、針と糸で縫い合わせると復活する。

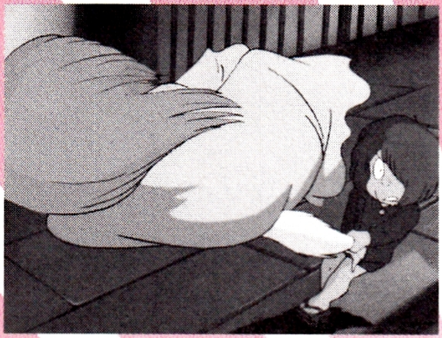
ねこ娘





鬼太郎のガールフレンドで、ねずみ男の天敵。ねずみ男やかつおぶし、好物の魚の前では猫の本性が現われる。鬼太郎に想いを寄せ、ユメコとは恋のライバルだが、2人は仲がいい。

18話。地下鉄の工事中止を求めて人間を人質にした狐一族・天狐との戦い。力は五分五分だったが天狐は自ら負け認めた。





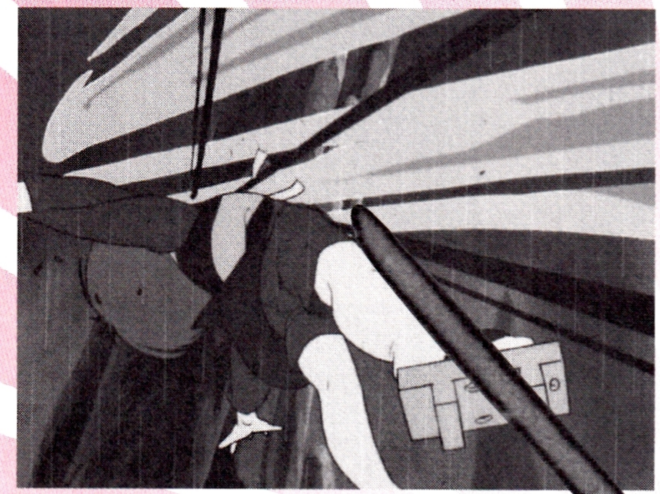
75話。人間の体を土壌に小豆を収穫していた小豆連合軍を、空中から攻撃する。

見どころ5
ダイナミックな戦闘シーン

オカリナの登場でアクションもパワーアップ

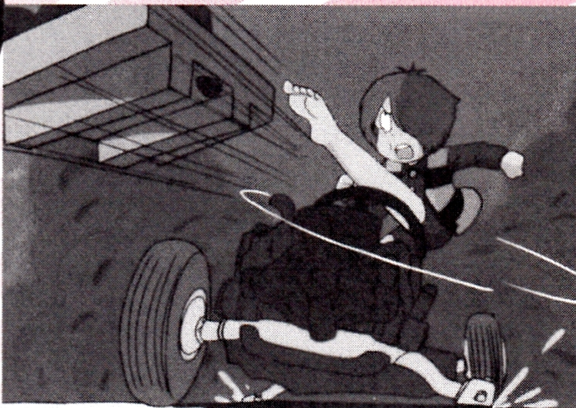
さまざまなこだわりが感じられる戦闘シーンは、第3シリーズの大きな魅力だ。第1～2シリーズの鬼太郎の武器は、髪の毛針、ちゃんちゃんこ、リモコンゲタが中心だったが、このシリーズではオカリナが登場。剣やムチなどに変形する戦闘用の武器になるほか、吹き鳴らして仲間たちに応援を要請したり、ときにはロープ代わりになって鬼太郎の戦いを助ける。このアイテムの登場によって、戦闘シーンのバリエーションが大きく広がった。戦闘シーンは360度の視点を意識したカットワークで、大人の目も引くようなスピード感溢れる場面が楽しめる。鬼太郎だけでなく鬼太郎ファミリーのレギュラー化によって、チームワークを駆使して敵を倒すパターンが登場した。

85話。河童天国を支配しようと暴れるたくろう火を、鬼太郎が水中へ引きずり込み退治。



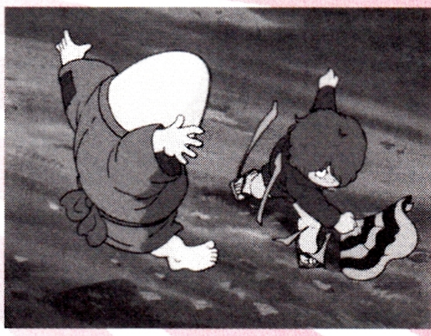


第51話。各国の強豪妖怪相手に大奮闘。

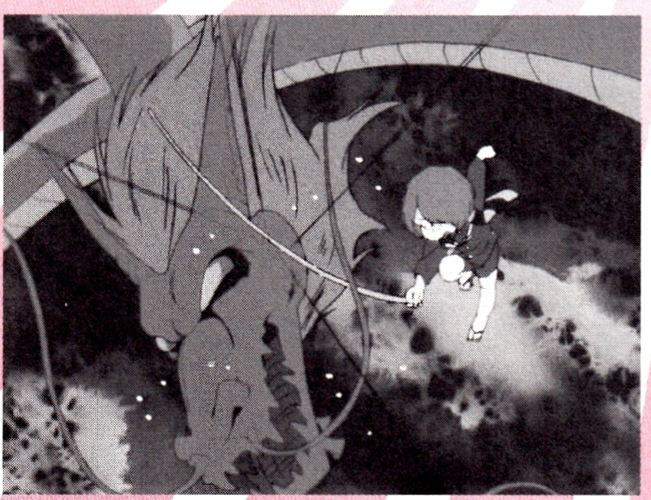


第65話。強敵・悪魔ブエルとの戦いに苦戦する鬼太郎。

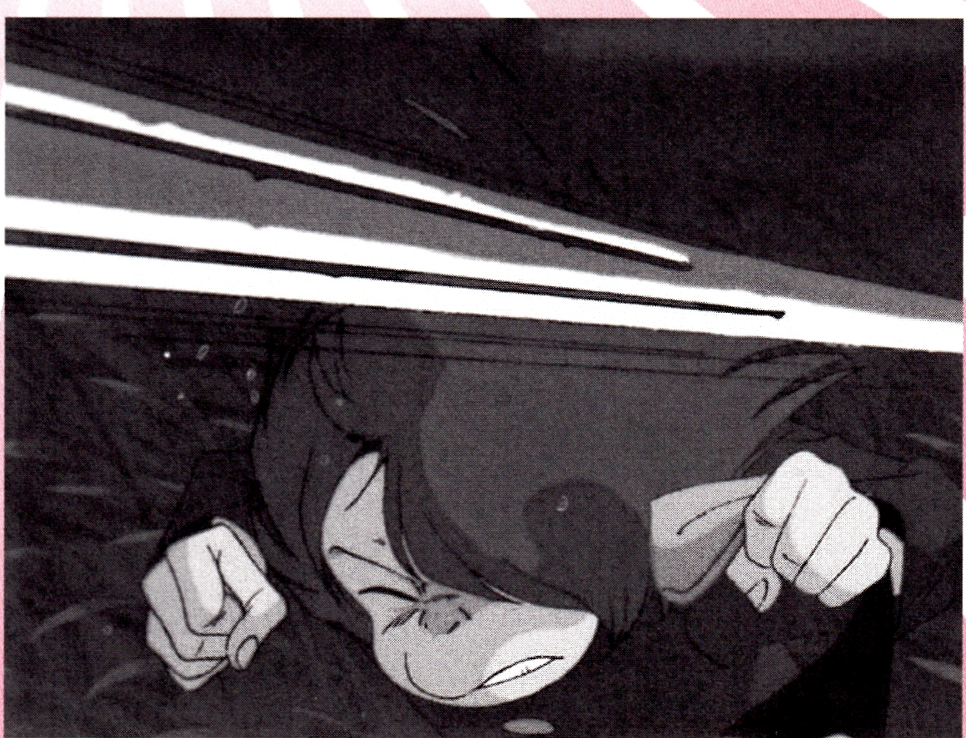




16話。ぬらりひょんに利用され、顔を盗むのっぺらぼう。最後はオカリナムチが活躍。



79話。引きずり込まれた異次元の世界で、現われたやまたのおろちに苦戦を強いられる。

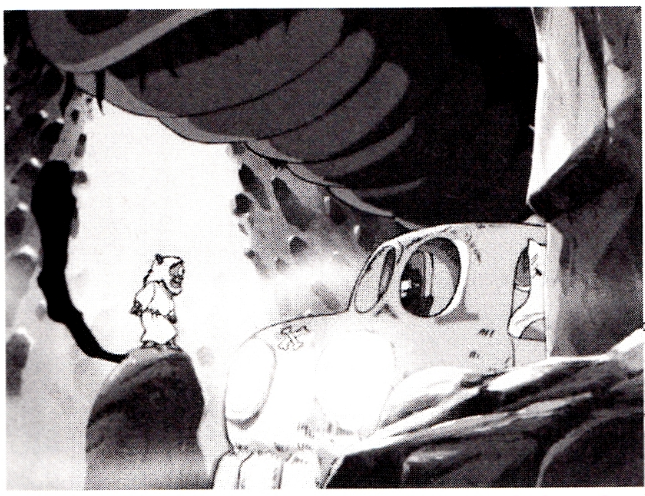


108話。鬼太郎抹殺計画“本所七不思議の刑”を実行したぬらりひょんとの、最後の戦い。

見どころ6 夜行さん&オモシロマシーン

妖怪科学に精通している夜行さんの発明品が活躍！

夜行さんは、妖怪と文明の力を融合させた発明品を開発。鬼太郎たちの手に負えなくなった時、役立つアイテムを提供してくれるナイスな妖怪だ。しかし気難しいため、鬼太郎たちは「いくら夜行さんでもこれは無理ですよね」などとプライドをくすぐり挑発して、毎回発明品を貸してもらうのだ。妖怪戦車とか、〝夢〟の世界へ行けるくじら飛行船とか、思わず乗りたくなっちゃう奴らばかりです！

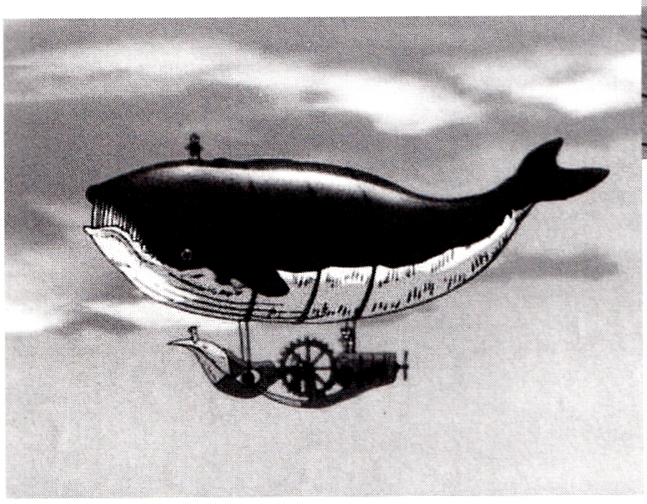


妖怪戦車

輪入道の車輪、化け火とつるべ火のヘッドライト、ガイコツのボディ、に野づち砲をつけて完成。あらゆるものを吸いこむ。

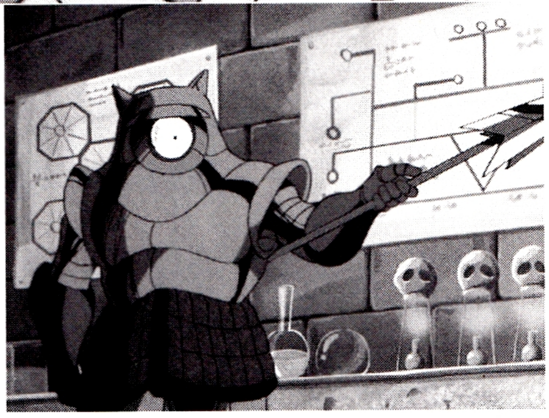


声・大竹宏



くじら飛行船

くじらの皮を剥ぎ、特殊なガスをつめることで空を飛ぶ。鬼太郎たちが夢の世界へ向かう時に使用。



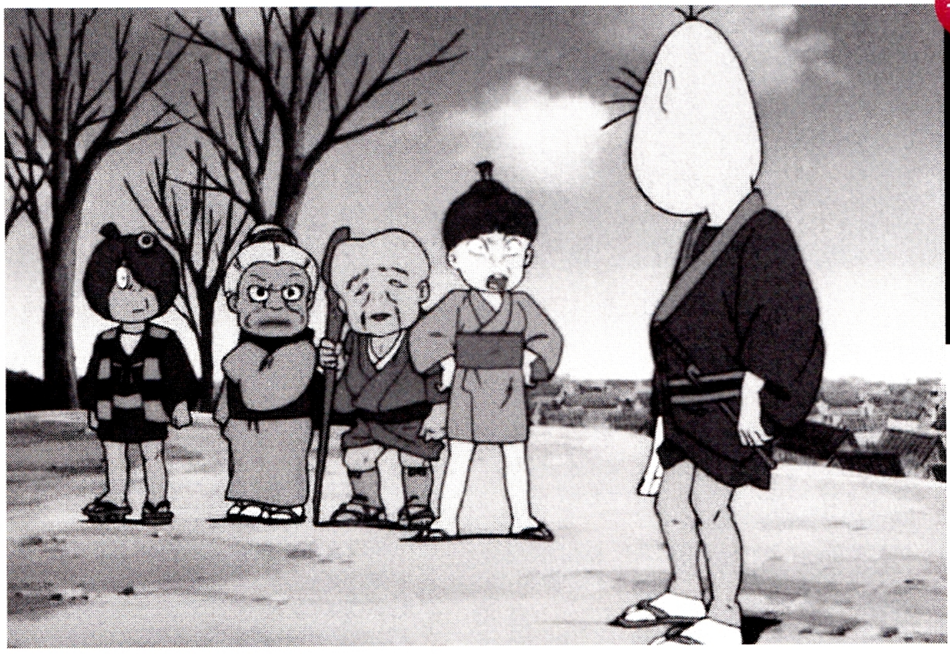
地獄武者の鎧

妖怪科学の粋を集めた鎧。〝地獄編〟ではぬらりひょんに操られ、鬼太郎の前に立ちはだかった。

見どころ7 オリジナルストーリー

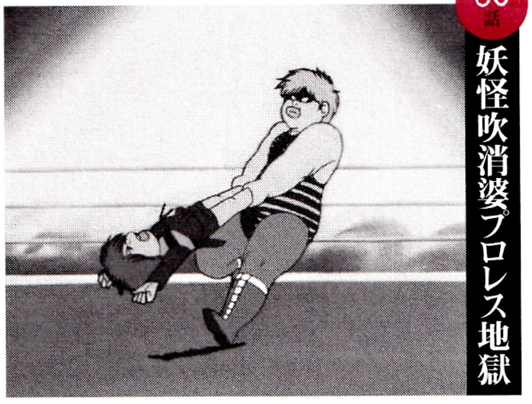
オリジナルで分かる鬼太郎たちの意外な一面

作品の多くは前シリーズまでと同じ原作を用いたものだが、前作までにないオリジナルのストーリーがいくつも登場。実はこれらの数話で、鬼太郎たちの意外な一面を知ることができるのだ。第80話のプロレス地獄では、ユメコが熱狂的なプロレスファンだという事が判明。彼女のイメージとのギャップに驚かされた。さらに第88話では自分が強いということで調子に乗っている鬼太郎を見ることができる。



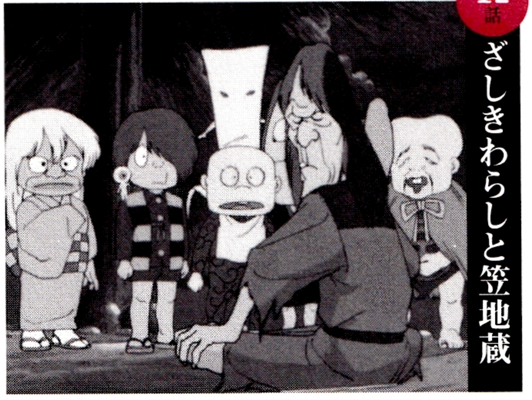
101話 妖怪捕物帖 猫騒動

舞台を江戸に移し、殺人事件の謎を解く。バブルが生んだ心の余裕か、遊び心満載だ。



80話 妖怪吹消婆プロレス地獄

女子プロレスラーにジャイアントスイングで痛めつけられる鬼太郎って面白スギ。このシーンが見せたかっただけなのでは!?



12話 ざしきわらしと笠地蔵

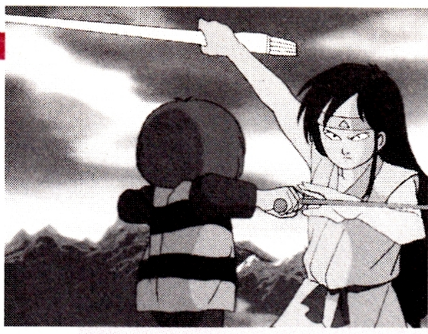
貧しくも誠実に生きる老夫婦の家を、貧乏神とざしきわらしが取り合う。ゲゲゲ版『傘地蔵』に「貧乏神」をアレンジして再構成した新解釈。



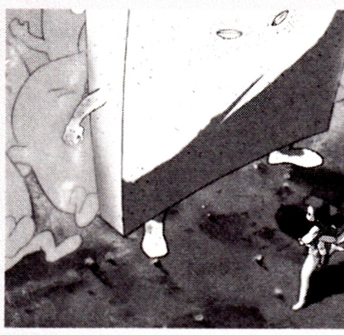
88話 不思議な妖犬タロー

向かうところ敵なしとうぬぼれている鬼太郎を心配した目玉おやじが、チベットの仙人に妖犬タローに姿を変えてもらい一計を案じる。

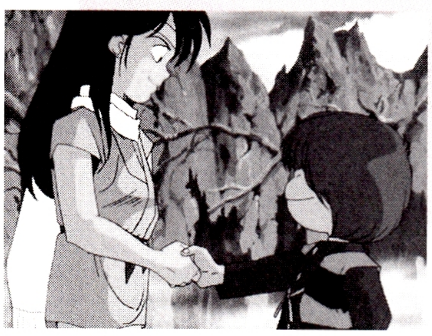
地獄童子名シーンBEST3



ぬらりひょんに操られたエンマ大王の命令で、鬼太郎を攻撃。マフラーを剣に変え、戦いを挑む。

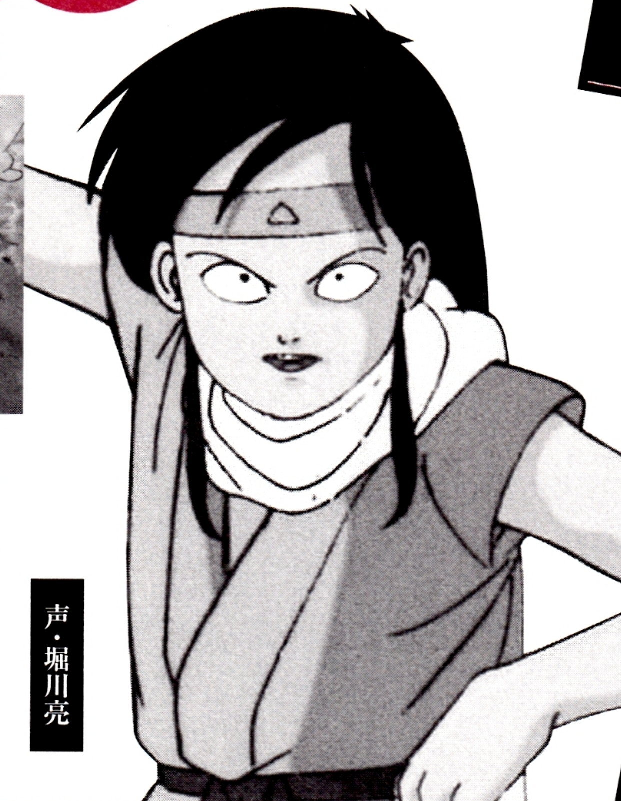


仲間と離れてしまったユメコを助け出し、地獄ゼミに導かれて、鬼太郎の元へと向かう。



鬼太郎の輸血により命を助けられた地獄童子は、地上へ向かう鬼太郎に握手をして別れを告げた。

見どころ8 地獄童子



声・堀川亮

鬼太郎のライバルは長髪の美少年キャラ！

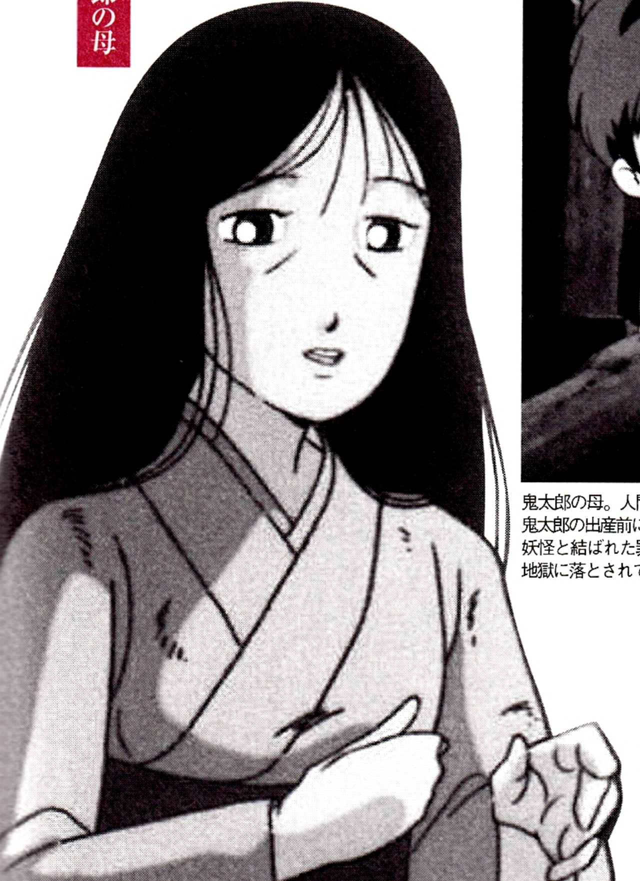
地獄編で登場し、鬼太郎と戦いを繰り広げるのがライバル的存在の地獄童子だ。水木作品にあり得ない美少年キャラクターに魅了されたファンは多い。首に巻いたマフラーは剣などに変化し、武器になる。最初は鬼太郎たちを攻撃するが、最後には鬼太郎と力を合わせて鉄鼠と五徳ネコを退治。恋人・幽子を助け出し、鬼太郎たちに別れを告げた。

地獄童子パーソナルDATA

人質にされた恋人を取り戻すため、鬼太郎たちを攻撃。怪我を負ったとき、人間と妖怪の二世だったため鬼太郎の血を輸血。ぶっきらぼうだが心優しい。

見どころ9 地獄編

鬼太郎の母



声・坪井章子



鬼太郎の母。人間の女性で鬼太郎の出産前に死亡する。妖怪と結ばれた罪によって地獄に落とされていた。

鬼太郎誕生の謎がついに明かされる！

これまでテレビでは描かれなかった鬼太郎の誕生秘話が、目玉おやじから明かされるのが地獄編だ。これまでずっと視聴者の謎だったことが地獄編でかなり描かれている。美少年のライバル地獄童子の登場、ぬらりひょんとの最後の対決、さらには鬼太郎の母親まで登場する全7話。その完成度の高さは特筆モノだ。

地獄編のココがすごい！

◎ **鬼太郎の生い立ちが判明**

60年代から始まった鬼太郎シリーズで、初めて鬼太郎の誕生が描かれている。目玉おやじの回想によって判明。

◎ **目玉おやじの誕生秘話**

血の池地獄に飛び込み絶体絶命のとき、昔、幼い鬼太郎の身を案じて目玉として生き返ったことを自ら語った。

◎ **鬼太郎の母親が登場**

前半は地獄ゼミに姿を変え鬼太郎を導く。最後に鬼太郎と再会するが、命と引き換えにユメコを救い地獄へ残った。

◎ **ぬらりひょんとの戦いが決着**

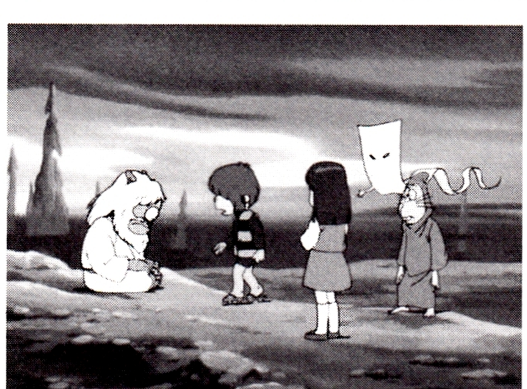
執念深く鬼太郎の前に現われ悪事を働いてきたぬらりひょんとの最後の戦いが繰り広げられ、ついに決着する！

地獄編　放映データ

1988年2月8日「母を求めて地獄旅」
1988年2月15日「血戦三途の川」
1988年2月22日「鬼太郎VS地獄童子」
1988年2月29日「二大妖怪の罠」
1988年3月7日「地獄武者の処刑作戦!!」
1988年3月14日「血の池妖怪ヌルリ坊」
1988年3月21日「鬼太郎最後の出会い!!」



114話。天叢雲剣を手にしたぬらりひょんとの最後の戦い。光に操られないよう目隠しで挑んだ。一度は倒れるが、仲間の妖力を受けて復活。



113話。妖怪科学の粋を集めて作られた鎧を身につけた地獄武者が鬼太郎を攻撃する。その正体は操られた夜行さんだった。



110話。首きり三人衆に捕らえられ、鬼太郎は首を落とされかけるが、秘術・亀の首で刀を避けた。

第4シリーズ 鬼太郎の伝説への道

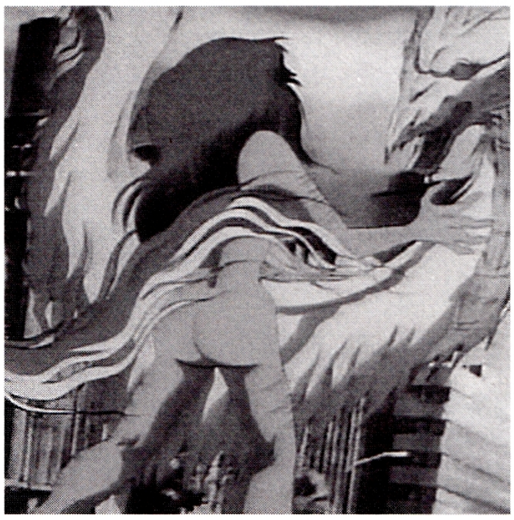
第4シリーズ ホラーブームに便乗!? スマッシュヒット

スタイリッシュな鬼太郎！豪華ゲストも多数登場

1996年の新春より約2年3ヶ月に渡り放映された、2006年現在におけるアニメ版の最新シリーズである。60年代に第1シリーズ、70年代に第2シリーズ、80年代に第3シリーズと展開されたアニメ版『ゲゲゲの鬼太郎』は、この90年代の最新作で一躍『10年お化け』という異名を不動のものとした。

新たな原作があるわけでもなく、突然決まった感もあった第4シリーズのスタート。背景にはヒット映画『学校の怪談』などにはじまり、つい先ごろまで続いていた〝和製ホラー〟ブームがあったと思われる。ただし4度目にもなれば、アニメ化自体が一つのお祭りのようなもの。リメイクにリメイクを繰り返し、例えば『八百八狸』のストーリーだけでも、本筋を変えず3度のリメイクが掛かったことになる。ここまで世の中に浸透しているアニメ作品は、他に類を見ないと言ってよい。大ヒット作となった全シリーズの方針を踏襲するかと思いきや、まったく新たな方向へと漕ぎ出していくことになる。

まず妖怪のデザインは、子供向けのリ・デザインが激しかった前作の方針を捨て、かなり第1シリーズに近い形に回帰している。その上で、ストーリー展開や各事件の背景などは時代を反映したものを用意。プロットに大きく関わる妖怪たちのバックボーンなどは、脚本家や演出家たちの独自解釈を大きく反映したものになっている。かつては侵略者として描かれていた妖怪が、第4シリーズでは自己犠牲の精神に溢れた故郷思いの妖怪として登場したり（それでもその妖怪が持つ能力などの設定は生かされているのが、また面白いところだが）、初登場の妖怪でも伝承は完全に無視し、生かすべきプロットのみを生かしたりという裁量権をもって、制作スタッフは作品に臨んでいたのであろう。



あかなめと白うねり。さらにねずみ男の交流が感動的。

主人公のキャラクターは、一本気でいかにも少年アニメのヒーロー的存在だった第3シリーズの鬼太郎とは、また大きく変わっている。かといって今度は第1〜2シリーズの〝子供の鬼太郎〟への回帰ではない。決して道を踏み外さず、勢い込んで勇み足もしない。人間的に大きくなった（年齢設定は変わらないが）主人公・第4シリーズ鬼太郎の姿がそこにあった。第1シリーズから綿々と受け継がれてきた「ハイ、父さん！」のセリフも、透明感のある松岡洋子の声と相まって独特の響きを醸し出す。そして一反もめんに乗って髪を風になびかせたり、ちゃんちゃんこを脱いでインナーで一反もめんに乗ったときには〝襟立て鬼太郎〟になったりと、さりげなくこれまでにないスタイリッシュな描写が盛り込まれている。

そして鬼太郎がハメを外せない分、ねずみ男の弾けっぷりもハイレベルになっている。これはアドリブ大王の異名を取る声優・千葉繁氏の功績も大きいと思われる。これまでは調子のよさだけがクローズアップされていたねずみ男が、第4シリーズでは人情家になったり純愛に生きてみたり、極限状況で「ねずみ男としての哲学」を独白してみたりと大活躍。鬼太郎とねずみ男は二人とも、シリーズが変わるごとに「別人か？」と思われるほどの性格設定の変更が見られるのだが、不思議なことにこの二人の間のバランス関係、お互いに行動を補完する関係は崩れないのである。

さらに第4シリーズ独特の展開として、水木ワールドに造詣の深い著名人が脚本・声優などで参加しているのも見逃せない。過去作以上に幽玄な、怪しげな雰囲気が増した「吸血鬼エリート」の声優として、こちらも稀代の怪優・佐野史郎氏が登場。さらに圧巻なのが、水木氏とも親交が深い小説家・京極夏彦氏が脚本・及びメインゲスト声優として参加した「言霊使いの罠！」だろう。水木ワールドに京極の世界観が殴り込みをかけたこの怪作は、未だにファンの間で語り草になっており、この1作のためだけに解説本が出版されるほどの話題となった。

制作工程の変化としては、第3シリーズの後半からデジタル化が実現。そこに意識的に手書き風味を残したビジュアルを使用し、スタイリッシュな線描と陰影の付け方を生かしながら、独特の手づくり感も出すという荒技を披露している。第3シリーズに続き第1〜2シリーズのDVD-BOX化が実現した今、第4シリーズのDVD化も待たれるところである。



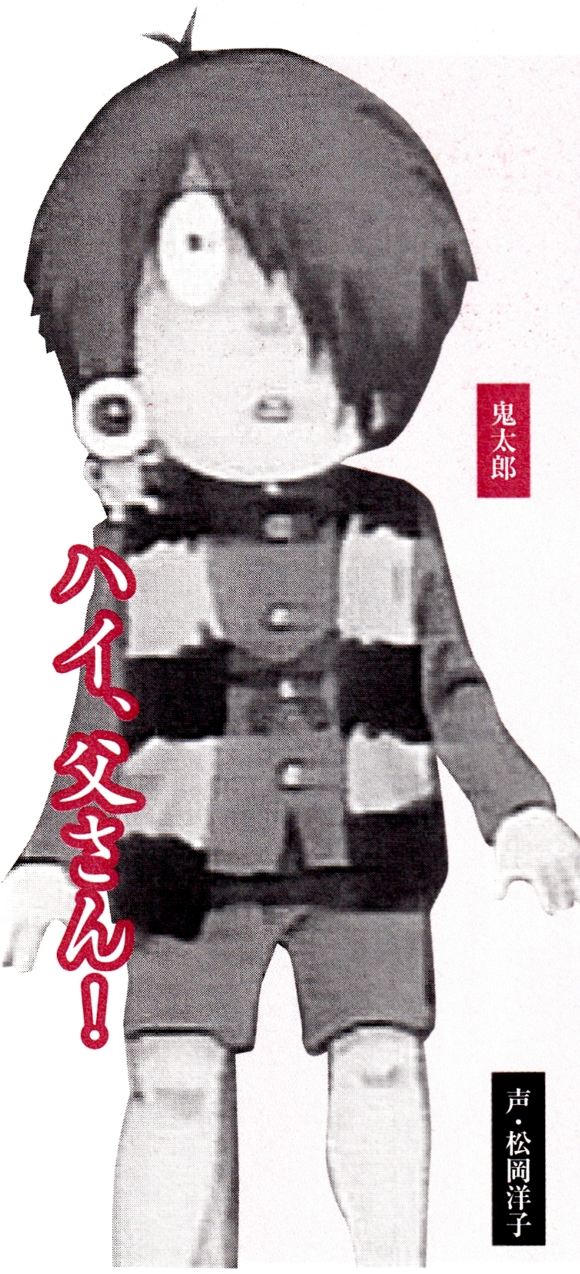
フワフワ浮かぶオバリヨンは、伝承を無視し、いい妖怪として描かれた。

見どころ1
メイン3人はこう変わった

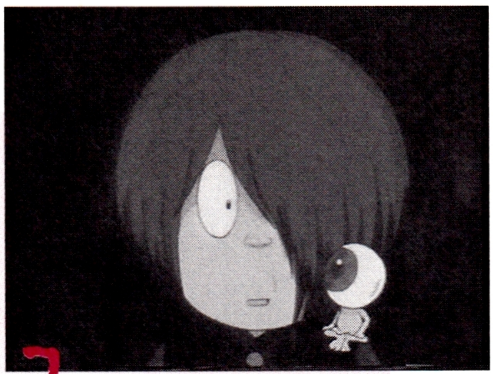
役割分担を変えつつ絶妙なバランスは維持

少年らしさが強調された第3シリーズとは対照的に、落ち着いた物腰でクール&スタイリッシュな〝大人の鬼太郎〟になる。もちろん正義漢なのは変わらず。またハメを外せない鬼太郎に変わり（?）、ねずみ男の服装&行動の振り幅がアップ。16話「あかなめと白うねり」ほか24話、36話などで〝感動請負人〟的な役割も担い始める。目玉おやじの発言はさらに重みを持ち始め、反対に行動と表情は、歯止めが利かないくらいカワイくなっていく。

鬼太郎

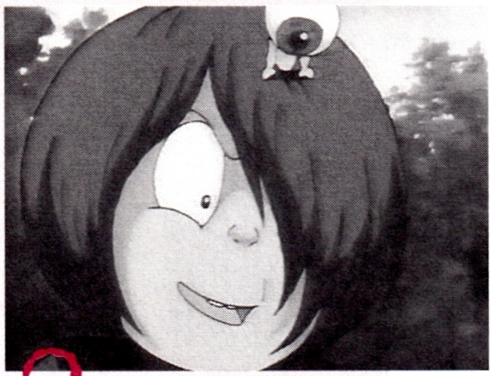


声・松岡洋子



1 精神的に大人になった

熱血漢だった第3シリーズと比べ、発言の内容もトーンも抑え目に。ねずみ男や他の人たちに対しても、真摯な姿勢での言動が多くなった。



2 策略的にになった!

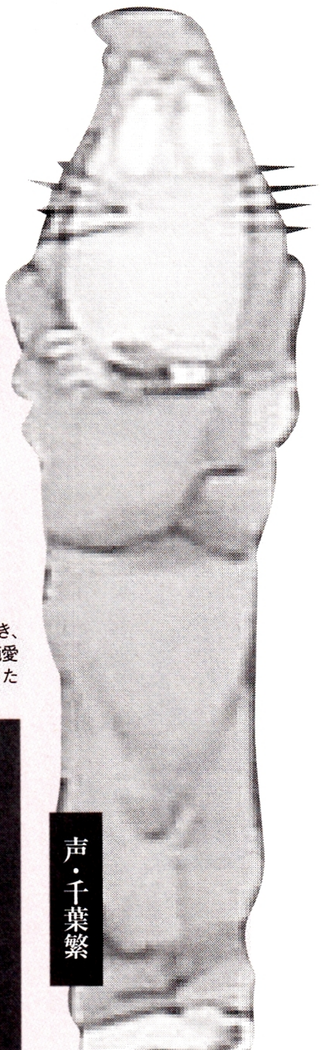
29話では"争いに食いつく"ダイダラボッチの気を引くため仲間を裏切ったフリをするなど、相手の裏をかく戦いもするように。



3 謙虚になった!?

仲間に土下座している鬼太郎って過去作ではあり得ない!? 自分の油断が元で牛鬼に乗り移られてしまい暴走した際のこと。第6話。

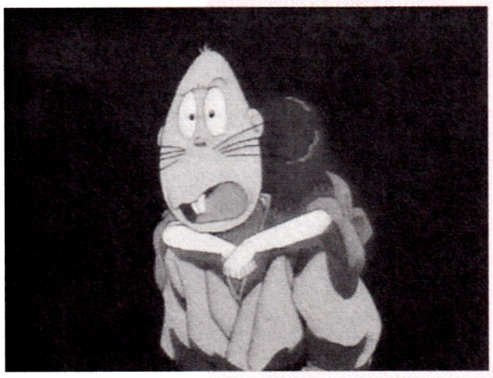
ねずみ男



声・千葉繁

1 ちょっぴり人情的・情熱度UP

42話でがんぎ小僧との友情に泣き、24話では小百合ちゃんとの純愛に泣く。鬼太郎がクールになった分、感情爆発は彼の役割に。

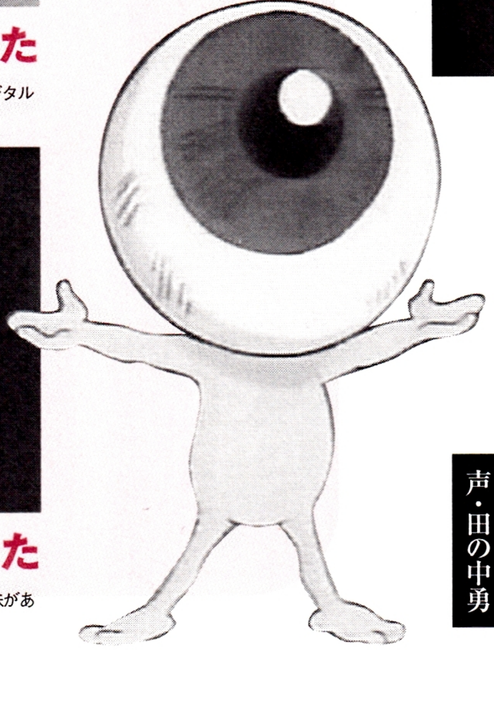




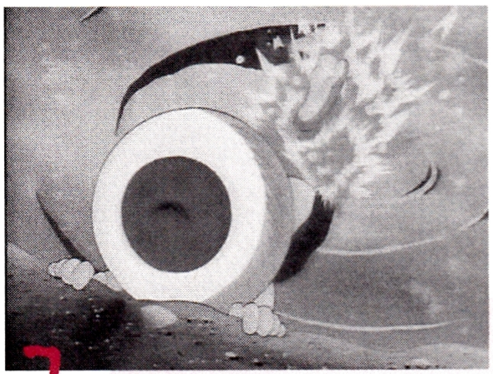
2 コスプレはさらにエスカレート

第3シリーズに引き続き、マントを脱ぎ捨てコスプレする姿が頻出。バイク便ライダーとかゲームセンター店員とか、地道に働くことも。

目玉おやじ



声・田の中勇



1 さらにお茶目になった

おやじのカワイさが、もう止まらない！ 製作システムのデジタル化の影響もあるのか、表情もより鮮明に、豊かになりました。



2 さらに教育的になった

24話。みんなに頼られる目玉おやじ。「この騒動にも深い意味があったんじゃな」などと、教育的に事件を総括することもある。

見どころ2
鬼太郎ファミリーの活躍

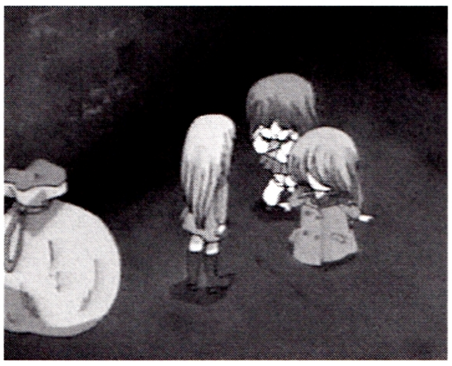
少数精鋭に絞られた分キャラが濃くなった!?

第3シリーズではメインどころに加えシーサー、がんき小僧など準レギュラー的ファミリーも多かったのに対し、第4シリーズでは少数精鋭に絞られたイメージ。また第4シリーズの仲間たちの1番のトピックは、「ねこ娘が可愛くなった」ことかも。第3シリーズではユメコちゃんに押されて立つ瀬が無かった分を取り返すかのように、可愛くバージョンアップされました。そのほかどのメンバーも、お茶目なシーンが多数登場しています。

砂かけばばあ

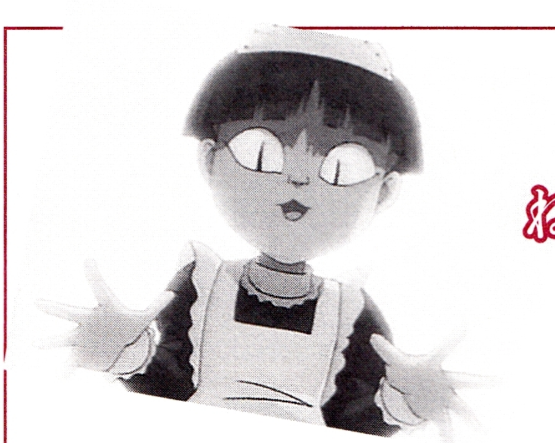






（上）「妖怪遠眼鏡」で人の魂の様子を調べるなど、妖具の扱いに長けている。（右下）セーラー服のコスプレでおとりになったり……って、本当に引っかかるのか？　ちなみに1人は鬼太郎です。（右上）砂かけ婆の若かりしころの姿が登場！　ええ、恋の話もうっすらと入っています。

ねこ娘



にこやかに背中を押して、奈落の底への旅路のお手伝い。メイド姿って、時代を先取りしてる!?

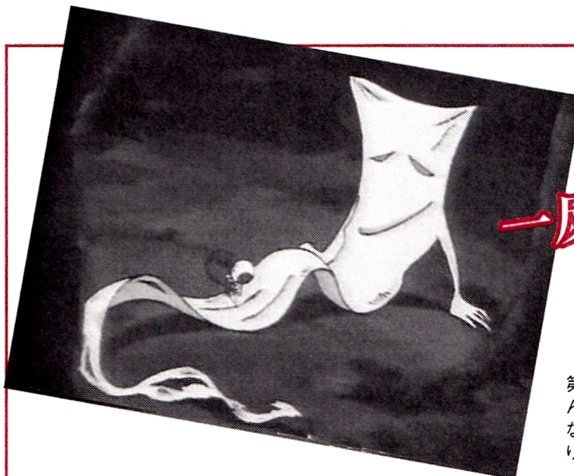


“若返りの白粉”と騙されて顔を取られた2人。顔が無いのに恥ずかしそうな表情してる。

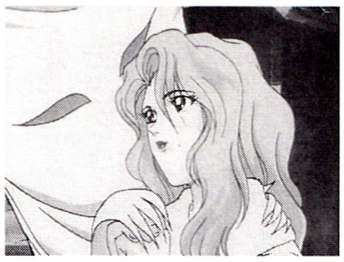


ラクカシャに乗り移られて髪も伸び、大人になったネコ娘。鬼太郎に色仕掛けで迫る。

一反もめん



第4シリーズの一反もめんは、なんだかヨレヨレな目によく合います。釣り目も情けなくさかさまに。

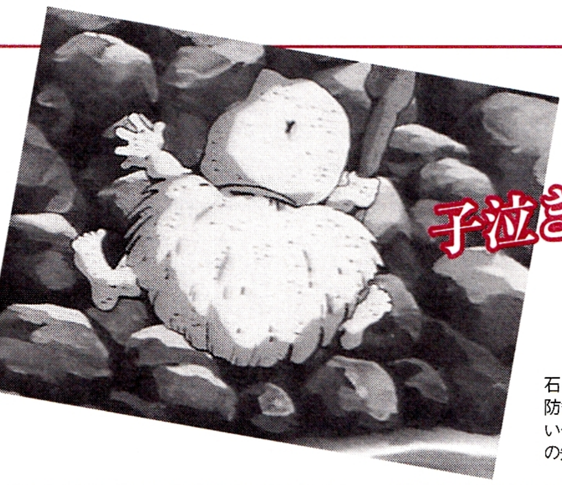


モンローにメロメロの一反もめん。目玉おやじに「ねずみ男に似てきたぞ」と指摘される。

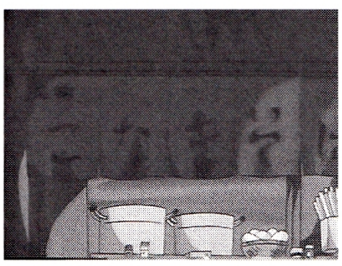


こちらは猫ショウに精気を吸われ、飛ぶことも出来ずに杖を突いて歩いていたりします。

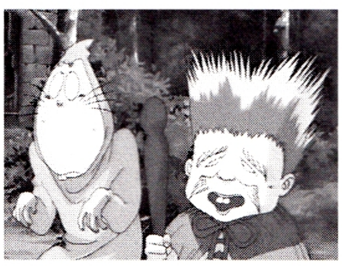
子泣きじじい



石となってダムの決壊を防ぎとめる子泣きじじい。いや、いいんだけど、この先ずっとそこに？



「地獄流し」ではラーメン屋に。「夜なきそば」ならぬ「こなきそば」とはこれいかに。



ねずみ男に乗せられたとはいえ……。金髪のパンク頭で“子泣き小僧”を目指すって……。

ぬりかべ



千人力の天邪鬼とがっぷり四つに。巨漢同士の力比べって、どうしてこんなに心が躍るのか。



ダイヤモンド妖怪・輸入道との戦いでも、絶体絶命になった鬼太郎を助けたのは彼でした。



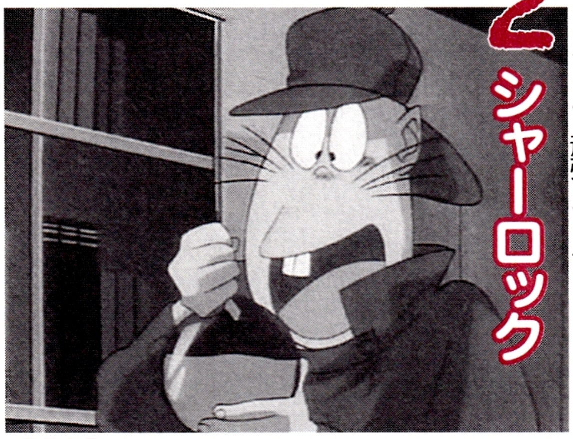
雪男が起こした雪崩から、その名のとおり壁になりみんなを救う。ホント頼りになります。

見どころ3
エスカレートするねずみ男のコスプレ

ねずみ男の 90's コスプレセレクション BEST5



本人の妄想の中での話ですけど。清純で可憐で……。ねずみ男の理想の女性は、自分らしいです。



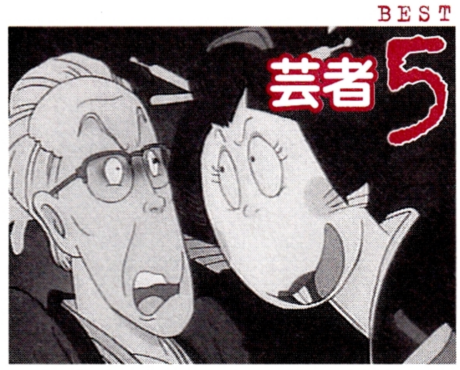
38話「おどろおどろ」の回は、“シャーロックねずみ男”として登場。結構似合ってますよね。

放浪の露天商という設定で、売っているのは妖怪の声が入った「妖怪テープ」。うさんくさっ！





沖縄の「妖怪ホテル」では、ドアマン&ボーイ役で奮闘。これもお似合いかも。この回にはなつかしのシーサーも登場。



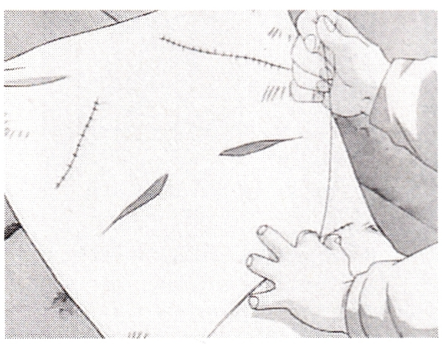
ノリノリ度&気持ち悪さでいえば、これがNo.1かも!? 悪徳社長とはいえ、迫られたおじさんがかわいそう〜。

意外と真面目に働いているんです!?

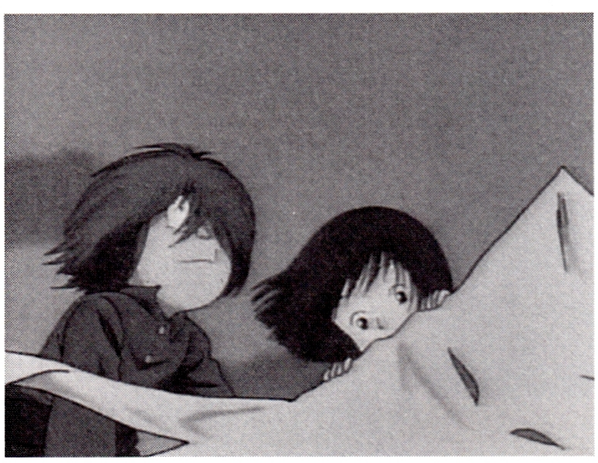
ねずみ男の服装の自由度は、第3シリーズから広がり第4シリーズの前半が最高潮。女子高生や芸者などの女装はもとより、シャーロックや寅さんのような、本物のキャラ萌えコスプレにもチャレンジするように。しかも第4シリーズのねずみ男はフリーター天国の世相を反映してか、胡散臭い商売だけじゃなく結構しっかり働いているんです。清掃員とかゲームセンターの店員とか、そんじょそこらの若者フリーターより頑張ってます!?

見どころ4
佑子・淳・翔太

村上佑子
好奇心旺盛で優しい素直な女の子





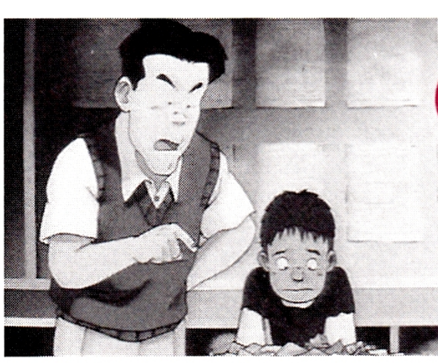


(下) 鬼太郎と佑子ちゃんが出会った事件、見上げ入道の回より。一反もめんからの景色はいかが？ (左上) ネコの大群に襲われた一反もめんを繕ってあげてます。(左下) ヤマタノオロチの回。ぬらりひょんの持つ草薙の剣を自分から奪いにいく、勇敢な少女でもあるんです。

佑子ちゃんを筆頭にみんな素直でいい子です

今回の人間側からの準レギュラーキャラは、小学生の三人組。素直で芯の強い少女・村上佑子と、ちょっと頼りなげな眼鏡少年・鈴木翔太。さらにワンパク風の谷本淳の三人組が、妖怪の絡む事件を見つけ、ときには封印を解いちゃったりして鬼太郎に助けを求めます。今回の鬼太郎はユメコちゃんに振り回されていた第3シリーズの反省からか（?）、見た目の年はそんなに変わらないのに、保護者みたいな優しい目で3人を見守っているのです。

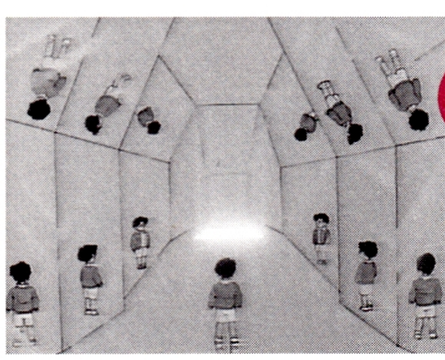
谷本 淳

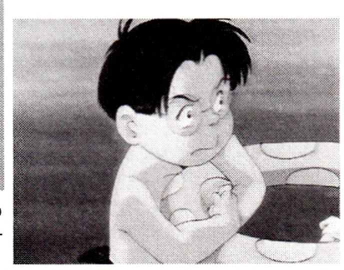




(上) 先生に叱られて、ゴミや過去のテストを片付けようとする。そこに野づち塚を発見して、つい封印を……。(右) 妖怪の話をし始めるのは、だいたい彼。現実になるとは夢にも。

鈴木翔太



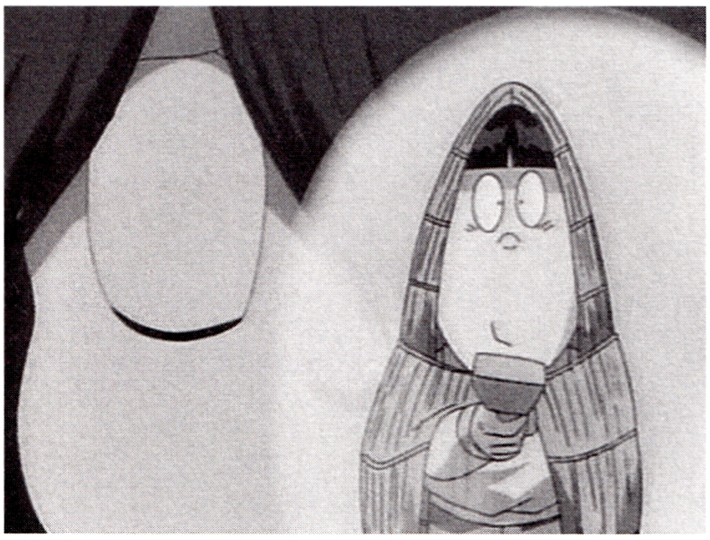


(上) 佑子と淳に煽られて鏡の前に立ったばっかりに、今回の鏡じじいの被害者は翔太くんでした。(右) 海水浴場で、佑子と浮き輪を取り合います。そこにダイダラボッチが……。



大逆転2 目目蓮

2話。過去作では強暴だった目目蓮も、4部の設定では「本来木蓮の里に住む、心優しい妖怪」に。



大逆転3 冷凍妖怪雪ん子

58話。わりとクールに魂を抜いていた冷凍妖怪"雪ん子"も、鬼太郎を助けてくれる"イイ子"に。

見どころ5 妖怪設定の大逆転!?

109話。のびあがりは地上征服を目指す侵略者のはずが、4部では村の崩壊危機を防ごうとする善玉妖怪に。



大逆転1 のびあがり

脚本家のオリジナルが尊重されたシナリオ

脚本家の独自解釈がかなり尊重されているのが、第4シリーズのストーリーにおける大きな特徴の1つだ。過去に「妖怪帝国を作る」ために出てきた侵略者である妖怪が、第4シリーズでは「雪崩を予言し、村の人々を助けようとする」いい妖怪へと変貌。この"のびあがり"を筆頭に、一部の妖怪に対して、善悪設定から覆す大逆転が生じているのだ。

「本来は悪事を働かない妖怪が、人間の勝手さに怒って暴れ始める」というパターンは、第2シリーズ以降比較的良く見られた形ではあった。しかし過去は凶悪妖怪だったのびあがりや目目蓮などが、いわゆる善玉妖怪になるとは……。第1～3シリーズからのファンにとっては、かなり意外な展開だったと思われる。



40話 夜の墓場は運動会!

オープニングの歌詞はウソじゃない!

"夜～は墓場で運動会"って、ホントにやっていたのね……。のっぺらぼうの飴玉探しゲームとか、ねずみ男とネコ娘の二人三脚など、敵も味方もなく楽しそうです～。

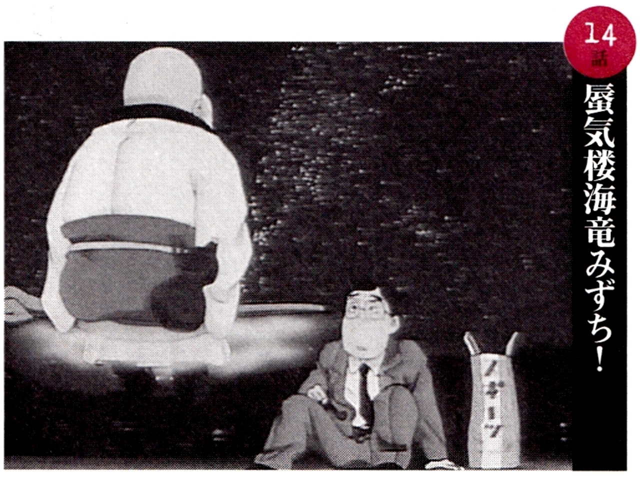
見どころ6 オリジナルストーリー

京極夏彦の怪作!

脚本・京極夏彦。言霊師・一刻堂が、鬼太郎たちを"存在"からぐらつかせる。京極作品に登場する「京極堂」を思わせる風貌に、ファンにはおなじみのあのセリフまで!



101話 言霊使いの罠!



14話 蜃気楼海竜みずち!

ものの例えじゃなくホントの幻です

水木作品にはおなじみのモチーフ・蓬莱島も、アニメ版では初めて。この桃源郷は海竜・みずちの吐き出す息が作った蜃気楼だそうです。島の人たちは、それでもOKなのでしょう。

第4シリーズは"宝の山"なんです!

第4シリーズオリジナルの作品は快作が多い。なかでも群を抜いてファンかぶりつきだったのが、原作者・水木しげる氏とも親交が深い京極夏彦氏が脚本を担当した第101話『言霊使いの罠!』だろう。京極作品の人気キャラクター・京極堂を思わせる風貌の"一刻堂"をメインにしたこの話は、鬼太郎たち妖怪の"存在"を根底から揺るがせるストーリー展開となっており、話題を呼んだ。また、墓場を舞台に繰り広げる妖怪たちのお祭り騒ぎ……というと、百鬼夜行のような怪しげなものを想像しがちだが、いざ見てみるとムチャ楽しげな『運動会』という第40話『夜の墓場は運動会!』など、何も考えずに面白がれる秀作も。

妖怪軍団VS鬼太郎
劇場版コレクション

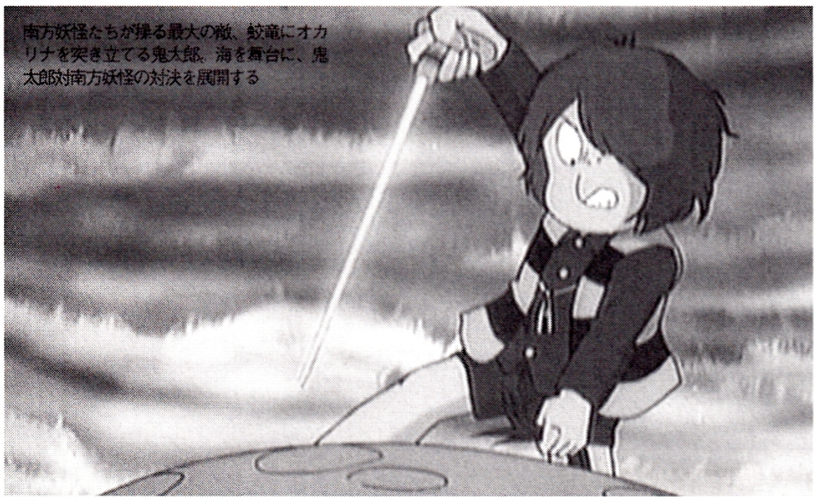
第3シリーズ
ゲゲゲの鬼太郎

●監督／白土武 ●脚本／星山博之 ●作画監督／山口泰弘

85年12月21日公開

南方妖怪を使って黒幕が鬼太郎と激突

人間を支配し、妖怪の地位を上げようと考えるぬらりひょん。それを邪魔する鬼太郎をやっつけようと南方妖怪たちが呼び寄せられる。将来の日本の妖怪王を約束させられ、すっかりその気のねずみ男はユメコちゃんをさらい、鬼太郎をおびき寄せることに。駆けつけた鬼太郎は、ねずみ男にとりついたアカマタに生気を吸われてしまう。



南方妖怪たちが操る最大の敵、鮫竜にオカリナを突き立てる鬼太郎。海を舞台に、鬼太郎対南方妖怪の対決を展開する

ぬらりひょんが操る凶暴な妖怪獣が目前に

鬼太郎大ピンチ!!



妖怪チンポの乗る船に行く途中で行く手を阻む蛟竜。イカダは一瞬にして破壊され、飲み込まれそうに！　鬼太郎は一反もめんに目をふさがせ、チンポの船に体当たりさせる。



精器からミサイル連射
南国妖怪のひとり。黒幕のぬらりひょんと共に行動、鬼太郎退治の作戦を指示。船が破壊され3連チンポ噴射で逃げてしまう。

南方妖怪のリーダー
南方妖怪のひとり。ものに寄生して生きており、ねずみ男にもとり憑いた。口から相手を石にする煙を吐く。

ちょこまか動く2人組
2人1組で行動し、ユメコちゃんを助けにきたねずみ男と対決。戦力は極めて低く、あっさりとやっつけられてしまう。

頭のやしの実を飛ばす
鬼太郎を倒すために上陸。頭のやしの実を落として攻撃するほか、近くにある植物の根を伸ばして敵を捕まえる。

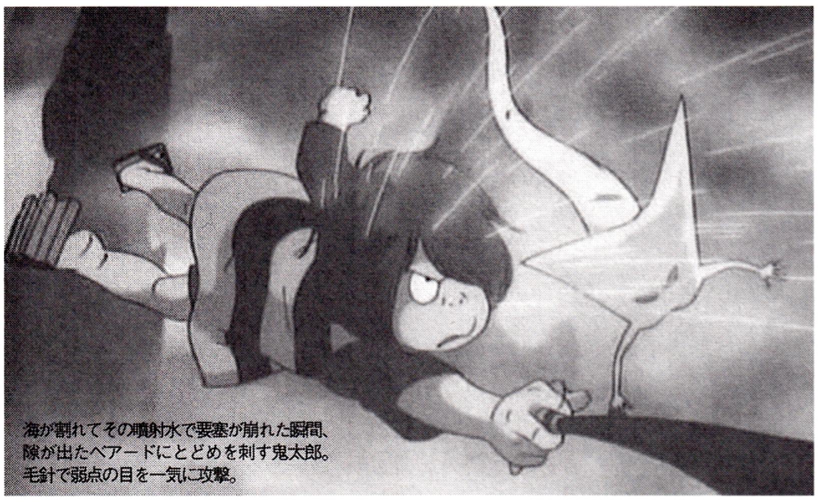
第3シリーズ
妖怪大戦争

●監督／葛西治 ●脚本／星山博之 ●作画監督／兼森義則

86年3月15日公開

南海の孤島に西洋妖怪たちが集結

まったく魚が捕れなくなってしまったホウキボウシ島。海の怒りを静めるために、祈祷を行うが、そこに西洋妖怪たちが現れて島は乗っ取られてしまう。島を妖怪王国建設の前進基地として、要塞を建てる西洋妖怪たち。ひとりだけ島から逃げ延びた少年あきおが、助けを求め鬼太郎を訪ねて本土に漂着。西洋妖怪退治と要塞完成阻止のために鬼太郎は島に向かう。



海が割れてその噴射水で要塞が崩れた瞬間、隙が出たベアードにとどめを刺す鬼太郎。毛針で弱点の目を一気に攻撃。

ベアードの宇宙空間に吸い込まれそうになる

鬼太郎大ピンチ!!



目を見ないようにベアードと戦っていた鬼太郎だが、触手にとらえられ、異次元の宇宙空間に引き込まれそうに。ここに入ってしまうと、もうこの世界には戻ってこられないのだ。



コウモリにも変身！
ベアードに仕える西洋妖怪のひとり。さまざまな生物の血を吸ってミイラにしてしまう。

吸血狼軍団を指揮する
普段から気性は荒いが、夜になるとさらに凶暴に。機敏な動きと長く強靱な爪で攻撃する。

怪力を武器に攻撃
凶悪な力を発揮する妖怪。しかし、なぜか毛虫や蜘蛛といった小さな虫に弱い。

ホウキで空を飛ぶ
ホウキにまたがって空を飛び、カマをもって攻撃する。紅一点。

西洋妖怪たちの首領
世界中の妖怪を集めるために、要塞を作らせる西洋妖怪のドン。目を見るとかなしばりに。

第3シリーズ

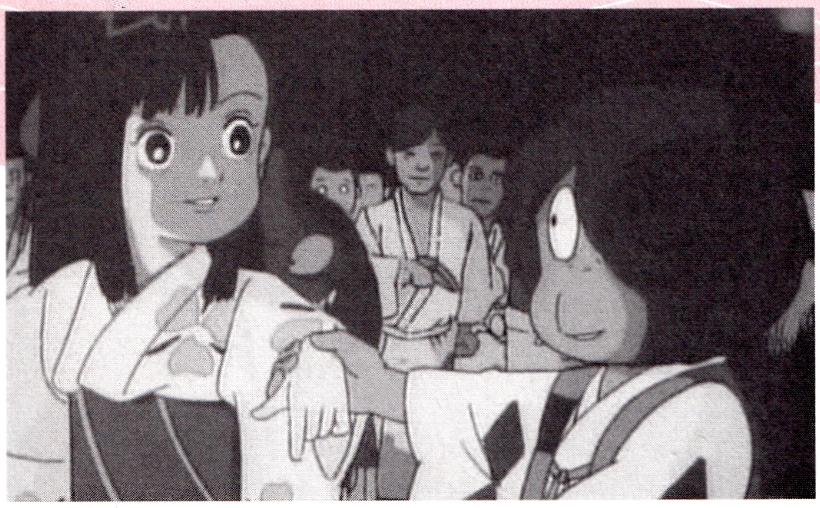
最強妖怪軍団！ 日本上陸!!

●監督／芦川有吾 ●脚本／星山博之 ●作画監督／山口泰弘

86年7月12日公開

中国妖怪たちが上陸 鬼太郎が簡単に反物に！

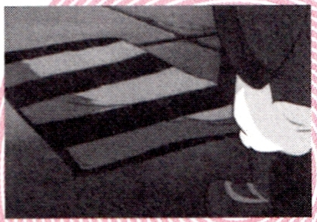
妖怪と人間友好の盆踊り大会を開こうとする鬼太郎たち。そこに中国から来た妖怪チーが現れる。チーは日本の妖怪と人間たちを支配すべく、妖怪城を建設し、次々と日本妖怪を反物に変えていく。さらに、この反物で作った服を着た人間はチーの僕となってしまうのだ。それを知った鬼太郎は、一反もめんと妖怪城に乗り込むが、逆に反物にされてしまう。



無事に開催された盆踊り大会。鬼太郎の珍しい浴衣姿。しかし、ちゃんちゃんこは脱がない。

鬼太郎大ピンチ!!

チーの妖術の前に 鬼太郎は成す術ナシ



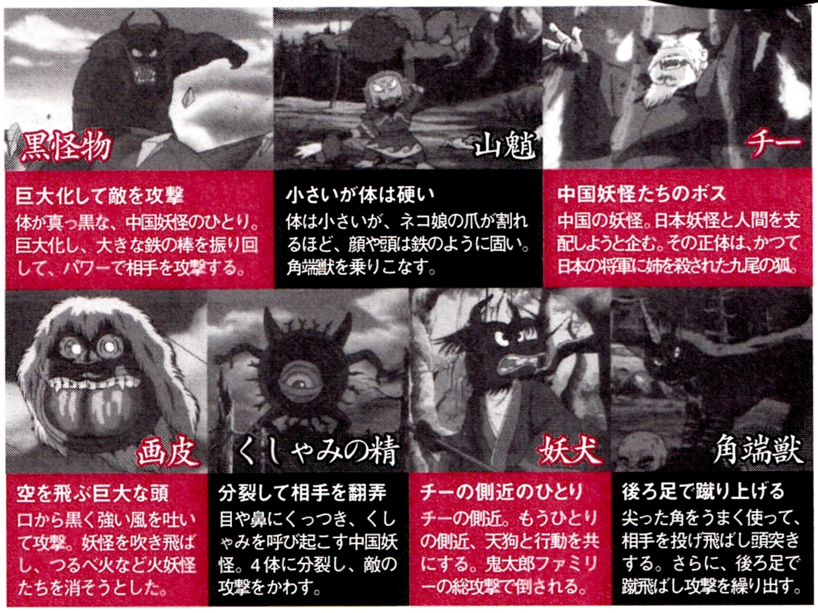
一反もめんとともにチーの城に乗り込んだ鬼太郎。しかし、チーには毛針もリモコン下駄も通用しない。チーの妖術で桃源郷に連れて行かれ、あっけなく反物になってしまう。



オカリナを吹き、つるべ火、姥火、点火、海月の火玉を呼び寄せ、紙でできた妖神に火で攻撃。画皮の風に対抗するため、ちゃんちゃんこでたいまつを作る。

こんな味方がいました

中国妖怪軍団



黒怪物
巨大化して敵を攻撃
体が真っ黒な、中国妖怪のひとり。巨大化し、大きな鉄の棒を振り回して、パワーで相手を攻撃する。

山魈
小さいが体は硬い
体は小さいが、ネコ娘の爪が割れるほど、顔や頭は鉄のように固い。角端獣を乗りこなす。

チー
中国妖怪たちのボス
中国の妖怪。日本妖怪と人間を支配しようと企む。その正体は、かつて日本の将軍に姉を殺された九尾の狐。

画皮
空を飛ぶ巨大な頭
口から黒く強い風を吐いて攻撃。妖怪を吹き飛ばし、つるべ火など火妖怪たちを消そうとした。

くしゃみの精
分裂して相手を翻弄
目や鼻にくっつき、くしゃみを呼び起こす中国妖怪。4体に分裂し、敵の攻撃をかわす。

妖犬
チーの側近のひとり
チーの側近。もうひとりの側近、天狗と行動を共にする。鬼太郎ファミリーの総攻撃で倒される。

角端獣
後ろ足で蹴り上げる
尖った角をうまく使って、相手を投げ飛ばし頭突きする。さらに、後ろ足で蹴飛ばし攻撃を繰り出す。

第3シリーズ

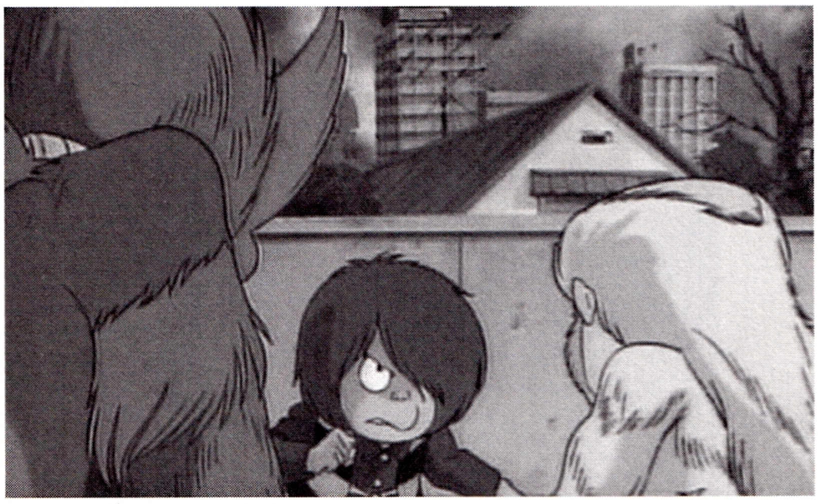
激突!! 異次元妖怪の大反乱

●監督／芝田浩樹 ●脚本／武上純希 ●作画監督／入好さとる 新岡浩美

86年12月20日公開

“怪気象”で東京が麻痺 妖怪皇帝の企みとは!?

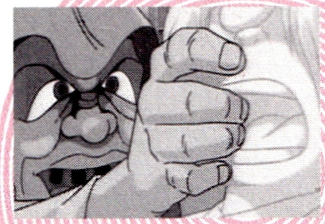
季節はずれの台風。しかし、それは千年に1度起こるという怪気象だった。突如現れた謎の妖怪皇帝は、この怪気象を使い東京を妖怪の天国にしようと企む。あっという間に怪気象に包まれ、パニックに陥る東京。そんなか鬼太郎は、妖怪にさらわれた少女・カロリーヌを助けだそうと、単身で敵の本拠地・国会議事堂に乗り込む。ねずみ男の大活躍編！



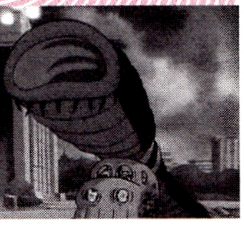
鬼太郎を理解する人間・水木さん宅に隠れているところを、妖怪皇帝の妖怪たちに襲われる鬼太郎たち。

鬼太郎大ピンチ!!

朧車の光線を浴びて 敢えなく石化してしまう



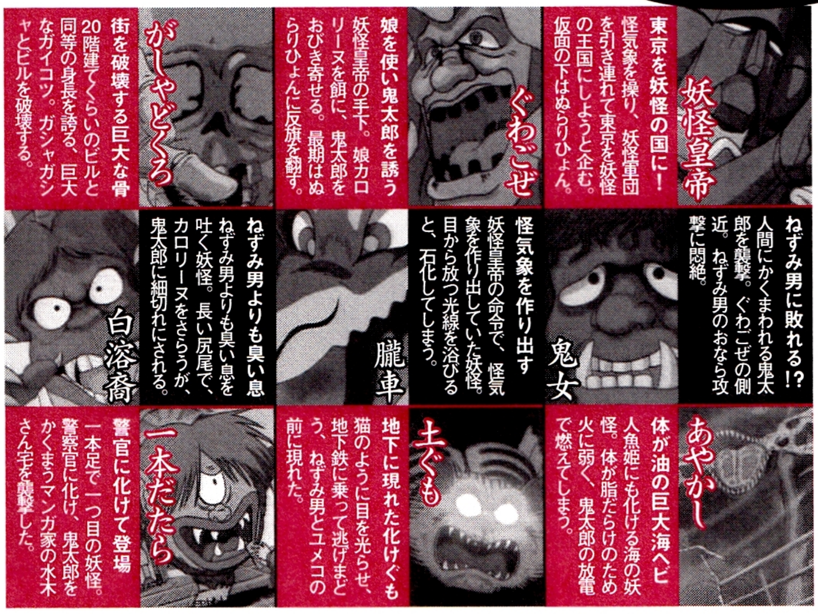
ぬりかべが身代わりとなり、一度は防いだ朧車の目からの光線。しかし、ぐわごぜが投げたペンダントでひるんだ鬼太郎は光線を浴び石となってしまう。



妖怪発明家の夜行さんの元、作戦を立てる目玉おやじたち。そして鬼太郎の救出に現れたのは妖怪戦車だった。強烈な吸引力で妖怪たちを飲み込みまくる。

こんな味方がいました

妖怪皇帝軍団



妖怪皇帝
東京を妖怪の国に！
怪気象を操り、妖怪軍団を引き連れて東京を妖怪の王国にしようと企む。仮面の下はぬらりひょん。

ぐわごぜ
娘を使い鬼太郎を誘う
妖怪皇帝の手下。娘カロリーヌを餌に、鬼太郎をおびき寄せる。最期はぬらりひょんに反旗を翻す。

がしゃどくろ
街を破壊する巨大な骨
20階建てくらいのビルと同等の身長を誇る、巨大なガイコツ。ガシャガシャとビルを破壊する。

鬼女
ねずみ男に敗れる!?
人間にかくまわれる鬼太郎を襲撃。ぐわごぜの側近。ねずみ男のおなら攻撃に悶絶。

朧車
怪気象を作り出す
妖怪皇帝の命令で、怪気象を作り出していた妖怪。目から放つ光線を浴びると、石化してしまう。

白溶裔
ねずみ男よりも臭い息
ねずみ男よりも臭い息を吐く妖怪。長い尻尾で、カロリーヌをさらうが、鬼太郎に細切れにされる。

あやかし
体が油の巨大海ヘビ
人魚姫にも化ける海の妖怪。体が脂だらけのため火に弱く、鬼太郎の放電で燃えてしまう。

土ぐも
地下に現れた化けぐも
猫のように目を光らせ、地下鉄に乗って逃げまどう、ねずみ男とユメコの前に現れた。

一本だたら
警官に化けて登場
一本足で一つ目の妖怪。警察官に化け、鬼太郎をかくまうマンガ家の水木さん宅を襲撃した。

第4シリーズ

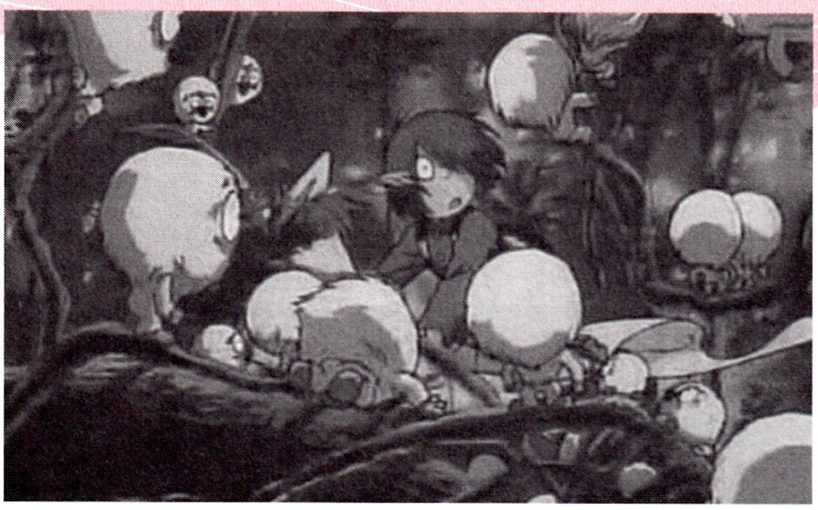
大海獣

大海獣に変貌した鬼太郎が東京を破壊する

南太平洋バリル島で次々と日本人が妖怪にさらわれた。現地を訪れた鬼太郎は、村の掟をやぶった。日本人に怒った妖怪アカマタによる仕業と知る。鬼太郎は、行方不明になった日本人を探して聖地へ。だが、アカマタに妖気を吸い取られ、大海獣にされてしまうのだった。大海獣を尖兵として日本に乗り込むアカマタら南方妖怪。東京は南方妖怪たちにより火の海と化す。

●監督／勝間田具治　●脚本／星山博之　●作画監督／荒木伸吾　姫野美智

96年7月6日公開

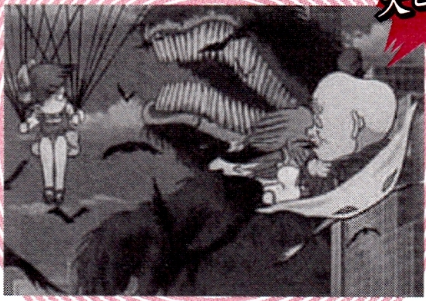


アカマタを探してジャングルに入り、キジムナーの総攻撃を受ける鬼太郎。



鬼太郎大ピンチ!!

姿が変わってしまった鬼太郎に誰も気がつかない



薬を飲まされ姿がかわってしまった鬼太郎。自分であることを伝えようとしても、仲間ですら恐れ逃げてしまう。気がつくとアカマタの思惑どおり東京を破壊してしまう。

第4シリーズ

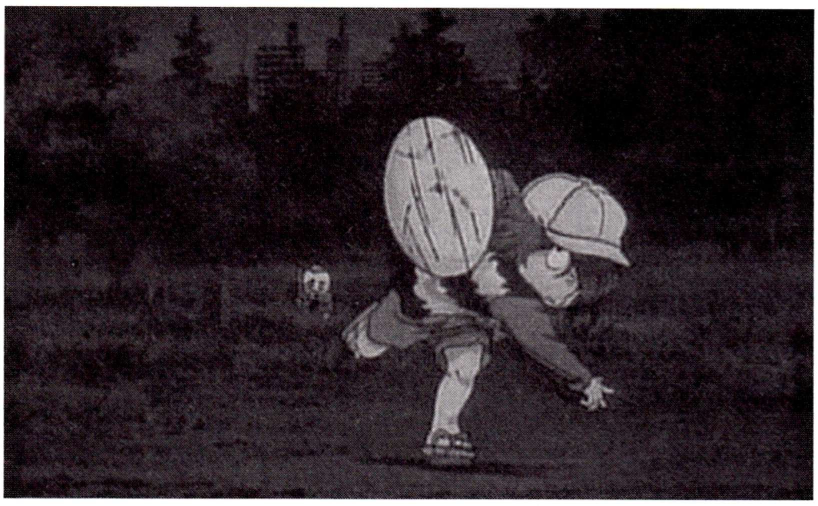
おばけナイター

ホームラン打ち放題!? 危険なバットが少年の手に

思うままにホームランを打てるが、その代わりに魂を吸い尽くす「妖怪バット」。ある日、ねずみ男に導かれ、野球チームをクビになった少年・勘太郎はそのバットを手に入れる。チームはその後ホームランを量産、常勝チームに。危険を感じた鬼太郎は、妖怪バットがあれば負けないと信じる少年達を相手に、負けたら魂を取るという条件で試合をする。

●監督／佐藤順一　●脚本／島田敏　●作画監督／窪秀巳

97年3月8日公開



ピッチャーは鬼太郎。妖怪相手の試合では、妖怪バットはまったく効力を持たないのだった。



鬼太郎大ピンチ!!

人間が使ってはいけない禁断のホームランバット



妖怪バットで、10年前の故障がウソのように復活したかつてのホームラン王。あの時のようにホームランが打てると叫ぶが、やがて魂を抜かれグラウンドで倒れる。

第4シリーズ

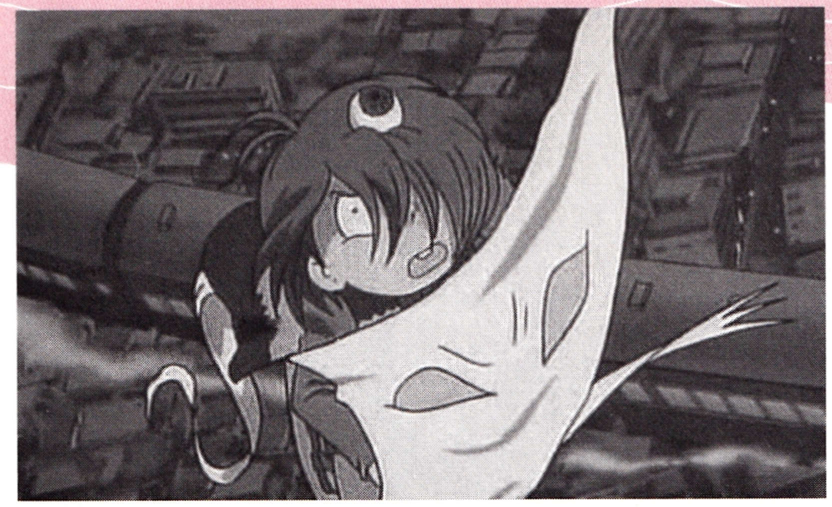
妖怪特急！まぼろしの汽車

●監督／吉沢孝男　●脚本／大橋志吉　●作画監督／荒木伸吾　姫野美智

97年7月12日公開

世界中の妖怪を支配できる暗黒世界への電車を阻止せよ

地獄で捕らえられていた西洋妖怪たちが、〝この世〟にも〝あの世〟にも行ける幻の汽車を奪って逃げてしまった。目玉のおやじの枕元に現れた閻魔大王の命を受け、鬼太郎たちは西洋妖怪捕獲を決意。暗黒世界へ行き、世界中の妖怪を支配する力を手に入れるために汽車を走らせる西洋妖怪を阻止すべく、鬼太郎ファミリーは汽車に乗り込むのだった。劇場版オリジナルストーリー。

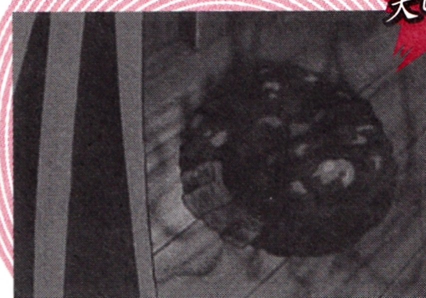


まぼろしの汽車が暗黒世界に行くのを防ぐ鬼太郎。西洋妖怪が相手だが、大勢の仲間を呼び寄せる時間がなかった。



暗黒世界へ行くための妖怪石炭になってしまう

鬼太郎大ピンチ!!



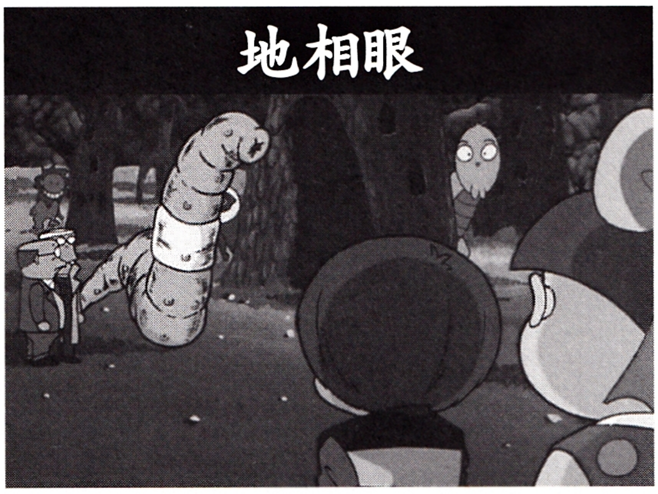
暗黒世界へ行くために欠かせないのが鬼太郎がもっている妖気。吸血鬼は鬼太郎をマントの中に入れ、最高の妖怪石炭を作り、燃料にしてしまう。

こちらも観たい!!

60＆70年代再編集劇場版

鬼太郎の劇場版といえば、80年代以降に作られたアニメが知られているが、じつはそれ以前にも、劇場公開された第1、2シリーズの作品があったのだ！

地相眼



シリーズでも異色を放つ本作。初放映から、じつに12年の歳月を経て公開された。

12分に編集された第2部劇場公開作

第2部、37話『地相眼』の劇場公開バージョン。12分に短縮されての公開ゆえ、果たして劇場に足を運んだ人は喜んだのだろうか。しかし、第3部放映を期待させるには十分だった。この度、フィルムが発見され、めでたくDVDボックスに収録された。

80年7月12日公開　12分
「東映まんが祭り」の1作品として公開された。ちなみに同時上映は『電子戦隊デンジマン』『魔法少女ララベル　海が呼ぶ夏休み』
脚本／柴田夏余　演出／笠井由勝　作画監督／生頼昭憲　美術／泰　秀信

大海獣



『大海獣』は、ニューギニアと日本が舞台の物語。劇場公開向けのスケールの大きな作品だ。

巨大妖怪が登場する前後編を再編集して公開

第1部、5・6話『大海獣』の再編集バージョン。シリーズ最初の前後編を一気に楽しめたのがうれしい。怪獣ブームのあおりを受け、公開作にはシリーズ屈指の巨大妖怪が選ばれた。現在はフィルムが見つからないため、その映像を見ることはできない。

68年7月21日公開　44分
「東映まんが祭り」の1作品として公開された。ちなみに同時上映は『太陽の王子　ホルスの大冒険』『魔法使いサリー』
脚本／辻　真先　演出／設楽　博　作画監督／田島　実　撮影／清水政夫　美術／山崎　誠　編集／花井正明　企画／松本貞光　斎藤　侑　大沼克之　新藤善之

水木しげる、鬼太郎を語る！

原作者・水木しげるコメント集

原作者・水木しげる氏の数十冊におよぶ書籍、雑誌に掲載されたインタビューなどから、鬼太郎、ねずみ男、アニメについてのコメントを抜粋。水木しげる氏の鬼太郎、ねずみ男に対する想いを探ってみた！

自分も子供の頃から「ゲゲ」というアダ名だったから。

――昭和四三年から墓場の鬼太郎はゲゲゲの鬼太郎と改題されますが、出版社から？

水木　テレビ局からです。墓場の鬼太郎以外の名前を決めてくれっていうんですけど、期日になっても忙しすぎて決まらんのです。講談社の当時の編集局長内田勝が電話して来て「ゲゲゲの鬼太郎でいきますか」というんで、「ではそれでいきましょう」ということになりました。鬼太郎の話も「ゲゲゲのゲ」で終わるでしょ、自分も子供の頃から「ゲゲ」というアダ名だったから。シゲルだから、ガキ大将から「ゲゲ」と呼ばれてました。

『水木しげる画業四十周年』「突撃インタビュー　水木しげると六十分」より

まあまあ面白い

あれはねえ、私の兄貴の子供ですよ。

光瀬　「ゲゲゲの鬼太郎」が初登場するのは、怪奇劇画短編誌の「妖奇伝」でしたね。あの鬼太郎のキャラクターは何からヒントを得られたんですか。
水木　あれはねえ、私の兄貴の子供ですよ。二つか三つのときだけど、これがませているわけですよ。面白い、これは漫画の主人公向きだ、と。

「SF宝石」一九八一年六月最終号
「幽霊、河童、妖精など不可思議世界の全調査
——光瀬龍VS水木しげる」より

Q　鬼太郎の年齢は何才くらいなのですか
A　六才
Q　テレビでアニメ化された鬼太郎についての感想は
A　まあまあ面白い
Q　お描きになったキャラクターの中で気に入っているベスト3をあげて下さい
A　ねずみ男、そっ歯の男、あとなし

『SF新鬼太郎』「突撃Q&A」より

ここでちょっと、ねずみ男のことに触れる。ハナシが飛ぶようだが、金銭感覚のことに関連してくるハナシだ。
ちなみに、ねずみ男というのは、私のマンガに登場するキャラクターである。
人間ではないけれど、かといって妖怪でもない。そのあたりの中途半端さが、このキャラクターの特徴の一つでもある。
主人公の鬼太郎とともに、自分たちにふりかかった諸問題を解決していくのだが、時として鬼太郎を裏切る。友情よりも自分の欲望を優先させるからだ。金がほしい、贅沢な生活がしたいと思っている。まァ、その贅沢は、小市民の感覚の域を出ていないのだが……。
そのねずみ男には、モデルがいた。山田円太郎という男だ。自分でもマンガを描いていたが、貸本出版社の社員として仕事をしていたこともある。つねに金儲けのことばかり考えていた。
（中略）
円太郎氏は、本丸勤めを中途半端にしたままで、次の城の設計図ばかりを描いていたのである。そのくせ、金銭欲が強い。
この「中途半端」「設計図」「金銭欲」の三つが空まわりするたびに、そのあまりのおかしさに私は笑い転げたものだ。
円太郎氏の仕事観・金銭観は、現実ではまったく通用しないが、マンガのキャラクターとしては「これは使える」と私は判断した。ねずみ男の誕生であった。

『生まれたときから『妖怪』だった』
第四章「夢見るリアリストか、ロマンチストか？」より

鬼太郎はバカでしょ、正義の味方だから。

時として鬼太郎を裏切る。友情よりも自分の欲望を優先させるからだ。金がほしい、贅沢な生活がしたいと思っている。

――膨大な作品の中で、一番愛着のあるキャラクターは？

水木　やっぱりねずみ男でしょう。そういう人も多いしね。昔から、庶民はそのように生きて来たと思いますよ。だから自然に、うまく筋も運びますしね。やりやすかったですよ、ねずみ男を出すことによって。鬼太郎はバカでしょ、正義の味方だから。スーパーマンみたいなものだから。別に金も欲しがらないし、ただ危険なことを人類のために戦うわけでしょ。ちょっと、そんな人間はいないでしょ。ねずみ男はそれをあざ笑うわけ。だけど金を獲得したいから、ねずみ男はそれを利用しようとする。鬼太郎はスーパーマンだから、人間と違うから、幸せとか金のことを考えないのです。だからねずみ男を出さないと、安定しないのです。

『水木しげる画業四十周年』
「突撃インタビュー　水木しげると六十分」より

原作者・水木しげるコメント集

いやもう鬼太郎っていうのは世の中に伝えたいとかナントカではなく、いろんなアイディアとかなんかが自然にガバガバ出てくるわけですョ。

大体、墓場とかナントカ昔から好きだったから『墓場の鬼太郎』でやったんです。自然に出てきたんです、ごく自然に。〝創る〟っていうことじゃなくて。

だからワタシ自身はすごく楽。苦心惨憺するとかじゃなくて。

やっぱりワタシにとって鬼太郎は幸運のキャラクターですよね。鬼太郎が出て来てから満足にメシが喰えるようになったって感じだから。

しかも長続きしたってことですね。これがまたすごいわけです（笑）。いよいよ福の神ってわけですねぇ。

いやもう鬼太郎っていうのは世の中に伝えたいとかナントカではなく、いろんなアイディアとかなんかが自然にガバガバ出てくるわけですョ。だからその都度描いとったっていうだけです。ハッと気付いてみたら世間で騒いどったっていう感じですね。

DVD-BOX『ゲゲゲBOX 60's』ブックレットより

〝子供にサービス〟っていうのはない。

『鬼太郎』は子供向きに描いてないんです。自分自身のために描いてるっていうのかなぁ？　自分で面白がって描いてる。だから〝子供にサービス〟っていうのはない。だから自分自身のために描くっていうのが普通の漫画家と違ってたんです。

だから中年の人が見ても面白いのかもしれないネ。

DVD-BOX『ゲゲゲBOX 70's』ブックレットより

――テレビアニメのメインキャラデザインを担当されたのは、『鬼太郎』が初めての経験なのでしょうか。

細田　そうです。というより、後にも先にも『鬼太郎』だけですね（笑）。

――どなたからお声がかかったのですか。

細田　よく憶えていない（笑）。どうして僕が選ばれたのか、いきさつもよく知らないんです。おそらく製作部のほうで決められたんだろうけど。とにかく、最初に作ったキャラクターがそのまま採用されたと思います。最終稿まで何回も描き直し、なんてことはなかったですね。

――水木しげる先生には……？

細田　まったくお会いしてないんですよ。

――あ、そうなんですか（意外）。アニメ用のデザインを起こされるにあたって、気をつけられたことは？

細田　僕は、それまで原作をちゃんと読んだことがなかったんですが、最初の頃のマンガの鬼太郎は線が多いし、少しグロっぽかったでしょう。それで「ちょっと子ども向きに可愛くしてくれ」って、上から言われました。丸っこく三頭身にしたのはそのためです。髪の毛の処理も、アニメーターが描きやすいように意識して省略し、周辺に軽くタッチを入れる程度に……この点は最初から結構こだわったんですよね。

――原作からアレンジされている点としては、鬼太郎やねずみ男の口元のデザインも印象的ですね。

細田　ねずみ男の口は、原作ではアゴから生えてる感じですよね。やっぱりセリフがあるので、口がパクパク動いた方がいいと思い、デザインを変えたんです。あと、ねずみ男は原作では、足や身体にタムシみたいな斑点があるんですが、あれは気持ち悪いからやめようってことになりました。でもアニメーター

スタッフ インタビュー

作画監督・**細田暉雄**

「子供向けに、といわれて鬼太郎を三頭身にしました」

によっては描いちゃってましたね（笑）。目玉おやじやぬりかべ、一反もめんには、特に苦労はなかったなあ。

――毎回のゲストキャラクターについては？

細田　ゲストは、最初の数話分は僕が作りましたが、あとはその回の作監にお任せしたはずです。でも初期には、他の人が描いたキャラクターもひと通り見て、直したりしてました。

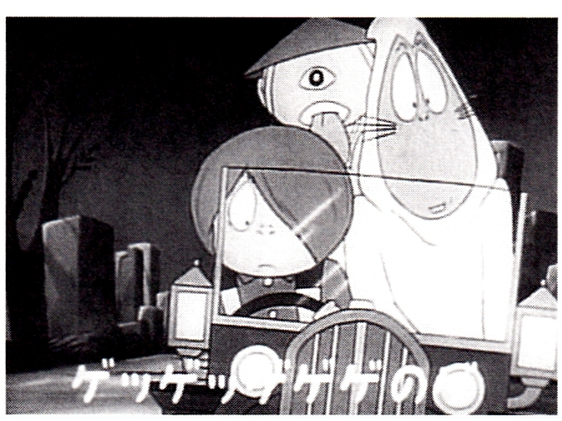
妖怪自動車を描くときは、プラモデルの車を買って参考にしたんです

――オープニング、エンディングの作画監督も細田さんですよね。原画もかなり描かれたんですか。

細田　オープニングでは、朝の起きたところの一連、自動車で墓場に着くまで、それから最後の演奏会とダンスで終わるラストカットは僕が描きました。妖怪自動車を描くときは、プラモデルの車を買って参考にしたんですよ。墓場の運動会のシーンは佐藤秀則くんに原画を頼みました。僕らは、ヒデノリの〃ノリ〃とゴム糊をひっかけて、彼を「ゴム」というあだ名で呼んでいました。ゴムは非常にうまいんだけど、絵にクセがあるので、鬼太郎の顔は僕が勝手に直しちゃった（笑）。目玉おやじの、あの手を前に送り出すような特徴のある走りなんかは、まさにゴムらしい作画ですね。

エンディングの原画も、基本はゴムに描いてもらって、僕がキャラクターを直しました。動物たちなんかは、このために作ったキャラです。少し、以前にやってた『狼少年ケン』（63年）の影響が出てるかも知れませんね。

そうそう、エンディングを歌ってる加藤みどりは、実は僕と小学校、中学校時代の同級生なんです。



オープニングより、細田さんが原画を担当したカット。妖怪自動車の走行に合わせて鬼太郎たちの身体が前後左右に揺れる動きなど、丁寧な作画が印象的だ。

――意外なご縁ですね。

細田　偶然だけど面白いよね。今でも親しくしていますよ。『鬼太郎』（69年）のころは、彼女がまだ『サザエさん』（69年）をやる前ですよ。思えば、随分年月が経ってるなあ（笑）。

――製作第1話「夜叉」をはじめ、細田さんはシリーズ中で計7本の作画監督も務められましたよね。

細田　自分の作監回は、原画も結構描いているんです。他の人の原画を直すのが面倒だというのもあって（笑）。

「夜叉」はですね、非常に枚数がかかってます。製作部長の笹谷（岩男）さんにすごく怒られた（笑）。それに、最初にやった作品だから、あんまり好きじゃないんだよなあ。夜叉の化身の野呂って、変な髪の毛してるじゃないですか。それが普段は全然動かず、顔の向きが変わったりするときだけ動く。あれが何かすごく気になって、イヤだった。髪の毛だけみたいな本体になっても、うまくいってない。もうちょっとちゃんと動かしたかった。

明比ちゃんは、コンテに必ず〃真っ向フカン〃の構図が出てくるんです

――その次が「妖怪獣」の前後編（第21・22

話）ですね。

細田　これ、明比ちゃん（明比正行さん）の演出でしょ。彼とはよく組んだんだけど、コンテに必ず〝真っ向フカン〟の構図が出てくるんですよ。キャラクターを真上から見るわけ。「妖怪獣」でも、八百八狸とか、真上から撮ってる。鬼太郎とか、頭大きいじゃん。玉っころが移動してるだけみたいになる。八百八狸だってタヌキだから、肩も見えなきゃ足も何だかわからない。だからそれ、明比ちゃんに言ったの。そしたら「でも、俺はそういう構図を狙ってるんだ」って言われてさ（笑）。

なんとか、少しでも手や足が見えるようにしてね。苦労して描いた記憶があります。その後、明比ちゃんとは『ひみつのアッコちゃん』（69年）とかやってても、必ず何カットかは〝真っ向フカン〟が出てきましたよ（笑）。

――「電気妖怪」（第25話）は、朝日ソノラマから当時発売されたソノシートにもドラマが収録されたエピソードです。細田さんは、そのセル画ストーリーの原画も描かれていますよね（と言ってお見せする）。

細田　ええ、これは僕が描いています。この頃になると、僕なりに『鬼太郎』を描くのに随分慣れてきていて、キャラクターが設定と全然違いますね（笑）。雨山博士のキャラは憶えてるなあ。

――「さら小僧」（第34話）は、この回だけの挿入歌と演奏シーンが登場して、非常に印象深いエピソードになっていました。

細田　いろんな河童たちが出てくるでしょ。あのデザインをしたのはよく憶えています。さら小僧の歌や演奏のシーンはしっかりスポッティングをして、音と画を合わせるようにしたと思う。このビンボーズの舞台のシーンはゴムの作画ですよ。僕、直さずに放っておいたんですね。女性ファンの熱狂シーンなんか、ゴムの画のままですよ（笑）。あと、前半の鬼太郎の入浴シーンの原画は、僕が自分で描いてますね。

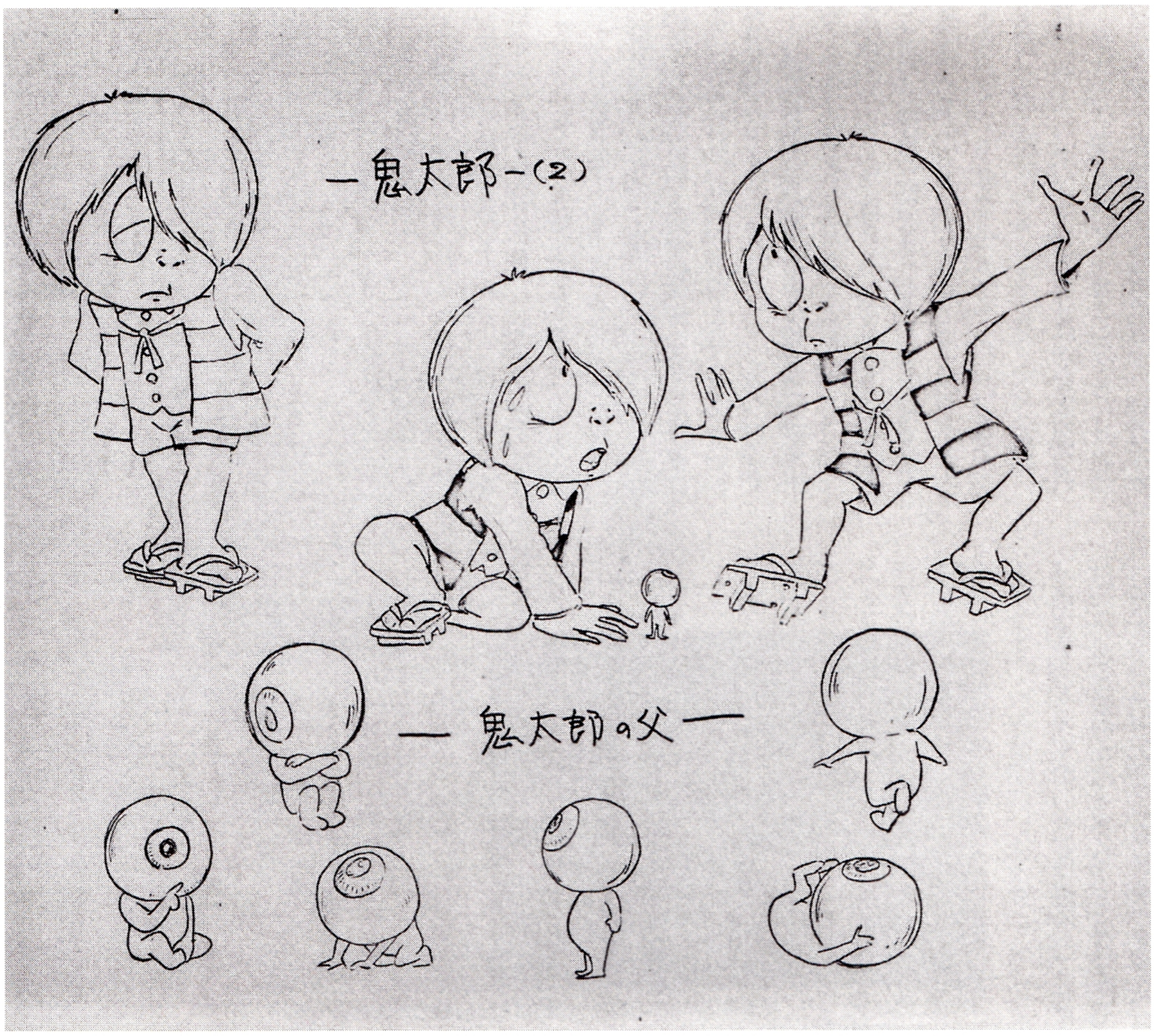
――「うぶめ」（第46話）は、ものすごい描き込みをした羽毛の作画が印象的ですよね。

細田　そうそう、思い出した。これ、〝P3〟という大判の動画用紙を使ってるんですよ。3枚に分けて描いてるから、少し境目が見えるでしょう。

――演出の久岡（敬史）さんにご記憶を伺ったところ、林（正史）さんの作画ではないかと。

細田　かも知れない。林のじいさん（林正史）……じいさんと言っても、当時30代くらいだよ。彼はこういうのを描くのが得意だったんですよ。うぶめと鬼太郎の格闘シーンも、林さんじゃないかな。当時は、社内にまだまだうまいアニメーターがいっぱいいたから、みんなで面白がって動かしているのが、よく伝わってくる。妖怪ものというジャンル自体が初めてだったでしょ。自分も手探りで、一生懸命だった。とても懐かしいですよ。

（取材・構成：原口正宏）



細田さんが描いた鬼太郎と目玉おやじのキャラクター設定。髪の毛をタッチで処理するなど、絵柄を簡略化するための工夫が見られる。



細田暉雄
（ほそだ・てるお）

1939（昭和14）年7月11日、東京生まれ。'62年7月、東映動画入社。『ハッスルパンチ』で初作監。代表作はほかに『魔法使いサリー』『ピュンピュン丸』など。'73年2月退社。無類のジャズ好きで知られ、自らジャズ喫茶"洋燈舎"を経営していたこともある。

スタッフ インタビュー

演出・白根徳重

「『鬼太郎』自体が新しいアイテムだった」

——『鬼太郎』での最初のお仕事は……?

白根　参加したらいきなり、斉藤侑さん（98ページ参照）に「オープニングをやれ」って言われた（笑）。

　オープニング、エンディングの演出をしたのは、この『鬼太郎』が初経験だったんですよ。最初はどうやって作ったらいいんだろう、と思ったね。妖怪物だからって、おどろおどろしさばかりでも面白くないし……。

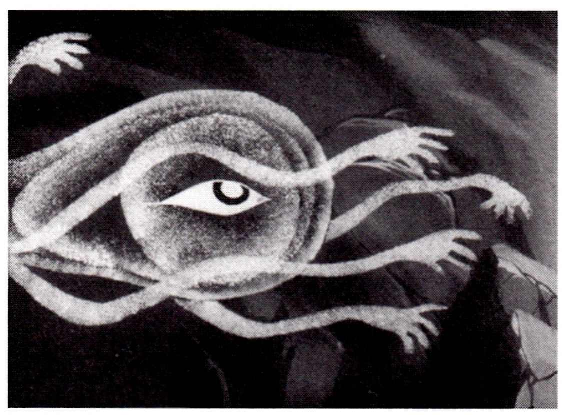
　コンテは、自分で2～3回やり直してる。たとえば運動会のシーンなんかは、最初はもっと細かいカット割りだったのを、動きで見せていく今の形に変えたんだよね。コンテを見てもらえばわかるけど、玉入れなど、実際には使わなかった画もある。そういえば、ねずみ男と同じ頭巾をかぶって笑ってる奴がいるでしょ。あれは、俺のコンテではねずみ男のつもりだった。実際の映像で別のキャラになってるのは、作画が間違えたんじゃないかな。

——画と音を合わせるための作業（スポッティング）もなさったんですよね。

白根　しました。最初の「ゲッゲッ……」のところや墓場の綱引き。それから、鬼太郎が指揮するところはそうだね。鬼太郎がタクトを振るカット、本当はタイミングが逆なんだよね。俺、編集にタッチできなかったので、後で知った。気になってしょうがなかったね。

　エンディングは、オープニングとは対照的にシンプルにした。全部黒バックにしてキャラクターの動きだけを見せる、というのは最初から決めていた。

　当時、俺はまだ別の作品も並行してやってたから、昼間は外注先のスタジオに行っていることが多かった。オープニング、エンディングの作業は、夕方、社内に帰って来てからやっていた。なかなか細かい打ち合わせができず、手こずったことを憶えている。



第19話「吸血木」より、半透明の妖怪のびあがり。筆で叩いたという点描の効果はまさに彩色スタッフの労作。

　俺はもともと東映の京都撮影所で、時代劇中心の美術監督をやってた。その経験から、いつもまず設定をどう見せるかを考えていた。それで、このオープニングも最初に墓場や家を持ってきている。キャラクター紹介も兼ねてるから、まず鬼太郎の日常を描き、目玉おやじも大写しで見せるようにした。まあまあ狙い通りのものができましたね。

——美術の御出身ということで、本編の演出をなさる際にも、独自の方法論があるのでは、と想像するのですが。

白根　経験的には作品を作るとき、最初に設定が浮かびます。そういうところは、普通の演出とはちょっと違うかも知れない。いいことか悪いことかわからないけどね。

『鬼太郎』をやるときでも、建物や風景の設定については詳しく美術の人と話したね。知ってることは教えた。相手はイヤだったかも知れないけど（笑）。

——水木しげるさんにはお会いになりましたか。

白根　最初の打ち合わせには行けなかったんです。後で初号のときにお会いしました。第1話だったかな。

サブタイトル文字も自分で描いてるんです その辺は得意だった

——『鬼太郎』の第1シリーズのなかで、特に思い出深い回などはおありですか。

白根　「吸血木」（第19話）は憶えてるよ。のびあがりという妖怪の透明感を表現するのに、いろいろと手間をかけたんだよ。劇場長編ならダブラシで撮影するところだろうけど、テレビなのでその方法はとらず、セル自体の塗りで工夫した。あの点描タッチは、セルの1枚1枚にエアブラシをかけた後、さらに上から筆で叩いて効果をつけたものなんです。動画よりも仕上げが大変な思いをしてやってくれたね。

　それから、終戦記念日に合わせて作った「妖花」（第32話）も忘れられない。作品のなかで、花子がハーモニカで「埴生の宿」を吹くところがあるよね。あれ、録音のスタッフが誰もハーモニカを吹けないもんだから、しょうがなくて俺が吹いたんだよ（笑）。

　そうそう、俺の演出回はね、サブタイトル文字も自分で描いてるんですよ。「吸血木」や「峠の妖怪」（第23話）は確実にそうだな。京都で美術をやっていたので、その辺は得意だったからね。

——サブタイトルって、決まった方が全部描いているのかと思っていました。

白根　普通は専門の人や、そこそこ字の書けるやつに頼む場合が多いんだけど、俺の場合は必ず自分でやるようにした。反対に、他の人の演出回で、俺が頼まれて描くこともあったよ。

——具体的にはどういう作業なんですか。

白根　元の文字を土台の紙に描いて、それを仕上げに出すわけ。そうしたら、白い塗料でセルに起こしてくれる。やっぱり、作品の内容に応じた字の表現というのはあるから、そ

れらしくね。字の形や、どこで出すかも演出の一部という気持ちがあったから。

公害問題がからんだ エピソードが増えたのも、時代の変化だと言えるよね

――『鬼太郎』第1シリーズの放映終了後、約2年半のブランクをおいてカラー版である第2シリーズがスタートしました。白根さんは第1話を担当されていますね。

白根　前のシリーズを何本もやっていたし、ましてやオープニングやエンディングも作ったわけだし。一番慣れていると思われたんじゃないかな。

　これも第1作と同じで、俺はあちこちやりながらのスタートだった。あるとき突然、斉藤さんから「復活するよ」って言われてね。

――第1話は、前シリーズとの時間的な隔たりを意識させるような、ちょっと変わった内容になっています。鬼太郎も戦いの場からしばらく離れていたような描かれ方で、必ずしも活劇ムードを強調した再スタートではないですよね。

白根　シリーズ復活の入り方としては、確かに異色かも知れないね。第1話については、事前に斉藤（侑）さんともだいぶ話し合った記憶がある。

　かつての『鬼太郎』との違いを出そうとしたところは多少はあるよ。昔のをただ継承するんじゃ面白くない。ちょっと何か違った面を出して、いい意味の〝変え方〟をしよう、という話はあったと思う。カラー化ももちろん関係あるし、作品の内容もね。でも鬼太郎が変わったのか世の中が変わったのか、さあ、どっちだろうねえ。公害問題がからんだエピソードが増えたのも、時代の変化だと言えるよね。俺がやったなかでは「土ころび」（第11話）とか「原始さん」（第40話）とか。

――モノクロからカラーに変わった、という点ではいかがでしたか。

白根　難しかったよね。最初だから俺たちもよくわからなかった。鬼太郎や妖怪たちが、どんな色をしているのか。おどろおどろしさも多少は残したい気持ちはあったし、何かユニークな色がないかと思って、皆で検討しました。秦（秀信）さんがデザイナーとして最終的な色を決定したと思うんだけど。

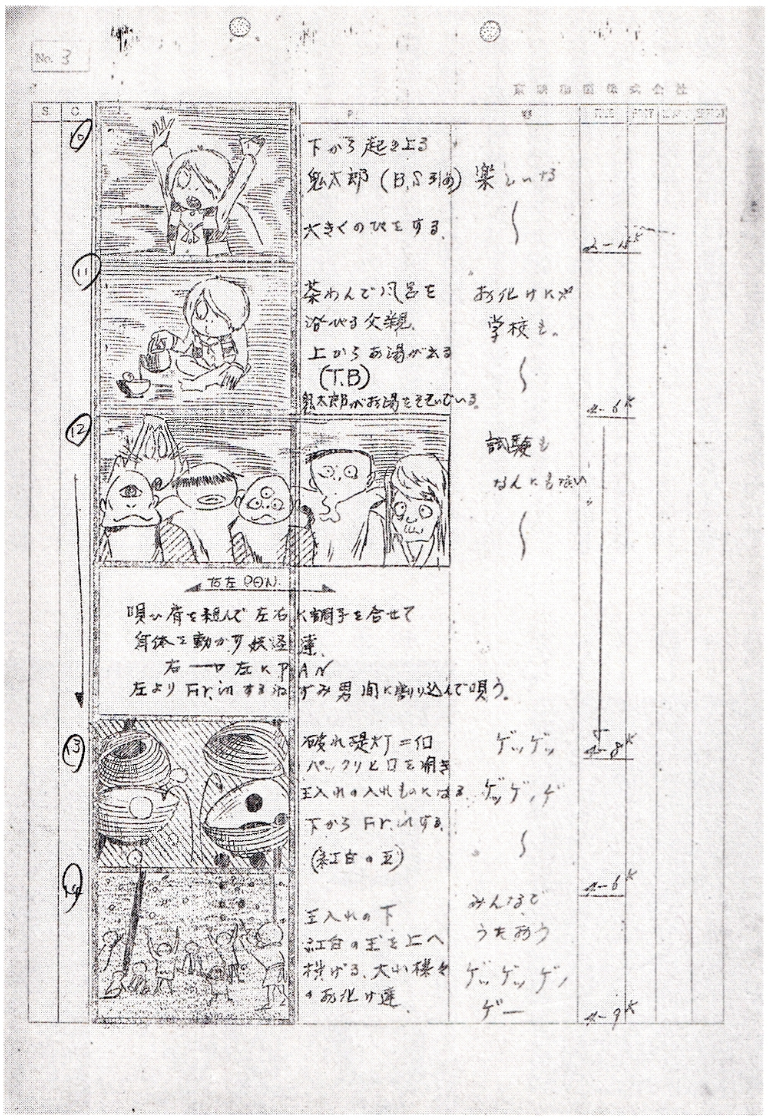
――第2作では、ねこ娘が新たにレギュラー入りしましたが、これの経緯はご存知ですか。

白根　ねこ娘のキャラクターを作ったのは、生頼（昭憲）くんだよ。〝多少のワルだけど可愛いさも持ってる〟というイメージでああいうキャラを表現したんだと思う。原作の場合は、メインに女の子のキャラクターがいなかったからね。

――今ふり返られて、白根さんにとって『鬼太郎』はどんな思い出の作品でしょうか。

白根　あの当時、他社の作品と比べても『鬼太郎』はユニークだったよね。演出するときに特に何かを参考にするというのではなく、伸び伸びとやれた作品だった。『鬼太郎』自体が〝アクション物〟の枠では括れない、新しいアイテムだったと思うよ。

（取材・構成：原口正宏）



白根さんによるオープニング絵コンテ。清書は細田暉雄さん。映像化されなかった“玉入れ”のカットがある。



白根徳重
（しらね・とくしげ）

1931（昭和6）年3月30日、福岡県生まれ。東映京都撮影所で美術監督を経験後、'64年5月、東映動画へ移籍。『少年忍者　風のフジ丸』『ハッスルパンチ』『レインボー戦隊ロビン』などの演出を担当。その後、美術課長、製作課長、企画室長を歴任。'92年3月退社。

スタッフ　インタビュー

プロデューサー・斉藤　侑

「僕は終始一貫『鬼太郎はヒーローじゃない』と言ってきた」

——斉藤さんが『ゲゲゲの鬼太郎』に関わられた経緯からお聞かせ願えますか。

斉藤　当時の企画課長の白川（大作）さんから『鬼太郎』がものになりそうだ」と言われたんです。「どこに決まりそうなの？」と聞いたら「フジテレビだ」と。それで白川さんに頼まれて、局に向けたプレゼンテーション用の企画書をまとめました。それが最初の仕事でした。その前は、大沼（克之）くんがNET向けに企画書を書いたりして準備を進めていたらしいですが、詳しいことは知りません。アニメの製作を本格的にスタートさせるところから、僕が陣頭指揮をとり始めたということです。

——斉藤さんは、原作の絵のタッチや作品世界を、どの程度アニメに反映させていこうとお考えでしたか。

斉藤　『鬼太郎』は原作のあの絵だからこそみんなが〝やりたい〟と思ったんだから、できるだけそれを壊さずにキャラクターを作ろうと思っていました。水木さんのご意向も伺いましたが、「全部お任せします、いいようにやってください」というお返事でした（笑）。

——現存しているシナリオの表紙を拝見しますと、実際に製作が始まってからも、しばらくは『墓場の鬼太郎』のタイトルで作業を進められていたようですね。

斉藤　そうだったと思います。だけど、このタイトルじゃスポンサーがつかないだろう、ということが社内やフジテレビとの間で次第に問題になってきました。そこで、水木さんのところへ行き、何かよさそうなタイトル案はないか、相談をすることにしました。

一方、あれはフジで『鬼太郎』をやると決定した直後くらいの時期だと思うんですが、私は『少年マガジン』の編集長だった内田（勝）さんから、「こういうのがある」といって「少年マガジン　マンガ大行進」というLPを聞かせてもらっていたんですね。そのなかに、後に『鬼太郎』の主題歌となる、例のテーマソングが収録されていました。そのイメージがあったものですから、水木さんとの話し合いのなかで『ゲゲゲの鬼太郎』というタイトル案は、比較的すんなりと出てきたように記憶しています。あの「ゲゲゲ……」の歌からとって、そのまま『ゲゲゲの鬼太郎』にしたらどうか、ということですよね。

おどろおどろしさを薄めつつ、いかに怖さを作るか。それが一番苦労したところです

——実際の放映では、製作第1話の「夜叉」は第2話に見送られ、代わりに製作第4話の「おばけナイター」が第1話になりましたね。

斉藤　社内やスポンサーのお偉方や、あとフジ側の意見もあったかも知れませんが、「子どもがとっつきやすいものを1話にしよう」という声が出たんです。僕としては「夜叉」で、最初からボーンと怖いのにしようと思っていたんですが……。だからあれは、いわば妥協の産物なんです。結果、それでよかったのかどうかはわからないですけど。

『鬼太郎』という作品を描く上で、方法論として頭にあったのは、あまり残酷な描写は避ける、というくらいのものでした。貸本時代のような怪奇性はテレビでは絶対無理ですから。ただ、あまりそういう要素を拭ってしまっても『鬼太郎』の味を損なう。おどろおどろしさを薄めつつ、いかに怖さを作っていくか。それがライターにしても演出にしても一番苦労したところなんです。

とにかく、当時はアニメを書けるシナリオライターが極度に不足していました。そこで、若井基成さん、佐治乾さんといった脚本家にお願いして、皆さんの弟子にあたる人を何人か紹介していただいたんです。鈴樹三千夫さ



製作第1話の「夜叉」。怪奇色が前面に出た内容だったため、実際の放映では第2話へと変更された。

んは佐治さんの弟子。三芳加也さん、安藤豊弘さん、雪室俊一さんの3人は松浦健郎さんの弟子で、大沼くんに紹介されて知り合いました。第2期で活躍する柴田夏余さんも若井さんの弟子ですね。一方、新人だけでは局が心配するので、安心させるために（笑）、既に人気脚本家だった高久進さんや辻真先さんといった人たちにも声をかけ、バランスをとるようにしました。

『鬼太郎』のなかでは、僕は雪室さんの仕事が印象的でした。妖怪ものという題材でも、とてもほのぼのとして記憶に残る。鬼太郎の人間らしさというと変だけど、温かな視点を持って書いている感じがありました。

第2シリーズの『鬼太郎』ほど、原作者の思いを忠実に反映したアニメはないんじゃないか

――『鬼太郎』は高視聴率のまま、全65話でいったん終了しますが、直接の理由は何だったのでしょう。

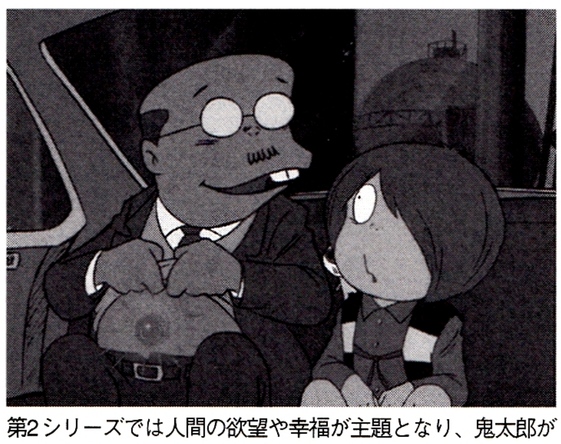
斉藤　原作が追いつかなくなったからです（笑）。この辺で一度休むのがいいんじゃないか、ということになった。作る側としても息切れしていました。

――第2シリーズは約2年半後ですね。

斉藤　東映もフジも、なるべく早く再開したいという気持ちはありましたからね。ただ、僕にとっては、第2シリーズは再開することよりも、〝今度はカラーだ〟という悩みのほうが大きく立ちはだかりました。一番悩んだのは妖怪の色です。なにしろどんな色をしているのかわからない（笑）。単行本や「少年マガジン」の表紙などの参考がないわけじゃないですけど。結局ゲストから何から全部、水木しげるさんにご判断を仰ぐことにしました。細かいところは別ですが、大物については必ずこちらで何種類か色見本を用意して、どれがいいか選んでもらうようにしたんです。

――『鬼太郎』の原作が底をつき、水木さんの他の作品を翻案してストーリーを作るようになりますね。オリジナルで物語を考案しようという選択肢はなかったんですか。

斉藤　ライター諸兄に聞いたら「アレンジはできるけど、オリジナルでは書けません」と。あの世界は、発想からして本人以外には書けないんです。それで水木さんにご相談に上がったところ、他の水木作品について「何を使ってもいい」というお返事をいただいたんです。



第2シリーズでは人間の欲望や幸福が主題となり、鬼太郎が傍観者となった物語も続出。写真は第43話「地相眼」。

――第2シリーズは、公害問題や人間のエゴ、サラリーマン社会の悲哀、楽園願望など、水木作品ならではのテーマやメッセージ性にあふれたエピソードが続出しました。これは、斉藤さんが直前の『タイガーマスク』（69～71年）で社会派のエピソードを積極的に盛りこもうとした姿勢と通ずるものを感じますが。

斉藤　それはあったと思いますよ。プロデューサーというのは、自分の持っているテーマと作品が合わなければ、ものを作れないと思っています。『鬼太郎』の場合は、原作の水木さんそのものがすでに社会性を持っていたわけで、そこは最初から僕と合っていた。だからこそやりたかった。プロデューサーの持っている思想やテーマをどう表現するか、というのが作品であって、その点はライターや演出すべてに浸透していなければいけない。第2シリーズの『鬼太郎』ほど、原作者が作品に込めた思いを忠実に反映したテレビアニメはないんじゃないかという気がします。

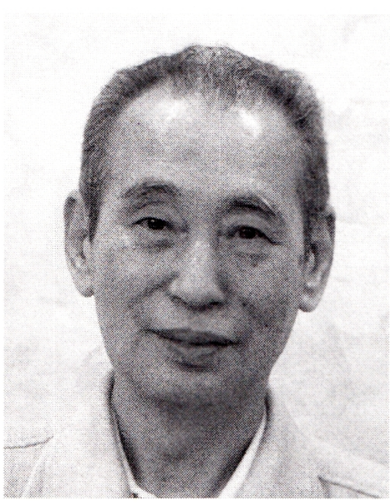
白黒時代から終始一貫して僕が言ってきたのは、「鬼太郎はヒーローじゃない」ということでした。主役だからそれらしく見えることはあっても、自分からヒーローになって活躍するのが鬼太郎じゃないんです。

その意味では、人間と妖怪の接着剤、架け橋になっていたのはねずみ男だと思うんです。彼の存在があるからみんなが理解できた。

――『鬼太郎』は、斉藤さんがやりたいことがある程度達成できた作品といっていいのでしょうか。

斉藤　そうですね。プロデューサーとして伝えたかったメッセージを、一番反映できたんじゃないかな。特に第2シリーズは、時代的にも公害などの社会問題が出てきた時期とたまたまうまくマッチした、ということを含めてね。

（取材・構成：原口正宏）



斉藤　侑
（さいとう・たすく）

1933（昭和33）年10月31日、青森県生まれ。57年5月、東映本社に入社。東映東京撮影所の企画課主任を経て '64年6月、東映動画に出向、企画部の一員となる。担当した作品はほかに『タイガーマスク』『ロボット刑事』『機甲艦隊ダイラガーXV』など。'93年11月、定年退職。

スタッフ　インタビュー

「『鬼太郎』には、極限状態を知った人だけがもつ人間への優しさがある」

脚本・雪室俊一

——雪室さんが『鬼太郎』に参加されることになったいきさつというのは?

雪室　僕は、プロデューサーの大沼克之さんから声をかけられたんです。大沼さんとはその前に『ピュンピュン丸』を一緒にやっていたので、その流れだったと思います。

制作が決定してから大沼さんと斉藤侑さんの共同プロデュースということになりましたが、そもそも最初に「鬼太郎」の原作に目をつけ、準備を進めていたのは大沼さんでした。大沼さんは「10年先を行くプロデューサー」と言われて、いつも企画が時代を先取りし過ぎるところがありました。『ピュンピュン丸』にしても、本放送ではパッとせず、再放送になって視聴率が上がったくらいでね。『鬼太郎』も企画段階で東映動画（当時）の上層部は猛反対だったらしい。原作のタイトルも発表当初は『墓場の鬼太郎』でしたから、「子ども番組に墓場とはなにごとだと」と非難されたようです。

——雪室さんは『鬼太郎』の原作をお読みになっていたんですか。

雪室　いや、読んでいません。というより、僕がシナリオを書いた作品で、事前に原作マンガを読んでいたものなんてほとんどないんです（笑）。だから僕も、最初にお話をいただいたときは〝妖怪もの〟なんて自分には向いてない、と思ったんです。すると大沼さんは「いやあ雪さん、大丈夫だよ」って。

原作を読んでみたらなるほど、単なる〝妖怪もの〟じゃない。水木さんの過去……戦場に行って、命からがらの極限状態を身をもって知った人だけがもつ人間観、人間に対する優しさが描かれていました。それで参加することにしたんです。

——水木しげるさんとはお会いになったんですか。

雪室　いや、会ってません。あの頃はほとんど、原作者との接点はなかったですね。

水木さんとお会いしたのは、後年、僕がシナリオを書いた『河童の三平』の試写会のときが初めてだったと思います。

> 「笠地蔵」は1本だけ、それまでとは毛色の違ったものを目指そうとしたんです。

——最初の脚本が第4話「吸血鬼ラ・セーヌ」（製作第5話）ですね。

雪室　これを頼まれたときのことは克明に憶えています。9月で、ライター仲間と田舎の海に遊びに行ってたんですよ。それでなかなか連絡がとれなかったらしくて、斉藤さんに嫌味を言われたんです。「いい商売ですねえ、我々が暑いときに働いてるのに、海へ遊びに行って」と。イヤなプロデューサーだなあと（笑）。斉藤さんとはそれが初対面でした。以後、第2シリーズも含めて長いつき合いになるんですが、一貫して生真面目な方だなあ、という印象は変わりませんでした。

——第1シリーズのなかで、特に思い出深い回はおありですか。

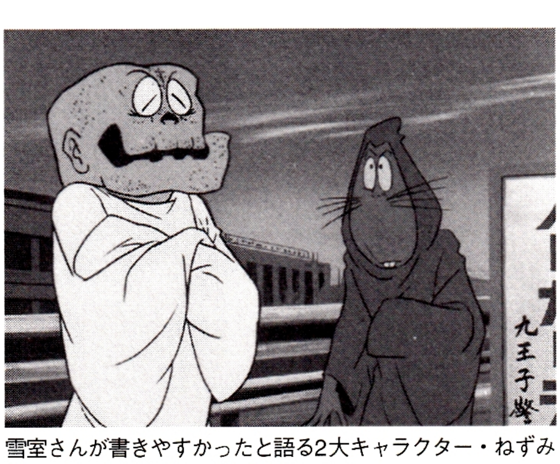
雪室　「笠地蔵」（第60話）は特に印象に残ってます。これをやる前に、声優プロダクションのマネージャーに言われたんです。「あなたのホンは面白いけど、登場人物が多すぎる」と。いっぱい出ると、みんなへの払いがあるから金がかかる。だから「笠地蔵」では、できるだけ人物を少なく、と思いながら書いた記憶がある。

——鬼太郎と妖怪との戦いがまったく登場しない、というのも異色ですよね。

雪室　当初から、全体を民話っぽい雰囲気にするという意図はありました。1本だけ、それまでとは毛色の違ったものを目指そうとしたんです。その仕上がりには自分でも満足しています。後に『鬼太郎』の新シリーズが作られたとき、この「笠地蔵」がリメイクされることになって、僕のところに依頼が回ってきたんです。だけど「あれ以上のものは書けないから」って、他のライターに代わってもらいました。

——雪室さんは第2シリーズには第1話から参加されています。所謂メインライターというお立場だったのでしょうか。

雪室　そういう参加の仕方はしていませんね。第2シリーズの方向性をどうしよう、というような意見を言った憶えも全然ありません。当時はあまり綿密な打ち合わせというのはなくて、こちらが勝手に書いて、何かあると、言われて直す程度でした。



雪室さんが書きやすかったと語る2大キャラクター・ねずみ男と死神。写真は第30話「死神」より。

――ねこ娘が新たにレギュラーに加わりましたが、これについての経緯は憶えていらっしゃいませんか。

雪室　記憶にないです。少なくとも、僕のほうから出そう、と提案したことはない。実際、ねこ娘は書きにくかったです。いなくてもいいキャラクターだから（笑）。女の子がいないから出そうか、みたいな都合で何となく出しただけだと思う。そもそも役割がないわけですよ。鬼太郎というのは色恋沙汰がないからね。誰が書いても困ったんじゃないかな。

　僕にとっては、プロデューサーのコネのある女優を出してくれ、と言われて困ってるような気分でした（笑）。

ねずみ男が好きですね。一番人間で、いい加減なやつなんだけど憎めない

――「死神」のシリーズをはじめ、『鬼太郎』以外の原作からとったエピソードも数多く書かれていますね。

雪室　『鬼太郎』も2作目になると、さすがに原作が底をついてきたんです。そこで『鬼太郎』とは直接関係のない、単発の水木作品を使うケースが増えていったんですよ。

――作品は雪室さんが選んだんですか。

雪室　いいえ。すべて斉藤さんが選んでいました。僕らはその原作を渡されると、鬼太郎の出てくる世界に置き換えてシナリオを書く、というやり方をしていました。普通の原作者だったら、そんなこと許さないでしょうけど、水木さんはすごく大らかでしたから、それが可能だったんでしょうね。

「死神」シリーズはね、最初に「死神」（第30話）を書いたのがきっかけで、何だか〝死神担当〟みたいになってしまったんです（笑）。もともと斉藤（侑）さんが僕に向いていると思って回してくれたのかどうかはわからないけど。

――『鬼太郎』のなかで、書いていてお好きだったキャラクターは？

雪室　やはりねずみ男が好きですね。一番人間的で、いい加減なやつなんだけど憎めない。ああいうチャランポランな人物というのは、一番書きやすいんですよ。真面目な人ほど書きにくい。後になるほどキャラクターが膨らんできた。そこには大塚周夫さんの演技に触発される部分がありましたね。ホンを書いてると、あの声が頭に浮かんできました。

　死神も、ねずみ男とは別の意味で書きやすかったです。劇場で『河童の三平』を書いたときも、死神をフルに使う内容にしたんですよ。だいたい、サラリーマンや貧乏人のほうが、ドラマがいっぱいあるんですよ。いくらでも書ける（笑）。

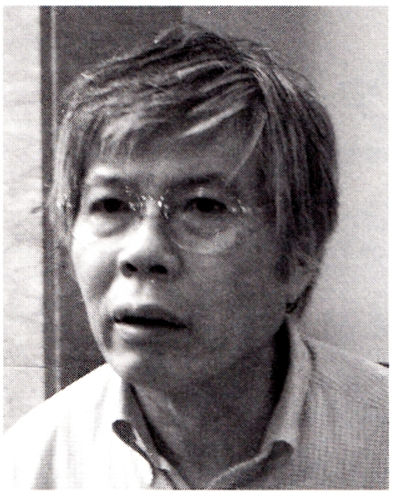
――雪室さんにとって『鬼太郎』の魅力とはどんなものだったでしょう。

雪室　『鬼太郎』には本来、どぎつい要素があると思うんです。目玉のおやじだって、ちょっと考えると不気味な存在ですよ。小さい子どもだったら怖がるような……。それがあの茶碗風呂に入るという、水木さん独特のとぼけた部分が加わることで、どぎつくなくなっている。ああいうところが、作品の魅力として生きていたと思います。

　特にトラブルもなく、とてもやり易かった作品ですね。演出家はみなよく勉強していたし、ちゃんと勘所を押さえていて個性的でした。

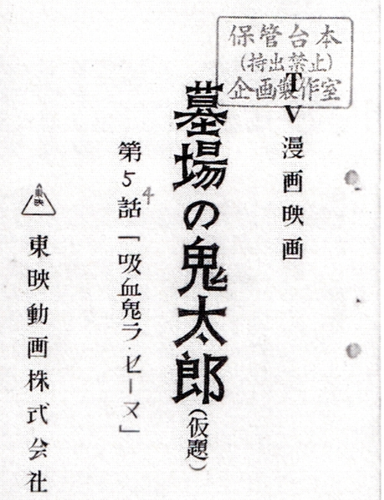
　アニメ技術は今から見れば拙劣かも知れないけれど、その分、手作りの良さを残していました。何より熱気みたいなものがあったと思いますね。良き時代の良き作品といいますか。

（取材・構成：原口正宏）



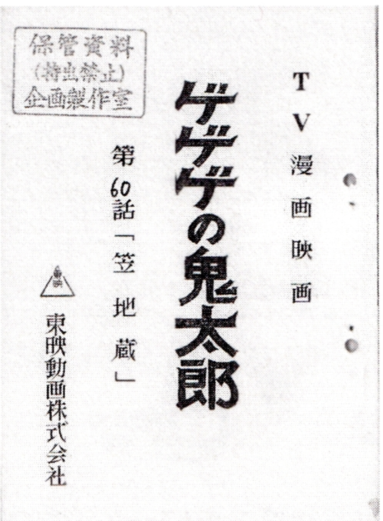
雪室俊一
（ゆきむろ・しゅんいち）

1941（昭和16）年1月11日、神奈川県生まれ。シナリオ研究所を卒業後、松浦健郎に師事。65年、日活映画『あいつとの冒険』で本格デビュー。アニメの代表作は『魔法使いサリー』『サザエさん』『がんばれ元気』『キテレツ大百科』『あずきちゃん』など。



保管台本
（持出禁止）
企画製作室

TV漫画映画
墓場の鬼太郎（仮題）
第5話「吸血鬼ラ・セーヌ」
東映動画株式会社



保管資料
（持出禁止）
企画製作室

TV漫画映画
ゲゲゲの鬼太郎
第60話「笠地蔵」
東映動画株式会社

雪室さんが最初に手がけた「吸血鬼ラ・セーヌ」と、ご自身が思い出深いと語る「笠地蔵」の台本表紙。初期はまだ『墓場の鬼太郎』のタイトルで書かれていたことがわかる。

P94～101の「スタッフインタビュー」は、『ゲゲゲBOX60's』、『ゲゲゲBOX70's』のブックレット用に取材したものを再構成したものです。

対談

木原浩勝vs角銅博之

鬼太郎を見て、ぼくらは大人になった！

日本アニメにおける『ゲゲゲの鬼太郎』

第4シリーズまで放映され、日本の多くのクリエイターに大きな影響を与えた『ゲゲゲの鬼太郎』。日本アニメ史上不滅の金字塔ともいえるこの作品の評価はまだまだ不十分だ。日本のアニメーションにおける『ゲゲゲの鬼太郎』について、怪異界のアニメの第一人者木原浩勝と、第4シリーズで演出も担当したアニメーション作家角銅博之が語りあった。

子ども心に非常に怖かった第1シリーズ

木原　日本のアニメーションの中で、アニメ『ゲゲゲの鬼太郎』がどのような作品であったのかということについて第1シリーズと第2シリーズを中心に話し合いたいと思います。

角銅　アニメーションの歴史で、東映アニメーションという会社を取り上げる場合は、その後でいくつかの系統を残したものが取り上げられる傾向にありますね。ロボットものの『マジンガーZ』であったり、魔女っ子ものっていう系譜があったりっていうのが、まず最初に取り上げられる。次は、『ドラゴンボール』という原作ものという流れになるわけです。

一方で、作品単独で取り上げる場合というのは、有名クリエイターがかかわっている場合が取り上げやすい。鬼太郎は人気は絶大にあったんだけど、それを作った人たちに関して取り上げられたことはまずない。原作の漫画があまりにも有名だったがために。

木原　原作の水木しげる先生が有名で巨大であったが故に。

角銅　原作が有名で巨大になったのは、実際はアニメ化したのがきっかけでブレークした部分が本当は大きいはずなんだけど。それで一挙にメジャー化して、しかも妖怪という日本に昔からずっとあったものを取り上げたという体裁を保っているが故に、日本人として当たり前のようにあるっていう位置を一発で作っちゃったんですよね。

木原　鬼太郎は漫画が大ヒットしたからアニメーションになったというよりは、アニメがヒットしたから漫画が更に隆盛を極めていく流れですが、初期シリーズは漫画の原作色が強いと思われているかもしれませんが、実際はアニメオリジナルの脚色がかなり入っていましたから、アニメから原作に入るとその印象の違いに戸惑ったりしました。

僕らが当時見たのは、もちろんモノクロでしたけど、鬼太郎が妖怪を退治するという単純なものではなく、すごく怖かったという印象があります。

角銅　ぼくは「大海獣」がすごく怖かった。鬼太郎本人が海獣になっちゃうじゃないですか。他のものが怖い目に遭うんだったら、それを鬼太郎が退治してくれるんだけど、鬼太郎本人があんなふうになったらどうするんだって、ものすごく恐怖感としてありましたよね。鬼太郎の声優をやった野沢雅子さんもいってましたが、本人も怖かったけど、最後は救ってくれるから大丈夫と思ってやっていたって言ってましたね。死体安置所に鬼太郎が一歩一歩近付いていくっていう場面があって、アフレコの最中は、効果音も何も入っていなくて、スタジオにフィルムが流れるだけなんだけど、そこに自分が鬼太郎の気持ちになって一歩一歩ドアに向かって歩いていくシーンがものすごく怖かった。それを今でもありありと覚えているっていう話をされていたんですね。録音している大人たちがそうなので、見ている子どもたちはたまったものじゃなかったですね。

木原　アニメでは第4話で放送された、「吸血鬼ラ・セーヌ」（原作タイトル「手」）という回があります。アニメを見ていると、直接鬼太郎が退治するどころか、鬼太郎は早々にやられてしまいます。ところが悪人たちを死んだはずの鬼太郎のゲタが延々と追いかける。原作は手ですが、やはりグロテスクだったのでしょう。そのゲタがカランコロンといつまでもつきまとうので、悪人たちが対処に困って逃げ回り最後に小屋に追い込まれて、火で

燃えあがって死んでしまう。この炎がまた上手いんですよ、クライマックスだけあって月岡(貞夫)さんの炎にそっくりなリアルな(当時)炎で！この追い詰める描写は、まさに怪談の領域です。ヒーローの登場はなく、音とゲタだけで延々見せる。見えない存在が相手を追い詰めるっていうのは、怖かったです。

角銅　鬼太郎自体は、原作ほどではないにしろ、あまり優等生ではないですよね。原作はもっと不良なんですけど。それ自体が当時としては結構珍しい。今に至ってもそんなのはあり得ない。

木原　アニメの鬼太郎だけを見た人は、漫画を読むと驚くでしょうね。

角銅　子どもがたばこをふかしてる。

木原　ものを斜めに見ているし。その役割をアニメではねずみ男がやってくれた印象がありますけどね。それぐらい漫画とアニメは必ずしも一緒ではなかったりするんです。妖怪も水木先生のとおりというわけではないですね。「妖怪城」に「タンタン坊」という妖怪が登場します。原作では〝青たん〟を飛ばしますがアニメでは目から出しています。つまりあれは〝目ヤニ〟ということらしいので、これじゃ〝ヤニヤニ坊〟。

角銅　アニメではやりづらいネタですね。

木原　やりづらいでしょうね。だから漫画を読むのは面白いですが、アニメのように全国の人たちがテレビのゴールデンタイムに見るという点からすると、「やりにくいこと」が多かったと思います。

自由に制作できた1968年当時の東映アニメーション

木原　1968年って、東映長編動画の『太陽の王子・ホルスの大冒険』公開の年です。『ホルス』は、制作期間が長かった上に、セル画の枚数が莫大だったので、東映動画（現在の東映アニメーション）で会社と労働組合との紛争が起きて、以後枚数制限が強化され、それが鬼太郎あたりからなんですよね。

角銅　労使紛争中のテレビシリーズでは外部スタッフも多かったのですが、ある意味制作的な締め付けはあっても、作品的にはスタッフは割と自由にやれた部分があったらしい。

木原　作品としては原作を放送しやすいように変えていますね。要するに、アニメオリジナルの展開だとか、アニメオリジナルの使い方というのが随分出てきていますけれども、上手に考えられていましたね。アニメを見ていたらすんなり入るものが多かったと思います。水木先生はおおらかな方なので、「アニメはアニメ」ってごく自然に考えられていたと思います。

角銅　ずっとそうです、水木先生は。

東映動画っていうのは、他のアニメ会社に比べてすごく特殊なのは、他のアニメ会社ってまず統括する監督っていうのがいるんです。ところが東映動画には、作品全体の監督っていなくて、企画営業部のプロデューサーが担当して、まずシナリオとテレビ局回り。作品を売り込んで、シナリオを作り込む。演出は各話ごとの監督なんですね。各演出の裁量にすべて任されるという部分があるので、結構自由にやれた。

さらに、普通のアニメ会社だと音響監督っていうのがいるんですが、東映動画の場合、今に至るほとんどの作品は、演出がすべて音響監督を兼ねますから、音楽のタイミングから、効果音の指定から、すべて演出家の裁量でやる。特に鬼太郎って、連続話ではないですから、各話ごとにどう見せるかをみんな工夫できたところは、非常にやりやすかった部



木原浩勝（きはら　ひろかつ）
怪異蒐集家。スタジオジブリの制作デスクとして『となりのトトロ』、『魔女の宅急便』などを手がけたのち、文筆の世界へ。『空想科学読本』、『新耳袋』シリーズなどを手がけたほか、漫画原作、映像の他、トークライブ・携帯サイトのプロデュースなどを務める。

×

角銅博之（かくどう　ひろゆき）
アニメーション作家。テレビアニメの演出をしながら、自主制作の作品も。主な演出作品は『デジモンアドベンチャー』『ゲゲゲの鬼太郎　第4シリーズ』『金色のガッシュベル！』など。

分ですね。

木原　そのせいでしょうか？　第2シリーズの鬼太郎を見ていると、「あれ？　鬼太郎の曲じゃない」ってことが多かったですね。東映長編からのBGMの流用が結構あって、とても楽しかったりするんですけど。

角銅　それはね、当時の東映っていうのは、東映長編で使った音楽は、テレビで使ってもOKみたいなルールがあったんです。それでよく劇場長編で使った曲を、テレビで「あの曲を使ってくれ」って演出家が指定して使いました。

木原　子どもながらに「いい曲使っているなあ」っていう印象があります。鬼太郎のBGM自体もなかなか名曲ぞろいで、他の東映アニメにも使われていました。

角銅　今は作品によって音楽製作会社が違うので、他の会社のやつはまず使えないんですが、当時はコロンビアのものだったら何でも使えるみたいなところがありました。

木原　曲といえば一話限りの挿入歌が大きな役割を果した回があったのも印象的でした。「さら小僧」の「ぺったらぺたらこ」の歌。たった一話のエピソードなのに、あの歌をみんな当時覚えていたのはなぜなんだろう。

角銅　第4シリーズで踏襲しようとして、第4シリーズの「さら小僧」では、主題歌を歌っていた憂歌団に「ぺったらぺたらこ」を作らせて歌わせて、本人たちもゲスト出演させたからね。第4シリーズでは「ラ・セーヌ」の回に佐野史郎さんを呼んできて、「ラ・セーヌ」の歌を作って歌ってもらっていますが、聞いたところでは「作ってくれますか?」って言ったら、喜んで四曲も作ってきて、「ラ・セーヌやりたかったんですよ」って。憂歌団も喜んでやっていたって。彼らも第1シリーズが好きで、あれをやるなら喜んでっていうので。

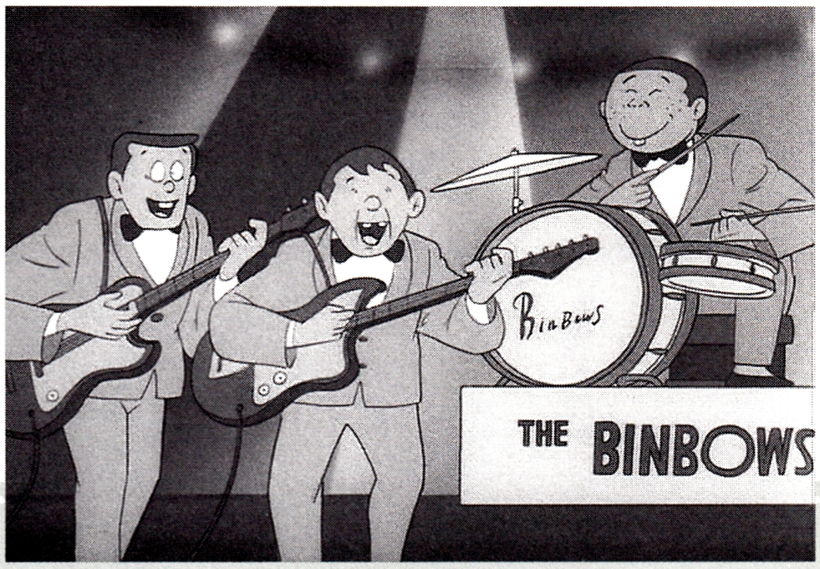
木原　鬼太郎をシリーズとして長く延命させてくれた背景には多分、夕方の4時から6時の〝黄金の再放送時間〟っていうのが、大きく寄与したと思うんですよ。そこでも高視聴率を出す鬼太郎は、存在感が強かったんでしょうね。今も鬼太郎が愛されるのは、妖怪もののコンテンツでこれ以上のものはないからだと思います。

角銅　他の妖怪ものっていうと『妖怪人間ベム』や『どろろ』があったのですが、どちらもオリジナルの妖怪とか化け物しか出てこないですよね。その後、『ドロロンえん魔くん』とかあるんですけど、ある程度現代風のものなんだけど、鬼太郎っていうのはその風景自体も含めて、現代風にしない。日本人としてすごくなじみやすいと思うんですね。

主人公だがヒーローではない鬼太郎の存在

木原　題材の扱いも勧善懲悪とは限っていないのもいいですね。開発が田舎にまで進出してきて、自然がなくなってくるから、妖怪が怒って出現したりする。今で言うエコ的な作品も作っていますね。第2シリーズ第1話「妖怪復活」に登場する泥田坊なんかは、ただ田んぼから出てきて暴れ回る訳ではないんですね。田んぼが無くなり、農薬で犯されるから、行き場を探して出てきたりする。「田を返せ」としか言わないセリフで風刺するところなど今と変わらない。今観ても、68年にシリーズ第1話でそれをやっていたっていうのは斬新に映るんじゃないですかね。

角銅　東京オリンピックは64年かな。そこで都市開発っていうのがガーッと始まって、その後70年代に至るところって、高度経済成長で、どんどん田舎の風景っていうのが追いや



グループサウンズ全盛期に作られた第1シリーズ第34話「さら小僧」。歌っているのは、ビートルズならぬビンボーズ。耳について離れない挿入歌「ぺったらぺたらこ」が子どもたちの間で大流行!?



第4シリーズでリメイクされた「さら小僧」では主題歌を歌っていた憂歌団オリジナルの「ぺったらぺたらこ」を作曲。作中にもアーティストとして参加。

られてくる一番激しい時代だったんです。だからそのテーマってすごくはっきり際立っていて、日本の原風景っぽいものっていうのに対する憧憬みたいなものが、一番落とし込みやすい時期だったと思うんです。誰が見ても共感出来るものだった。

同じ鬼太郎でも、第3シリーズ、ユメコちゃんが出てきますけど、もっと近代的な都市風景を舞台にした話になって、現代的な衣装をまとうようになるじゃないですか。

木原　都会の中に出てくる妖怪としての背景が描いてありましたね。

角銅　第4シリーズになると、もう一回先祖返りしたいっていう、田舎の風景をある意味ノスタルジックに扱うという要素が入ってくるんですよね。でも68年当時に作られたものって、リアルタイムで田舎と都会のせめぎ合いのはざまに妖怪がいるんだっていうところが、すごくリアルに感じられる。田舎の風景に象徴される昔ながらずっと続いてきた日本っていうものを、日本人としてどうとらえていくかっていうのが、見る側に何となくうっすらとあったんだと思うんですね。

自然の破壊と、それから戦争もそうですね。安保闘争なんかもありましたからね。妖怪は絶対アメリカナイズされないっていう意識があって、それで日本妖怪対西洋妖怪の戦いが出てくるのは、そういう日本人の原意識みたいなものがあるんだろうなと思いますね。

木原　確かに妖怪大戦争の回なんていうのは、当時としても今観てもすごい緊張感があります。妖怪の能力戦というより肉弾戦で戦い、鬼太郎は操られて敵側になるなど、相当スリリングな展開でした。安保闘争は、何もわからない子どもにとっては置いてけぼりでした。それだけに、第2シリーズの「地相眼」の話が印象的でした。柴田夏余さんのシナリオが素晴らしくて、父親が戦争に行って、迷い込んだジャングルから、地相眼を盗んで石油などで大金持ちの社長になる。ところが妖怪がそれを返せって来るわけですね。鬼太郎が間に入ると、「悪いのは盗んだこいつじゃないか。なぜおれたちが悪いんだ」って。その社長の息子が、大学に行ったらロックアウトされていて、学生運動デモとピケ隊との戦いにぼうぜんとしているんです。妖怪の話を聞いて、その息子が、こんな世の中、このまま目的もなく生きるより、地相眼としての人生を見つけてしまい、妖怪たちに、僕を地相眼にしてください。と願う。それで妖怪に地相眼にされて、元のジャングルの中で、ひっそりと地相眼となって働くんです。

すごくやるせない。鬼太郎は間に入るんだけど、事実上何もできません。つまり正義がない鬼太郎っていうのが出てくるんです。この話はものすごく衝撃を受けました。

角銅　それもある意味、原作の鬼太郎が、必ずしも正義のヒーローではないからですね。そこをどこまでアニメとして残すかっていう部分で、いろいろな度合いがあるんです。でも、普通のアニメ番組だったら、絶対に考えられないことでしたよね。それが生かせているっていうのが特色であり、他にフォロアーがあまり出てこない。

ねずみ男に学んだ金に汚いのはみっともないこと

木原　原作がそうだからと言ってはナンですが、割と大人が出てくるのもこのアニメの特徴でした。子どものアニメ番組にもかかわらず、悪巧みをホテルの一室でやる大人が出たり。金、見栄、名誉、権力、出世などの欲がむき出しの大人だらけ。



第2シリーズの第1話「妖怪復活」に登場した泥田坊は、田んぼに棲むおとなしい妖怪。開発によって田を追われ、海のヘドロの中で凶暴化し、人々を襲った。



第2シリーズ第37話「地相眼」では、大学生の安男が安保闘争で揺れる大学のロックアウトに遭遇。将来を悲観し、自ら地相眼になる道を選ぶ。

角銅　とにかく駄目な嫌な大人が、ちゃんと駄目な嫌なやつとして出てくる。それが微妙にリアリティがあるんですね。いわゆるアニメの悪役っぽい人っていうんじゃなくて、普通の嫌なやつ、普通の駄目なやつが出てくるのは、アニメ番組としてはそんなに多くないんですよね。

木原　「これで大もうけですね、フフフ」ってやるのは、鬼太郎ならではですよ。非常に不思議な感じがしますよね。子どもの時間帯を狙っているのに、子どもに媚びない。

　ねずみ男が権力の追随者で、銭の亡者で裏切り上等。そういう身近な悪は他のアニメではなかなか難しいです。金に汚いっていうのを、悪として描いているというより、金に汚いのって、みっともないと学ぶには格好の題材だったように思います。それでもねずみ男と鬼太郎は親友として仲がいい。

角銅　不思議な関係。

木原　何度裏切っても笑って許されてしまう、ねずみ男の存在はすごく大きいですね。生き残り方としては正しいことをやっているのではないかと見せているところがあります。

　原作の功績が大きいですが、欲や風刺が軸になっていても違和感がなくて、振り返ってみると鬼太郎で知ったことが多かったのかなって思いますね。アニメでは簡単には許されないことを、妖怪を題材にして自然にやってのけているというところがすごい。68年だからこそ、あんな時代から始めたからこその意味は大きかったと思います。

　既に第2シリーズからは、第1シリーズよりは鬼太郎のヒーロー性が強調されていたりしていて、わけが分かる面白さに切り替わっていきましたから、最初の第1シリーズの地位というのは独特だと思いますね。

角銅　鬼太郎の第4シリーズを始めた時、それを再現しようっていう意図があって、スタートしたんです。

木原　第4シリーズはオリジナルイメージの作品が結構ありますよね。第1シリーズではマンモスの時代に放り込まれるぬらりひょんが、レギュラーの悪役として登場したかと思うと、角銅さんが演出された京極夏彦さん脚本の「言霊使いの罠！」みたいなものがあったりするので、古きと新しきが同居しているということまで進化していくんですから、いや水木先生の原作の懐の広さにはあきれ返りますね。

角銅　ほんと、そうなんですよね。

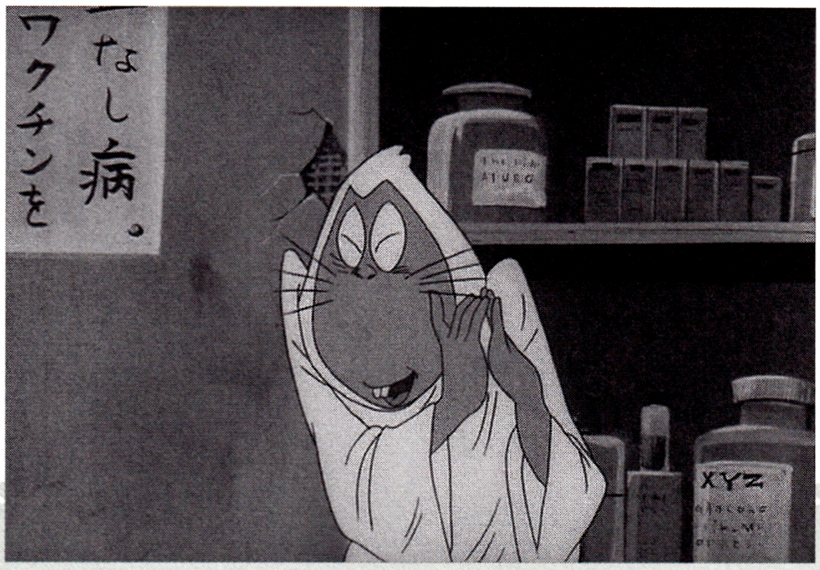
木原　鬼太郎には原作ものでありながら取り込める要素が多く、高い自由度がありますね。ねずみ男と同じようなスタンスを持っているアニメキャラクターは多分いません。

日本とは何かを思い起こさせる鬼太郎の世界

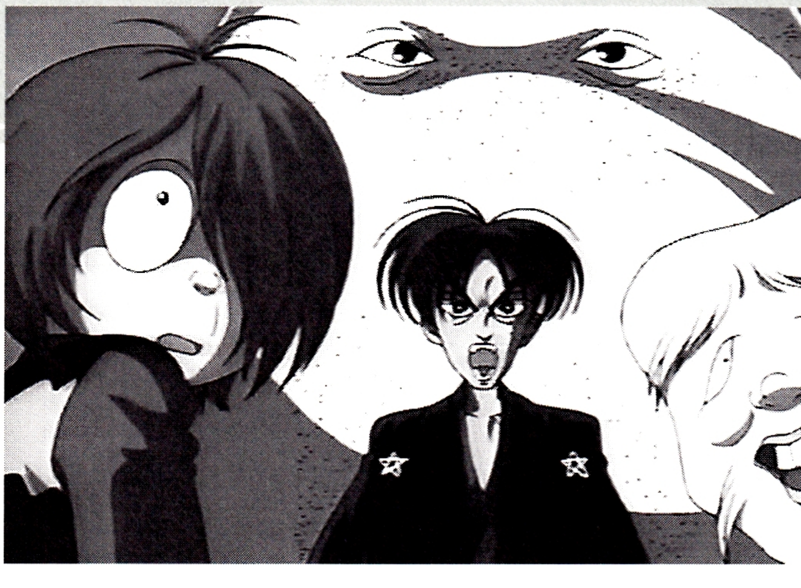
木原　タイトル文字が毎回凝っているっていうのも、鬼太郎の特徴でしたね。第2シリーズ第10話の「アンコールワットの亡霊」では、スペクタクルなタイトルが向こうからドーっと動画で出て来たからビックリしました。

角銅　かなり実写の映画っぽい意識で作っているタイトルの付け方をしているわけですね。鬼太郎って、すごく実写っぽいものが入れ込みやすい部分もあったと思います。当時の演出の方は、特に実写の撮影所の助監督から流れてきた人たちが多かった。短い30分番組で、独立した映画だぐらいの気分で作っていたんだろうと思います。

木原　主人公が最後に勝つとはいえ、ここまで主人公がやられるのかっていう印象も、鬼



金の亡者のようなねずみ男は、我々の中に潜む本心を素直に表現していたのかも。「金に汚いのはみっともない」ことを子どもながらに学んだ貴重な体験。



第4シリーズ第101話「言霊使いの罠！」は、熱烈なファンとして知られる、作家京極夏彦氏が脚本を担当。ゲストキャラの陰陽師・一刻堂の声優も担当した。

太郎は特殊だと思うんです。ギャグとしてではなくて、ぺったんこにされちゃうとか。反物やかまぼこにされちゃうとか、液体にされてしまうとか。それだけに脇を固める妖怪たち、一反もめんは実はすごい博識で、八面六臂の大活躍をするとか。鬼太郎だけでなく、サブキャラクターがものすごく大活躍をして、鬼太郎のヒーロー性だけを際立って立たせなかったのも面白かったと思うんですけどね。アニメという点で見ると、これだけのストーリーラインを持っているアニメというのは、非常に特異ですね。

角銅　「どうなるんだろ、これ」っていうスリリング感が、鬼太郎には非常に多かった気がします。

木原　妖怪が昔からいてくれたおかげなのかどうか、第4シリーズまで設定や風景を変え、キャラクターを付け加えということをやりながら続けることができました。世の中の流れが変わってもその時代、時代を見せることができるというのは、原作の懐の深さだと思うんです。鬼太郎の場合は、リメイクとして形だけまねたのでは駄目なんでしょう。描く世界は時代によって変わっていきますから。その時代に合わせた描き方と過去を踏襲して、まだ作り続けられる世界を持っていることを第1、第2シリーズが証明してみせました。漫画はやはり水木先生の功績ですけど、アニメは東映動画スタッフの功績がすごく高かった。「東映動画ここにあり」という鬼太郎を作り上げたところが、とても素晴らしかった。やっぱりただのアニメーションとは思えないんです。鬼太郎や妖怪のアニメだったというだけではなくて、あまりにもいろいろな要素がフィルムの中に存在していて、今見ると驚くべきものがあります。東映動画で当時作っていた大人たちが、大人の考えで子どもに媚びたものではないメッセージを送る。大人が作りたいものを作ったというのは、当時のアニメとしては特筆できることだと思います。それと同時に、当時の東映動画のスタッフは、非常に優秀な人たちだと作品が証明していますね。そして非常にまじめにドラマをやっていた。

角銅　東映長編漫画映画っていうのを作ってきた技術を持っている人たちが、現役でバリバリ力を生かせる時期だったんですね。

木原　当時のスタッフがこれをやらなきゃいけないということを、鬼太郎の外套を借りてやっていたんだなと、アニメだけではくくれないものを大人になって感じたりします。

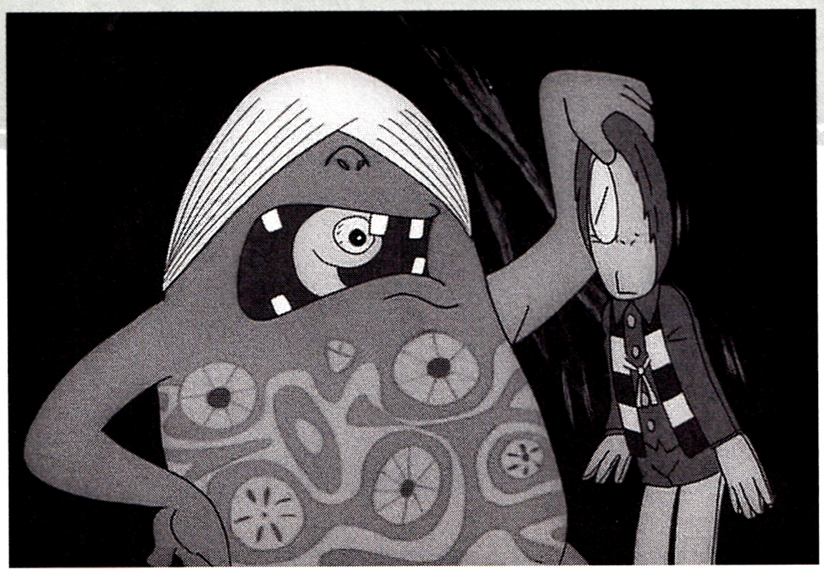
角銅　鬼太郎、ねずみ男、目玉おやじがいるバックに、必ず日本の妖怪っていうのがずらっと出てきて、必ず「日本って何?」っていうのを思い起こさせる仕掛けが出来ている。これが最大の特徴。アニメ史というよりは、日本の文化史の中に入っているものだろうと思います。どの妖怪も水木しげるさんのオリジナルなんだけど、最初から日本の風景と一緒に存在していたかのように思わせる作りになっているところがすごいと思います。

木原　第1シリーズの最初の頃は、キャラクターをどう扱っていいか分からなくて、相当迷走していたと思うんです。茶わん風呂も、ねずみ男も、妖怪ポストも、定番化するのはもうちょっと後で。固まってからの鬼太郎というのは、いわゆるヒーロー化していって、面白さが倍増もするんですけど……。DVDボックスも出るので、ぜひとも見直して確認したいのは、第1シリーズがすべてアニメ版鬼太郎の流れを決めるキーワードになっているという点です。前半の迷走部分というのを改めて見直して、当時の東映動画のにおいをかいでみたいです。「ああ、鬼太郎を作った東映動画、やっぱりすげえな」と現在のアニメファンに思ってほしいですね。



毎回凝った作りのオープニング。第2シリーズ第10話「アンコールワットの亡霊」では、スペクタクル映画のよう。全国の子どもたちがわくわくした。

鬼太郎を見て、ぼくらは大人になった!


第1シリーズ第33話では、さざえ鬼にのされ、食べられてしまう。いつもひどい目に遭わされる鬼太郎。ここまでやられるヒーローも珍しい。

ゲゲゲの鬼太郎 読み解き事典

基本はアニメ版第1～2シリーズに限定。太字はアニメの中での扱いと解説。細字は引用された文献による解説です。

あ

あおきがはら【青木ヶ原】 *Aokigahara*

第1シリーズで、優秀な人間の魂を集めて食べていた大首&骨女が本拠地にしていたのが、富士山ろくにある洞穴である。大首は多くの人の霊魂を食べて、数千年も生きてきた妖怪。すでに退化して手足がなく、大きな頭だけになっていた。また骨女がこの作品に登場するときはたいてい傀儡であり、誰か黒幕の存在が前提となっていることが多い。

富士山ろくで「風穴」と呼ばれる洞穴が数多く存在するのが、青木ヶ原樹海だ。864年の富士山噴火の際に流れ出した溶岩流によって作られており、面積はおよそ3000ヘクタールほど。青木ヶ原＝自殺の名所のイメージは、NHKでドラマ化された松本清張の小説『波の塔』で、登場人物が青木ヶ原で自殺するシーンが描かれて以来のことである。また『完全自殺マニュアル』で紹介されていたことも決め手となり、青木ヶ原＝自殺のイメージは今なお強い。しかし実際には遊歩道をピクニックするために訪れている人も多い、立派な観光地である。ただし昼なお暗い密林の中なので、遊歩道をちょっと外れたら戻ることが難しいのは確か。

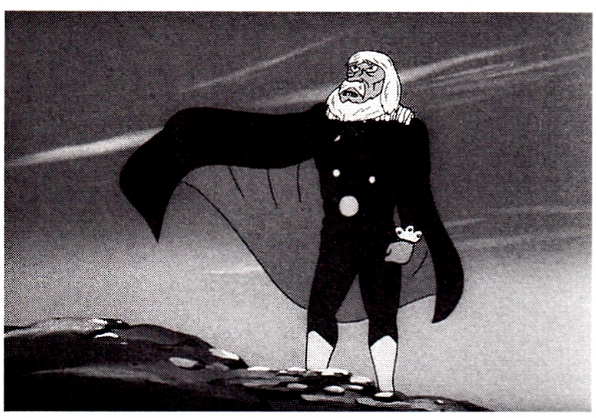
●第2シリーズ26話「大首」ほか

あくま【悪魔】 *Devil*

作品内に登場する悪魔は、主に「悪魔ベリアル」（第1シリーズ30話）、「悪魔ブエル」（第2シリーズ33話）の2名。共に西洋悪魔をモチーフにしており、悪魔ベリアルは江戸末期～明治にかけて来日したポルトガルの悪魔で、カラス天狗により封じられていた。悪魔ブエルは人間の手をのっとり、何度となく戦争を起こさせた残忍極まりない悪魔とされる（シリーズにより詳細設定は異なる）。

悪魔とは本来、諸宗教における煩悩や悪、邪心などを象徴する超自然的な存在を指す。仏典においてサンスクリット語のマーラ（殺す者の意）を漢訳した際「魔」という文字が生まれ、それに「悪」の字を付けたもの。それを転用して、西洋におけるデビル、デーモンの訳語とされた。西洋宗教においては、力を持った「悪」の半ば擬人化した姿を指す。悪魔生誕の仮説は幾つかあるが、最も有名なものとして光の天使ルシフエルが神に反乱を起こし、敗れ堕とされた後、地獄に住み悪魔となったというものがある。この場合堕天使ルシファーと悪魔の王サタンは同一視される。その他有名な悪魔としては、ゲーテ著「ファウスト」に登場する悪魔・メフィストフェレスや、悪魔の頭・蝿の王とされるベルゼブブなどがいる。

ちなみに悪魔ベリアルは『旧約聖書偽典』によれば、ノアの数代前に、地上へ知識をもたらすために天から降りてきた天使の長のひとり。人間を誘惑して堕落させ、魂を自分のものとする。ミルトンの『失楽園』にも登場。悪魔ブエルは17世紀の魔術文書『レメゲトン』の第1部に登場する、72人の悪魔のひとり。語学と哲学、論理学を教授し、手で触れるだけですべての病とけがを治すことができるという。



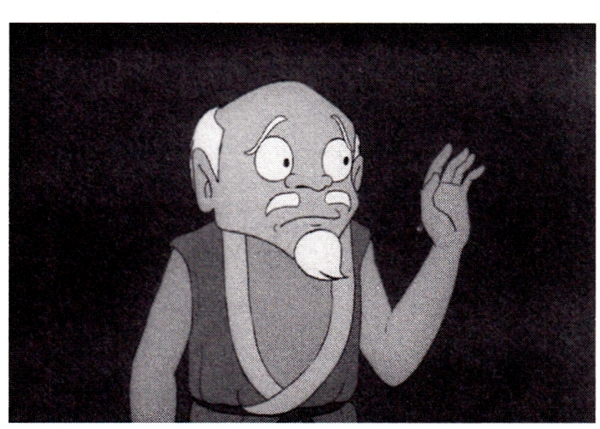
●第1シリーズ30話「悪魔ベリアル」ほか

あずきあらい【小豆洗い】 *Azuki-arai*

第1シリーズに登場。小豆が凶作のため、スリラーショーでバイトしていた。ねずみ男の興行「妖怪ショー」に出演し、客に石をぶつけられる。

ほぼ日本全国に分布している、基本的には無害な妖怪。水辺で小豆を洗うような音を立て、エリアによっては歌を歌う。民俗学的な解釈によれば、小豆は祝祭日、祝祭用の特別な食品であり、祭礼の直前に訪れる厳粛な物忌みの期間が忘れ去られて、恐ろしいものが出る期間として認識されるようになった〝怪〟が小豆洗いの怪だという。小豆を神聖なものとする考え方は現代にも祝い事の赤飯などに残っており、近作の実写映画『妖怪大戦争』（2005年、松竹）において最後の決め手になったキーパーソン&キーアイテムが小豆洗い（演じたのは岡村隆史）であり、小豆であったのは記憶に新しい。

●第1シリーズ7話『ゆうれい電車』ほか



あまがみゆむちゃっく【雨神ユムチャック】 *Yumuchac*

第2シリーズに登場。古代マヤ文明を支配した雨神。マヤの掟では、日照りが続くと雨神を慰めるために16歳の娘と宝石をユムチャックの泉に奉げた。召された者は永遠の命を授かると伝えられている。

この雨神ユムチャックの元となるのは、マヤ文明の時代の雨神「チャック」と推測される。このチャックに関しては、現在でも残るマヤ文明の遺跡、カバー遺跡というものがウシュマルからバスで10分ほどの位置に残っている。この遺跡の一番の見どころが、ゴズ・ポプと呼ばれるチ

ャックの神殿だ。壁一面を埋め尽くすチャックの顔は、ゾウのような長い鼻のほとんどが折れて地面に落下している。耳もほとんどゾウの耳。水の確保が非常に重要な課題だった中南米の古代文明においては、雨の神の重要性は非常に高かったといえる。しかし象など知るべくもない古代マヤ人が、なぜこのような造形を思いついたのかは謎だ。

●第2シリーズ44話「雨神ユムチャック」

いーすたーとう【イースター島】*Isla de Pascua*

第2シリーズに登場。日本で殺人を犯した青年が逃亡先に選び、その旅程で偶然、イースター島で「地獄の使者」に会えば「命と幸せを自由にできる術」を知ることができるという父の日記を発見。記載の通りに行動し地獄の使者に会うことはできたが、己の業もありモアイに潰されて命を落とす。

チリの首都サンティアゴから3700kmの太平洋上にある、面積180平方km程度の小さな火山島。1995年に世界遺産に登録されている。有名なモアイの製作は10〜12世紀ごろから始まったといわれ、そのモアイをはじめ考古学上極めて重要な遺跡が数多く残されている謎の多い島だ。1722年、オランダ海軍提督、ヤコブ・ロッゲフェーンが発見。18世紀から19世紀にかけて住民が奴隷として搾取され、また疫病の影響もあり人口は激減。島民のほとんどが死亡している。

現在ではそのミステリーに惹かれ、世界中から観光客が訪れている。モアイ像は小さなものから、20mにも及ぶ巨大なものまで存在する。

●第2シリーズ35話「イースター島奇談」



いらずのもり【入らずの森】*Irazu-no-mori*

第1シリーズ3話にて、封印されていた妖怪城が復活したのがこの森の中である。特定の場所を指すものではなく、ほかにも「入らずの山」などが頻出。何がしかの怪異・伝承を抱えており、一度入ると出られなくなるという意味から通称名として付けられたものと思われる。

同様のモチーフは、「悪魔くん」など他の水木作品にも数多く見られる。また現実世界において「入らずの森」と呼ばれている林としては、能登にある気多大社の本殿背後に広がる広さ約3・3ヘクタールの常緑広葉樹の自然林が上げられる。古くから神域として信仰の対象となっており、住民の出入りが禁じられていたこの林も、日本海から吹き込む潮風や病害虫の被害から将来が心配されるようになっており現在「守る会」が結成されている。植樹の予定もあるとか。それ自体は素晴らしいことだが、もはや水木作品に登場してきたような本当の意味での「入らずの森」は存在しないのかと思うと、寂しい限りである。

●第1シリーズ第3話「妖怪城」ほか

うみぼうず【海坊主】*Umibouzu*

第1シリーズ「世界妖怪ラリー」の際に登場。ラリーのコースにいてバックベアードに轢かれかけ、さらに酒を奪われる。また、炎上してしまった鬼太郎の車の消火活動を行う。

海坊主とは土地ごとの民俗資料にはもちろん、江戸時代を中心とした随筆にも多数見ることができる、各地の沿岸部でいわれる海の妖怪。海上で姿を見るだけでも不吉であるといわれ、漁師達はいやがる。多くは夜間に現れ、それまでは穏やかだった海面が突然盛り上がり黒い坊主頭の巨大なものが現れて、船を破壊するとされる。『閑窓自語』に記された海坊主は、和泉貝塚（大阪府貝塚市）の浜辺に現れ、3日ほどたつと沖に帰っていく。体は漆のように黒く、半身だけを海上に現すという。人型をしたものは海法師、海入道と呼ばれることもある。鳥山石燕の『画図百鬼夜行』に描かれた海座頭も海坊主の類と思われるが、石燕による解説はない。また船幽霊との区別も明らかではなく「柄杓を貸せ」と言って現れるものもあるという。アニメを通してよく登場するぬらりひょんは海坊主の一種という説もあり、海上に玉状のものが現れ、船を寄せて取ろうとするとヌラリとはずれてヒョンと沈み、人々をからかう妖怪だ。その正体は鳴き声から見てもアザラシやイルカ、もしくは鯨などの海洋生物を見間違えたものだと言われるが、第4シリーズの作品内ではその正体はタコと言われた（第101話）。

●第1シリーズ54話「妖怪ラリー」



うんがいきょう【雲外鏡】*Ungaikyo*

目玉おやじいわく「鏡妖怪の大リーガーのような存在」とのこと。第1シリーズに登場する。銅でできた鏡が2000年以上経つと、変化して雲外鏡となる。作品の中では美しい少女に化け、鬼太郎を鏡に閉じ込めた。照魔鏡を当てられ、雲の化け物のような正体を現した。

もともとは鳥山石燕の『画図百器徒然袋』に描かれた妖怪であり、「照魔鏡と言へるは、もろもろの怪しき物の形をうつすよしなれば、その影のうつれるにやとおもひしに、動出るままに、此かがみの妖怪なりと、夢の中におもひぬ」と記述がある。これは「魔を照らす鏡・照魔鏡に妖怪が映っているのかと思ったら、実はそれ自体が鏡の妖怪でした」という説明になる。このことから照



魔鏡をモデルとして石燕が創作した妖怪と推測される。

長い年月を経て古くなった鏡が妖怪化したものであり、付喪神の一種。自分の体である鏡の表面に、自分自身の顔を映し出しているという。

●第1シリーズ29話「鏡合戦」

おおかみおとこ【狼男】

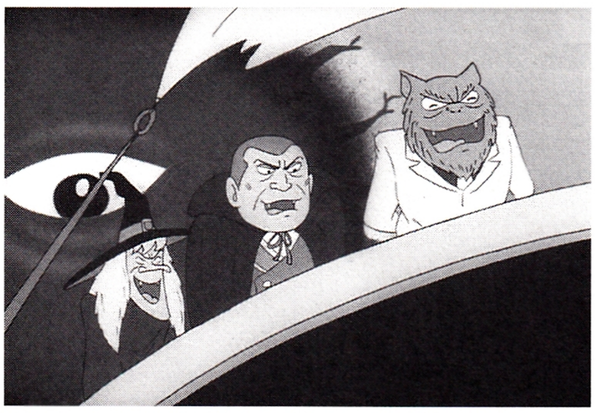
Werewolf

第1シリーズの「妖怪ラリー」ほかに登場。西洋妖怪のトップクラスであり、バックベアードや魔女、水虎などと共に鬼太郎を苦しめた。そのほか「妖怪大戦争」などのときにも登場。西洋妖怪の中で一番にやられてしまうが、西洋妖怪による日本の鬼界ヶ島侵略を決めた会議にも参加している。

月を見るとオオカミになるとされる獣人の一種。伝説上の生物であり、フランケンシュタインの怪物、ドラキュラと並ぶ世界三大怪物の一つであるが、文学的な創作物が基盤にあるというよりは、北欧神話や旧約聖書が根幹にある由緒正しきバケモノである点が残りの二つとは異なる。古代東ヨーロッパ地方のバルト・スラヴ系民族では「若者の戦士集団が狼に儀礼的に変身する」風習があり、それが、時代が下るにつれて民間伝承化されたものであると考えられている。またルー・ガルーと呼ばれるフランスの人獣も狼男の一種であると思われる。

記録として最も古いものは旧約聖書ダニエル書で、ネブカドネザル王が自らをオオカミであると想像し、7年間も苦しむ話がある。このように実際にはリカントロピー（狼狂幻想）なる精神医学上の疾患であるという説もある。さらには狂犬病にかかってしまった人の獣人化的行動が狼男と見まがわれたという説、ライ麦パンに繁殖した麦角菌（アルカロイドを含有し、四肢の麻痺、思考力の低下、幻覚・興奮等の作用）を摂取してしまい、人格が豹変したり、凶暴な行動をとった人が狼男扱いされてしまったという説もある。

●第1シリーズ10話「妖怪大戦争（前編）」ほか

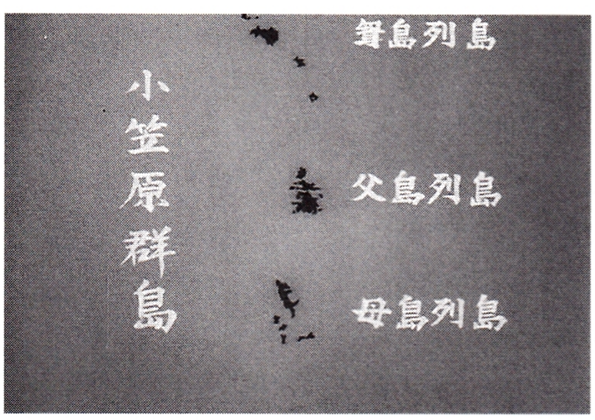


おがさわらしょとう【小笠原諸島】

Ogasawara islands

第1シリーズの吸血妖怪大集合のプロットで、決戦の舞台として登場。母島の奥深いジャングルに眠っていた吸血妖怪樹が、復活を期してドラキュラ伯爵の手を借り、恐山にある妖怪の血液銀行から血を盗む。その後の決戦の舞台も、この母島である。また妖怪総理大臣・ぐわごぜらが利用した怪気象も、小笠原から発生したものと報道されていた。

小笠原諸島が日本に返還されたのが、1968年6月。この回の放映が同年12月であり、まさに返還間もない小笠原諸島が舞台となっている。東京の南南東、約1000㎞の太平洋上にある30余の島々である。父島・母島・硫黄島・南鳥島以外は無人島であり、江戸時代には無人島（ぶにんじま）と呼ばれていた。気候は亜熱帯～熱帯に属し、東京から最も近い常夏アイランドとして観光産業が発達。また周辺の海域では鯨やイルカが生息しているため、それらを見るために島を訪れる人も多い。生命が地球に誕生して以来ずっと大陸から隔絶していたため、島の生物は独自の進化を遂げている。そのため、東洋のガラパゴスとも呼ばれるほど、貴重な動植物が多い。



●第1シリーズ52話「妖怪吸血軍団」ほか

おそれざん【恐山】

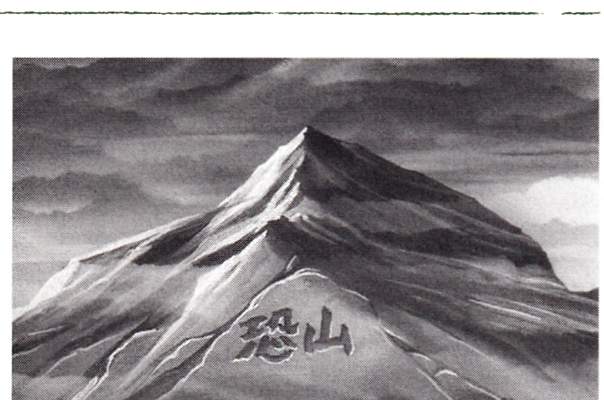
MT. Osore

アニメでは日本に唯一存在する「妖怪病院」や「血液銀行」がある場所として、頻繁に登場。妖怪病院は、吸血鬼エリートに溶かされて液体となった鬼太郎が壺に入ったまま運び込まれたり、「妖怪獣」でも一反もめんが再生粉末を取りに行ったりとにかく鬼太郎をはじめ妖怪たちが非常に世話になっている病院だ。また時には病院にある血液目当てに吸血妖怪軍団に襲われたりと受難続きの場所でもあるが、それは妖怪たちが集まるその性格上、仕方ないとも思われる。

現実世界の恐山は、イタコ（死者の口寄せを行う霊能力者）のいる名所として名高い。下北半島の中央部に位置する霊場であり、日本三大霊山（残り2つは高野山、比叡山）、及び日本三大霊場（残り2つは白山、立山）、日本三大霊地（残り2つは立山、川原毛）の一つ。862年に慈覚大師によって開山されたといわれている。

カルデラ湖である宇曽利湖を中心とした外輪山の総称であり、八峰あるが「恐山」という名称の単独峰はない。火山岩に覆われた「地獄」と呼ばれる風景と、美しい宇曽利湖の「極楽浜」との対比が特徴。立ちこめる硫黄臭と荒涼とした風景はまさに異空間である。恐山境内にある四つの薬湯は、参詣者は自由に入浴できる。なお、イタコは祭りの際以外はいないこともあるので注意が必要だ。

●第1シリーズ15話「吸血鬼エリート」（前編）ほか



おに【鬼】

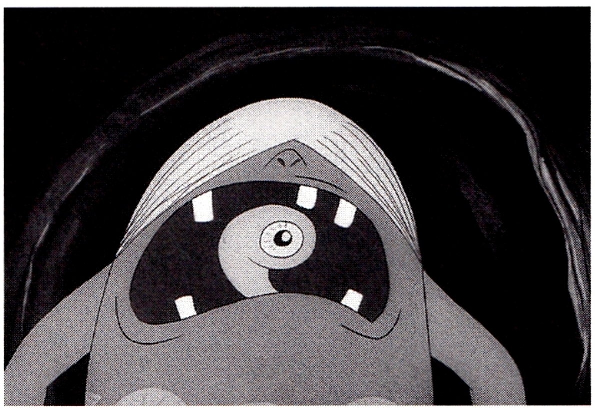
Oni

天邪鬼、さざえ鬼に始まり、葬頭河婆なども鬼の一種。またダイダラボッチの別名も「一つ目の鬼」である。いわゆる一般的な「地獄の鬼」も含めて、作品内で多数登場する。

日本において「鬼」という言葉で連想される姿は、陰陽道の考え方により平安時代に確立したものである。頭に角と巻き毛の頭髪をそなえ、

牙と鋭い爪を持ち、虎の毛皮の褌を腰に纏い、紅や藍の肌をした金棒を持った大男。伝説上の生物であるが、中世以前に日本に流れ着いた外国人がそれになぞらえ曲解された姿であることもある。この姿になる前の鬼は、語源の「陰（おぬ）」が示すように、姿が見えない異形のものを指すこともあった。現在の鬼の姿は、羅刹の姿が投影されている。さらに陰陽思想や浄土思想と習合し、地獄において閻魔大王配下の兵卒としてのイメージも定着した。なお、中国においては「鬼」という言葉は使者もしくは亡霊を指し、仏典における夜叉、餓鬼、羅刹を中国語に直したものである。また、人の情念や怨念が「鬼」となるという考え方もあり、代表的な例としては、能の「紅葉狩」などに、嫉妬心から鬼と化した女性の話が伝わっている。

●第1シリーズ33話「さざえ鬼」ほか



か

かいじゅうぶーむ【怪獣ブーム】 *Kaijyu boom*

第1シリーズの目玉おやじのセリフの中で「現代人は怪獣に慣れっこになっとりますからなあ」というものがある。

これは明らかに、大人も子供も問わず当時日本全国を巻き込んだブームとなっていた、怪獣ブームに当て込んだものである。1966年1月から半年間放映された『ウルトラQ』に始まり、それを超える大ヒットとなった『ウルトラマン』から、テーマが深く数字には現れづらかったとはいえ、現在に至るまでシリーズ最高傑作の呼び声も高い『ウルトラセブン』の終了である1968年の9月まで。3年半にも及ぶ大ブームはウルトラセブンの終了とともに収束に向かい、数年間の冬眠期間を経て1970年代前半に再び盛り上がる。上記のセリフが流れたのが68年8月のことなので、まさに「第1次怪獣ブーム」の最高潮の時代であることが窺える。

●第1シリーズ33話「さざえ鬼」

かっぱ【河童】 *Kappa*

第1シリーズ「吸血鬼エリート」の際、溶かされ液体にされた鬼太郎を妖怪病院まで運ぶリレーの中に登場。川の中から出てきて壷を受け取った。

河辺や水辺に住む。イタズラ好き。キュウリ好き。相撲好き。尻子玉を抜く。頭頂部に皿があり、その皿の水分は欠かすことができない……。一般的には日本の空想上の生物、妖怪、またはUMAであるとされている河童の共通項を上げると、上記のようなものだろう。全国各地にその伝承は広がっており、その姿形や呼称は地方によって相違がある。水の神の零落した姿とも言われ、また役小角など陰陽師の使った護法童子、安倍清明の式神などが転じた姿とも言われる。もちろんアジア大陸から渡来して土着した生粋の妖怪としての一面も持つ。河童が人間の肝（尻子玉：肛門にあるといわれる想像上の臓器）を好むというのは、溺死体の腹がポコンと膨れて、肛門がぽかんと広がってしまうところから昔の人が、河童が手を突っ込んで内臓を抜いたと想像したのだろうといわれている。

マスコミにも取り上げられた1985年の対馬をはじめ、目撃情報は現代でも数多く、その意味ではUMAとしての見方も間違いではないと思われる。

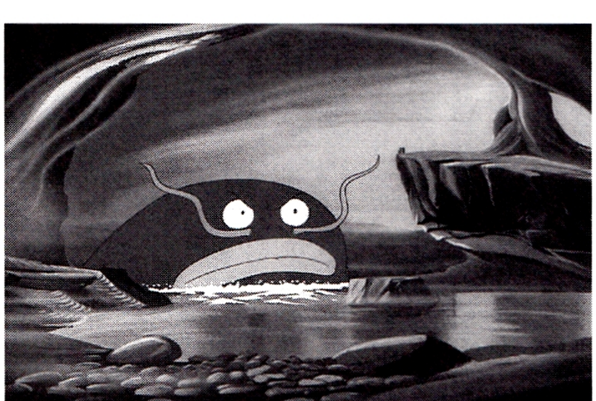
●第1シリーズ16話「吸血鬼エリート」

かなめいし【要石】

第1シリーズにおける八百八狸のプロットにて、大なまずを封印していた巨石。触った者を石に変える、行部狸の妖力がかけられていた。

地震や高波を抑えるという要石伝承は各地に見られるが、なかでも有名なのは鹿島神社の要石信仰だろう。地中深くまで続いている巨岩であり、水戸の徳川光圀公（水戸黄門）が要石の根本を確かめようと、七日七晩この石の周りを掘らせたという。しかし掘れども掘れども、掘った穴が翌日の朝には元に戻ってしまい、確かめることできない。さらにケガ人が続出したために、掘ることをあきらめたという話が『黄門仁徳録』に伝えられている。この要石が地震を起こす地底の大ナマズの頭を押さえているから、鹿島地方では大きな地震がないと伝えられている。

また、静岡県沼津市の要石は寛永初期（江戸時代）に一本松新田の開拓者、大橋五郎左衛門が祀ったものである。大きな安山岩が露出しており、この石よりは高潮が来ないとか、安政の大地震の時はこの石のおかげで被害が少なかったなどといわれている。



●第1シリーズ21話「妖怪獣（前編）」

きゅうけつき【吸血鬼】 *Vinpire*

第1シリーズ「吸血鬼エリート」、同じく「妖怪大戦争」、第2シリーズ「まぼろしの汽車」に出てくる吸血鬼ピーなど、頻繁に登場。エリートはフランス帰りの鼻持ちならないプライドを持つ吸血鬼である。日本で1000人の政財スポーツ界の〝エリート〟の血を吸うえり好みの吸血プランで「超エリート吸血鬼」になるべく動くが、鬼太郎に阻止される。またピーは緑色のシャチホコのような独特の外見（日本の妖怪「さがり」がデザイン上のモチーフか？）を持ち、美人の部下「モンロー」を従えて日本征服に乗り出す。一度は鬼太郎をも吸血鬼にしてしまうのは、登場した第2～第4シリーズすべてに共通するプロットである。

ヨーロッパにおいて吸血鬼伝承が多く残る地域は、バルカン半島のスラブ人地域である。スラブの人々は4世紀ごろにはすでに吸血鬼の存在を信じており、スラブの民話によると、吸血鬼は血を飲み、銀を恐れるとされた。また首を切断して死体の足の間に置いたり、心臓に木の杭を打ち付けることで吸血鬼を殺すことができると考えていた。永遠の若さやほかの超能力を持つと考えられる

ようになったのはヴィクトリア朝以降のことである。

文学的モチーフとしての吸血鬼は、バイロンの主治医ポリドリの作でバイロン作と伝えられた"Vinpire"を先駆けとする。後にブラム・ストーカーの『吸血鬼ドラキュラ』が大ヒットして、現在では吸血鬼＝ドラキュラという認識も強い。また、吸血鬼に血を吸われた犠牲者が吸血鬼として復活するという設定をはじめ、その後のゾンビ、キョンシー等フィクションとしての怪物のイメージに大きな影響を与えている。

また、ドラキュラのモデルであるワラキア（現在のルーマニア）公ヴラド・ツェペシュという人物は、ツェペシュ（串刺し公）という二つ名が示すとおり、独裁専制君主としても名高い半面、弱小国であったワラキアを戦争では無敵の強国に作り上げた英雄でもある。

●第1シリーズ15話・16話「吸血鬼エリート（前後編）」ほか

きゅうびのきつね【九尾の狐】 *Fox with nine tails*

第2シリーズほかに登場する妖怪・チーや、白山坊などがこれに当たる。チーは古来日本で命を落とした九尾の狐（おそらく玉藻前のこと）の弟という設定で、妖怪たちを次々と反物にし、その反物を着た人間を操ることで世界を征服しようと企んだ。第3シリーズの劇場版「最強妖怪軍団」にも登場。白山坊は古狐の妖怪で、窮地に陥った人間を助けて恩を売り、その弱みに付け込み娘が成長したら嫁として差し出すよう取引をしてくる妖怪として描かれている。



本来の姿は謡曲『殺生石』や『絵本三国妖婦伝』などで知られる悪狐である。尻尾が九つ生えた狐の妖怪であり、有名な白面金毛九尾の狐はその代表格。狐の妖怪の中で最高位の存在であるとされる。インドでは班足太子の妃華陽婦人に、中国の殷では紂王の妃妲己、周では幽王の寵姫褒姒となった。それぞれの国で美貌と悪知恵を働かせ王の心を奪い、悪政に走らせて国を滅ぼしたというのが伝承である。

平安朝の日本においては玉藻前という女官に化身し宮中に入り込み、鳥羽天皇を誑し込むが、陰陽師の安倍泰成に正体を暴かれ、那須原（栃木県）に逃れる。そこで追い討ちの武士に退治されるが、体は朽ちてもすさまじい怨念は残って石と化す。その石はすさまじい毒気を吐き、近づくものはその毒気で命を落とすという。これが殺生石伝説である。この「玉藻前」に関する伝説が江戸時代に歌舞伎など娯楽の題材としてよく取り上げられ、結果日本で最も有名な狐の妖怪としてその名を残すことになった。

●第2シリーズ2話「妖怪反物」ほか

さいのかわら【賽の河原】 *Sai-no-kawara*

第1シリーズの53話にて、妖怪大統領をそそのかし、鬼太郎の命を狙うキャラクターとして、賽の河原に棲む妖怪「葬頭河婆」が登場している。別名奪衣婆といい、鬼太郎を倒した暁には、地上で暮らそうと思っているようだ。

「一つ積んでは母のため～　二つ積んでは父のため～」と、三途川の河原で石を積む子供たち。"親より早く死ぬ"という大罪を犯した子供が、その罪を償うべく石を積み続ける場所が賽の河原だ。いくら積もうとも終わりはなく、積み上げたかと思うと大鬼が来てそれを壊す。転じて無駄な努力そのものを指すこともある。賽の神（道祖神）信仰と地蔵信仰の中世以来の習合とみられ、仏典には記載がない。また先述の「葬頭河婆」は三途川の岸の衣領樹の下にいる鬼で、亡者から衣類を剥ぎ取る役目を持つ。奪った衣は樹の上にいる懸衣翁が衣領樹の枝にかけ、生前の罪の重さを量るという。三途の川については項目「三途川」参照。

●第1シリーズ53話「妖怪大統領」ほか

さどがしま【佐渡島】 *Sado Island*

第1シリーズにおける世界妖怪ラリーの舞台であると同時に、優勝者に与えられる賞品でもある。バックベアード、狼男、フランケンシュタイン、魔女、水虎、グレムリンなど世界一流の妖怪たちがねずみ男の主宰する「世界妖怪ラリー」に集まったのは、日本進出への拠点という意味合い以上に、俗に言う"佐渡の金山"に惹かれたという設定になっている。

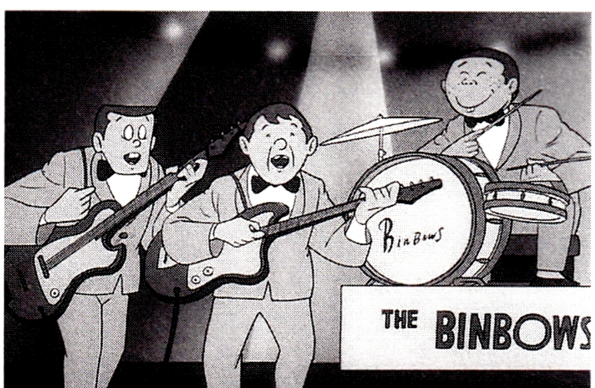
現存する佐渡島は、新潟県沖の日本海上にある島であり、全島が新潟県佐渡市に属する。人口は7万人前後の大きな島であり、本州など4島を除いての面積は第4位である。佐渡の沖を対馬海流が流れている影響で、気温は本土に比べて1～2度高くて積雪も少なく、夏は涼しいという生活しやすい気候。エの字に似た特徴的な形の島であり、北西・南東に山地が存在し、その間に国中平野が広がる。

●第1シリーズ54話「妖怪ラリー」

ザ・ビンボーズ【ザ・ビンボーズ】 *The Binbos*

ジャリー・トラガリーをリーダーとするグループサウンズ。メンバーは3人。第1シリーズの「さら小僧」の回で、さら小僧の「ぺったらぺたらこ」の歌を盗作し大ヒットさせるが、さら小僧の怒りに触れ、隠れ里に誘拐される。

第1シリーズが放映されていた68年は、まさにGSブーム最高潮の時期である。前年の「ザ・ヒットパレード」という番組が引き金になり、全国規模で突如として沸き起こった日本音楽史上最大の謎とも言われるGSブーム。ジャッキー吉川とブルーコメッツ、ザ・スパイダース、ザ・テンプスターズ、ザ・ワイルドワンズなどのバンドが次々と登場。なかでもその象徴といわれるのが、沢田研二率いる「ザ・タイガース」



だろう。同グループは67年2月に『僕のマリー』でデビュー。『モナリザの微笑』『君だけに愛を』などのヒット曲を生み、GSブームの最盛期を支えた。しかし71年の日本武道館コンサートを最後に解散。まさにGSブームの申し子である。

GSが日本の音楽市場の第一線に突然現れ、また忽然と消えてからすでに35年近く。それでもザ・ワイルドワンズの『思い出の渚』をはじめ、幾つかの名曲は色褪せず残っている。アニメ内の「ザ・ビンボーズ」も、この世相を反映しての登場だったのだろう。

●第1シリーズ34話「さら小僧」

さらまんどらのこな【サラマンドラの粉】*Powder of Salamanders*

第1シリーズ「大海獣」に登場。科学者の山田修一とその父が研究していた、妖怪封じの効き目があるという粉。鬼太郎は負傷したところに山田からこの粉をかけられ、絶体絶命のピンチに陥った。

サラマンドラとはサラマンダーのことで、四大精霊のうち火の精霊を指し示す。手に乗るサイズの小さなトカゲに似た外見をしており、熱く燃え盛る炎の中や溶岩の中に棲んでいる。そしてこのサラマンダーだが、実は現実世界にも存在する。ファイアーサラマンダーと呼ばれるイモリがそうであり、昔は火の中に住んでいて猛毒を持ち、これが渡った川の水を飲むと死んでしまうと思われていた。ヨーロッパ大陸や地中海周辺の地域に分布しており、有毒と思われても仕方がないグロテスクな色合いを持つ亜種である。該当する和訳がなく、日本においてもファイアーサラマンダーと呼ばれることが多い。作品中に詳細設定は出てこないが、このファイアーサラマンダーを炒るなどして粉にしたものが、妖怪封じの効き目を持つというサラマンドラの粉であると思われる。

●第1シリーズ5話「大海獣」（前編）

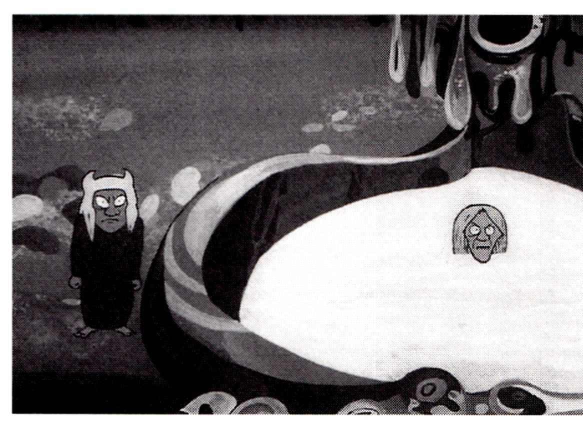
さんずのかわ【三途川】*Sanzu-no-kawa*

第1シリーズにて登場。三途川の河原である〝賽の河原〟に棲む葬頭河婆が登場し、鬼太郎の命を狙う。

この世（現世）とあの世（彼岸）を分ける境目にあるとされる川。オリジナルの仏教の教義にはなく、中国が発祥とされる。飛鳥時代に日本に伝わった際には、罪の重さに応じて〝橋で渡る〟〝浅瀬を渡る〟〝難所を渡る〟の三つの渡河方法があったことが、三途川の名前の由来とされる。最も中世以降は、全員が渡し舟によって渡るという考え方にシフトされ、渡し賃も一律六文とされた。

この三途川信仰にちなんだ名前の河川は、群馬県・千葉県・青森県など全国各所にある。また青森県正津川（三途川の別名）のそばにある宇曽利山湖周辺を霊場恐山といい、賽の河原と呼ばれるエリアにはご丁寧に石積みもされているそうだ。

●第1シリーズ53話「妖怪大統領」ほか



じごく【地獄】*Hell*

第1シリーズの20話など、幾度となく作品内で登場。午前0時に、墓場の停留所にバスが来て行くことができるという。フランケンシュタインなどの妖怪が多数いる。霊界テレビでその様子が見える。妖怪自動車で行き来できる。地獄の鬼たちは、死んだ人間の魂が来ないと体力がありあまり、はけ口を無くして暴れる。三途川は干上がる、など数多くの描写がされている。

地獄とは仏教の世界では、輪廻転生を司る六道（地獄道・餓鬼道・阿修羅道・畜生道・人間道・天道）の最下層。生前罪を犯した者が、死後責め苦を受けるところを指す。支配者は「初めて死んだ人間」といわれ絶対の権力を持つ閻魔大王であり、その配下にさまざまな「鬼」がいて亡者を苦しめる。

キリスト教の世界では、神の言葉に背いた者や、罪を悔い改めないものが永遠の責め苦を受けるとされる世界。こちらはHELLと表記され「隠された」（または「暗い穴」）を意味する古英語ｈｅｌに由来すると言われる。地獄を支配する魔王が断罪者で、その配下であるデーモンたちが亡者の魂をもてあそぶとされる。

東洋・西洋でその言葉上の表現は微妙に異なるが、宗教上・倫理上の位置付けに大きな差異はないといえよう。

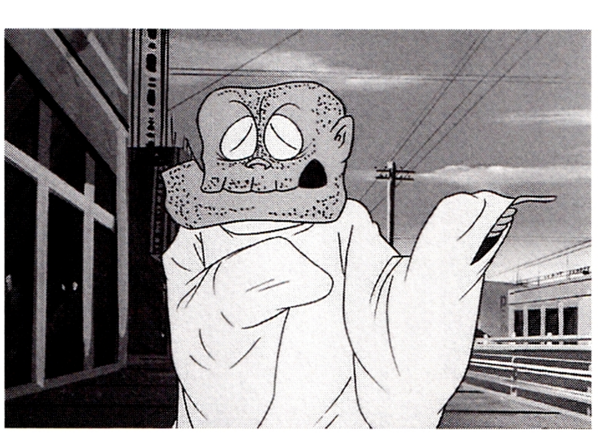
●第1シリーズ20話「猫娘とねずみ男」ほか

しにがみ【死神】*God of Death*

第2シリーズ以降頻繁に登場し、鬼太郎の命を狙うライバルとも言える存在。顎が突き出たガイコツを思わせる独特の風貌。自らの仕事（人間の生死を司る）に嫌気が差し地上の王を狙ったり、ノルマに苦しめられたりとかなり人間的に、ときにコミカルに描かれている。

もともとは人間に死を招く悪霊、または神を指す。日本において死神という呼び名はあまり一般的ではないが『絵本百物語　桃山人夜話』では、人を死にたくなるように仕向ける憑き物のような存在として描かれている。西欧において死神は生命と死を司る神で、冥府においては魂の管理者とされる。巨大な鎌を持ち、黒装束の髑髏の姿であることが多い。タロットカードの大アルカナで13番目に位置する。エジプト神話におけるアヌビスやオシリス、ギリシャ神話のタナトス、冥府の神ハデス、ローマ神話のプルートなどが有名。日本においては神話の黄泉大神（イザナミ）が挙げられる。死神をモチーフにした創作物は数多く、なかでも近作では『DEATH NOTE』（原作：大場つぐみ・画：小畑健（週刊少年ジャンプ））が死神ブームといわれるムーヴメントを巻き起こしたことは記憶に新しい。

●第2シリーズ30話「死神」ほか



せっしょうせき【殺生石】*Sesshouseki*

第2シリーズ第2話に登場する妖

怪・チーの姉である九尾の狐（おそらく玉藻前のこと）が封じられたとされる石のこと。同話のラストに入ったナレーションによると、「いまから八百年前のことであるが、どこからともなく一匹の妖狐が出現した。それがチー妖怪の姉にあたる九尾の狐と呼ばれる妖怪である。悪事の限りをつくしたので、三浦介義純が矢を射て石にした。それが殺生石のいわれである。今、同じところに別の殺生石が出来た。チー妖怪の殺生石である」ということだ。つまりチー妖怪を鉛の箱に入れて封じた石も、殺生石と呼ばれているようである。

栃木県那須湯本温泉付近に山肌がむき出しで草木の絶えた谷あいがあり、ここに殺生石は鎮座している。周辺からは、硫化水素や亜硫酸ガス、砒素などの有毒ガスが噴出しており、昔ほどではないが今でも異臭のするガスが吹き出している。昔の人はこの場所で人や動物が死亡することを、石に宿る霊の仕業と考え、石を特定して「殺生石」と名付けた。さらにはその石に、全身を金色の毛で覆い9本の尾をもつという「白面金毛九尾の狐」の物語を添加したことにより、殺生石は恐怖の石として世に広く知られることとなった（伝承の詳細は「九尾の狐」の項を参照）。松尾芭蕉が殺生石を目の当たりにしたときの「奥の細道」の中の記載は「蜂蝶のたぐひ真砂の色の見えぬほどかさなり死す」というものである。おそらくは誇張して書かれたものだろうが、その人里はなれた谷あいのおどろおどろしい様子が良く描写されている。

●第2シリーズ2話「妖怪反物」

せんにん【仙人】Sennin

第1シリーズの猫仙人、ガマ仙人、第2シリーズの井戸仙人など数多く登場。鬼太郎たちの仲間として活躍するものもいれば、猫仙人のように敵として現れるものもいる。

高い山の上や仙島、天上界などで暮らし、仙術を身につけ不老不死を得た人間を指す。有名な斉天大聖孫悟空のように、妖怪でありながら修行により仙術を身につけた妖仙もある。中国の名軍師太公望や、蓬莱島を目指して出向した徐福など、仙人になるための修行中の者を特に道士や方士とも呼ぶ。

●第1シリーズ17話「猫仙人」ほか

た

てんぐ【天狗】Tengu

悪魔ベリアルを封じていたカラス天狗、妖怪大裁判のときの裁判長を務める大天狗、チー妖怪の部下として鬼太郎と戦う天狗、峠で事故を起こす妖怪・雨降り天狗など数多く登場。

天狗は基本的に山の怪異であり、日本各地にその言い伝えは残っている。主に山に棲み、神通力を持ってさまざまな怪異を引き起こす存在だった。国内にての初見は『日本書紀』で、634年、怪音を立てて空を飛来するものを「流星にあらず、これ天狗アマキツネなり」と呼んだという記述がある。鼻が高く赤ら顔、修験道の修行者のような姿で一本歯の高下駄を履き、葉団扇を持って自在に空を飛ぶというような現在の姿に近づいたのは中世以降のことで、これには天孫降臨の際に道先案内を務めた猿田彦大神の姿が根底にあるといわれる。また「神」としての天狗は、修験道の影響もあり名前を付けられているものも多い。

愛宕山の太郎坊、鞍馬山の僧正坊、比良山の次郎坊の他、比叡山法性坊、英彦山豊前坊、富士山太郎坊、白峰山相模坊、鞍馬山の鬼一法眼（鬼一法目）が八天狗として知られており、山神としての畏怖の対象となっているが、神道の改祖・平田篤胤の言葉では「現世で知識のみを追い求め、精神的な修行を怠ったものが輪廻から見捨てられて『天狗道』に落ちた」と表現されている。

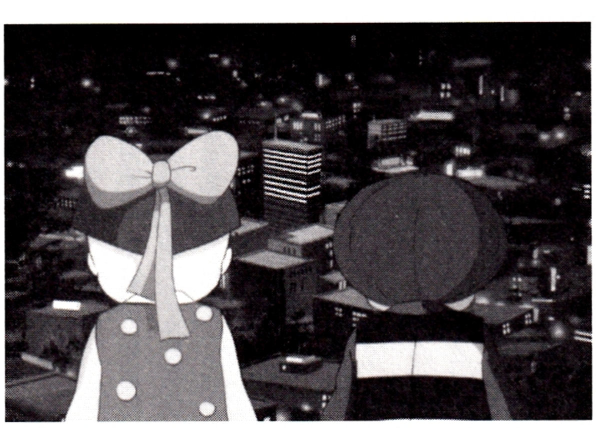
●第1シリーズ30話「悪魔ベリアル」ほか

とうきょうたわー【東京タワー】Tokyo Tower

第2シリーズで登場。マンモスフラワーの回で、きれいになった東京を鬼太郎とねこ娘が二人で眺めていたところ。

1958年にオープンし、新しい東京のシンボルとなったこの建物の全長は333m。悪魔の数字である666を2つに割ることで魔よけの意味を込めているとの噂もあったが、完全な創作であろう。第1シーズンの放送が開始された1968年に、高さ223mの特別展望台が一般開放された（それまでは倉庫のような形で使われていた）のであり、おそらく二人が見ていたのはその位置からかと思われる。

●第2シリーズ8話「マンモスフラワー」



な

なまはげ【なまはげ】Namahage

第1シーズンに登場した、面使いの妖怪。なまはげが作った面を被ると、誰でもその面そっくりの顔になってしまう。六平に化けて、東大助、鬼太郎たちを懲らしめようとする。村人の面をたくさん持っていた。

このなまはげのモチーフは、もちろん秋田県・男鹿半島に伝わる民族行事の「なまはげ」である。鬼の面、ケラミノ、ハバキを身につけ、大きな出刃包丁を持ったなまはげが家を訪れ、荒々しい声を発しながら怠け者、子供や初嫁を探して暴れまわる。

このなまはげの由来は中国・漢の武帝が率いた鬼であるという説と、漂流民のように男鹿半島に辿り着いた異国民であるという説、さらに男鹿にある修験道の霊場・真山本山にて修験者のすさまじい形相を見まがえたとする説の3通りがある。

●第1シーズン63話「なまはげ」

ねこまた【猫又】Nekomata

第2シリーズでは〝ポロゴン島〟の言い伝えで、50年も生きた猫は、妖力を持つ化け物「猫又」として恐れられるという伝承が紹介されている。登場してきた猫又・ジータは、主人の娘、エリーメを守りたいという、クールな顔に似合わぬ〝忠義ネコ〟だ。

猫又（猫股）は、山奥に住み人を食らうとされる猫の怪異であり、尻尾が二股になるまで年老いた猫のことを指す。一説には10歳以上、あるいは40歳以上と言われ、人語を解し話す。黒猫の猫又が一番強力であるとも言われる。修学を積んで、無限

に生きられるようになったものもいるという。

またその歴史は古く、藤原定家著『明月記』には、天福元年（1233年）8月2日の条で、南都に猫股というバケモノが出て一夜に7、8人食らったとの記述がある。また、吉田兼好『徒然草』第89段に「『奥山に、猫またといふものありて、人を食ふなる』と人の言ひけるに……」という有名な記述がある。

飼い猫が古くなって猫又となることもあり、長い年月にわたって猫を飼うものではないという俗信も生まれている。一説によると猫又の起源は、中国の猫の妖怪「仙狸」であるとも言われる。

●第2シリーズ7話「猫又」



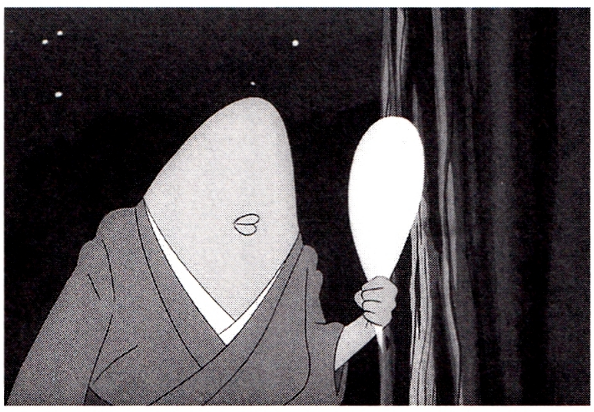
のっぺらぼう【のっぺらぼう】

Nopperabo

第1シリーズに登場。人魂を捕まえて、天ぷらやスープにして人に振舞うことで、その人の顔を奪う妖怪。ネズミ男、鬼太郎も毒牙にかかり顔を奪われてしまう。

ずんべら坊、ぬっぺっぽうともいわれる。顔のパーツが一切ない、卵のような顔の妖怪。おなじみののっぺらぼうの逸話は、小泉八雲『怪談』の中に登場する「むじな」の話だろう。ある男が東京赤坂の紀国坂で目鼻口のない女に出会い、驚き逃げて蕎麦屋の屋台の主人にそのことを話すと、蕎麦屋の主人も卵のような顔だったという話である。これは「再度の怪」といわれる怪談における典型パターンの一つである。タイトルの通り、むじなど狐狸が化けたものと思われていたことが多いようだ。

●第1シリーズ45話「のっぺらぼう」ほか



は

はっぴゃくやだぬき【八百八狸】

Happyakuya-danuki

第1シリーズに登場。刑部狸をボスとする八百八匹の狸の妖怪。幹部として団三郎狸、お富狸、玄蕃狸などがいる。二百五十年前、天海上人によって四国山中に封印されたが、ダム工事の際に護符を剥がされ、現代に復活。一度は人間の手から日本の政権を奪うなど、強烈な個性と妖力でインパクトを残した妖怪たちである。

元となるのはストーリー中の設定と同じく四国・松山に伝わる日本三大狸話の一つ『松山騒動八百八狸物語』。江戸時代の享保年間に起こった大飢饉の際のお家騒動をモチーフにした物語に、狸や妖怪を登場させて怪談仕立てにしたものだ。松山城の城内に住み、八百八家の眷族を従える狸の総大将「隠神刑部狸」は、松山藩の家老が企てた横領計画を阻止しようと幻術を試みるが失敗。逆にお家騒動を起こしたとして封じ込められてしまうというのが大まかな筋だ。本当は可愛そうな狸だったのですね。地元では「八百八狸復権プロジェクト」が動いているとか。

●第1シリーズ21・22話「妖怪獣」（前・後編）

びしゃもんてん【毘沙門天】

Vaisravanna

第1シリーズにて封じ込められた強力妖怪・天邪鬼。その岩の上には毘沙門天が祭られたという。

戦の神として名高く、戦国武将の上杉謙信が守護神として祭ったことでも有名な毘沙門天。仏教の護法神である天部の一つであり、別名を多聞天という。元来はインド神話の神・クベーラ（金毘羅）が仏教に取り込まれたものであり、四天王の一つとして須弥山の北方を守るものである。勝負事の神とされ、七福神の一人として民衆の信仰も集めてきた。また同じ七福神の吉祥天の夫でもある。中国においては西遊記の托塔李天王、封神演義の李靖も毘沙門天のことを現しているとされる。

●第1シリーズ47話「天邪鬼」

ふらんけんしゅたいん【フランケンシュタイン】

Frankenstein

第1シリーズから西洋妖怪が終結し日本を襲ってくるプロット（「妖怪ラリー」「おぼろぐるま」など）で登場。「妖怪ラリー」では水虎のガソリンでスリップしてレースを中断し、バックベアードたちと結託して鬼太郎を襲う。

誤解されがちだが、フランケンシュタインとは人造人間のことではなく、それを作った科学者・ヴィクター・フランケンシュタインの姓である。19世紀初頭にメアリー・シェリーが匿名で出版した小説『フランケンシュタイン、すなわち現代のプロメシュース』に起源する。映画やマンガに登場するフランケンシュタインは、正確にはフランケンシュタインの創造物（creature）であり、海外ではこの名称が一般的だ。日本国内ではフランケンシュタインの名前が一人歩きしており、このフランケンシュタインと吸血鬼、狼男の3種で世界三大怪物とする向きもある。

この人造人間は高い知性と強い身体的特徴を持ちながら、突出してその容貌が醜かった。その醜さに悩む彼は、創造主であるフランケンシュタイン博士に自らの伴侶となる異性の人造人間を作るよう要請するが、人造人間の増殖を恐れる博士から拒否される。そして自らの存在理由に悩む彼は、造物主である博士を憎むようになり、その肉親を殺して博士が死んだ後、北極の海に消える。俗に言う「フランケンシュタイン・コ



ンプレックス」によると人造人間はその造物主を殺すことを第一の存在理由（レゾン・テートル）とするかのように思えるが、その語源である本作では人造人間は博士を直接殺してはいない。

●第1シリーズ51話「妖怪ラリー」ほか

ま

まじょ【魔女】Witch

第1シリーズより頻繁に登場。「妖怪大戦争」では先陣を切って一反もめんと闘い、その命を奪っている。また「妖怪ラリー」では、快調に飛ばしていたかと思うと実はホウキで宙に浮いて進んでいたり、事故に遭いドロップアウトしたかと思いきやホウキで復帰したりと、したたかな立ち回りを見せる。「魔女人形」の回で鬼太郎に負け、魔王に魔力を奪われる。

古石器時代の洞窟壁画にも残るほど、魔女の歴史は古い。その起源はギリシャ時代の翼を持つ小悪魔・ヘンプーサとされている。魔女たちは自然の霊的存在と結びつき、呪術や魔女術によってさまざまな現象を起こす。西洋の童話などに頻繁に登場し、鉤鼻の老婆が黒い三角帽・黒マント姿で、大鍋でトカゲなどを煮ているというグロテスクな描写が多いのは、15世紀半ばの「魔女裁判」から来た悪のイメージの影響が強い。1484年の法王イノケンティウス八世は、魔術や呪術を禁圧する勅書を発行。これが魔女裁判の始まりといわれている。実際に魔女と名指しされた人たちの多くは、化学者や民間療法の担い手、正規の医者ではないが医者の代行を務めた助産師のような人たちが多かったといわれる。

●第1シリーズ10話「妖怪大戦争」ほか

みずきしげる【水木しげる】Shigeru Mizuki

いわずと知れた原作者。氏本人、もしくは多少もじったキャラクターが、作品内でも随所で登場。

本名は武良茂（むら・しげる）。1922年、鳥取県の境港市（現在）に生まれる。「妖怪」に強い興味を持った最初のキッカケは、氏の家のお手伝いさんだった「のんのんばあ」によるもの（そのエピソードは筑摩書房『のんのんばあとオレ』に詳しい）。1942年に徴兵され、ラバウルへ出兵。爆撃により左手を失う。帰国後に創作活動を開始。当時人気があった紙芝居の『墓場奇太郎』を、作者本人の了承を得た上でリメイクし生み出されたのが、貸本時代の『墓場鬼太郎』である。以後「悪魔くん」「河童の三平」など、妖怪関連、および戦記物などの漫画を続々と発表。次々とアニメーション化され、現在まで多くのファンを魅了し続けている。また、「妖怪研究家」として日本全国をはじめ世界各国を訪問し、「日本妖怪大全」「妖怪画談」「図説日本妖怪大全集」「水木しげるの妖怪図鑑」などの書籍としてまとめるなど、精力的に妖怪にまつわる資料収集と創作に励み続けている。東京都調布市在住。

●第1シリーズ58話「おぼろぐるま」ほか

や

やたのかがみ【ヤタの鏡】Mirror of Yata

第2シリーズに登場した、最初に覗き込んだものを生け贄にする鏡。神通力をもち、髪さまに利用された。

皇室に代々伝わる「三種の神器」の一つ。八咫鏡（ヤタノカガミ）、草薙の剣（クサナギノツルギ）、八尺瓊勾玉（ヤサカニノマガタマ）を合わせて三種の神器という。現在の皇室典範においても、皇位継承に際してこの「三種の神器」も継承する旨が明記されている。

ヤタの鏡は神話のなかで天照大神（アマテラスオオミカミ）の岩戸隠れのときに、大神を呼び戻すために使われたとされる鏡である。伊勢神宮に安置されているが、この鏡は元来のものではない。伊勢に移る前、丹波の元社地が火災に遭いヤタの鏡が変形したそうで、そのため2面の鏡を作った。このうちの1面を奉じたものが、伊勢神宮のヤタの鏡である。

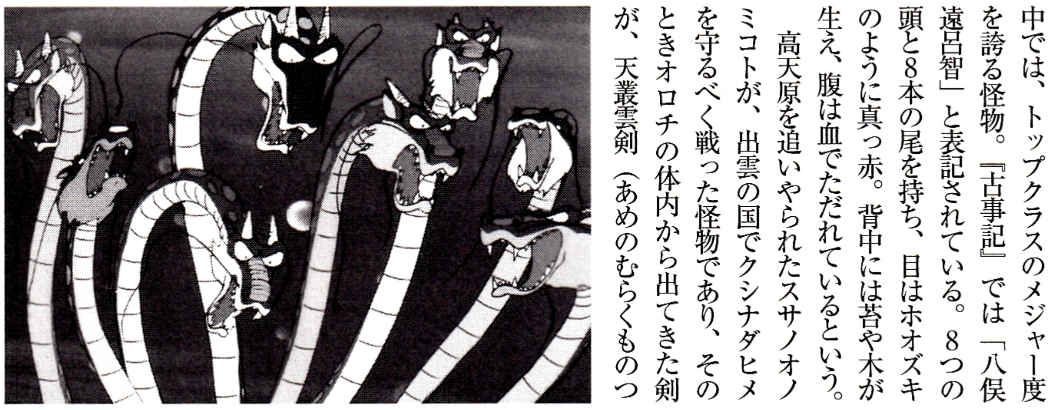
●第2シリーズ9話「髪さま」

やまたのおろち【八岐大蛇】Yamata-no-Orochi

第2シリーズに登場。呼子が持つ解放石の中に棲む、8つの頭を持つ巨大な竜のような妖怪。解放石に落ちてきた者を襲う。鋭い牙で襲いかかり、鬼太郎を丸呑みにした。ちなみに作品内では、それぞれの頭はカラフル。

日本神話に出てくる伝説の生物の中では、トップクラスのメジャー度を誇る怪物。『古事記』では「八俣遠呂智」と表記されている。8つの頭と8本の尾を持ち、目はホオズキのように真っ赤。背中には苔や木が生え、腹は血でただれているという。

高天原を追いやられたスサノオノミコトが、出雲の国でクシナダヒメを守るべく戦った怪物であり、そのときオロチの体内から出てきた剣が、天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ）、別名草薙剣（くさなぎのつるぎ）である。



●第2シリーズ12話「やまたのおろち」

ゆうれい【幽霊】Yurei

ゲゲゲの鬼太郎は「幽霊族」最後の生き残りである。

幽霊とは、人が死んだ後に魂のみが残り、人や物、土地などに憑いているものとされている。有名な『東海道四谷怪談』のお岩さんに代表されるように、強い怨念や心残り、未練が高じて成仏できなかったものと一般には考えられている。またこのお岩さんは、同様な過去を持つ妖怪として井戸の中に棲む「皿数え」なる妖怪もいるなど、幽霊と妖怪、両者はまるで異なるものながら共通点も多数見られる。幽霊に関する文献・創作物は江戸時代の書物・戯曲に多く見られ、先述の『東海道四谷怪談』のほかにも『牡丹灯篭』などの名作が生まれた。幽霊の種類としては、土地について動けない地縛霊、自由に動きが取れる浮遊霊、強い怨念が姿となって現れる怨霊などがある。

●全編に渡って活躍

ゆめのしま【夢の島】Island of dreams

第2シーズンで登場。ゴミが異常に増えたこのエリアに、巨大なあかなめが生まれる。あかなめは口から火炎ガスを放射するなど都内を破壊

しながら、すべてをゴミの山に変えていった。

夢の島は東京都江東区にある人口の島であり、第14号埋立地のこと。埋め立て当時は飛行場や遊園地などが計画され、マスコミが「夢の島」と呼び始めたのが定着したもの。皮肉なことに1950年代より都内のゴミ急増を受けて、夢の島はゴミ処分場と決定された。そこからハエの大量発生などの社会問題を経て1967年までこの地へのゴミの埋め立ては続いた。上記のアニメ作品は1972年4月の放送であり、ゴミの埋め立ては終わっていたが、夢の島＝ゴミの島のイメージは未だ根強く残っていた時代である。社会背景を反映した作品が多い第2シーズンの、典型的なプロットといえるだろう。

●第2シーズン28話「あかなめ」

ようかい【妖怪】Youkai

全編に渡って登場。これがいなければ始まらない。

妖怪とは、物理的・化学的には人間に理解できない奇怪で異常な現象を起こすといわれる、日本の民間伝承上の存在、もしくは現象そのものを指す。民間伝承としての学術的な検証も含め、数多くの研究・もしくは創作物の拠り所として現在でも多くの人々の信仰、研究、及び多くのクリエイターたちの創作対象として存在している。

主な妖怪研究家としては、妖怪博士といわれるほど詳しくなりながら、自らはその存在に否定的だった井上円了、妖怪を生命現象そのもの、生と死のワンセットで考えていた南方熊楠、民俗学の大家・柳田国男などが挙げられる。また少し趣を異にするが、研究という一面も持ちながら、創作対象としての妖怪を突き詰めていった存在に江戸時代の絵師・鳥山石燕、小説家の上田秋成、英文学者兼小説家の小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）などが挙げられる。現代においては水木しげる氏を筆頭に、京極夏彦氏、荒俣宏氏などが妖怪研究家・クリエイターとして第一線で活躍中である。

さらに、現代における創作妖怪は「都市伝説」と名を変え、「トイレの花子さん」や「口裂け女」「人面魚」などマスコミを巻き込んでのブームを展開しているといえる。

●全編にわたって活躍

ようかいじてん【妖怪事典】Youkai jiten

第1・第2シリーズにおいて、妖花のことを調べるときなど随所に登場。妖怪医学事典、猫族妖怪事典などさまざまなバリエーションがあるらしい。

妖怪に関することは何でも掲載されている事典というのは、現実世界には存在しない。しかし、多くの妖怪研究家たちが残した画集、伝承集、事典などを参考にすれば、相当な伝承が網羅されているはずだ。以下に、一度は参照すべき資料を羅列する。江戸時代の本もあり原本を手に入れることは不可能なものもあるが、写本も多く出ているのでその全容を把握することは可能である。

■鳥山石燕『画図百鬼夜行』
■小泉八雲『怪談』
■柳田国男『遠野物語』
■水木しげる『〈図説〉日本妖怪大全』
■水木しげる×村上健司『日本妖怪大事典』
■京極夏彦『巷説百物語』

●第1シリーズ32話「妖花」ほか

ようせい【妖精】Elf

第1シリーズに花の妖精・花子さんが登場。そもそも日本において妖怪といわれている存在は、西洋において妖精と表現されるものも珍しくない。

妖精のはしりは、ケルト民族の民間伝承にあるとされる。スウェーデン語で「エルフ（Elf）」と呼ばれ、姿形はごく小さく透き通って目ではとらえがたく、女王を中心に群れをなして生活している。善良なエルフは空中に棲み、草の上で踊ったり木の葉の間に座ったりする日本人的な「妖精」のイメージに近い。逆に邪悪なエルフは地下に棲み、人間を病気にかからせたり傷を負わせたりする。ゴブリン（小悪魔）と呼ばれる邪悪な精霊も、妖精の一種である。また、シェイクスピアの「真夏の世の夢」で有名になった妖精パックは、元来の意味は「悪魔・魔神・悪霊」だった。これがこの作品後には陽気でイタズラ好きの妖精というイメージが、定着してしまったものである。

●第1シリーズ44話「げた合戦」ほか



ら

れいかい【霊界】Reikai

第1シリーズ「見上げ入道」の際の〝霊界流し〟など、作品内の各所に登場。

一般に「霊界」といっても、宗教的立場や信仰によって意味するところは異なる。しかし主に死後に魂、もしくはそれに類するものが行き着く世界を指す場合と、現世において宗教・信仰的立場から論じられる「非物質世界・精神世界」（スピリチュアル・ワールド）のことを指す場合がある。現代の日本においては、前者の霊界の伝道師としては故・丹波哲郎氏が有名であり、後者に関しては江原浩之氏、美輪明宏氏が先んじていると思われるが、江原氏と美輪氏を引き合わせたのが実は故・丹波哲郎氏であったことはあまり知られていない。

肉体が死んだ後でも天国、地獄、浄土、黄泉など魂が行き着く先があるという考え方は、ほとんどの宗教にとって定義すべき基本的項目となっているといえよう。イタコの口寄せのように、霊界にいる霊と交信できるとする者もいる。

●第1シリーズ9話「見上げ入道」ほか

参考文献
○フレッド・ゲティングス著
『悪魔の辞典』（青土社）
○ロッセル・ホープ・ロビンズ著
『悪魔学大全』（青土社）
○ピーター・ヘイニング著
『世界霊界伝承事典』（柏書房）
○水木しげる著
『日本妖怪大全』（講談社）
○水木しげる画・村上健司編著
『日本妖怪大事典』（角川書店）
○鳥山石燕著
『画図百鬼夜行全画集』（角川書店）

ここにもいる
鬼太郎

鬼太郎スポットガイド

鬼太郎は水木しげる氏が作った漫画やアニメ上のキャラだが、そんな鬼太郎たちに会える場所がリアル世界にもある。鬼太郎マニアなら一度は訪ねてみたいご機嫌スポットだ。

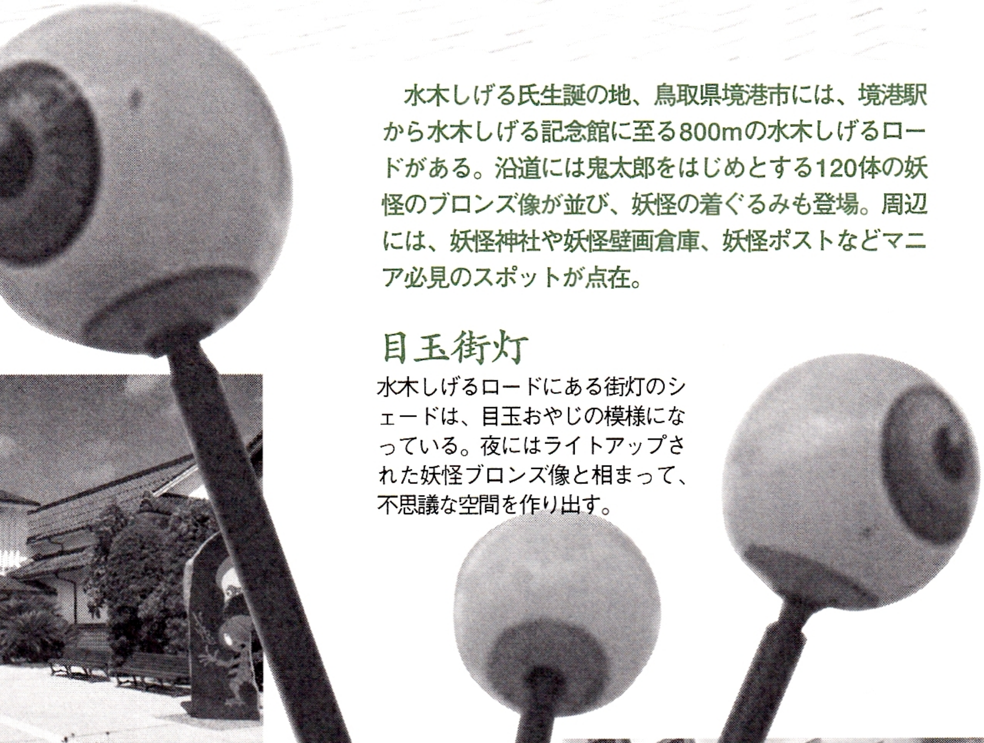
境港市 水木しげるロードほか



水木しげる氏生誕の地、鳥取県境港市には、境港駅から水木しげる記念館に至る800mの水木しげるロードがある。沿道には鬼太郎をはじめとする120体の妖怪のブロンズ像が並び、妖怪の着ぐるみも登場。周辺には、妖怪神社や妖怪壁画倉庫、妖怪ポストなどマニア必見のスポットが点在。

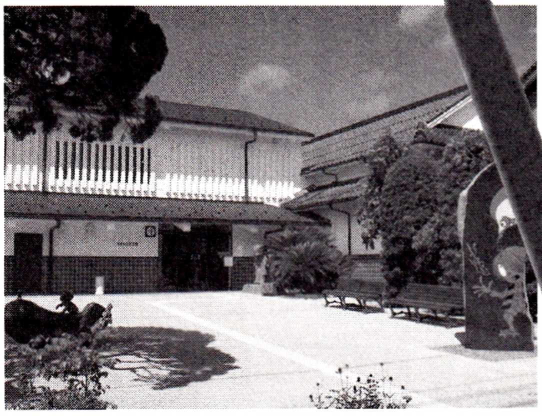
水木しげるロード

妖怪ブロンズ像120体がずらりと並ぶ、水木しげるロードは境港駅前から。鬼太郎焼き、妖怪パンなど、境港でしか買えないキャラクターグッズも。



目玉街灯

水木しげるロードにある街灯のシェードは、目玉おやじの模様になっている。夜にはライトアップされた妖怪ブロンズ像と相まって、不思議な空間を作り出す。



水木しげる記念館

2003年3月オープンした、水木しげる氏の世界を知るためのギャラリー。（入館料：大人700円など／営業時間：9:30〜17:00／火休）

鬼太郎列車



境港-米子間。鬼太郎列車ほか、ねずみ男、ねこ娘列車も。



妖怪神社

妖怪が住みやすい自然環境を守ることを祈願する神社。



鬼太郎フェリー

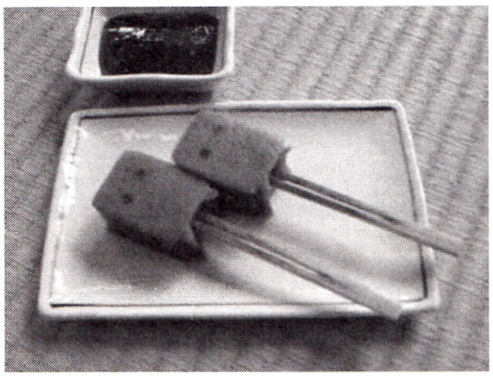
境港と隠岐の島をつなぐ旅客フェリー。全長99.35mの船体に縦横約8mの鬼太郎が描かれている。2006年1月就航。

「自然との共存」がテーマの鬼太郎茶屋。●東京都調布市深大寺元町5-12-8　営業時間：10:00～17:00　月休

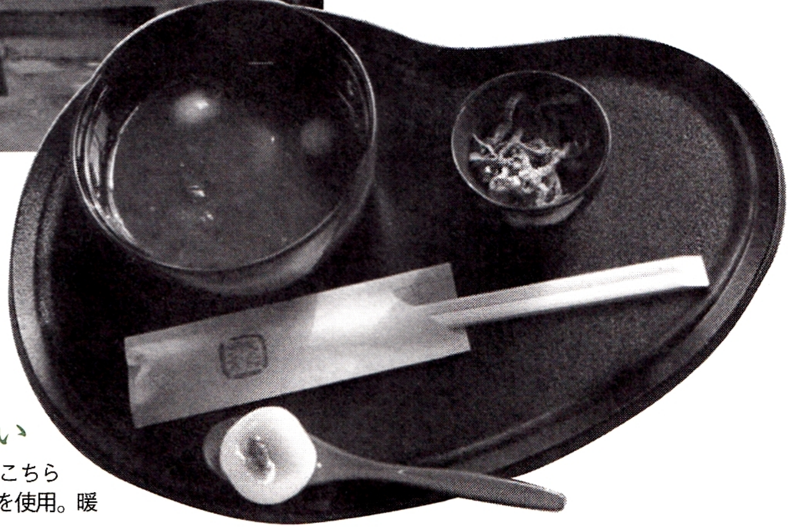


深大寺
鬼太郎茶屋

神代植物園で知られる東京・深大寺前にある鬼太郎をテーマにしたカフェ＆ショップ。調布に水木しげる氏の事務所があることからこの地に。1階で各種甘味類を楽しめ、2階には水木しげる氏ゆかりのギャラリーや境港市の案内も。茶屋の周囲には鬼太郎と仲間たちのモニュメントや、鬼太郎ハウスもある。



塗り壁のみそおでん
妖怪ぬりかべを模したみそおでん。鳥取県大山の有機こんにゃくと、境港産みその取り合わせが懐かしさを醸し出す。350円。



目玉おやじの栗ぜんざい
目玉おやじならぬ、目玉餅が入った、こちらの茶屋の一番人気。北海道産有機小豆を使用。暖かいのと冷たいのがある。500円。

富士急ハイランド
ゲゲゲの妖怪屋敷

富士急ハイランドの中にある、水木しげる氏が自ら監修した妖怪屋敷。約170mのウォークスルー方式で、ゲゲゲの鬼太郎の世界を堪能できる。さまざまな妖怪を見ることができ、おばけ屋敷のようにめちゃくちゃ怖くはないので、大人から子どもまで楽しむことができる。



鬼太郎屋敷の入場料は500円。●山梨県富士吉田市新西原5丁目6番1号／営業時間：平日9:00～17:00（土日祝～20:00）／入園料：大人1200円、子供600円。



境港妖怪検定受験レポート

笑いながら妖怪博士になりました!



2006年10月8日、連休の日曜日。鳥取県境港市で、第一回境港妖怪検定が実施された。合格すると、妖怪に関する知識アリ、ということで、境港妖怪博士初級に認定される。サンフランシスコ在住のおばけサイト運営者がこの妖怪検定にチャレンジした!

「おばけずかん」オーナー
望月美英子

ちょっぴり怖くてどこかほのぼのした、日本各地に伝わった様々な妖怪たち。妖怪を知ることは、日本の風土や文化を再確認する、ということです。「ゲゲゲの鬼太郎」作者の水木しげるさんの故郷、境港の妖怪検定は、検定を受けることで妖怪に対する知識を高め、合格した妖怪博士たちが妖怪の持つ楽しさや、妖怪が教えてくれる日本の良さを伝えるのが目的です。

主催の境港商工会議所と境港市観光協会としては、当初、この試験を主に地元の商店主たち向けにと考えていたそうです。ですから、１５０人のステージつき大会議室を確保して、この部屋が一杯に埋まればいいな〜、という程度の構えでした。

ところが妖怪パワーは強力で、あれよあれよという間に申込者数が４５０人を超えてしまいました。それも、全国からの申し込みが殺到。予想をはるかに上回る人気に、試験会場を次々増やして6ヶ所に分散しました。一番若い受験者は6歳、最長老は67歳。8割が県外の妖怪ファン。

午後1時すぎから試験の説明と試験前セレモニーがはじまりました。主催者たちのうれしさ半分、当惑半分の感じが手に取るようにわかります。マスコミサービスを忘れない観光協会会長さんのごあいさつは、ユルくて可愛らしく、普通ならおカタいはずの儀式の最中だというのに、受験生一同すっかりくつろいで、おなかを抱えて何度も笑いました。

妖怪の試験ですもの、こうでなくちゃあ! なんと、試験会場にコスプレして現れた人がいました。私はこういう事態はまったく想像していなかったので、目玉が飛び出るほど驚きました。妖怪パワーに関する私の認識は甘かった、としか言いようがありません。

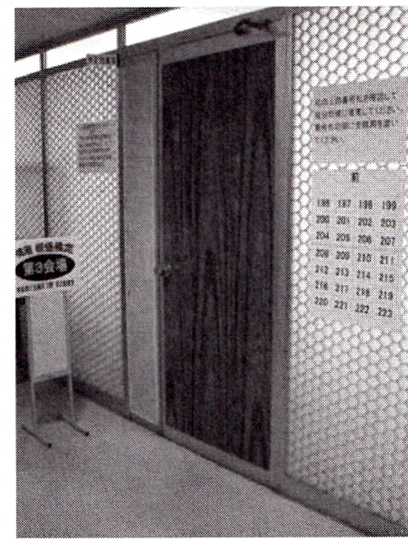
私の席は、猫娘の隣でした。「ごめんなさい、こんなのがいたら気が散っちゃいますよ



試験当日、お昼すぎの境港の商工会議所。奇妙にリラックスした受験生たち。みんな遠くから来ました。



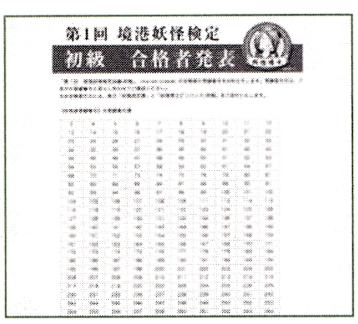
『水木しげるロードの妖怪たちII』（境港市観光協会発行、900円）が公式テキストです。約150ページ。この中から出題されます。



試験開始後25分の第3会場。閉まった扉のむこうから、緊張感が漂ってます。



www.youkai-kentei.com　妖怪検定のウェブサイトです。今回、これを見て鳥取へ旅立った人、多かったはず。



試験の一週間後にウェブで発表された合格者の番号。しかし、博士なのに、合格しても「初級」とは…。



壇上の着ぐるみ「鬼太郎」「ねずみ男」「猫娘」と、コスプレの「猫娘」「ちょうちん小僧」。

ね」と彼女は言ってくれましたが、いえいえ私は断然ラッキー、と思っています。だって、猫娘の隣の席に座った、って自慢話ができるじゃないですか。彼女、頭の黄色いリボンと猫メイクが似合って、とてもいい感じでした。

地元テレビ局や新聞社など、会場には報道関係者がかなり来ていました。取材一本やりの人々の中、K通信の記者氏は、唯一ほんとに勉強していて、一般の人に混じって受験しました。席が近かったので、横目で見ちゃったのですが、彼のテキストは、マーカーでピンクに染まっていました。こういう人、すごく好きです。

気になる試験内容と難易度についてですが、試験問題は全50問。テキスト全体から、満遍なく出題されました。試験の形式は、ほとんどが三択です。登場した妖怪は、たんころりん・子泣きじじい・枕返し・雷獣・大かむろ・濡れ女・キジムナーなど。初級、と銘打っているだけのことはあり、水木しげるロードを3回も歩いてスタンプラリーをやれば、半分ぐらいは答えられそうな感じですが、残りはちゃんとテキストを読まなければわかりません。合格ラインは70％だそうですから、そのつもりで時間をとって事前準備をする必要があります。

問題は、たとえばこんな風です（試験問題持ち出し禁止だったので、おぼろげな記憶から書いています）。

子泣きじじいは人に抱きつくと体重が重くなり、相手を動けなくしてしまいますが、そのときの体重はどれくらいでしょう?

ア）五十貫　イ）百貫　ウ）五百貫

これは妖怪物理学、ですかね。正解は五十貫です。200キロ弱。

境港市に関する問題も出ました。たとえば、こんな感じ。

境港は、90年代に漁獲高日本一だった年が連続で何年かありました。何年連続だったでしょう?

ア）3年　イ）5年　ウ）8年

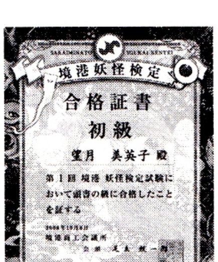
正解は、5年。

試験時間は制限1時間なのですが、開始後15分から早くも終わって退場する人続出。私も25分くらいで出ました。会場の外で、わからなかった問題の答えを友人同士確認しては、喜んだり悔しがったりする受験者たち。それにまじって、家族で受験したらしい小学生が、自信ありげに「ぼくは妖怪にはくわしい」と言っているのを小耳にはさみました。小学生のうちからすでに博士確実とは。こんな子がたくさんいれば、日本の妖怪道は先々も安心に違いありません。

合格発表は、試験日から一週間後。合格者名は、インターネットで発表され、認定書と妖怪博士ピンバッチが受験者に郵送されるほか、水木しげる記念館にも名前が貼り出されました。私は試験の翌日に米国に帰国してしまいましたが、めでたく合格。自分の名前が貼り出されているのを見に、また境港へ行きたくなりました。

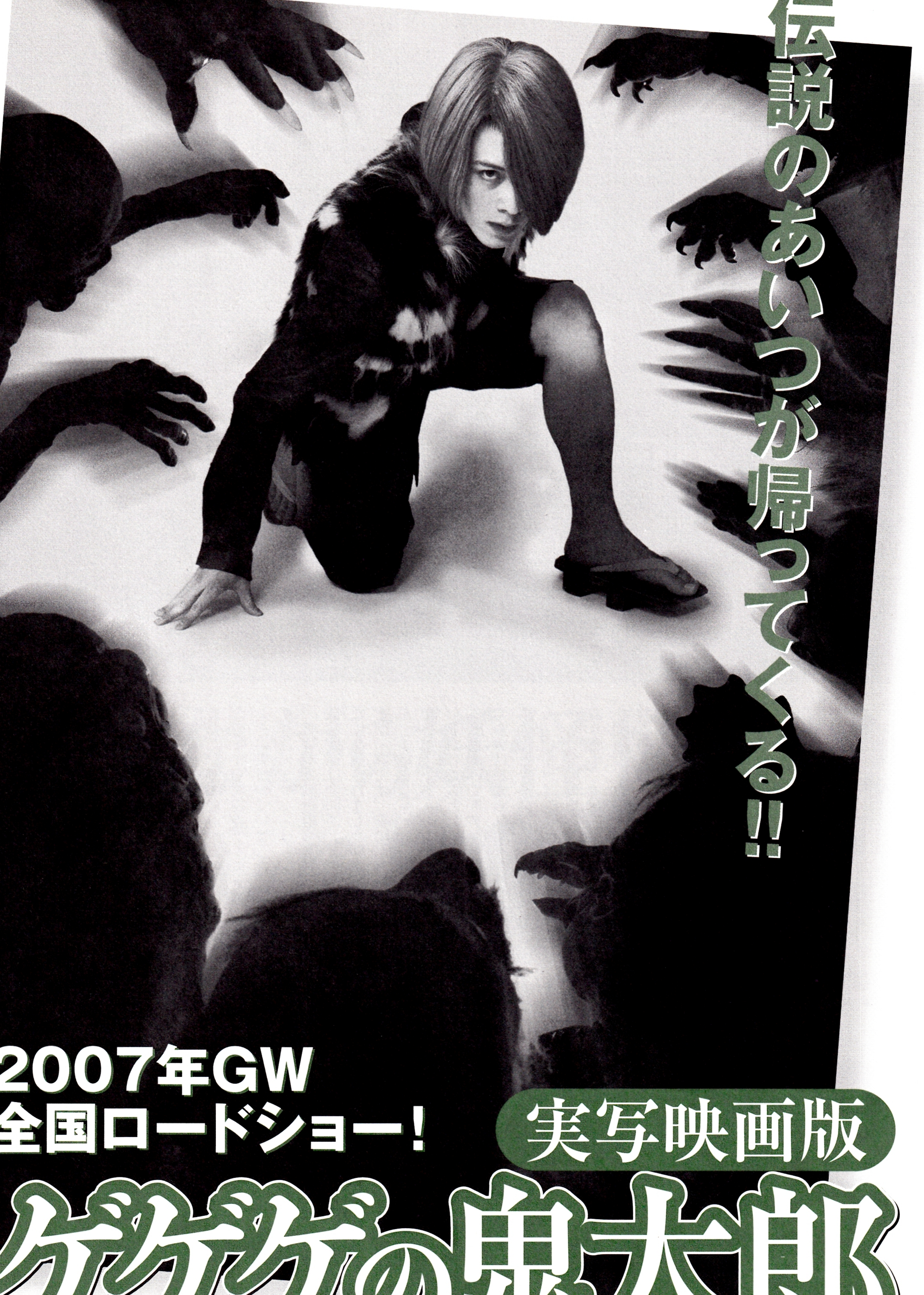
日本のおばけにさらなる栄光あれ！





認定書と妖怪博士ピンバッチ

もちづき　みえこ
かなり熱心なおばけファン。おばけのウェブサイトとしては老舗の「おばけずかん（www.obakezukan.net）」のオーナー。翻訳者、イラストレーター。この原稿を書いた時点で気になっている妖怪は、ヤマタノオロチ。


伝説のあいつが帰ってくる!!
2007年GW
全国ロードショー！
実写映画版
ゲゲゲの鬼太郎

「何てったってオモチロイ」映画にしてね。（原作者：水木しげる）

海外のクリエイターにも多大な影響を与えた、日本が誇る不朽の妖怪コミック『ゲゲゲの鬼太郎』。２００７年公開の実写映画版では、原作コミックの魅力を生かしながら、鬼太郎が最大のピンチに陥るオリジナルストーリーを展開。最先端のＣＧ技術により、新感覚の妖怪ワールドがスクリーンに出現する！

実写映画化への経緯についてプロデューサーによると、「『妖怪大戦争』の前から企画がはじまっていた。その頃は「本当に実写?」と疑問視する声もあったが、同作のヒットにより、大本命である本作品が熱望された。さらに海外でも『千と千尋の神隠し』により、〝妖怪〟が忍者や侍に続きブームになりつつある。そんな中、幽霊族最後の生き残りとしての運命を背負いながらも、とぼけていて、それでいてキュートで、かっこいい妖怪ヒーロー＝鬼太郎を復活すべく、映画を製作することとなった。これまでのファンタジー作品と違った、かつてない愉快な〝ファンタジー妖怪映画〟になる」と語る。

またキャスト起用に関して「今回の実写映画版・ゲゲゲの鬼太郎は、超人然とした役でないため、オリジナルイメージを確実に作る俳優よりも、音楽、バラエティ、舞台、ドラマなど幅の広いエンターテインメント性と柔軟性を持った人が必要だった。ウエンツさんが彗星のごとくテレビに現れた瞬間に、製作陣全員の意見が見事に一致した。それは彼自身が〝摩訶不思議で幻想的なルックス〟と〝原作のような無垢でやんちゃな子供のような性格〟を持っていたから。また、お金やメシにいやしいながらも、その回転の速い頭脳による気の利いた言葉で全て許されるという、ねずみ男の摩訶不思議な魅力を出せる役者は、大泉さんしかいないと感じた。マンガ史上歴史に残る鬼太郎とのつかず離れずの名コンビぶりが、実際のウエンツさんと大泉さんの関係にもぴったりリンクした」

他キャストも猫娘に田中麗奈、子泣きじじいと砂かけばあに間寛平と室井滋らが豪華共演。特殊映像効果は、世界最高水準のスタッフが集結。鬼太郎の必殺技は『少林サッカー』などのCGを手掛けたセントロ・デジタル・ピクチャーズが担当するほか、世界の第一線で活躍するクリエイターたちが参加。監督はデビュー作『てなもんや商社』で藤本賞新人賞を受賞し、映画『釣りバカ日誌』シリーズ（11作〜13作）、田中麗奈主演作『ドラッグ・ストア・ガール』やTVドラマ、舞台の演出など幅広い才能を発揮している本木克英。

２００７年GW、大人から子供まで楽しめる超一級エンタテインメントが日本を席巻する!!

鬼太郎役 ウエンツ瑛士

【鬼太郎についてのイメージ】小さい頃からいつも楽しく見ていました。ゲゲゲの唄は今でも歌えるぐらいずっと口ずさんでいました。今回決まってすぐに本を読み返しました。

【演じるに当たっての意気込み】原作があるのでそれを壊さないようにやる事と、ここで自分の新しい面を出せるよう頑張ります！

PROFILE

1985年10月8日生／出身地：東京都／血液型：O型
ドイツ系アメリカ人の父と日本人の母から生まれた日本語しかしゃべれないハーフ。4歳の時からモデルで活躍、劇団四季『美女と野獣』で役者デビュー。

ねずみ男役 大泉洋

【ねずみ男について】人間の持つ、弱さや醜さ、そしてかわいさを秘めた、もっとも人間らしい妖怪だなという印象を持っています。ちょっと汚いイメージもありますが、憎めない男だなと思っています。

【演じるに当たっての意気込み】子供のころから見ていたアニメだったので、役をもらえたことはとても嬉しく思っております。ねずみ男は大泉洋しかいないといわれる仕事をしたいと思っております（笑）。

PROFILE

1973年4月3日生まれ／出身地：北海道／血液型：B型
北海学園大学在学中に演劇研究会に所属。在学中に深夜番組『水曜どうでしょう』（HTB）にレギュラー出演、番組のブレイクと共に北海道を代表するタレントに成長。

実写版『ゲゲゲの鬼太郎』公式ホームページ
http://www.gegege.jp/

INDEX アニメ放映リスト

**第1・第2シーズンの放映年月日、サブタイトル、作画監督などの基本データなどを掲載。
ゲスト出演妖怪まで掲載しているので好きな妖怪がどこに出ているか簡単にチェックできる!!**

●レギュラー●
鬼太郎=野沢雅子
目玉おやじ=田の中勇
ねずみ男=大塚 周夫

第1シリーズ

放映日	話数	タイトル	脚本	演出	作画監督	登場妖怪
1968年1月3日	第1話	おばけナイター	辻 真先	山口康男	我妻 宏	野分婆さん，のたり坊、百目坊や、つるべ火、地魅、むく邪羅、ろくろ兵江、長広舌、赤人平、牙ぐるい、のたり坊、野分婆、土左エ門
1月10日	第2話	夜叉	高久 進	黒田昌郎	細田暉雄	つるべ火、夜叉
1月17日	第3話	妖怪城	若井基成	白根徳重	落合道正	マニヤニ男、大口女、かまいたち、たんたん坊
1月24日	第4話	吸血鬼ラ・セーヌ	雪室俊一	高見義雄	高橋信也	吸血鬼ラ・セーヌ
1月31日	第5話	大海獣（前）	辻 真先	設楽 博	田島 実	デオクロノドン
2月7日	第6話	大海獣（後）	辻 真先	設楽 博	田島 実	デオクロノドン
2月14日	第7話	ゆうれい電車	鈴樹三千夫	村山鎮雄	羽根章悦	歯黒べったり、傘ばけ、大口女（二口女）、ろくろ首、つるべ火、小豆あらい
2月21日	第8話	鏡爺	安藤豊弘	明比正行	古沢日出夫	鏡爺
2月28日	第9話	見上げ入道	雪室俊一	白根徳重	落合道正	見上げ入道、霊界の住人
3月6日	第10話	妖怪大戦争（前）	雪室俊一	茂野一清	生頼昭憲	バックベアード、牙ぐるい、歯黒べったり、見越し入道、山爺、小豆あらい、袖引き小僧、吸血鬼、ドラキュラ、狼男、魔女
3月13日	第11話	妖怪大戦争（後）	雪室俊一	茂野一清	生頼昭憲	バックベアード、ひょうすべ、ドラキュラ、吸血鬼、魔女
3月20日	第12話	妖怪ぬらりひょん	安藤豊弘	西沢信孝	高橋信也	ぬらりひょん、蛇骨ばばあ、妖怪ランプ
3月27日	第13話	地獄流し	鈴樹三千夫	久岡敬史	我妻 宏	
4月7日	第14話	水虎	高久 進	村山鎮雄	古沢日出夫	水虎、つるべ火
4月14日	第15話	吸血鬼エリート（前）	鈴樹三千夫	黒田昌郎	高橋信也	吸血鬼エリート
4月21日	第16話	吸血鬼エリート（後）	鈴樹三千夫	黒田昌郎	高橋信也	吸血鬼エリート、河童
4月28日	第17話	猫仙人	雪室俊一	山口康男	我妻 宏	猫仙人、大猫
5月5日	第18話	魔女人形	安藤豊弘	村山鎮雄	落合道正	魔女、妖怪ランプ
5月12日	第19話	吸血木	辻 真先	白根徳重	落合道正	のびあがり
5月19日	第20話	猫娘とねずみ男	雪室俊一	高見義雄	古沢日出夫	猫娘、雨降り小僧、妖怪ランプ、エンマ大王、三虫
5月26日	第21話	妖怪獣（前）	高久 進	明比正行	細田暉雄	八百八狸、行部狸、蛟竜、玄蕃狸、お富狸、団十郎狸、大なまず
6月2日	第22話	妖怪獣（後）	高久 進	明比正行	細田暉雄	八百八狸、行部狸、蛟竜、玄蕃狸、お富狸、団十郎狸、大なまず、海じじい
6月9日	第23話	峠の妖怪	辻 真先	白根徳重	落合道正	ぶるぶる
6月16日	第24話	白山坊	雪室俊一	久岡敬史	古沢日出夫	白山坊、妖怪ランプ
6月23日	第25話	電気妖怪	安藤豊弘	高見義雄	細田暉雄	電気妖怪カミナリ、傘やん
6月30日	第26話	海座頭	鈴樹三千夫	村山鎮雄	生頼昭憲	海座頭、舟幽霊
7月7日	第27話	おどろおどろ	鈴樹三千夫	白根徳重	落合道正	おどろおどろ、呼子、ろくろ首
7月14日	第28話	まくら返し	辻 真先	村山鎮雄	鍋島嘉継	まくら返し
7月21日	第29話	鏡合戦	雪室俊一	西沢信孝	生頼昭憲	雲外鏡、山小僧、妖怪ランプ
7月28日	第30話	悪魔ベリアル	鈴樹三千夫	村山鎮雄	落合道正	悪魔ベリアル、カラス天狗

放映日	話数	タイトル	脚本	演出	作画監督	登場妖怪
8月4日	第31話	もうりょう	安藤豊弘	永樹凡人	我妻　宏	もうりょう、つるべ火
8月11日	第32話	妖花	辻　真先	白根徳重	窪　詔之	妖花、南方の妖怪
8月18日	第33話	さざえ鬼	雪室俊一	古沢日出夫	菊池城二	さざえ鬼、人魚の子
8月25日	第34話	さら小僧	辻　真先	久岡敬史	細田暉雄	さら小僧、河の妖怪
9月1日	第35話	こま妖怪	鈴樹三千夫	白根徳重	落合道正	あまめはぎ
9月8日	第36話	ダイヤモンド妖怪	安藤豊弘	明比正行	我妻　宏	輪入道
9月15日	第37話	手の目	安藤豊弘	村山鎮雄	落合道正	手の目
9月22日	第38話	おりたたみ入道	雪室俊一	古沢日出夫	江藤文男	おりたたみ入道、むじな
9月29日	第39話	妖怪軍団	鈴樹三千夫	設楽　博	生頼昭憲	アカマタ、ヤシオトシ、つるべ火
10月6日	第40話	おべべ沼の妖怪	鈴樹三千夫	白根徳重	落合道正	かわうそ
10月13日	第41話	ばけ猫	鈴樹三千夫	茂野一清	江藤文男	つるべ火、猫の亡霊、ばけ猫
10月20日	第42話	人食い島	雪室俊一	明比正行	我妻　宏	人食い島
10月27日	第43話	ひでりがみ	安藤豊弘	山口康男	生頼昭憲	ひでりがみ、野づち
11月3日	第44話	げた合戦	雪室俊一	白根徳重	落合道正	妖精花子、丸毛、逆柱
11月10日	第45話	のっぺらぼう	雪室俊一	古沢日出夫	江藤文男	のっぺらぼう
11月17日	第46話	うぶめ	安藤豊弘	久岡敬史	細田暉雄	うぶめ、つるべ火
11月24日	第47話	天邪鬼	雪室俊一	勝間田具治	落合道正	天邪鬼
12月1日	第48話	雪ん子	辻　真先	明比正行	我妻　宏	雪ん子、雪女、雪男、冷凍巨人
12月8日	第49話	天狐	安藤豊弘	宮崎一哉	菊池城二	天狐、野狐、妖狐、気狐、空狐
12月15日	第50話	妖怪関ヶ原	辻　真先	新田義方	生頼昭憲	ガマ仙人、邪魅
12月22日	第51話	穴ぐら入道	鈴樹三千夫	山口康男	我妻　宏	穴ぐら入道
12月29日	第52話	吸血妖怪団	安藤豊弘	高見義雄	林　正史	ペナンガラン、アササボンサン、ランスブィル，吸血妖怪樹、つるべ火、吸血夜叉、ドラキュラ博士
1969年1月5日	第53話	妖怪大統領	小沢　洋	山口康男	細田暉雄	吸血象、こうもり猫、葬頭河婆
1月12日	第54話	妖怪ラリー	雪室俊一	勝間田具治	落合道正	バックベアード、狼男、魔女、水虎、赤舌、海坊主、フランケンシュタイン、グレムリン
1月19日	第55話	妖怪毛羽毛現	辻　真先	西沢信孝	田島　実	毛羽毛現、ふらり火
1月26日	第56話	磯女	小沢　洋	古沢日出夫	昆　進	磯女、赤ん坊
2月2日	第57話	隠形魔法	雪室俊一	設楽　博	生頼昭憲	隠形魔法、のっぺらぼう
2月9日	第58話	おぼろぐるま	辻　真先	勝間田具治	落合道正	おぼろぐるま、ぐわごぜ、カロリーヌ、黒い巨大な妖怪、狼男、川赤子、蛇骨婆、野寺坊、フランケンシュタイン
2月16日	第59話	だるま	雪室俊一	宮崎一哉	岡田敏靖	だるま、4階に棲む妖怪
2月23日	第60話	笠地蔵	雪室俊一	明比正行	林　正史	座敷わらし、山小僧
3月2日	第61話	後神	小沢　洋	古沢日出夫	鍋島嘉継	後神、妖怪サボテン
3月9日	第62話	海じじい	雪室俊一	高畑　勲	落合道正	海じじい
3月16日	第63話	なまはげ	辻　真先	西沢信孝	岡田敏靖	なまはげ
3月23日	第64話	陰摩羅鬼	雪室俊一	宮崎一哉	江藤文男	陰摩羅鬼
3月30日	第65話	妖怪ほうこう	鈴樹三千夫	勝間田具治	我妻　宏	ほうこう、地ほうこう、水ほうこう、火ほうこう，風ほうこう

第2シリーズ

放映日	話数	タイトル	脚本	演出	作画監督	登場妖怪
1971年10月7日	第1話	妖怪復活	雪室俊一	白根徳重	生頼昭憲	泥田坊
10月14日	第2話	妖怪反物	安藤豊弘	西沢信孝	我妻　宏	井戸仙人、九尾の狐、チー妖怪、雨降り小僧、化け傘、つるべ火、天狗、化けガラス、丸毛、妖犬、妖怪獣
10月21日	第3話	妖怪大裁判	三芳加也	山口康男	窪　詔之	百々爺、見上げ入道、カラス天狗、天邪鬼、大天狗
10月28日	第4話	雨ふり天狗	辻　真先	田宮　武	白土　武	雨降り天狗、人面草
11月4日	第5話	あしまがり	柴田夏余	高畑　勲	森　利夫	妖怪花、妖怪花の精、あしまがり、気体生物
11月11日	第6話	死人つき	安藤豊弘	茂野一清	国保　誠	魑魅魍魎、つるべ火、土精、魍魎、
11月18日	第7話	猫又	雪室俊一	新田義方	大工原　章	猫又、妖狐
11月25日	第8話	マンモスフラワー	辻　真先	蕪木登喜司	我妻　宏	あかなめ、マンモスフラワー、つるべ火
12月2日	第9話	髪さま	柴田夏余	山口康男	江藤文男	髪さま、毛目玉
12月9日	第10話	アンコールワットの亡霊	雪室俊一	西沢信孝	白土　武	落武者、仙人
12月16日	第11話	土ころび	安藤豊弘	白根徳重	野田卓雄	土ころび
12月23日	第12話	やまたのおろち	辻　真先	茂野一清	大工原　章	やまたのおろち、呼子、呼子の手下
12月30日	第13話	かまぼこ	柴田夏余	設楽　博	菊地城二	化けイカ、半魚人、呼子
1972年1月6日	第14話	怪自動車	三芳加也	山本寛巳	白土　武	すねこすり、つるべ火
1月13日	第15話	牛鬼	安藤豊弘	西沢信孝	江藤文男	牛鬼、カルラ様
1月20日	第16話	南からの招き	辻　真先	山口康男	生頼昭憲	ワラ男、ガマ人
1月27日	第17話	縁切り虫	雪室俊一	設楽　博	白土　武	縁切り虫
2月3日	第18話	幸福という名の怪物	安藤豊弘	茂野一清	国保　誠	地獄玉
2月10日	第19話	釜鳴り	辻　真先	山本寛巳	江藤文男	妖怪釜なり、つるべ火、呼子
2月17日	第20話	ふくろさげ	柴田夏余	西沢信孝	菊地城二	ふくろさげ
2月24日	第21話	心配屋	柴田夏余	白根徳重	菊地城二	バリバリ
3月2日	第22話	地獄の水	雪室俊一	山口康男	白土　武	水神、水神使い、つるべ火
3月9日	第23話	逆餅殺し	安藤豊弘	白根徳重	野田卓雄	火車
3月23日	第24話	傘ばけ	辻　真先	笠井由勝	菊地城二	傘ばけ
3月30日	第25話	まぼろしの汽車	柴田夏余	茂野一清	白土　武	吸血鬼ピー、モンロー、傘やん
4月6日	第26話	大首	雪室俊一	西沢信孝	生頼昭憲	大首、骨女、河童もどき、ガイコツ
4月13日	第27話	いやみ	安藤豊弘	山本寛巳	白土　武	妖怪いやみ、つるべ火
4月20日	第28話	あかなめ	辻　真先	設楽　博	小松原一男	あかなめ、チエバエ
4月27日	第29話	ダイダラボッチ	柴田夏余	山口康男	国保　誠	ダイダラボッチ、黒ん坊、お化けコウモリ
5月4日	第30話	死神	雪室俊一	蕪木登喜司	森　利夫	死神、魔女、呼子
5月11日	第31話	赤舌	安藤豊弘	高見義雄	森　利夫	赤舌、骨女、呼子

放映日	話数	タイトル	脚本	演出	作画監督	登場妖怪
5月25日	第32話	目目連	辻　真先	白根徳重	我妻　宏	目目連
6月1日	第33話	悪魔ブエル	柴田夏余	新田義方	野田卓雄	悪魔ブエル、悪魔軍団、ヤカンズル
6月15日	第34話	死神とサトリ	雪室俊一	西沢信孝	白土　武	死神、サトリ、エンマ大王、呼子
6月22日	第35話	イースター島奇談	安藤豊弘	茂野一清	小松原一男	地獄の使者
6月29日	第36話	妖怪屋敷	辻　真先	設楽　博	我妻　宏	影女
7月13日	第37話	地相眼	柴田夏余	笠井由勝	生頼昭憲	魑魅魍魎、ミミズ
7月20日	第38話	隠れ里の死神	雪室俊一	山口康男	小松原一男	かくれ座頭、死神、妖怪水車
7月27日	第39話	妖怪水車	安藤豊弘	高見義雄	森　利夫	猛霊八惨、舟幽霊
8月10日	第40話	原始さん	辻　真先	白根徳重	我妻　宏	原始さん
8月17日	第41話	霊形手術	柴田夏余	新田義方	小松原一男	ズンベラ
8月24日	第42話	死神と貧乏神	雪室俊一	西沢信孝	国保　誠	死神、貧乏神
9月7日	第43話	足跡の怪	安藤豊弘	茂野一清	森　利夫	丸毛、雨降り小僧、つるべ火、タイタンボウ
9月21日	第44話	雨神　ユムチャック	辻　真先	及部保雄	我妻　宏	ユムチャック
9月28日	第45話	死神のノルマ	雪室俊一	中村　一	野田卓雄	パシャ、死神、青子、鬼太



アニメ版
ゲゲゲの鬼太郎
マニアックス

2007年1月1日 初版発行

■編集・構成 マイストリート(高見澤秀、豊岡昭彦)
■執筆 あきもとキンぢ、原口正宏、望月三英子、山崎征則、MYST
■デザイン 中川まり
■編集協力 宇佐見尚也、中村優紀、夏葉薫、西村諒平、森本 陽
■担当編集 谷中晶彦

[発行人] 原田 修
[編集人] 木村 晃
[発行所] 株式会社 一迅社
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-10 成信ビル8F
電話:03-5312-6150(営業部)
03-5312-6132(ポストメディア編集部)
[印刷・製本] 共同印刷株式会社

Printed in Japan
ISBN 4-7580-1070-6

ISBN4-7580-1070-6
C0076 ¥2400E
9784758010702
1920076024009
株式会社 一迅社
定価：本体2400円 +税

アニメ版
ゲゲゲの鬼太郎
マニアックス